14.4
18 1

3E-19

昭和四年

大阪府統計書

大阪府

3E-19
574

正　誤　表

頁	表	行	段	誤	正
記述 14	—	終ヨリ 7行目	—	24.36	2.436
188	表　題	—	—	綿　織　物	第一七表　綿織物
287	—	13行目	終ヨリ 5段目	.12	2.12
304	綿花ノ部	1行目	終ヨリ 5段目	缺　字	56.60
663	表　題	—	—	(總數、箇所別)	第一三表　婦人保護事業 (總數、箇所別)

14.4-18イ

大阪府統計書

昭和四年

14.4-181

大阪府統計書

凡例

本書ハ大阪府報告規程ニ依リ市區町村ヨリノ報告ヲ主トシ、其他應中主務部課ノ調査及他官廳諸會社等ヨリ直接蒐集セル資料ニ依リ之ヲ編纂ス本編ハ主トシテ昭和四年ノ事實ヲ掲載ス雖然往々累年ノ計數ヲ例記シ以テ比較研究ニ便セリ。

編中部類ヲ分チテ次ノ二十四門トス即チ

第一	土地	第九	工業	第一七	社寺及教會
第二	氣象	第一〇	商業	第一八	兵事
第三	人口	第一一	會社及組合	第一九	救濟及賑貸
第四	農業	第一二	金融	第二〇	警察
第五	家畜及家禽	第一三	貯蓄及保險	第二一	衛生
第六	林業	第一四	交通	第二二	議會
第七	鑛業	第一五	土功	第二三	財政
第八	漁業	第一六	教育	第二四	官公吏及文書

表中事實ナキ郡市區名ハ之ヲ省略セリ。

表中題目ノ次ニ何年トアルハ暦年間ノ事實、何年度トアルハ其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ事實、何年何月何日トアルハ其ノ日ノ現在ナリ。

數位ハ概ネ圓、坪、段、石及貫等ノ一位ニ止メ以下ノ小數ハ大抵四捨五入スト雖モ一位以下ノ小數ヲ知ル必要アルモノハ其單位ニ「•」ヲ附シテ掲記ス而シテ「○」附スルモノハ計數ノ一位ニ滿タサルモノ、事實ナキモノハ「—」ヲ、事實不詳又ハ調査未了ノモノハ「?」ノ符號ヲ附セリ。

編中計數ニシテ往々メートル法又ハ「ヤード、ポンド」法ノ度量衡ニ據ルモノアルヲ以テ尺貫法度量衡トノ比較ヲ示セハ次ノ如シ。

	「ヤード、ポンド」法		「メートル」法	
長度	碼(ヤード)	三尺一分七五二	度 米(メートル)	三尺三寸
	鎖(チエイン)	十一間三寸八四	糎(センチメートル)	三分三厘
	哩(マイル)	十四町四十五間八寸三五	粍(ミリメートル)	三厘三毛
	呎(フート)	一尺〇〇五八四	量 立(リツトル)	五合五勺四三五
	吋(インチ)	八分三厘八二	衡 瓦(グラム)	二分六六六七
量	瓦(ガロン)	二升五合二勺〇一四	瓩(キログラム)	二百六十六匁六六六七
衡	封度(ポンド)	百二十匁九六	瓩	二百六十六匁六六六七
	噸(トン)	二百七十貫九五〇四	瓩	二百六十六匁六六六七
	Oz(オンス)	七匁五六〇〇〇	打(ダース)	十二個

先中年賃ヲ十箇年ニ分ツトキハ一箇年ノ賃、何年度ヲトルトキハ其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ賃、何年月日ヲトルトキハ其ノ日ノ翌日ヲ一箇年トス。

數位ノ稱ヲ圓、銭、厘、毛、糸忽微塵ノ一位ニ至ル以下ノ小數ハ大蔵四捨五入ヲ行ヒテ一位以下ノ小數ヲ切捨ル場合ニ於テハ其單位ニ「ノ」ヲ冊ヲ加ヘテ記ス可シ。例ヘハ「ノ」ハ計數ノ一位ニ當ルモノトス、年賃ヲ「ノ」ハ年賃不詳又ハ調査未了ノモノトス。

大阪府統計書目錄

統計圖

第一圖 大阪府管内全圖
第二圖 大阪府管内氣象區分圖
第三圖 面積
第四圖 現住人口
第五圖 在留朝鮮人累年比較
第六圖 死亡者原因別
第七圖 自殺原因別
第八圖 火災
第九圖 一、貿易物産價額 二、生産物價額
第十圖 一、米收穫高累年 二、米收穫高郡市別
第十一圖 一、大阪港外國貿易 二、貿易品別價額 三、國別貿易品價額
第十二圖 一、學齢兒童 二、學齢兒童就學齢 三、兒童日々出席歩合
第十三圖 一、中等程度ノ學校生徒 二、中等學校入學志願者百ニ付入學者
第十四圖 一、公學費 二、公學費ノ權衡 三、諸經費百ニ付公學費
第十五圖 職業紹介
第十六圖 府市町村費決算
第十七圖 一、諸稅 二、現住一戸平均負擔額

記述

第一 土地 …… 1
第二 人口 …… 2
第三 農業 …… 9
第四 畜産業 …… 20
第五 林業 …… 26
第六 鑛業 …… 31
第七 漁業 …… 32
第八 工業 …… 35
第九 商業 …… 58
第一〇 會社及組合 …… 70
第一一 金融 …… 77
第一二 交通 …… 84
第一三 土功 …… 87
第一四 教育 …… 89
第一五 救濟 …… 100
第一六 警察 …… 109
第一七 衛生 …… 112
第一八 財政 …… 119

統計表

第一 土地

第一表 本府ノ面積及廣袤 …… 1
第二表 山嶽 …… 2
第三表 河川 …… 3
第四表 池沼 …… 4
第五表 公園 …… 4
第六表 郡市區劃 …… 5
第七表 警察區劃 …… 6
第八表 稅務區劃 …… 8
第九表 裁判及登記官廳 …… 8
第一〇表 陸海軍管 …… 10
第一一表 土地總覽 …… 11
第一二表 官有地 …… 10
第一三表 民有有租地ノ一(累年比較) …… 12
第一四表 民有有租地ノ二(郡市別) …… 14
第一五表 免租地ノ一(累年比較) …… 16
第一六表 免租地ノ二(郡市別) …… 16
第一七表 民有年期地ノ一(累年比較) …… 18
第一八表 民有年期地ノ二(郡市別) …… 18
第一九表 地價最高最低 …… 20
第二〇表 土地賣買價格 …… 24
第二一表 土地賃貸價格 …… 27

第二 氣象

第一表 府立大阪測候所 …… 31
第二表 管内氣象觀測所 …… 31
第三表 大阪氣象ノ概況 …… 32
第四表 管内氣溫 …… 34
第五表 管内最高氣溫攝氏 …… 35
第六表 管内最低氣溫攝氏 …… 36
第七表 管内平均氣溫 …… 37
第八表 管内最高氣溫極度攝氏 …… 38
第九表 管内最低氣溫極度攝氏 …… 39
第一〇表 管内溫度百分率 …… 40
第一一表 管内降水量 …… 41
第一二表 管内降水量多日量 …… 42
第一三表 管内降水日數 …… 43
第一四表 管内風向觀測回數 …… 44
第一五表 管内霜雪期節 …… 45
第一六表 地震回數(其ノ一) …… 45

第一七表 地震回數(其ノ二) 46
第一八表 地震月別 46
第一九表 震央別 46

第三 人口

第一表 體性ニ依リ分チタル本籍人口及現住人口竝ニ現住戸數(全管) 47
第二表 體性ニ依リ分チタル推計人口現住人口竝ニ戸數(全管郡市別) 48
第三表 體性ニ依リ分チタル現住人口竝戸數(市町村別) 48
第四表 管內在留ノ植民地人及外國人(全管) 53
第五表 國籍ニ依リ分チタル在留外國人 53
第六表 現住人口動態總覽(全管、郡市別) 54
第七表 本籍人口動態竝現住人口動態總覽比例數 54
第八表 體性ニ依リ分チタル現住者出產(全管、市町村別)(其ノ一) 55
第八表 現住者體性及身分ニ依リ分チタル生產比例(全管、郡市別)(其ノ二) 63
第九表 現住者體性及身分ニ依リ分チタル死產比例(全管、郡市別) 64
第一〇表 現住者體性及月ニ依リ分チタル生產 65
第一二表 現住者ノ體性及月ニ依リ分チタル死產 66
第一三表 現住者ノ體性及年齡ニ依リ分チタル死亡(全管) 68
第一四表 現住者體性及死亡原因ニ依リ分チタル死亡(全管) 70

第四 農業

第一表 耕地面積(全管、郡市別) 77
第二表 農家戸數(全管、郡市別) 78
第三表 自作小作ニ分チタル農家戸數(全管、郡市別) 78
第四表 耕作スル耕地ノ廣狹ニ依リ分チタル農家戸數(全管、郡市別) 79
第五表 農事ニ關スル教育ヲ受ケタル者(全管、郡市別) 79
第六表 自作及小作田畑段別(全管、郡市別) 80
第七表 一毛作及裏作田段別(全管、郡市別) 80
第八表 耕地整理ノ事業完了(全管、施行者別) 81
第九表 耕地整理ノ工事完了(全管、施行者別) 82
第一〇表 耕地整理ノ工事中(全管、施行者別) 84
第一一表 產米檢査ノ成績(全管、郡市別) 85
第一二表 農產物價額累年比較 86
第一三表 農產物價額(郡市別) 86
第一四表 米作付段別及收穫高累年比較 87
第一五表 米作付段別及收穫高(郡市別) 87
第一六表 米收穫高累年比較 88
第一七表 麥作付段別收穫高累年比較 89
第一八表 麥收穫高累年比較 89
第一九表 麥作付段別及收穫高(郡市別) 90
第二〇表 食用園藝農產物果實總覽 90
第二一表 園藝農產物蔬菜及花卉總覽 91
第二二表 工藝農產物總覽 92
第二三表 食用園藝工藝農產物價額累年比較 92
第二四表 1、食用農產物(大豆、小豆、粟、稗)(全管、郡市別) 93
第二五表 2、食用農產物(黍、玉蜀、黎、蕎麥、)(全管、郡市別) 63
第二六表 3、食用農產物(甘藷、甘藷切干)(全管、郡市別) 94
第二七表 4、食用農產物(馬鈴薯)(全管、郡市別) 94
第二八表 1、園藝農產物果實(梅、桃、櫻桃、枇杷)(全管、郡別) 95
第二九表 2、園藝農產物果實(日本梨、西洋梨、苹果)(全管、郡市別) 95
第三〇表 3、園藝農產物果實(生柿、乾柿、葡萄)(全管、郡市別) 96
第三一表 4、園藝農產物果實(蜜柑、ネーブル、オレンヂ夏橙)(全管、郡別) 96
第三二表 5、園藝農產物果實(其ノ他ノ柑橘類、無花果、李)(全管、郡市別) 97
第三三表 6、園藝農產物果實(杏、杷旦杏、其ノ他果實)(全管、郡市別) 97
第三四表 1、園藝農產物蔬菜及花卉(豌豆、蠶豆)(全管、郡市別) 99
第三五表 2、園藝農產物蔬菜及花卉(菜豆、胡瓜、越瓜)(全管、郡市別) 99
第三六表 3、園藝農產物蔬菜及花卉(南瓜、西瓜、甜瓜)(全管、郡市別) 99
第三七表 4、園藝農產物蔬菜及花卉(茄子、蕃茄、花百合)(全管、郡市別) 99
第三八表 5、園藝農產物蔬菜及花卉(生蘿蔔、切干蘿蔔、蕪菁)(全管、郡市別) 100
第三九表 6、園藝農產物蔬菜及花卉(胡蘿蔔、牛蒡、青芋)(全管、郡市別) 100
第四〇表 7、園藝農產物蔬菜及花卉(蓮根、葱、葱頭)(全管、郡市別) 101
第四一表 8、園藝農產物蔬菜及花卉(甘藍、漬菜、落花生)(全管、郡市別) 101
第四二表 9、園藝農產物蔬菜及花卉(花椰菜、土當歸、菠薐草)(全管、郡市別) 102
第四三表 10、園藝農產物蔬菜及花卉(水菜、白菜体菜)(全管、郡市別) 102
第四四表 11、園藝農產物蔬菜及花卉(紫蘇、苦賁、蕃)(全管、郡市別) 103
第四五表 12、園藝農產物蔬菜及花卉(薑、食用百合、薤)(全管、郡市別) 103
第四六表 13、園藝農產物蔬菜及花卉(野蜀葵、蕃椒)(全管、郡市別) 104
第四七表 14、園藝農產物蔬菜及花卉(慈姑、蓮、分葱)(全管、郡市別) 104
第四八表 15、園藝農產物蔬菜及花卉(甘藷、其ノ他ノ蔬菜)(全管、郡市別) 105
第四九表 1、工藝農產物(菜種、胡麻、大麻)(全管郡市別) 105
第五〇表 2、工藝農產物(黃麻、絲瓜、除蟲菊)(全管、郡市別) 106
第五一表 3、工藝農產物(蒟蒻芋、實棉、杞柳)(全管、郡市別) 106
第五二表 4、工藝農產物(薄荷、葉煙草)(全管、郡市別) 107
第五三表 5、工藝農產物(罌粟、其ノ他ノ工藝農產物)(全管、郡市別) 107
第五四表 1、花卉類(アネモネ、ヒヤシンス、チユリツプ)(全管、郡市別) 108
第五五表 2、花卉類(パンジー、レジー、芍藥)(全管、郡市別) 108
第五六表 3、花卉類(牡丹、菊、金盞花)(全管、郡市別) 109
第五七表 4、花卉類(ダリア、グラジオラス、カンナ)(全管、郡市別) 109
第五八表 5、花卉類(桔梗、水仙、花菖蒲、石竹類)(全管、郡市別) 110
第五九表 6、花卉類(翠菊、撫子類、其ノ他)(全管、郡市別) 110
第六〇表 蔬菜苗(全管、郡市別) 111
第六一表 綠肥用作物(紫雲英、苜蓿、蠶豆、豌豆)(全管、郡市別) 111
第六二表 桑畑(全管、郡市別) 112
第六三表 茶畑(全管、郡市別) 113
第六四表 果樹苗(全管、郡別) 113
第六五表 造林用苗木(全管、郡別) 114
第六六表 觀賞樹(全管、郡市別) 115
第六七表 桑苗(全管、郡別) 118
第六八表 繭產額(全管、郡別) 119
第六九表 春蠶(全管、郡別) 119
第七〇表 夏蠶(全管、郡別) 120
第七一表 蜜蜂(全管、郡市別) 121

第五 家畜及家禽

第一表 畜產物價額累年比較 123
第二表 畜產物價額(郡市別) 123
第三表 家畜家禽飼養戸數(全管、郡市別) 124
第四表 家畜頭數累年比較 124
第五表 牛(全管、郡市別) 125
第六表 馬(全管、郡市別) 126
第七表 兎(全管、郡市別) 128
第八表 豚(全管、郡市別) 130
第九表 緬羊(全管、郡市別) 131
第一〇表 山羊(全管、郡市別) 131
第一一表 成牛ノ屠殺(全管、郡市別) 132
第一二表 犢ノ屠殺(全管、郡市別) 132
第一三表 馬ノ屠殺(全管、郡市別) 133
第一四表 豚ノ屠殺(全管、郡市別) 133
第一五表 山羊ノ屠殺(全管、郡市別) 134
第一六表 牛乳(全管、郡市別) 134
第一七表 家畜市場(全管、郡市別) 135
第一八表 種牡牛現在頭數(全管、郡市別) 136
第一九表 鷄現在數(全管、郡市別) 136
第二〇表 鶩現在數(全管、郡市別) 137
第二一表 七面鳥現在數(全管、郡別) 137

第六 林業

第一表 林產物價額累年比較 139
第二表 林產物價額(郡別) 139
第三表 國有林野箇所及面積(全管、郡別) 139
第四表 著名國有林ノ面積及立木 140
第五表 國有林新植及補植(全管、地方別) 140
第六表 國有林產物賣却主產物(全管、郡別) 140
第七表 國有林貸地(全管、郡別) 141
第八表 民有林野面積 141
第九表 保安林箇所面積種類別(全管、種類別) 145
第一〇表 保安林編入解除箇所面積 145
第一一表 公私有林野人工造林新植(全管、樹種、郡別) 146
第一二表 公私有林野人工造林補植(全管、樹種、郡別 149
第一三表 公私有林野天然造林面積(下種、萌芽)(全管、郡別) 150
第一四表 公私有林野被害 150
第一五表 公私有林用材伐採(全管、樹種、郡別) 151
第一六表 公私有林薪炭材伐採(全管、郡別) 152
第一七表 公私有林竹材伐採(全管、種類別) 153
第一八表 林野產物總覽 154
第一九表 林野產物(五倍子、松茸、椎茸、松脂、筍ウサビ) 154
第二〇表 林野產物(造林用種子) 154
第二一表 林野產物(樹實、樹皮) 155
第二二表 林野產物(柴草、蔓及葉葉) 156
第二三表 林野產物木炭 156

第七 鑛業

第一表 採掘高及鑛石價額累年比較 …… 157
第二表 採掘鑛區箇所別 …… 157
第三表 試掘鑛區箇所別 …… 158
第四表 石材(全管、郡市別) …… 158

第八 漁業

第一表 水產物價額累年比較 …… 159
第二表 水產物價額(郡市別) …… 159
第三表 漁獲物總覽 …… 160
第四表 漁獲物(全管、郡市別) …… 160
第五表 水產製造物(全管、郡市別) …… 164
第六表 水產養殖總覽 …… 166
第七表 水產養殖(全管、郡市別 …… 166
第八表 水產業者(全管、郡市別) …… 167
第九表 漁船(全管、郡市別) …… 169
第一〇表 遭難漁船(全管、種類別) …… 170

第九 工業

第一表 工業總覽(全管、郡市別) …… 171
第二表 工業物價額總覽(全管、郡市別) …… 173
第三表 工產物價額種類別 …… 173
第四表 染織工業(全管、郡市別) …… 175
第五表 綿絲紡績(全管、工場別) …… 176
第六表 綿絲紡績生產額(全管、工場別) …… 180
第七表 麻絲紡績(全管、工場別) …… 182
第八表 絹絲紡績(全管、工場別) …… 183
第九表 製綿組紐編物 全管、郡市別) …… 183
第一〇表 織物價額累年比較 …… 184
第一一表 綿織物(機業場數、機臺數、職工數)(全管郡市別) …… 184
第一二表 織物價額(全管、郡市別) …… 185
第一三表 絹織物及絹綿交織物(機業場數、機臺數、職工數)(全管、郡市別) …… 186
第一四表 麻織物及麻交織物(機業場數、機臺數、職工數)(全管、郡市別) …… 186
第一五表 毛織物及毛交織物(機業場數、機臺數、職工數)(全管、郡市別) …… 186
第一六表 絹織物及絹綿交織物(全管、郡別) …… 188
第一七表 綿織物(全管、郡市別) …… 188
第一八表 麻織物及麻交織物(全管、郡市別) …… 192
第一九表 毛織物及毛交織物(全管、郡市別) …… 192
第二〇表 撚絲(全管、郡市別) …… 193
第二一表 艷付洗張湯熨斗、西洋洗濯(全管、郡市別) 195
第二二表 染物(全管、郡市別) …… 195
第二三表 帽(全管、郡市別) …… 198
第二四表 疊大小(全管、郡市別) …… 199
第二五表 ドロンウオーク及バテンレース、手巾(全管、郡市別) …… 200
第二六表 カタン絲、其ノ他(全管、郡市別) …… 201
第二七表 機械及器具工業(全管、郡市別) …… 201
第二八表 銅器青銅器及眞鍮器(全管、郡市別) …… 202
第二九表 鐵製鍋釜鐵瓶類、鑄物類(全管、郡市別) 202
第三〇表 アンチモニー製品、アルミニユーム製品(全管、郡市別) …… 203
第三一表 金銀製品(全管、郡市別) …… 203
第三二表 鐵管、針金(全管、郡市別) …… 203
第三三表 諸機械及附屬品電氣器具(全管、郡市別) 204
第三四表 錻力鋼工金屬管(全管、郡市別) …… 204
第三五表 建築及家具用金具…活字(全管、郡市別) 205
第三六表 其ノ他(全管、郡市別) …… 205
第三七表 車輛製造(全管、郡市別) …… 206
第三八表 船舶製造(全管、郡市別) …… 207
第三九表 時計(全管、市別) …… 208
第四〇表 化學工業(全管、郡市別) …… 209
第四一表 七寶(全管、市別) …… 209
第四二表 陶磁器(全管、郡市別) …… 210
第四三表 硝子製品(全管、郡市別) …… 210
第四四表 セメント、コークス(全管、郡市別) …… 211
第四五表 瓦及土管(全管、郡市別) …… 212
第四六表 煉瓦(全管、郡市別) …… 213
第四七表 和紙(全管、郡市別) …… 213
第四八表 西洋紙(全管、工場別) …… 214
第四九表 漆器(全管、市別) …… 215
第五〇表 漆液(全管) …… 216
第五一表 製革(全管、郡市別) …… 216
第五二表 燐寸(全管、郡市別) …… 216
第五三表 植物油(全管、郡市別) …… 217
第五四表 工業用藥品(全管、郡市別) …… 218
第五五表 醫療藥品賣藥(全管、郡市別) …… 222
第五六表 セルロイド製品(全管、郡市別) …… 223
第五七表 化粧品(全管、郡市別) …… 223
第五八表 石鹼(全管、郡市別) …… 224
第五九表 蠟燭(全管、郡市別) …… 224
第六〇表 薰物及線香、琺瑯鐵器(全管、郡市別)…… 225
第六一表 製藍(全管、市別) …… 225
第六二表 塗料及顏料、染料(全管、郡市別) …… 225
第六三表 煉炭、インキ(全管、郡市別) …… 226
第六四表 肥料分類別輸入販賣額(全管、郡市別)…… 226
第六五表 肥料分類別製造販賣(全管、郡市別)…… 226
第六六表 釀造製品(全管、郡市別) …… 227
第六七表 肥料分類別製造販賣(全管、郡市別) …… 228
第六八表 化學工業其ノ他(全管、郡市別) …… 228

第六九表 飲食物工業(全管、郡市別) …… 229
第七〇表 味噌(全管、郡市別) …… 230
第七一表 煙草(總數、種別) …… 230
第七二表 砂糖(全管、郡市別) …… 231
第七三表 寒天(全管、郡別) …… 232
第七四表 各種飲食物(全管、郡市別) …… 232
第七五表 穀粉(全管、郡市別) …… 235
第七六表 澱粉(全管、郡市別) …… 238
第七七表 罐詰(全管、郡市別) …… 238
第七八表 製茶 全管、郡市別) …… 239
第七九表 乳肉製品(全管、郡市別) …… 240
第八〇表 漬物(全管、郡市別) …… 240
第八一表 麵類 全管、郡別) …… 241
第八二表 雜工業(全管、郡市別) …… 242
第八三表 文具、製本、印刷(全管、郡市別) …… 242
第八四表 紙製品、表裝類(全管、郡市別)…… 243
第八五表 木製品(全管、郡市別) …… 243
第八六表 棕櫚製品(全管、郡市別) …… 244
第八七表 疊及其他敷物、籐製品(全管、郡市別) 245
第八八表 履物及其部分品(全管、郡市別) …… 246
第八九表 傘及提灯(全管、郡市別) …… 247
第九〇表 扇子及團扇(全管、郡市別) …… 247
第九一表 帽子(全管、郡市別) …… 248
第九二表 刷子及刷毛(全管、郡市別) …… 249
第九三表 釦(全管、郡市別) …… 250
第九四表 農具、製材(全管、郡市別) …… 250
第九五表 杞柳製品(全管、郡市別) …… 251
第九六表 竹製品(全管、郡市別) …… 251
第九七表 樂器類、玩具(全管、郡市別) …… 252
第九八表 洋服、和服、足袋(全管、郡市別) …… 252
第九九表 刺繡、コンクリート製品(全管、郡市別) 253
第一〇〇表 皮革製品(全管、郡市別) …… 253
第一〇一表 擬革、アツククロース(全管、郡市別) 254
第一〇二表 洋傘及部分品(全管、郡市別) …… 254
第一〇三表 藁製品(全管、郡市別) …… 254
第一〇四表 彫刻、防水布及合羽(全管、郡市別)…… 255
第一〇五表 炭團(全管、郡市別) …… 256
第一〇六表 石綿及其加工品ノ其他(全管、郡市別) 256
第一〇七表 度量衡器及計量器ノ檢定數及檢定料…… 257
第一〇八表 度量衡器及計量器檢定成績 …… 257
第一〇九表 度量衡器及計量器製作者、修理者、販賣者數 …… 258
第一一〇表 度量衡器及計量器製作者ニ於ケル製作高及販賣高 …… 258
第一一一表 電氣會社 …… 259
第一一二表 瓦斯會社 …… 260
第一一三表 金屬精錬(全管、市別) …… 261
第一一四表 工場總覽(全管、郡市別) …… 262
第一一五表 工場種類大別 …… 262
第一一六表 工場種類細別 …… 265
第一一七表 官立工場(總數、工場別) …… 284
第一一八表 大阪市各種職工人夫賃銀 …… 286
第一一九表 堺市諸傭賃錢 …… 292
第一二〇表 石炭消費高(全管、郡市別) …… 293

第一〇 商業

第一表 商工會議所 …… 295
第二表 取引所 …… 295
第三表 大阪堂島米穀取引所賣買高及相場(總數、月別) …… 296
第四表 大阪株式取引所賣買高及受渡高(總數、月別) …… 296
第五表 大阪株式取引所諸證券長期取引賣買高及受渡高 …… 297
第六表 大阪株式取引所主要株式相場(先物相場) 301
第七表 大阪三品取引所賣買高及受渡高(總數、月別) …… 303
第八表 大阪三品取引所賣買相場(總數、月別)…… 303
第九表 大阪砂糖取引所賣買高及受渡高(總數、月別) …… 305
第一〇表 大阪砂糖取引所賣買相場(總數、月別)…… 305
第一一表 大阪港貿易品價額累年比較 …… 306
第一二表 大阪港外國貿易品國別價額 …… 307
第一三表 大阪港外國貿易輸出品別 …… 308
第一四表 大阪港外國貿易輸入品別 …… 311
第一五表 陸海出貨品種別 …… 315
第一六表 海陸入貨品種別 …… 319
第一七表 大阪港出貨品種別 …… 322
第一八表 大阪港入貨品種別 …… 326
第一九表 倉庫棟數及坪數 …… 330
第二〇表 保稅倉庫及上屋坪數 …… 331
第二一表 大阪市日用品價額 …… 332
第二二表 堺市重要物品相場 …… 340
第二三表 諸市場(全管、郡市別) …… 343
第二四表 商業興信所回報件數及日報件數(總數、所別) …… 344

第一一 會社及組合

第一表 會社總數(全管、郡市別) …… 345
第二表 會社資本別(總數) …… 346
第三表 會社資本別(株式、株式合資) …… 350
第四表 會社資本別(合資) …… 354
第五表 會社資本別(合名) …… 356
第六表 會社業態別(總數) …… 358
第七表 會社業態別(株式、株式合資) …… 361

第八表 會社業態別(合資) …… 364
第九表 會社業態別(合名) …… 366
第一〇表 會社種類別 …… 368
第一一表 諸組合 …… 372
第一二表 產業組合 …… 373

第一二 金融

第一表 銀行資本別 …… 375
第二表 銀行總覽(全管、銀行種別) …… 376
第三表 普通銀行總覽(全管、郡市別) …… 378
第四表 貯蓄銀行總覽(全管、郡市別) …… 380
第五表 銀行預金(全管、銀行種別) …… 382
第六表 普通銀行預金(全管、郡市別) …… 382
第七表 貯蓄銀行預金 全管、郡市別) …… 384
第八表 貯蓄銀行預金職業別其ノ一(普通貯金)… 386
第九表 貯蓄銀行預金職業別其ノ二(擔保貯金)… 388
第一〇表 貯蓄銀行預金職業別其ノ三(定期積金)… 390
第一一表 銀行貸付金(全管、銀行種別) …… 392
第一二表 普通銀行貸付金(全管、郡市別) …… 392
第一三表 貯蓄銀行貸付金(全管、郡市別) …… 394
第一四表 銀行爲替(全管、銀行種別) …… 396
第一五表 大阪組合銀行金利(日步) …… 396
第一六表 日本銀行大阪支店預金及貸出金 …… 398
第一七表 農工銀行貸付金 …… 399
第一八表 手形交換高日數及枚數金額(總數、月別) 400
第一九表 手形交換高組合銀行數及枚數金額(總數、月別) …… 400
第二〇表 郵便爲替ノ交換 …… 402
第二一表 不渡手形累年比較 …… 402
第二二表 不渡手形(種類別、月別) …… 403
第二三表 郵便爲替(全管、郡市別) …… 403
第二四表 質屋ノ貸金(全管、郡市別) …… 404
第二五表 土地建物船舶寶買拵當質入登記(全管、郡市別) …… 405

第一三 貯蓄及保險

第一表 郵便貯金預入及拂戻(總數、月別) …… 407
第二表 郵便貯金者職業別累年比較 …… 407
第三表 郵便貯金現在高 …… 408
第四表 生命保險(總數、種類別) …… 409
第五表 徵兵保險(總數、種類別) …… 409
第六表 火災保險(總數、種類別) …… 410
第七表 盜難保險(總數、種類別) …… 410
第八表 機關汽罐保險(總數、種類別) …… 411
第九表 傷害保險(總數、種類別) …… 411
第一〇表 信用保險(總數) …… 412
第一一表 自動車保險(總數) …… 412
第一二表 硝子保險(總數) …… 412
第一三表 簡易生命保險(官營)(總數、種類別) …… 412

第一四 交通

第一表 國道 …… 413
第二表 府道 …… 413
第三表 町村道(全管、郡市別) …… 421
第四表 橋梁(種類別) …… 422
第五表 鐵道哩數 …… 424
第六表 東海道線旅客及貨物(總數、驛別) …… 427
第七表 關西線旅客及貨物(總數、驛別) …… 427
第八表 南海鐵道旅客及貨物電車併用 總數、驛別) 429
第九表 大阪鐵道旅客及貨物(總數、驛別) …… 431
第一〇表 新京阪鐵道旅客及貨物(總數、驛別)…… 432
第一一表 阪和鐵道旅客及貨物(總數、驛別) …… 433
第一二表 水間鐵道旅客及貨物 總數、驛別) …… 433
第一三表 信貴生駒電鐵旅客及貨物 總數、驛別)… 433
第一四表 東海道線旅客並貨物收入(總數、驛別)… 434
第一五表 關西線旅客並貨物收入(總數、驛別)…… 434
第一六表 南海鐵道旅客並貨物收入(總數、驛別)… 436
第一七表 大阪鐵道旅客並貨物收入 總數、驛別)… 438
第一八表 新京阪鐵道旅客並貨物收入(總數、驛別) 439
第一九表 阪和鐵道旅客並貨物收入(總數、驛別)… 439
第二〇表 水間鐵道旅客並貨物收入(總數、驛別)… 440
第二一表 信貴生駒電鐵旅客並貨物收入(總數、驛別) 440
第二二表 電氣鐵道(總數、經營者別) …… 440
第二三表 電氣鐵道線路(總數、經營者別) …… 441
第二四表 電氣鐵道建設費(總數、經營者別) …… 443
第二五表 電氣鐵道車輛及運輸從業者(總數、經營者別) …… 444
第二六表 電氣鐵道營業成績客車(總數、經營者別) 444
第二七表 電氣鐵道收入(總數、經營者別) …… 445
第二八表 電氣鐵道支出(總數、經營者別) …… 445
第二九表 電氣鐵道事故(總數、經營者別) …… 446
第三〇表 踏車(全管、郡市別) …… 447
第三一表 港灣 …… 447
第三二表 燈臺 …… 448
第三三表 汽船及噸數(全管、郡市別) …… 448
第三四表 帆船及噸數(全管、郡市別) …… 449
第三五表 石數船及石數(全管、郡市別) …… 449
第三六表 小船(全管、郡市別) …… 450
第三七表 入港船舶累年 …… 450
第三八表 入港船舶 …… 451
第三九表 汽船旅客 …… 451
第四〇表 郵便局數(總數、郡市別) …… 451

第四一表 郵便線路里程 …… 452
第四二表 引受通常郵便物(總數、郡市別) …… 452
第四三表 配達通常郵便物(總數、郡市別) …… 453
第四四表 引受小包郵便物 總數、郡市別) …… 453
第四五表 配達小包郵便物 總數、郡市別) …… 454
第四六表 電信取扱局數(總數、郡市別) …… 454
第四七表 電信線路及電柱 …… 454
第四八表 發信電報通數及料金(總數、郡市別) … 455
第四九表 着信電報通數及中繼(總數、郡市別) … 455
第五〇表 電話取扱局數(總數、郡市別) …… 455
第五一表 電話線路及電柱 …… 456
第五二表 電話加入者加入申込者及通話數(總數、郡市別) …… 456

第一五 土功

第一表 土木費決算(全管、費用別) …… 457
第二表 工事別土木費決算(全管、費用別) …… 457
第三表 災害員數 …… 458
第四表 災害損失價額 …… 459
第五表 道路坪數及延長(全管、郡市別) …… 459
第六表 府縣道新築改築 …… 460
第七表 市町村道新築改築 …… 460
第八表 道路新築改築及修繕費(全管、郡市別)… 460
第九表 橋梁箇數及坪數(全管、郡市別) …… 461
第一〇表 橋梁架設 …… 462
第一一表 橋梁修繕 …… 463
第一二表 橋梁架設及修繕費(全管、道路別) …… 464
第一三表 新設著大橋梁 …… 464
第一四表 河川堤防ノ築造及修繕費 …… 465
第一五表 溜池及水路(全管、郡市別) …… 466
第一六表 溜池及水路新設並修繕(全管、郡市別)… 467
第一七表 用惡水路新築改築及修繕費 全管、郡市別)468
第一八表 港灣築造及修繕 …… 468
第一九表 上水道 …… 469
第二〇表 上水道栓數及給水戶數 …… 469
第二一表 上水道給水量及水料 …… 469
第二二表 大阪市下水道 …… 470

第一六 教育

第一表 學校總覽 …… 471
第二表 人口及學齡兒童 …… 473
第三表 學齡兒童 …… 474
第四表 不就學學齡兒童(其一就學猶豫者) …… 474
第五表 不就學學齡兒童 其二就學免除者) …… 476
第六表 學齡兒童中盲者聾啞者 …… 476
第七表 小學校種別 …… 478
第八表 學級別市町村小學校 …… 480
第九表 學級別市町村小學校 …… 482
第一〇表 學級別私立小學校 …… 484
第一一表 小學校學級 …… 485
第一二表 小學校本科正教員 …… 486
第一三表 小學校專科正教員 …… 488
第一四表 小學校准教員及代用教員 …… 490
第一五表 小學校教員全數 …… 492
第一六表 小學校尋常科兒童 …… 494
第一七表 小學校尋常兒童學年別 …… 496
第一八表 小學校高等科兒童 …… 496
第一九表 小學校高等科兒童學年別 …… 498
第二〇表 小學校兒童用男女比例 …… 500
第二一表 小學校兒童日々出席平均數 …… 500
第二二表 小學校兒童日々缺席平均數 …… 502
第二三表 小學校尋常科卒業者 …… 502
第二四表 小學校高等科卒業者 …… 504
第二五表 小學校入學兒童 …… 504
第二六表 二部教授施行ノ小學校 …… 506
第二七表 加設科目ヲ課スル小學校 …… 506
第二八表 市町村立小學校教員俸給別 …… 508
第二九表 市町村立小學校教員俸給別(尋常科學校ノ教授ニ從事スル本科正教員) …… 510
第三〇表 市町村立小學校教員俸給別(高等小學校ノ教授ニ從事スル本科正教員) …… 512
第三一表 市町村立小學校教員俸給別(尋常小學校ノ教授ニ從事スル專科正教員) …… 514
第三二表 市町村立小學校教員俸給別(高等小學校ノ教授ニ從事スル專科正教員) …… 514
第三三表 市町村立小學校教員俸給別(准教員) … 516
第三四表 市町村立小學校教員俸給別(代用教員)… 518
第三五表 市町村立小學校教員住宅 …… 518
第三六表 授業料ヲ徵收スル市町村立小學校 …… 520
第三七表 公立學校、幼稚園、青年訓練所費 …… 522
第三八表 師範學校(其一學校數、學級數、教員數及生徒數) …… 522
第三九表 師範學校(其二生徒細別) …… 522
第四〇表 師範學校(其三卒業者) …… 524
第四一表 師範學校(其四入學志願者) …… 524
第四二表 師範學校(其五入學者) …… 524
第四三表 師範學校(其六入學者從前ノ教育) …… 526
第四四表 師範學校(其七入學者入學時ノ年齡 …… 526
第四五表 師範學校(其八退學者) …… 528
第四六表 師範學校 (其九教員ノ有資格無資格比例生徒ニ對スル卒業生及退學者) …… 528
第四七表 中學校 (其一學校數、學級數、教員數、生徒數) …… 530
第四八表 中學校(其二生徒學年別、卒業者) …… 531

第四九表 中學校(其三卒業者) …… 532
第五〇表 中學校(其四入學志願者、入學者) …… 533
第五一表 中學校(其五入學者ノ從前ノ教育及入學時ノ年齡) …… 535
第五二表 中學校(其六退學者) …… 535
第五三表 中學校(其七教員ノ有資格、無資格比例生徒ニ對スル卒業者及退學者ノ比例) …… 536
第五四表 高等女學校(其一學校數、學級數及教員數) 537
第五五表 高等女學校(其二生徒數) …… 538
第五六表 高等女學校(其三生徒學年別) …… 539
第五七表 高等女學校(其四卒業者) …… 540
第五八表 高等女學校(其五入學志願者) …… 541
第五九表 高等女學校(其六入學者) …… 542
第六〇表 高等女學校(其七本科入學者ノ從前ノ教育及入學當時ノ年齡) …… 543
第六一表 高等女學校(其九本科退學者) …… 544
第六二表 高等女學校(其十教員有資格、無資格比例生徒ニ對スル卒業者及退學者比例) …… 545
第六三表 官立大阪高等學校職員 …… 546
第六四表 官立大阪高等學校生徒 …… 546
第六五表 官立大阪外國語學校職員 …… 546
第六六表 官立大阪外國語學校生徒(總數、種別)… 547
第六七表 官立大阪高等工業大學職員 …… 547
第六八表 官立大阪高等工業大學學生(總數、種別) 548
第六九表 官立大阪工業大學附屬工業專門部工業教員養成所生徒 …… 548
第七〇表 大阪醫科大學職員 …… 548
第七一表 大阪醫科大學學生及生徒 …… 549
第七二表 大阪醫科大學學生及生徒年齡別 …… 549
第七三表 大阪醫科大學志願者及入學者 …… 549
第七四表 大阪醫科大學豫科入學者ノ年齡 …… 550
第七五表 大阪醫科大學學年試驗成績 …… 550
第七六表 大阪醫科大學卒業者ノ年齡 …… 550
第七七表 大阪醫科大學中途退學者、死亡者事故及學年別) …… 551
第七八表 大阪醫科大學卒業者ノ狀況 …… 551
第七九表 大阪醫科大學職員俸給額 …… 552
第八〇表 大阪醫科豫科職員俸給額 …… 552
第八一表 大阪醫科大學病院職員 …… 552
第八二表 大阪醫科大學附屬看護婦養成所 …… 553
第八三表 大阪商科大學職員 …… 554
第八四表 大阪商科大學學生及生徒 …… 554
第八五表 大阪商科大學生徒年齡別 …… 554
第八六表 大阪商科大學入學志願者從前ノ教育 … 554
第八七表 大阪商科大學入學者ノ年齡 …… 555
第八八表 大阪商科大學高等商業部卒業後ノ狀況… 555
第八九表 大阪商科大學卒業者ノ年齡 …… 555
第九〇表 大阪商科大學中途退學者 …… 555
第九一表 大阪商科大學學年試驗成績 …… 555
第九二表 大阪商科大學職員俸給額 …… 556
第九三表 府立浪速高等學校職員 …… 557
第九四表 府立浪速高等學校高等科生徒(總數、種別) …… 557
第九五表 府立浪速高等學校等常科生徒 …… 557
第九六表 府立農業補習學校教員養成所 …… 557
第九七表 府立農業補習學校教員養成所學級及生徒 …… 558
第九八表 府立農業補習學校教員養成所生徒年齡別 …… 558
第九九表 府立農業補習學校教員養成所入學志願者從前ノ教育 …… 558
第一〇〇表 府立農業補習學校教員養成所入學者ノ年齡 …… 558
第一〇一表 府立農業補習學校教員養成所卒業者ノ年齡 …… 558
第一〇二表 府立農業補習學校教員養成所生徒中途退學及死亡 …… 559
第一〇三表 府立農業補習學校教員養成所職員俸給別 …… 559
第一〇四表 府立女子專門學校職員 …… 559
第一〇五表 府立女子專門學校學級及生徒 …… 560
第一〇六表 府立女子專門學校生徒年齡別 …… 560
第一〇七表 府立女子專門學校豫科入學志願者從前ノ教育 …… 560
第一〇八表 府立女子專門學校豫科入學者ノ年齡… 560
第一〇九表 府立女子專門學校卒業者年齡別 …… 561
第一一〇表 府立女子專門學校生徒中途退學者 … 561
第一一一表 府立女子專門學校職員俸給額 …… 561
第一一二表 關西大學職員 …… 561
第一一三表 關西大學學生學年別 …… 562
第一一四表 關西大學學生年齡別 …… 564
第一一五表 關西大學入學志願者及入學者從前ノ教育 …… 566
第一一六表 關西大學入學者年齡別 …… 567
第一一七表 關西大學學年試驗成績 …… 568
第一一八表 關西大學中途退學者 …… 570
第一一九表 關西大學卒業者 …… 570
第一二〇表 關西大學卒業者年齡別 …… 570
第一二一表 私立日本大學專門學校 …… 572
第一二二表 私立大阪齒科醫學專門學校 …… 572
第一二三表 私立大阪高等醫學專門學校 …… 572
第一二四表 私立女子高等醫學專門學校 …… 572
第一二五表 私立相愛女子專門學校 …… 572
第一二六表 私立大阪藥學專門學校 …… 573
第一二七表 私立梅花女子專門學校 …… 573
第一二八表 私立帝國女子藥學專門學校 …… 573

第一二九表 樟蔭女子專門學校 …… 573
第一三〇表 實業學校甲公立ノ部 …… 574
第一三一表 實業學校甲公立ノ部 …… 574
第一三二表 實業學校甲私立ノ部 …… 576
第一三三表 實業學校甲私立ノ部 …… 578
第一三四表 實業學校甲私立ノ部 …… 578
第一三五表 實業學校乙 …… 580
第一三六表 實業學校乙 …… 580
第一三七表 實業學校乙 …… 582
第一三八表 實業補習學校 …… 582
第一三九表 公私立各種學校 …… 584
第一四〇表 幼稚園(全管、郡市別) …… 586
第一四一表 幼稚園(全管、郡市別) …… 586
第一四二表 盲聾啞學校其ノ一(全管、學校別) … 588
第一四三表 盲聾啞學校其ノ二(全管、學校別) … 588
第一四四表 圖書館(全管、館別) …… 590
第一四五表 小學校教員檢定(總數、教員別) …… 591
第一四六表 小學校教員無試驗檢定累年比較 …… 592
第一四七表 小學校教員試驗檢定累年比較 …… 593
第一四八表 公私立青年訓練所 …… 594
第一四九表 青年團 …… 594
第一五〇表 學事關係職員並師範學校長學事視察調 596
第一五一表 學校長、幼稚園長、教員、保姆ノ學事研究並視察ニ關スル旅行調 …… 596
第一五二表 公學費 …… 600
第一五三表 公學費歲入(總數、學校別) …… 601
第一五四表 公學費歲出(總數、學校別) …… 603
第一五五表 市町村立小學校歲入(全管、郡市別)… 608
第一五六表 市町村立尋常小學校歲出(全管、郡市別) 608
第一五七表 市町村立尋常小學校歲入(全管、郡市別)610
第一五八表 市町村立尋常高等小學校歲出(全管、郡市別) …… 610
第一五九表 市町村立高等小學校歲入 …… 612
第一六〇表 市町村立高等小學校歲出(總數、郡市別)612
第一六一表 市町村立幼稚園歲入(總數、郡市別)… 613
第一六二表 市町村立幼稚園歲出(總數、郡市別)… 614
第一六三表 公學資產 …… 614
第一六四表 公學資產土地建物(總數、學校別) … 615
第一六五表 公學資產價額(總數、學校別) …… 617
第一六六表 學校基本財產及積立金 …… 619
第一六七表 市町村立尋常小學校資產土地建物(全管、郡市別) …… 620
第一六八表 市町村立尋常小學校基本財產及積立金(全管、郡市別) …… 621
第一六九表 市町村立尋常高等小學校資產土地建物(全管、郡市別) …… 622
第一七〇表 市町村立尋常高等小學校資產價額(全管、郡市別) …… 623
第一七一表 市町村立尋常小學校基本財產及積立金(全管、郡市別) …… 623
第一七二表 市町村立高等小學校資產土地建物(全管、郡市別) …… 624
第一七三表 市町村立高等小學校資產價額(全管、郡市別) …… 625
第一七四表 市町村立高等小學校基本財產及積立金(全管、郡市別) …… 625
第一七五表 市町村立幼稚園資產(全管、郡市別)… 626
第一七六表 教育費金收支 …… 626
第一七七表 兒童就學奬勵費金 …… 627
第一七八表 男女青年團體事業奬勵費金 …… 627
第一七九表 市町村立小學校教員加俸費金收支 … 627
第一八〇表 公立學校職員年功加俸費金收入 …… 628
第一八一表 市町村立小學校教員年功加俸(全管、郡市別) …… 628
第一八二表 市町村立小學校教員特別加俸(全管、郡市別) …… 629
第一八三表 市町村立小學校教員恩給基金收支 … 629
第一八四表 師範學校長勤續加俸及公立學校職員年功加俸(總數、種別) …… 629

第一七 社 寺

第一表 神社及神職(全管、郡市別) …… 631
第二表 著名ノ神社 …… 631
第三表 官幣社歲入決算(總數、神社別) …… 633
第四表 官幣社歲出決算(總數、神社別) …… 633
第五表 府社歲入決算(總數、神社別) …… 634
第六表 府社歲出決算(總數、神社別) …… 635
第七表 寺院及住職(全管、郡市別) …… 634
第八表 著名ノ寺院 …… 636
第九表 基督教會所及布教師(全管、郡市別)… 637
第一〇表 神道教會所及信徒(全管、郡市別) … 638
第一一表 佛道說教所及信徒(全管、郡市別) … 639
第一二表 特別保護建造物(全管、郡市別) …… 640
第一三表 國寶(全管、郡市別) …… 640

第一八 兵 事

第一表 壯丁體格檢査成績(全管、郡市別) … 641
第二表 壯丁教育程度 (全管、郡市別) …… 641
第三表 海軍志願兵(全管、郡市別) …… 642

第一九 救濟及褒賞

第一表 救助人員總數(救恤其一)(全管、郡市別)643
第二表 年末現在救助人員及救助費額(救恤其二)(全管、郡市別) …… 644
第三表 棄兒養育(全管、郡市別) …… 644

第四表 行旅病人及行旅死亡人(全管、郡市別)… 646
第五表 市町村長ノ監護スル精神病者 …… 646
第六表 組織所在資產經費等(感化院其一) …… 648
第七表 入院退院及年末現在人員(感化院其二)… 648
第八表 年末現在員ノ身分並ニ收容當時保護者トノ關係及收容當時ノ年齡 感化院其三 … 650
第九表 改善退院者ノ在院期間及其退院後方途(感化院其四) …… 650
第一〇表 恩賜ノ義捐(全管、郡市別) …… 652
第一一表 救濟事業總覽 …… 652
第一二表 幼兒保育事業(總數、箇所別) …… 658
第一三表 婦人保護事業(總數、箇所別) …… 663
第一四表 育兒事業(總數、箇所別) …… 664
第一五表 乳兒哺育事業(總數、箇所別) …… 670
第一六表 貧兒教育事業(總數、箇所別) …… 672
第一七表 異常兒教育事業(總數、箇所別) …… 678
第一八表 盲啞教育事業(總數、箇所別) …… 679
第一九表 職業紹介事業(總數、箇所別) …… 682
第二〇表 勞働職業紹介事業(總數、箇所別) …… 694
第二一表 宿泊救護事業(總數、箇所別) …… 696
第二二表 養老事業(總數、箇所別) …… 698
第二三表 施療救療事業(總數、箇所別) …… 702
第二四表 授產事業(總數、箇所別) …… 708
第二五表 釋放者保護事業(總數、箇所別) …… 710
第二六表 產院(總數、箇所別) …… 712
第二七表 窮民救助事業(總數、箇所別) …… 714
第二八表 救濟事業雜(總數、箇所別) …… 715
第二九表 救濟事業雜(總數、箇所別) …… 716
第三〇表 救濟事業雜(總數、箇所別) …… 717
第三一表 救濟事業雜(總數、箇所別) …… 719
第三二表 日本赤十字社大阪支部社員及年會金(全管、郡市別) …… 724
第三三表 日本赤十字社大阪支部病院ノ概況 …… 725
第三四表 日本赤十字社大阪支部病院ノ概況(總數、支部別) …… 725
第三五表 愛國婦人會大阪支部(全管、郡市別) … 726
第三六表 喪費(總數、種類別) …… 727

第二〇 警 察

第一表 警察職員配置 …… 730
第二表 巡査勤續年數 …… 734
第三表 巡査諸恩給扶助料並諸給與 …… 736
第四表 警察上死傷人員(總數、事故別) …… 737
第五表 警察費與人口金額(總數、種別) …… 737
第六表 警察署別取締營業及其他 …… 738
第七表 花街狀況(總數、廓別) …… 740
第八表 諸興行日數(總數、署別) …… 741
第九表 工場及職工數 …… 743
第一〇表 投宿人員(總數、月別) …… 743
第一一表 新聞雜誌(總數、種別) …… 744
第一二表 集會(總數、種別) …… 744
第一三表 行政執行ニ依レ處分人員(總數、署別)… 744
第一四表 留置場入場人員(總數、月別) …… 746
第一五表 狩獵及成銃許可數(總數、署別) …… 747
第一六表 監置精神病者(總數、署別) …… 749
第一七表 棄兒(總數、年齡別) …… 751
第一八表 變死(總數、署別) …… 751
第一九表 自殺者ノ所爲別(總數、月別) …… 754
第二〇表 自殺者ノ年齡及因由(總數、年齡別) … 755
第二一表 遺失拾得及紛捨置物品處分(全管、署別) 756
第二二表 難破船遭難場所(總數、月別) …… 758
第二三表 難破船損害程度(總數、月別) …… 758
第二四表 火災(總數、署別) …… 759
第二五表 火災原因 …… 760
第二六表 火災月別 …… 761
第二七表 消防職員(總數、署別) …… 762
第二八表 消防器具(總數、署別) …… 762
第二九表 消防組員(總數、署別) …… 764
第三〇表 犯罪被害檢舉總件數 …… 765

第二一 衛 生

第一表 現住者死亡體性原因別比例 …… 769
第二表 體性及原因ニ依リ分チタル死亡者(總數、月別) …… 770
第三表 體性及原因ニ依リ分チタル死亡者年齡別 774
第四表 體性及原因ニ依リ分チタル死亡者郡市別 778
第五表 傳染病患者及死亡(全管、郡市別) …… 784
第六表 傳染病患者及死亡者比例(全管、郡市別) 786
第七表 傳染病患者及死亡者月別 …… 786
第八表 傳染病死亡者年齡別 …… 788
第九表 死體檢案成績(總數、種別) …… 789
第一〇表 第一期種痘(全管、郡市別) …… 790
第一一表 第二期種痘(全管、郡市別) …… 790
第一二表 牛痘檢査月別 …… 791
第一三表 除鼠(總數、月別) …… 792
第一四表 陸上船舶健康診斷及檢診月別 …… 792
第一五表 公立病院 …… 793
第一六表 公私立施療病院 私立病院 …… 793
第一七表 結核病院 …… 795
第一八表 癩療養所 …… 795
第一九表 梅毒病院 …… 795
第二〇表 傳染病院隔離病舍隔離舍 …… 795

第二一表 精神病院 …… 796
第二二表 產婆、看護婦(全管、郡市別) …… 796
第二三表 醫師(全管、郡市別) …… 797
第二四表 齒科醫(全管、郡市別) …… 797
第二五表 藥劑師(全管、郡市別) …… 798
第二六表 入齒、齒技、口中療治、接骨、水蛭吸角業(全管、郡市別) …… 799
第二七表 鍼術、灸術、按摩術、マッサージ術柔道整復術 799
第二八表 藥品販賣業者製藥業者賣藥(全管、郡市別) 800
第二九表 指定藥品毒物販賣營業者(全管、郡市別) 801
第三〇表 藥品巡視成績 …… 801
第三一表 氷及清涼飲料水 …… 802
第三二表 屠畜頭數(總數、月別) …… 804
第三三表 屠畜檢査 …… 804
第三四表 畜牛結核檢査(總數、月別) …… 805
第三五表 病的部ヲ廢棄セル屠畜 …… 805
第三六表 飲食物其ノ他物品成績 …… 806
第三七表 結核診療所診斷(總數、病類別) …… 807
第三八表 府立難波病院結核收容患者月別 …… 807
第三九表 府立病院結核退院患者病類別 …… 808
第四〇表 寄寓者人員健康診斷月別 …… 808
第四一表 寄寓者年齡並病類別 …… 808
第四二表 中毒表 …… 809
第四三表 埋火葬 …… 810
第四四表 汚物掃除表 …… 810
第四五表 司法處分及行政處分件數 …… 810
第四六表 健康保險被保險者傷病類別(業務上)… 811
第四七表 同上 (業務外) …… 812
第四八表 狂犬病發生月別 …… 812
第四九表 狂犬病豫防注射別成績 …… 813
第五〇表 狂水病豫防接種人員 …… 815
第五一表 狂水病豫防接種人員月別 …… 815
第五二表 野犬捕獲頭數 …… 815
第五三表 狂水病豫防接種人員年齡別 …… 817
第五四表 咬傷原因 …… 817
第五五表 咬傷部位 …… 817

第二二 議 會

第一表 貴族院多額納稅者議員互選者 …… 819
第二表 衆議院議員及選擧有權者 …… 819
第三表 衆議院議員選擧 …… 820
第四表 衆議院議院選擧區別 …… 821
第五表 府會議員選擧(全管、選擧區別) …… 821
第六表 府會議員選擧有權者累年比較 …… 822
第七表 府會開會日數及議事件數 …… 823
第八表 府參事會 …… 823
第九表 市會議員及選擧有權者 …… 824
第一〇表 市會及區會(全管、市別) …… 824
第一一表 町村會及町村組合會(全管、郡別) …… 825

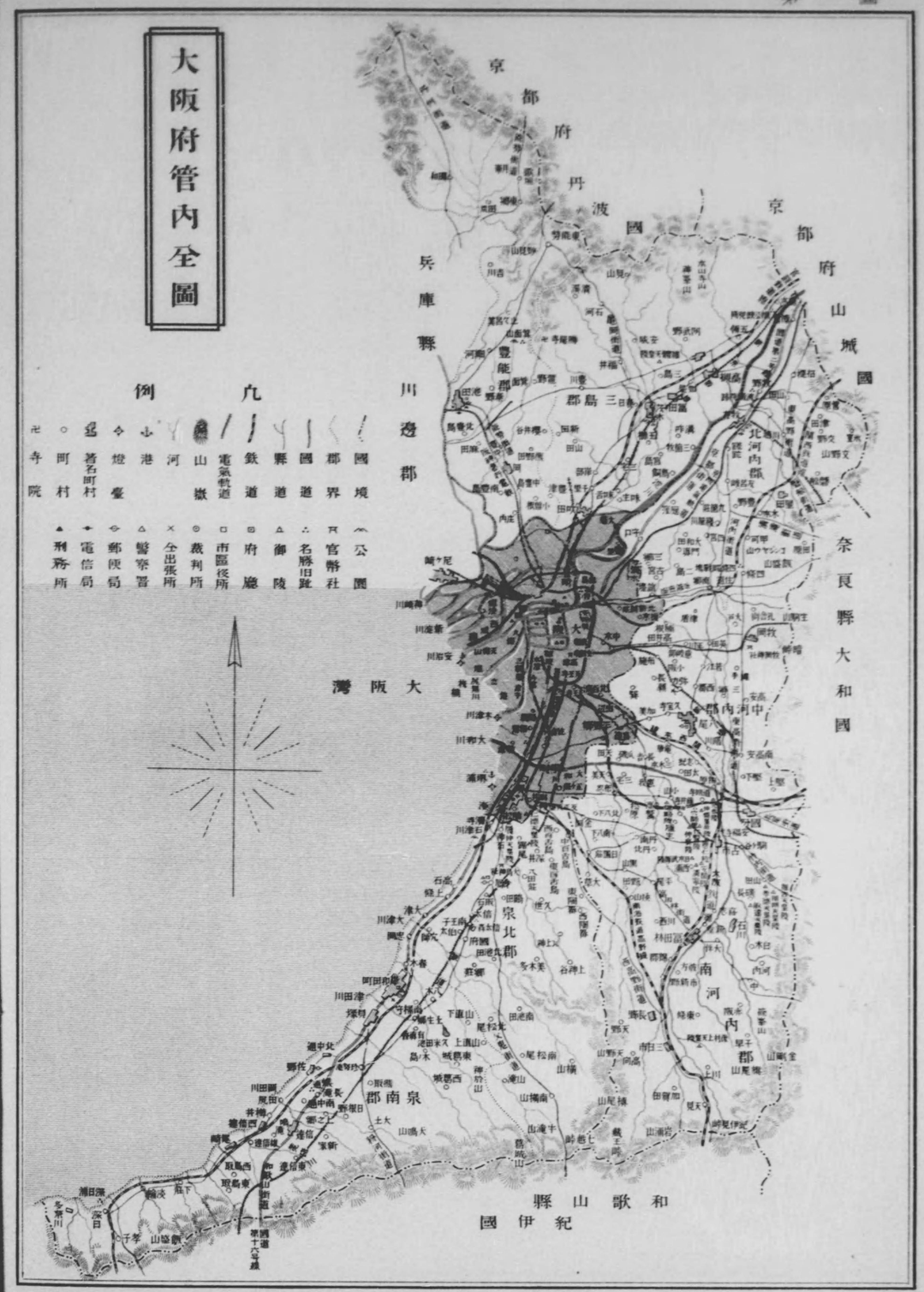
第二三 財 政

第一表 國庫支出ノ諸費 …… 827
第二表 府歲入決算累年比較 …… 830
第三表 府歲出決算累年比較 …… 830
第四表 府歲入決算所屬別 …… 831
第五表 府費歲出決算所屬別 …… 831
第六表 大阪市歲入出決算額累年比較 …… 833
第七表 大阪市各經濟別歲入出豫算決算額 …… 833
第八表 大阪市普通經濟歲入出決算 …… 834
第九表 大阪市特別經濟歲入出決算 …… 836
第一〇表 堺市費歲入決算 …… 840
第一一表 堺市費歲出決算 …… 840
第一二表 岸和田市歲入決算 …… 841
第一三表 岸和田市歲出決算 …… 842
第一四表 町村費歲入決算累年比較 …… 842
第一五表 町村費歲出決算累年比較 …… 843
第一六表 普通水利組合費歲入決算累年比較 …… 845
第一七表 普通水利組合費歲出決算累年比較 …… 846
第一八表 水害豫防組合費歲入決算累年比較 …… 846
第一九表 水害豫防組合費歲出決算累年比較 …… 847
第二〇表 諸稅負擔額累年比較 …… 847
第二一表 國稅調定額(全管、郡市別) …… 848
第二二表 地租昭和元年度調定額 …… 848
第二三表 地租納稅額別人員(總數、郡市別) …… 850
第二四表 所得稅決定額(總數、郡市別) …… 852
第二五表 第一種所得稅納額別人員(全管、郡市別) 852
第二六表 第三種所得稅納額別人員(全管、郡市別) 854
第二七表 營業收益稅(全管、郡市別) …… 856
第二八表 營業收益稅納額別人員(法人、個人)… 858
第二九表 個人營業收益種類別(總數、郡市別) 砂糖消費稅査定額 …… 860
第三〇表 織物消費稅査定額 …… 865
第三一表 府稅累年比較 …… 866
第三二表 府稅郡市別 …… 866
第三三表 大阪市稅 …… 868
第三四表 堺市稅 …… 868
第三五表 岸和田市稅 …… 869
第三六表 町村稅累年比較 …… 869
第三七表 國稅滯納人員及稅額(全管、郡別) …… 870
第三八表 國稅滯納處分(總數、稅目別) …… 872
第三九表 國稅滯納處分(郡市別) …… 872

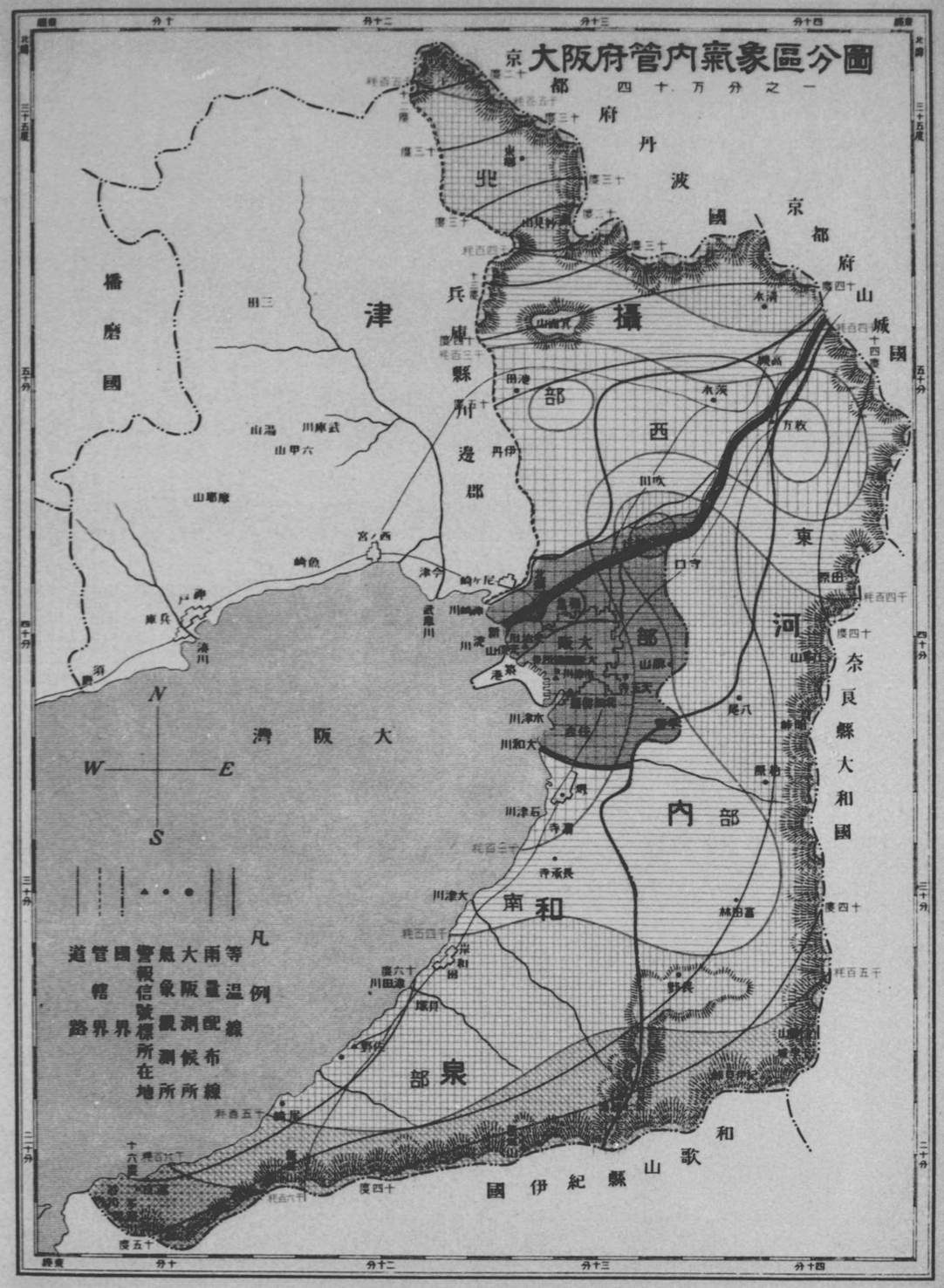
第四〇表　府稅滯納人員及稅額 …… 873
第四一表　府稅滯納處分（總數、稅目別） …… 875
第四二表　府稅滯納處分郡市別 …… 875
第四三表　市町村滯納處分（總數、稅目別） …… 876
第四四表　市町村稅滯納處分郡市別 …… 877
第四五表　府有財產（總數、種別） …… 877
第四六表　府有財產所屬別 …… 878
第四七表　府有財產所屬別（續） …… 879
第四八表　市町村經濟全般ノ爲メ設備スル市町村基本財產 …… 879
第四九表　特定ノ目的ノ爲メニ設備スル市町村基本財產 …… 880
第五〇表　府　債 …… 880
第五一表　起債ノ目的ニ依リ分チタル市町村債 …… 881
第五二表　地方債利率別 …… 881
第五三表　利率ニ依リ分チタル市町村債累年比較 …… 882

第二四　官公吏及文書

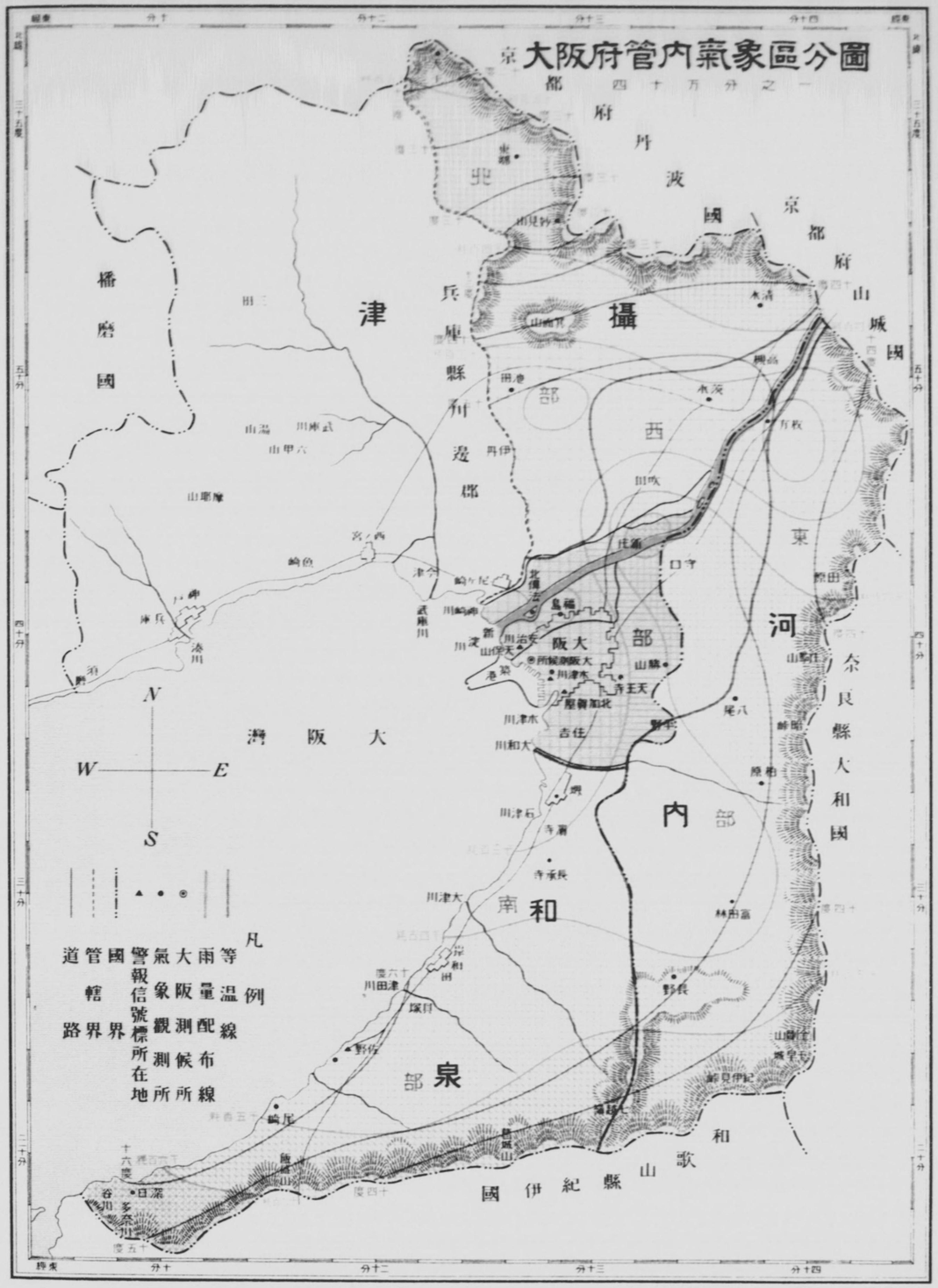
第一表　本府官吏屬員及府吏員（總數、種別） …… 883
第二表　本府官吏府吏員及其俸給額（總數、所屬別） 884
第三表　市町村吏員及其俸給額（總數、種別） …… 889
第四表　市町村吏員退職料受領人員及金額（總數、種別） …… 892
第五表　令達（總數、所屬別） …… 893
第六表　文書收受及發送數（總數、所屬別） …… 894



第二圖


大阪府管内氣象區分圖
一之分万十四
京都府
丹波國
京都府
山城國
摂津
兵庫縣
摂津邊郡
播磨國
西部
東部
内部
南部
泉部
河内
奈良縣
大和國
大阪灣
和歌山縣
紀伊國
凡例
等雨量配布線
温度線
大阪測候所
氣象觀測所
警報信號標所在地
國道
管轄界
路界
N
S
W
E

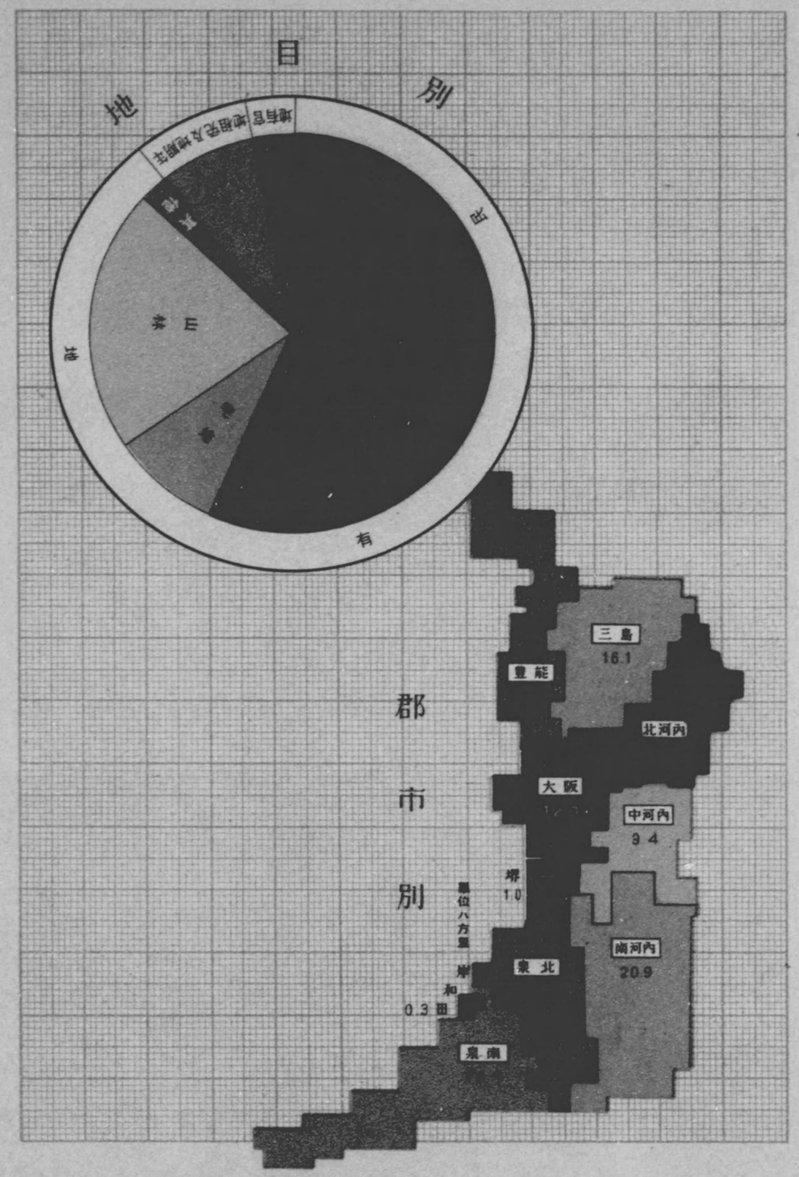
第二圖


大阪府管内氣象區分圖
一之分万十四分之一
京都府
丹波國
京都府
山城國
播磨國
津國
兵庫縣
摂津國
摂西部
摂東部
河内部
和泉部
大阪灣
大阪
堺
奈良縣
大和國
和歌山縣
紀伊國
N
W
E
S
凡例
等温線
雨量配布線
大阪測候所
氣象觀測所
警報信號標所在地
國界
管轄界
道路

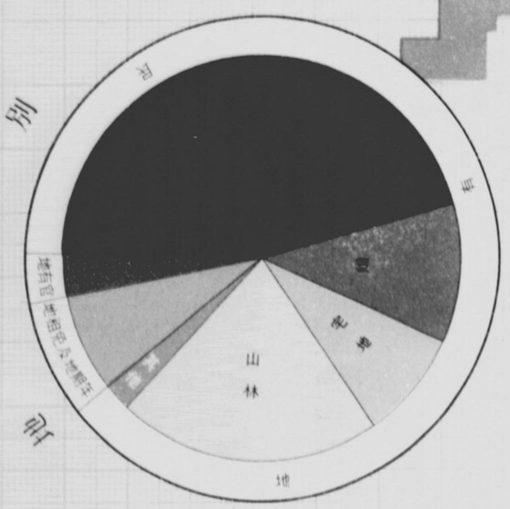
第三圖

積面

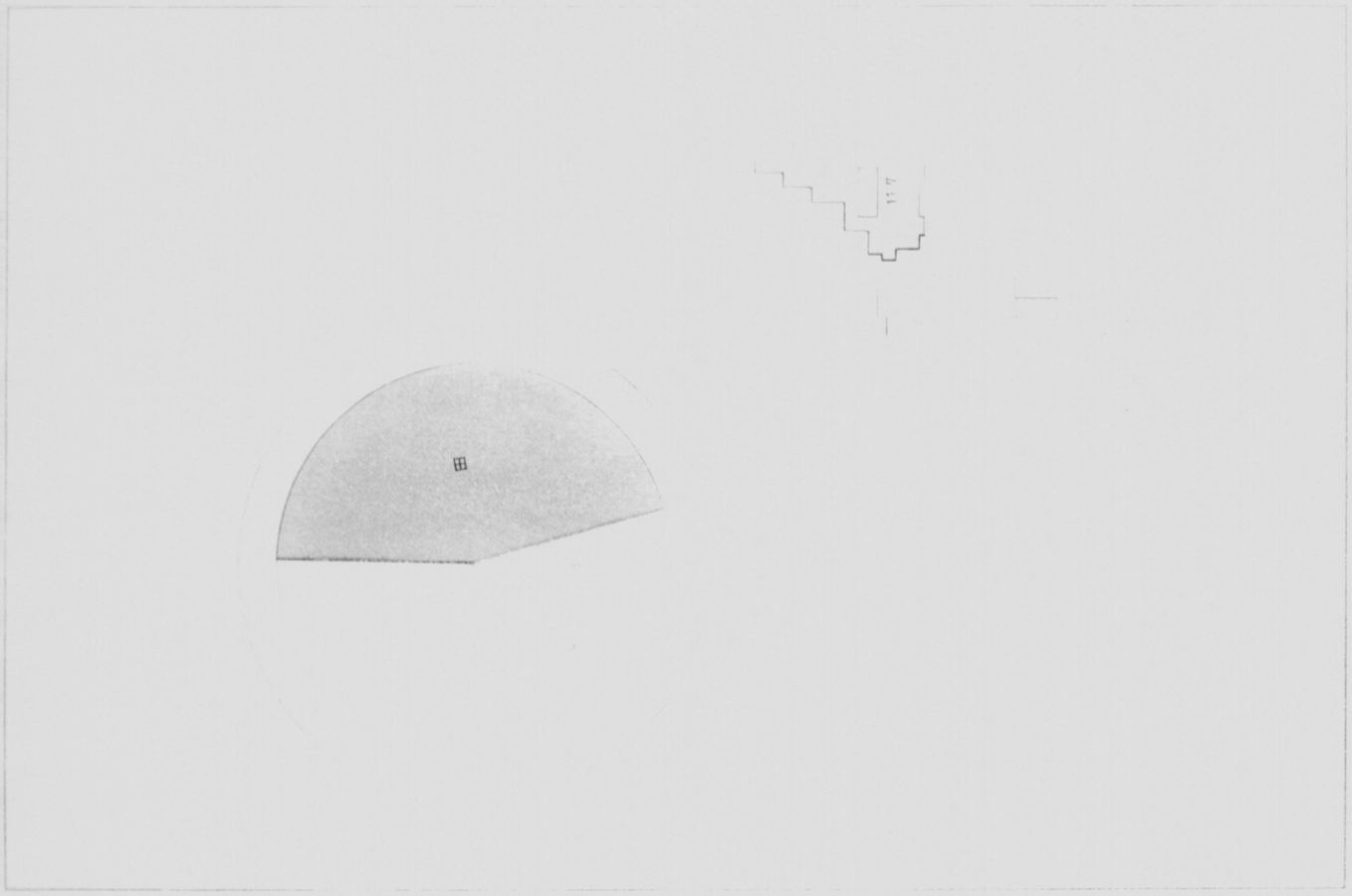
地目別


宅地
田
畑
山林
原野
未墾地
地目別
郡市別
三島
16.1
豊能
北河内
大阪
中河内
9.4
堺
1.0
泉北
南河内
20.9
泉南
堺
和
0.3田
墓地八方墓

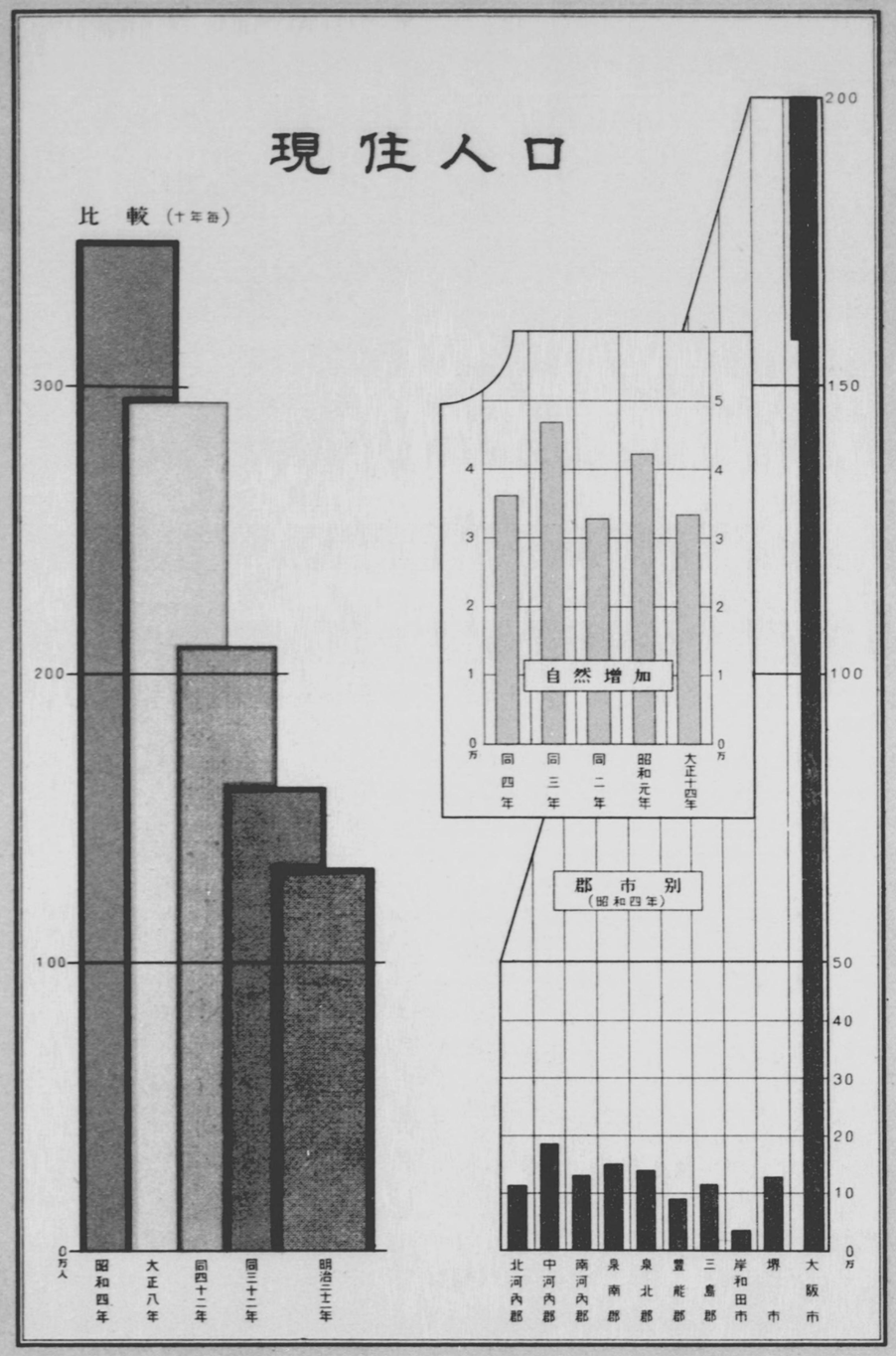
地方別面積


地方別面積
山林
耕地
宅地
道路
河川
堤防
其他公地面積

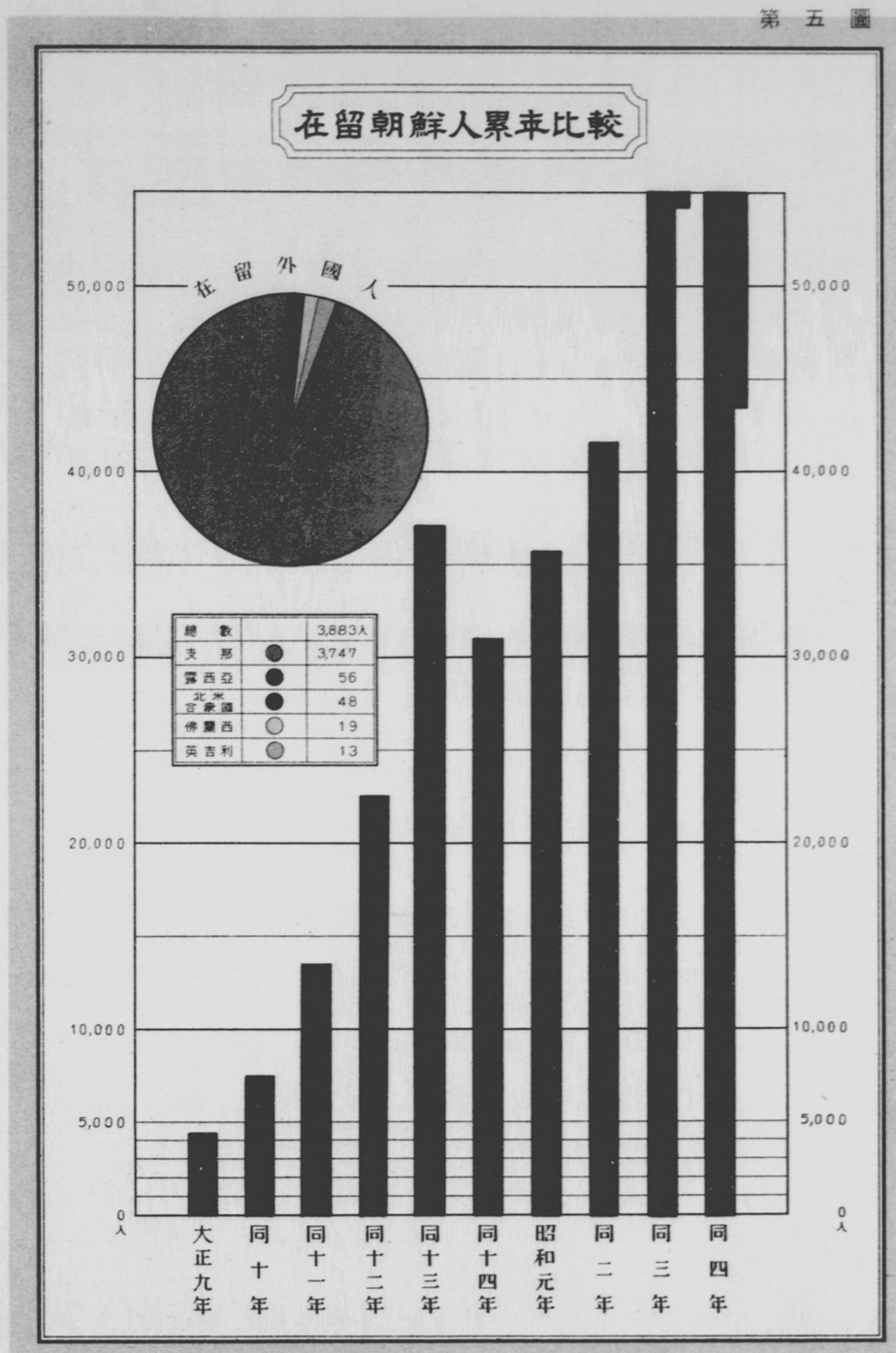
都市別
三島
161
豊能
143
北河内
大阪
120
中河内
94
堺
10
南河内
209
泉北
132
泉南
18.7
0.3



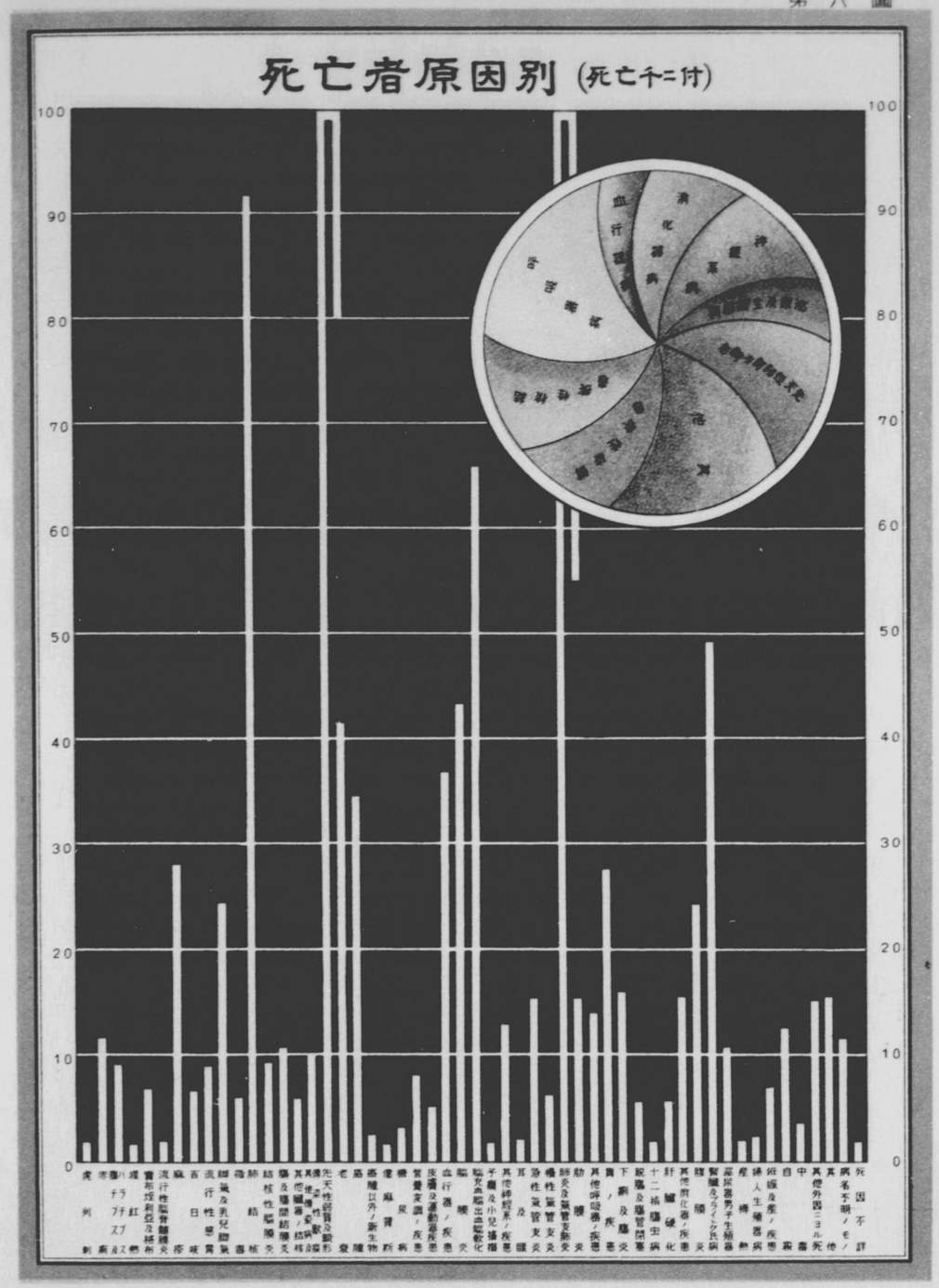
第四圖

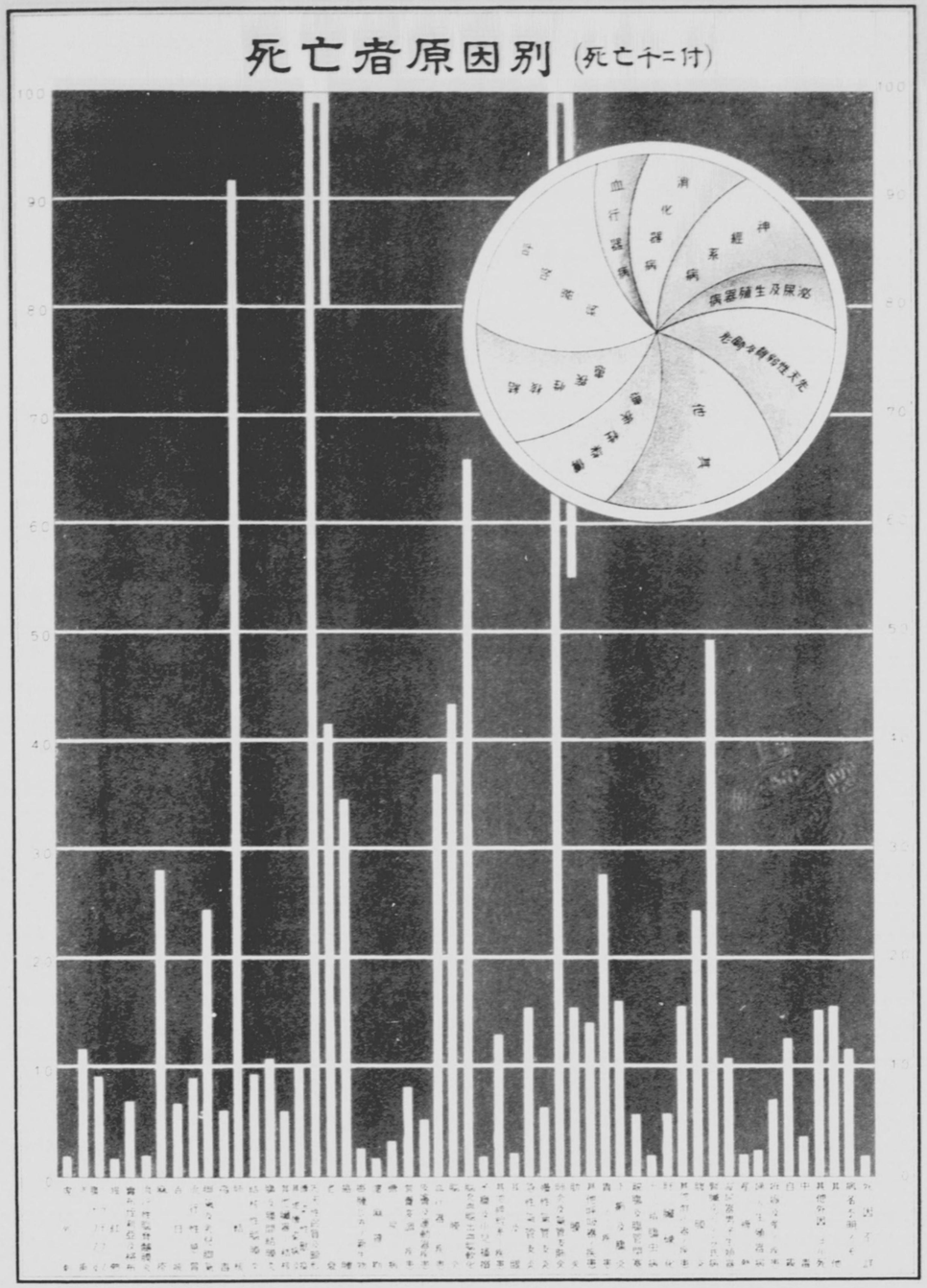

現住人口
比較（十年毎）
300
200
100
0万人
昭和四年
大正八年
同四十二年
同三十二年
明治三十二年
自然増加
0万
1
2
3
4
5
同四年
同三年
同二年
昭和元年
大正十四年
郡市別
（昭和四年）
200
150
100
50
40
30
20
10
0万
北河内郡
中河内郡
南河内郡
泉南郡
泉北郡
豊能郡
三島郡
岸和田市
堺市
大阪市

第五圖


在留朝鮮人累年比較
在留外國人
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
5,000
0人
總數 3,883人
支那 3,747
露西亞 56
北米合衆國 48
佛蘭西 19
英吉利 13
大正九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年
同十四年
昭和元年
同二年
同三年
同四年

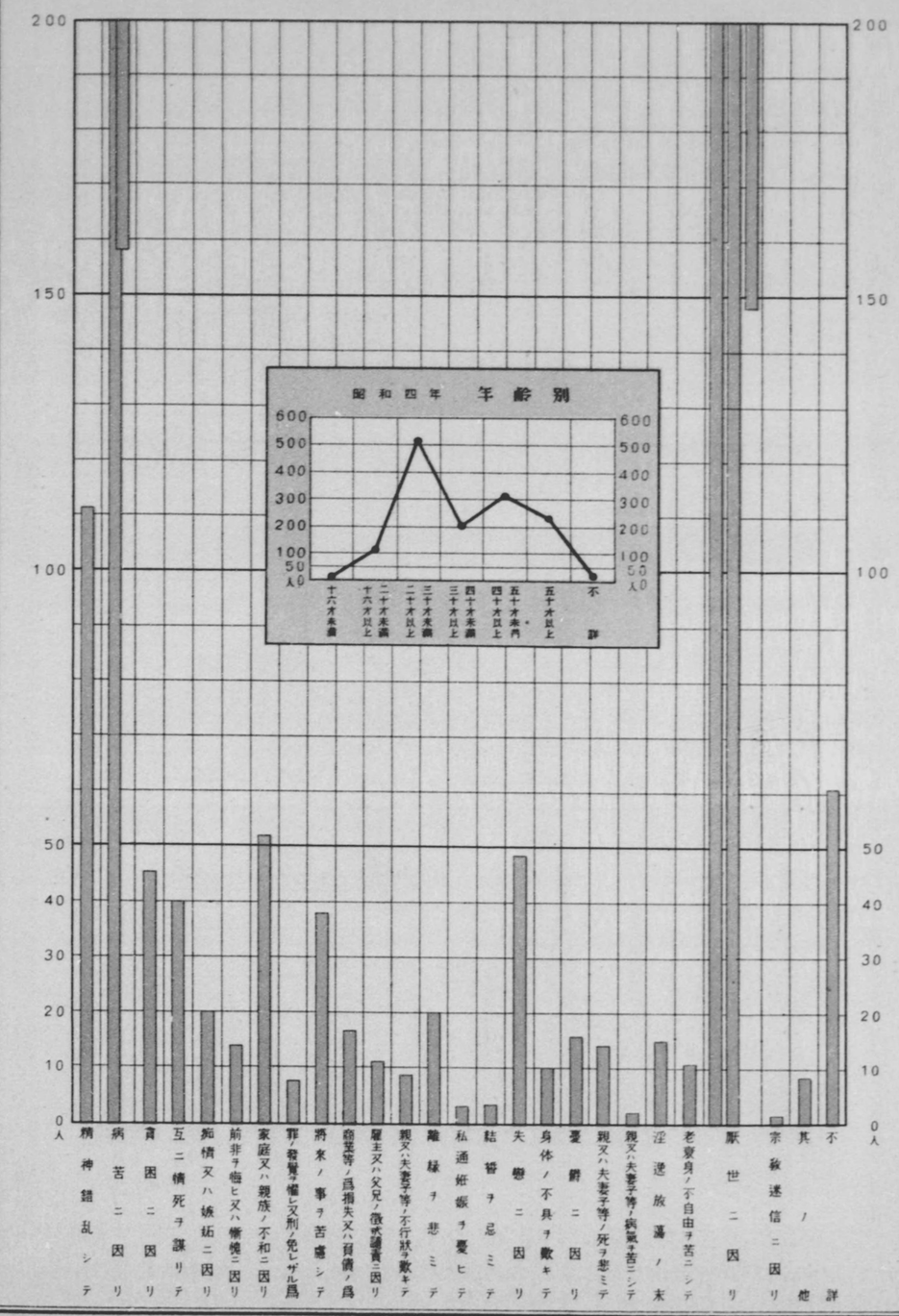
第六圖


死亡者原因別 (死亡千ニ付)
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
血行器疾患
消化器疾患
神經系疾患
呼吸器疾患
泌尿生殖器疾患
皮膚及運動器疾患
皮膚及皮下組織疾患
感覺器疾患
新生物
老衰
先天性發育及發育不全
其他傳染性疾病
其他結核
結核性腦膜炎
腸及腹膜結核
結核
梅毒
流行性感冒
百日咳
麻疹
流行性腦脊髓膜炎
實形性赤痢及細菌性赤痢
チフス
パラチフス
腸チフス
虎列刺
死因不詳
病名不明ノモノ
其他外因ニヨル死
自殺
中毒
産褥熱
産婦人生殖器病
妊娠及産ノ疾患
産褥及産後ノ生殖器
腎臓及ネフリタ氏病
腸炎
其他消化器ノ疾患
肝臓硬化
十二指腸虫病
脱腸及腹部膨脹
下痢及腸炎
胃ノ疾患
其他呼吸器ノ疾患
肋膜炎
肺炎及氣管支肺炎
慢性氣管支炎
急性氣管支炎
及
耳
其他神經系ノ疾患
子癇及小兒痙攣
腦充血腦出血腦軟化
腦膜炎
血行器ノ疾患
皮膚及運動器疾患
皮膚及皮下組織疾患
感覺器疾患
新生物
癌腫以外ノ新生物
老衰
先天性發育及發育不全
其他傳染性疾病
其他結核
腸及腹膜結核
結核性腦膜炎
結核
梅毒
流行性感冒
百日咳
麻疹
流行性腦脊髓膜炎
實形性赤痢及細菌性赤痢
チフス
パラチフス
腸チフス
虎列刺


死亡者原因別 (死亡千ニ付)
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
消化器病
神経系病
病菌種生及黴菌
光線ノ有害性及光
消化器結核
血行器病

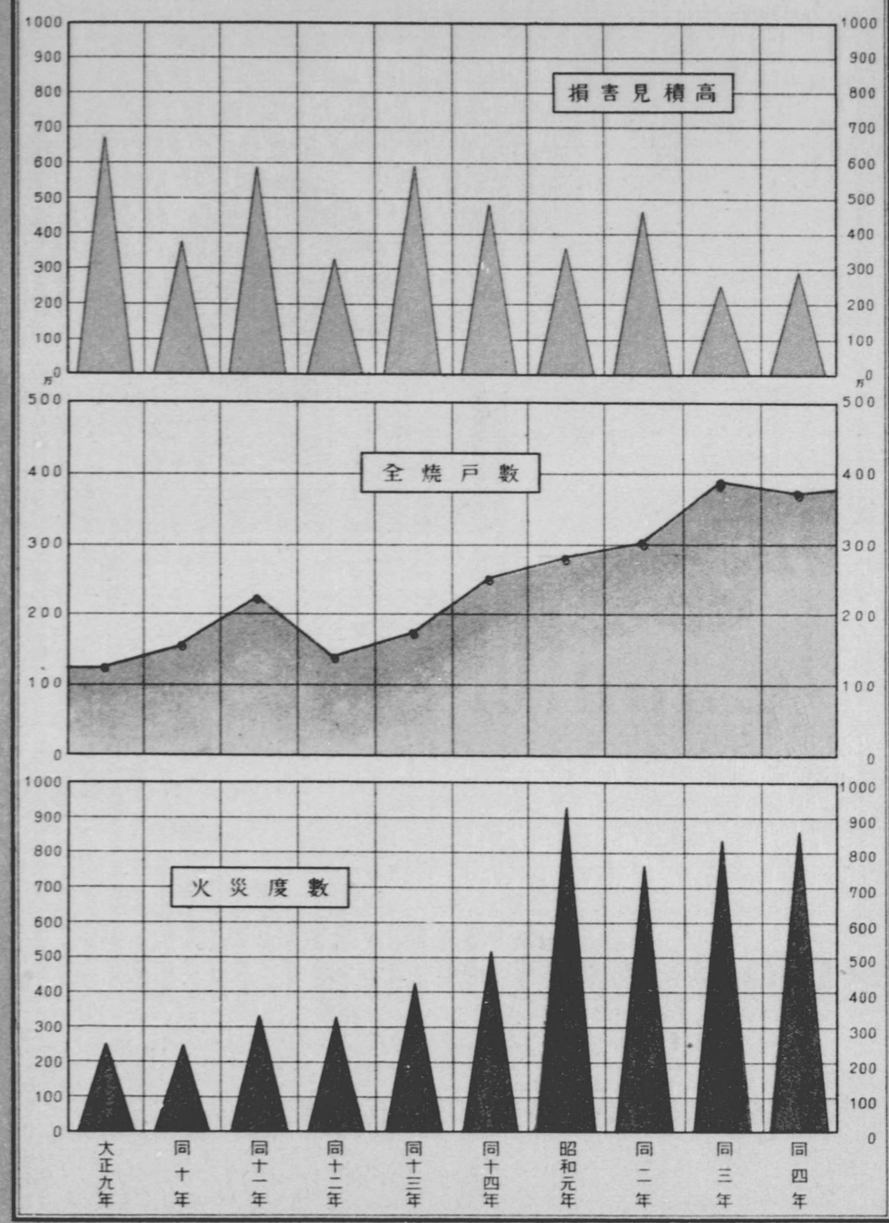
第七圖

自殺者原因別（昭和四年）



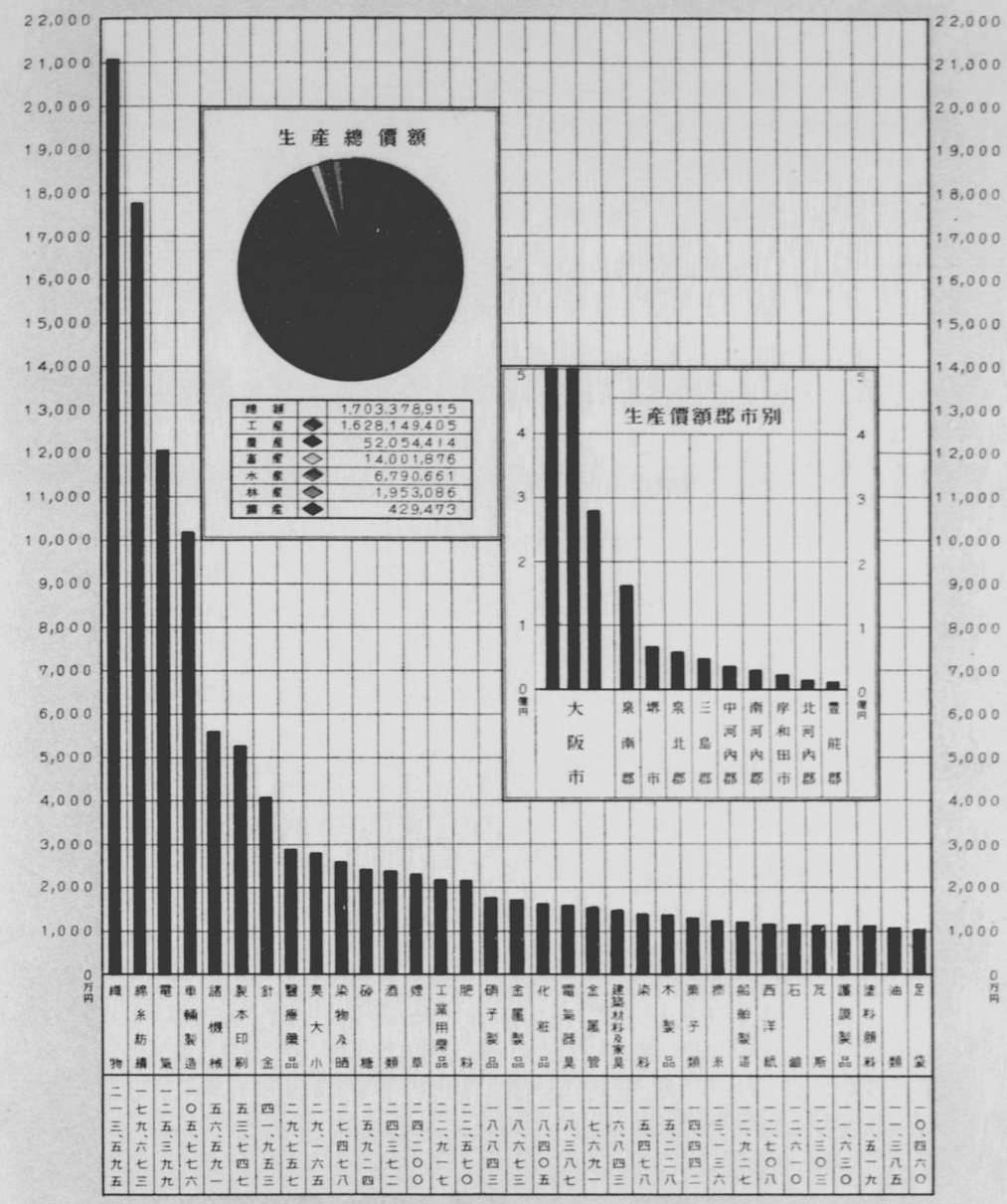
第八圖

火　災

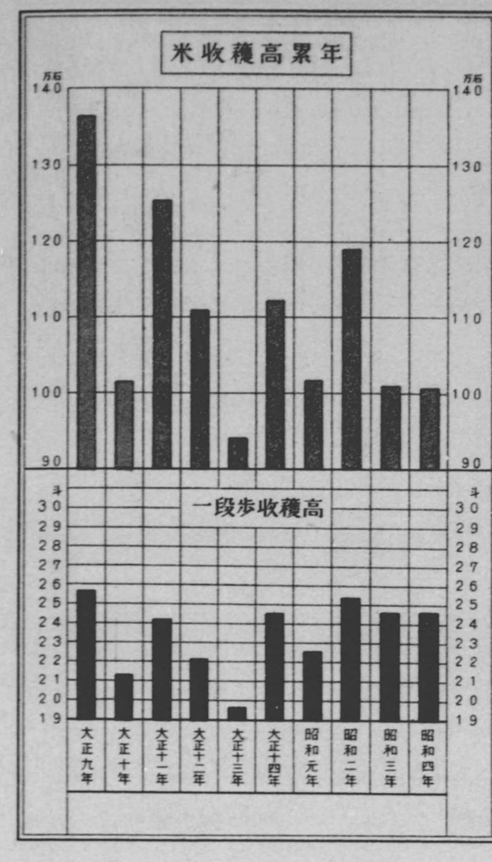

損害見積高
全燒戸數
火災度數
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
大正九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年
同十四年
昭和元年
同二年
同三年
同四年

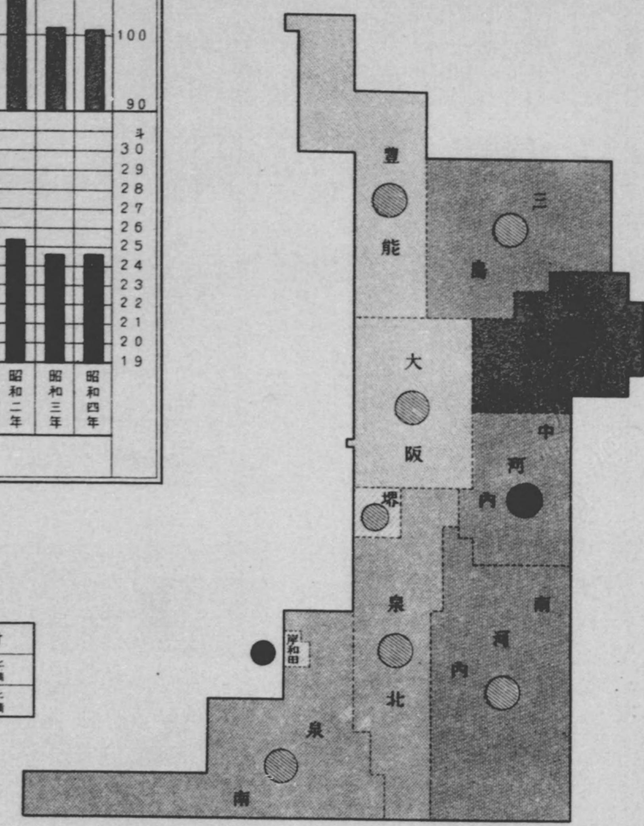
重要物産價額

價額一千萬圓以上



米收穫高郡市別

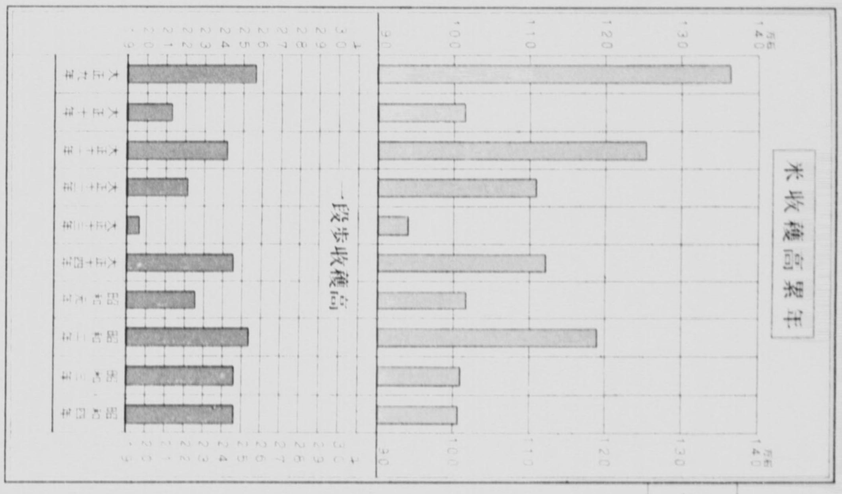


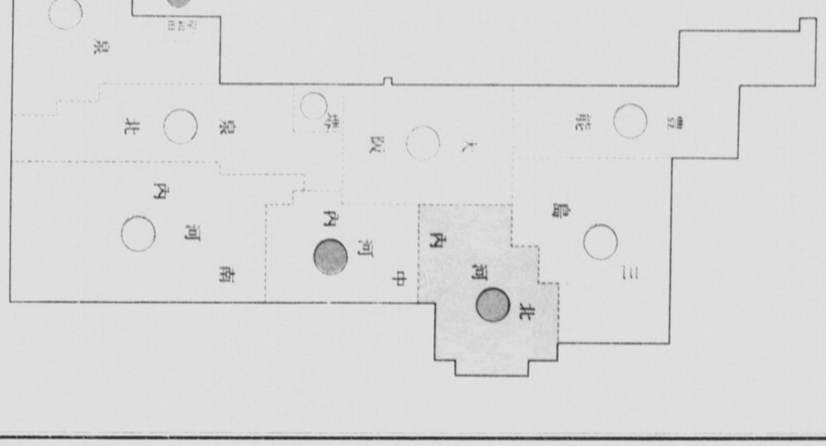


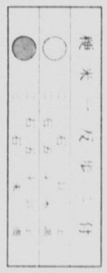
粳米一反歩二付	
▨	二石以上二石五斗未満
●	二石五斗以上三石未満

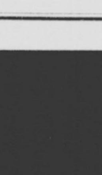
三千石以上五万石未満	五万石以上十万石未満	十万石以上十五万石未満	十五万石以上十八万石未満	十八万石以上

米收穫高郡市別

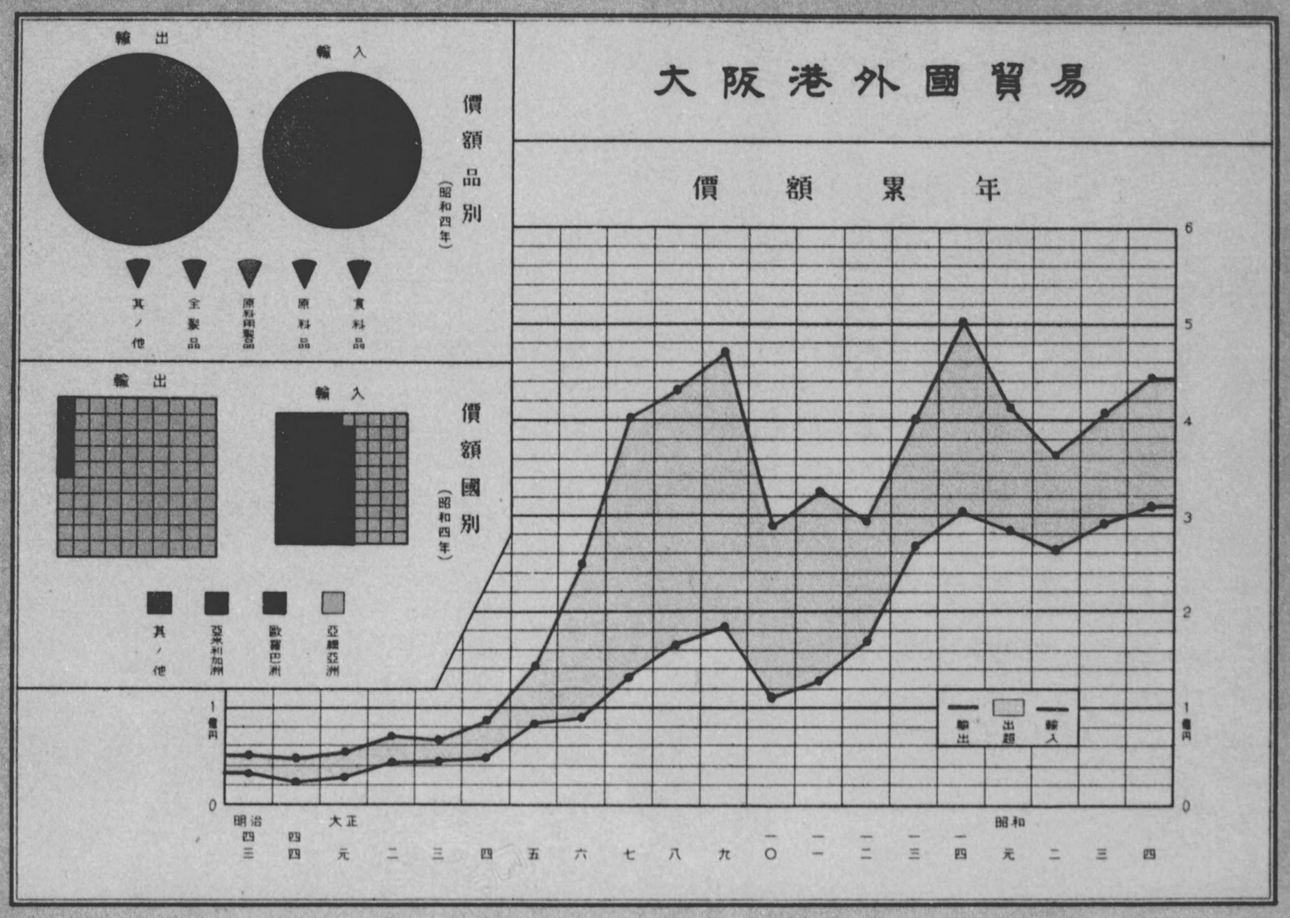




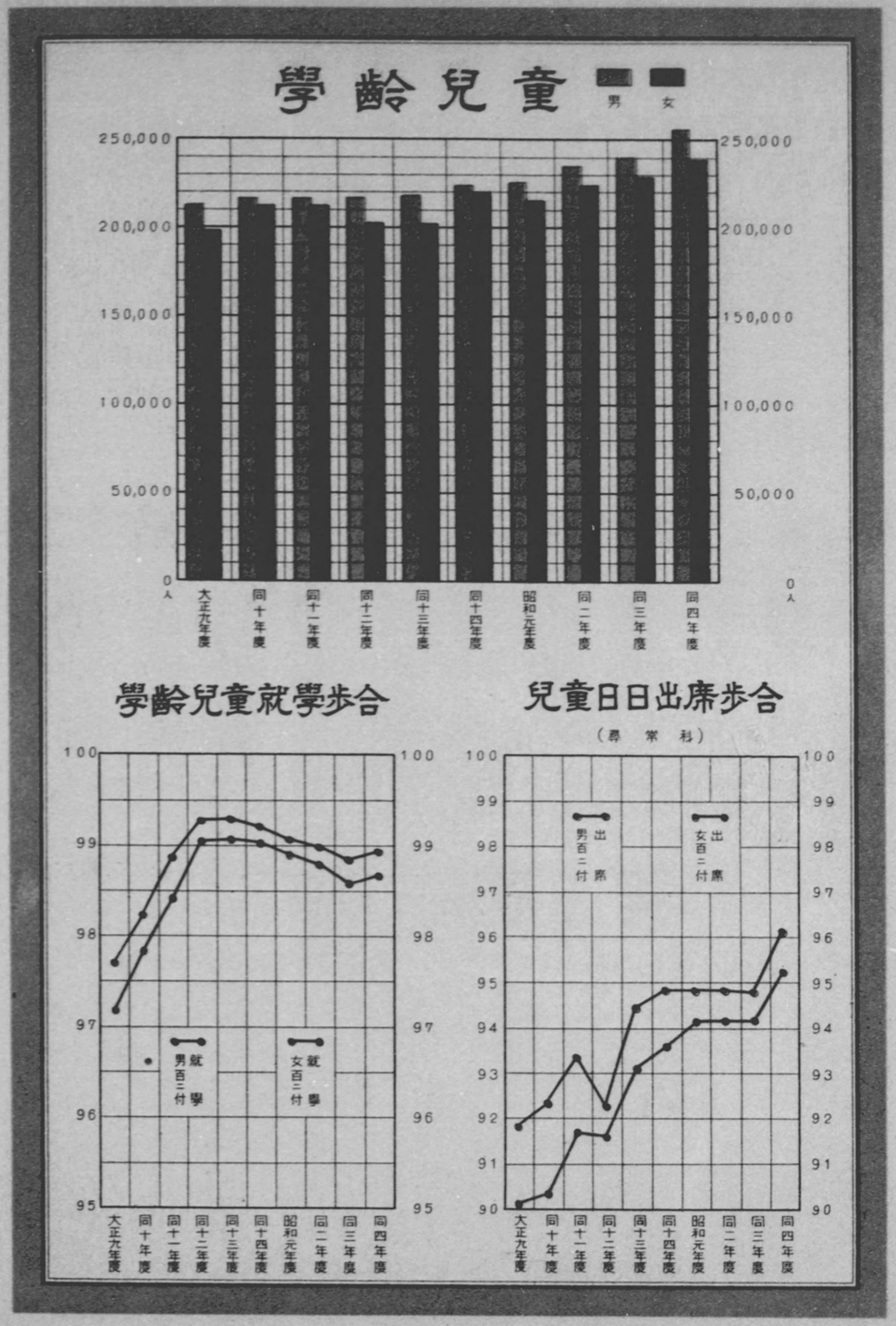




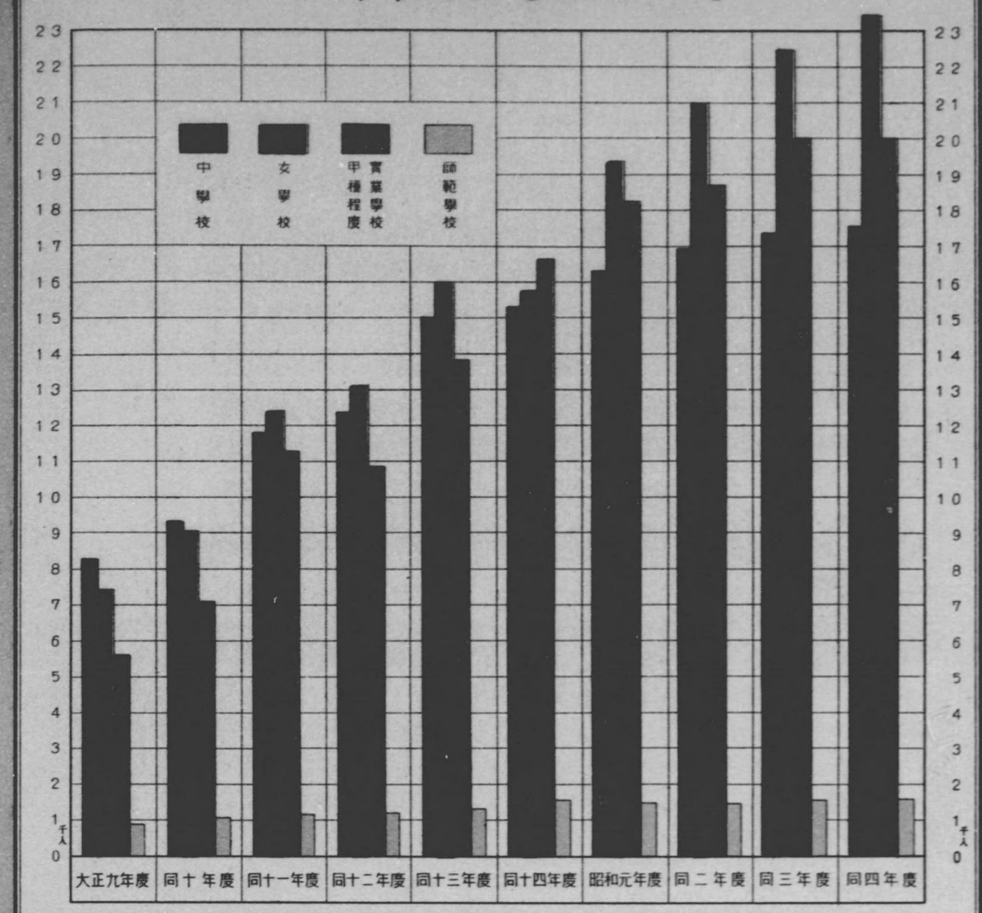
第十一圖


大阪港外國貿易
價額累年
輸出
輸入
價額品別
(昭和四年)
其ノ他
全製品
原料兼製品
原料品
食料品
輸出
輸入
價額國別
(昭和四年)
其ノ他
亞米利加洲
歐羅巴洲
亞細亞洲
輸出
出超
輸入
1億円
0
明治
大正
昭和
四三
四四
元
二
三
四
五
六
七
八
九
一〇
一一
一二
一三
一四
元
二
三
四

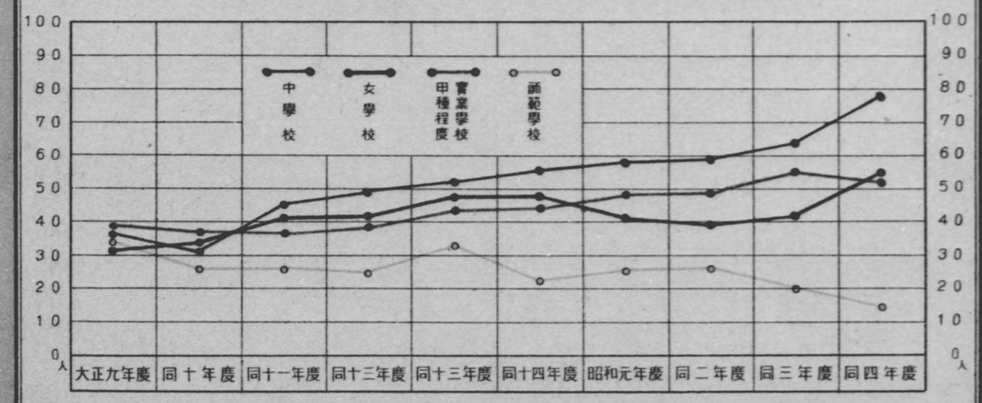
第十二圖


學齡兒童
男
女
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
人
大正九年度
同十年度
同十一年度
同十二年度
同十三年度
同十四年度
昭和元年度
同二年度
同三年度
同四年度
學齡兒童就學歩合
100
99
98
97
96
95
男百ニ付就學
女百ニ付就學
兒童日日出席歩合
（尋常科）
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
男百ニ付出席
女百ニ付出席

中等程度ノ學校生徒

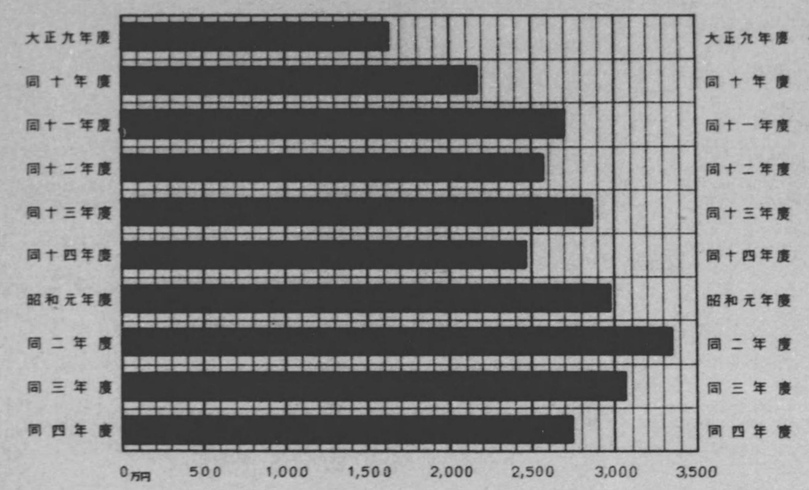


中等學校入學志願者百ニ付入學者



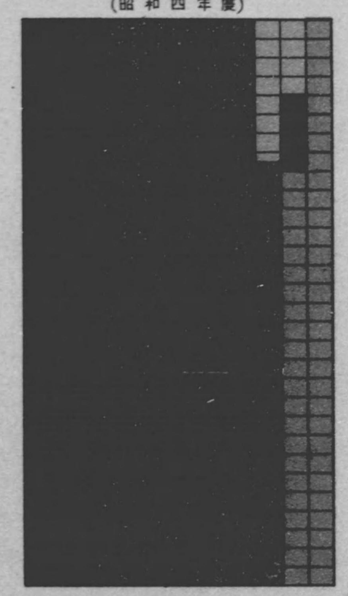
第十四圖

公學費

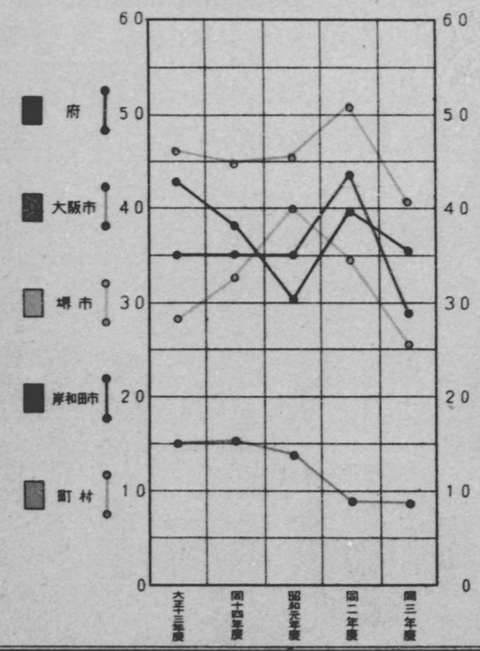


公學費ノ權衡

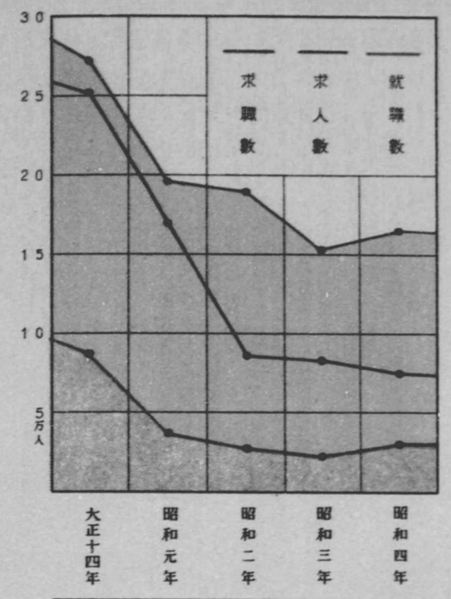
(昭和四年度)

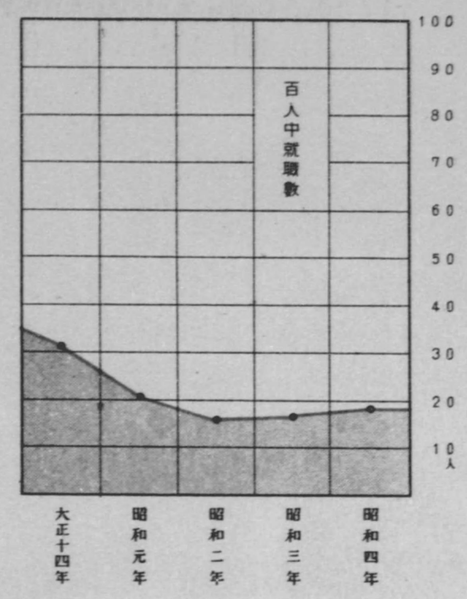


諸經費百ニ付公學費

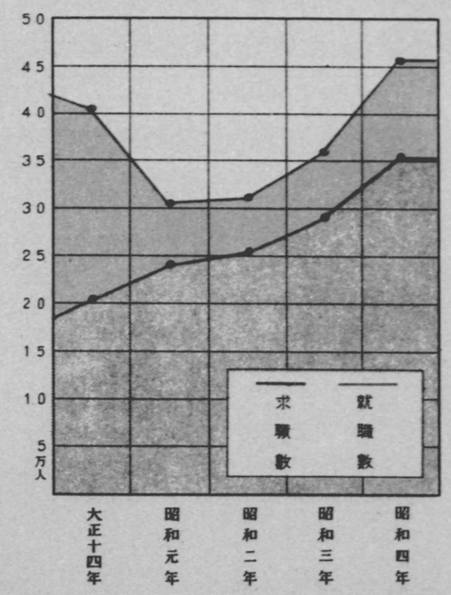


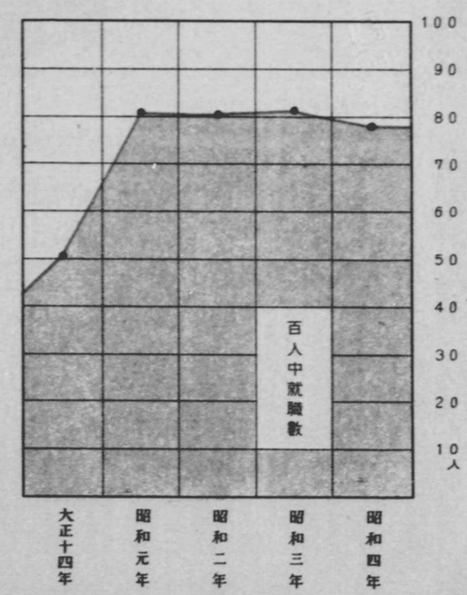
職業紹介

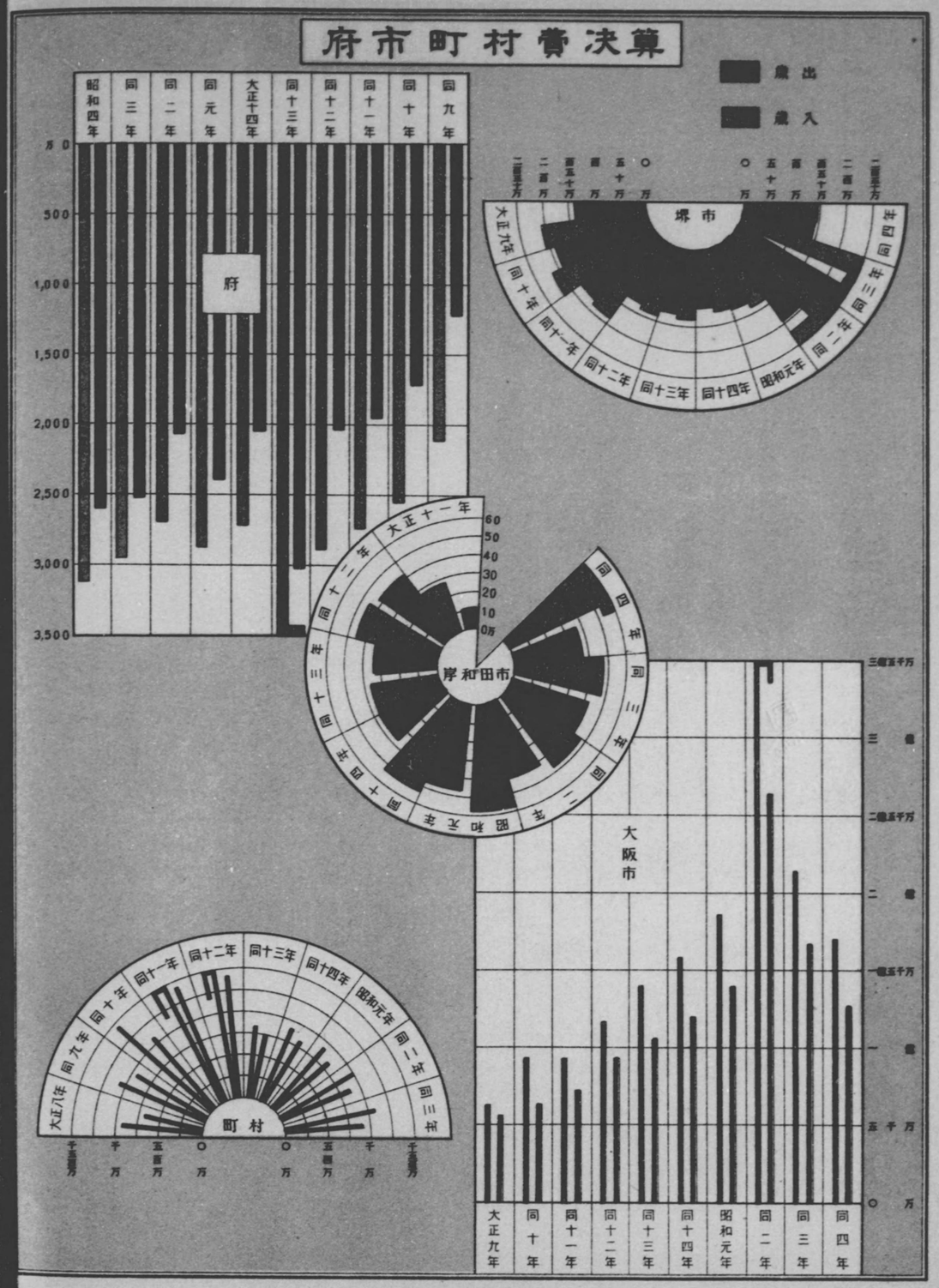

30
25
20
15
10
5万人
求職數
求人數
就職數
大正十四年
昭和元年
昭和二年
昭和三年
昭和四年


100
90
80
70
60
50
40
30
20
10人
百人中就職數
大正十四年
昭和元年
昭和二年
昭和三年
昭和四年

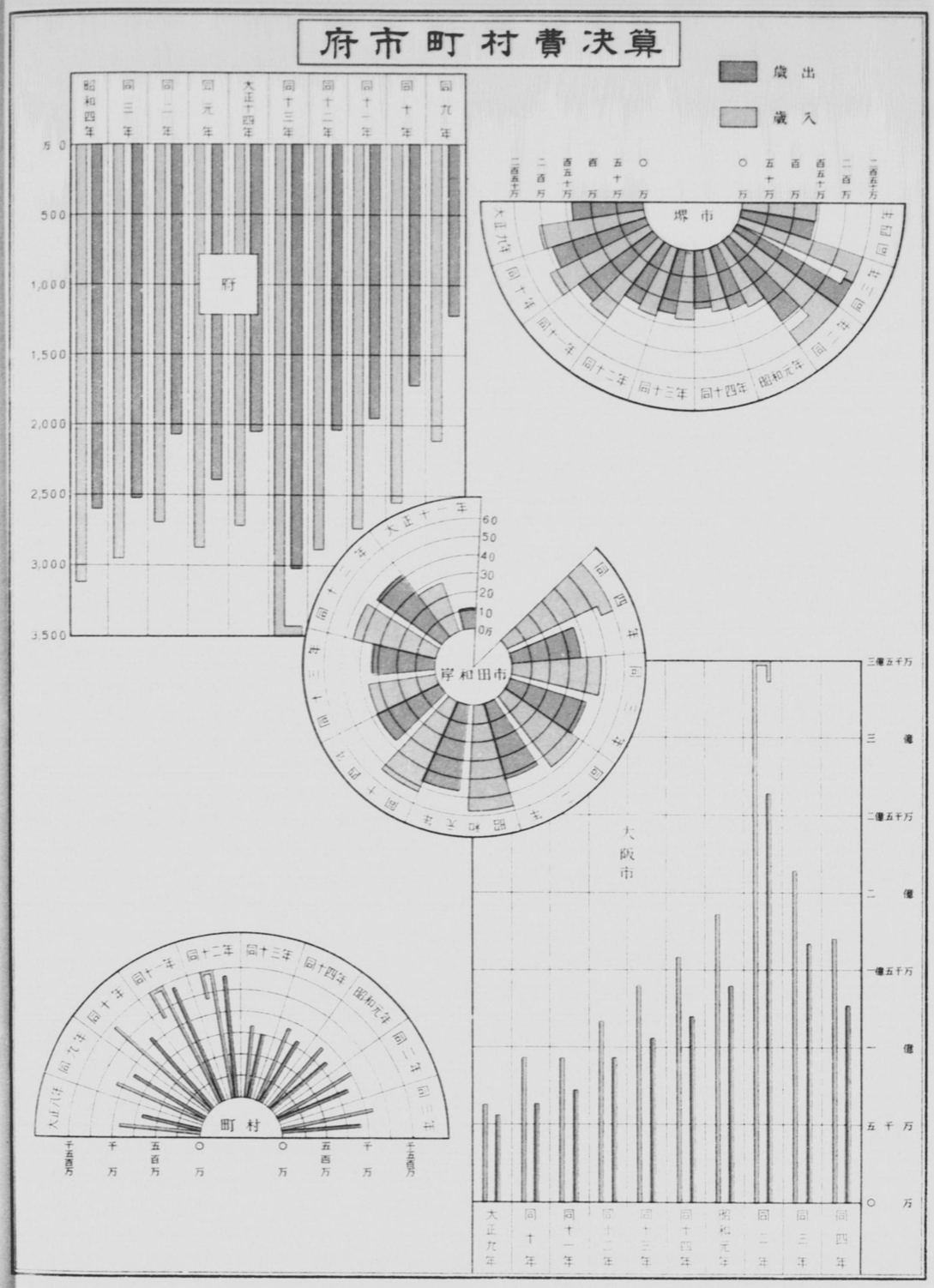
勞働職業紹介


50
45
40
35
30
25
20
15
10
5万人
求職數
就職數
大正十四年
昭和元年
昭和二年
昭和三年
昭和四年

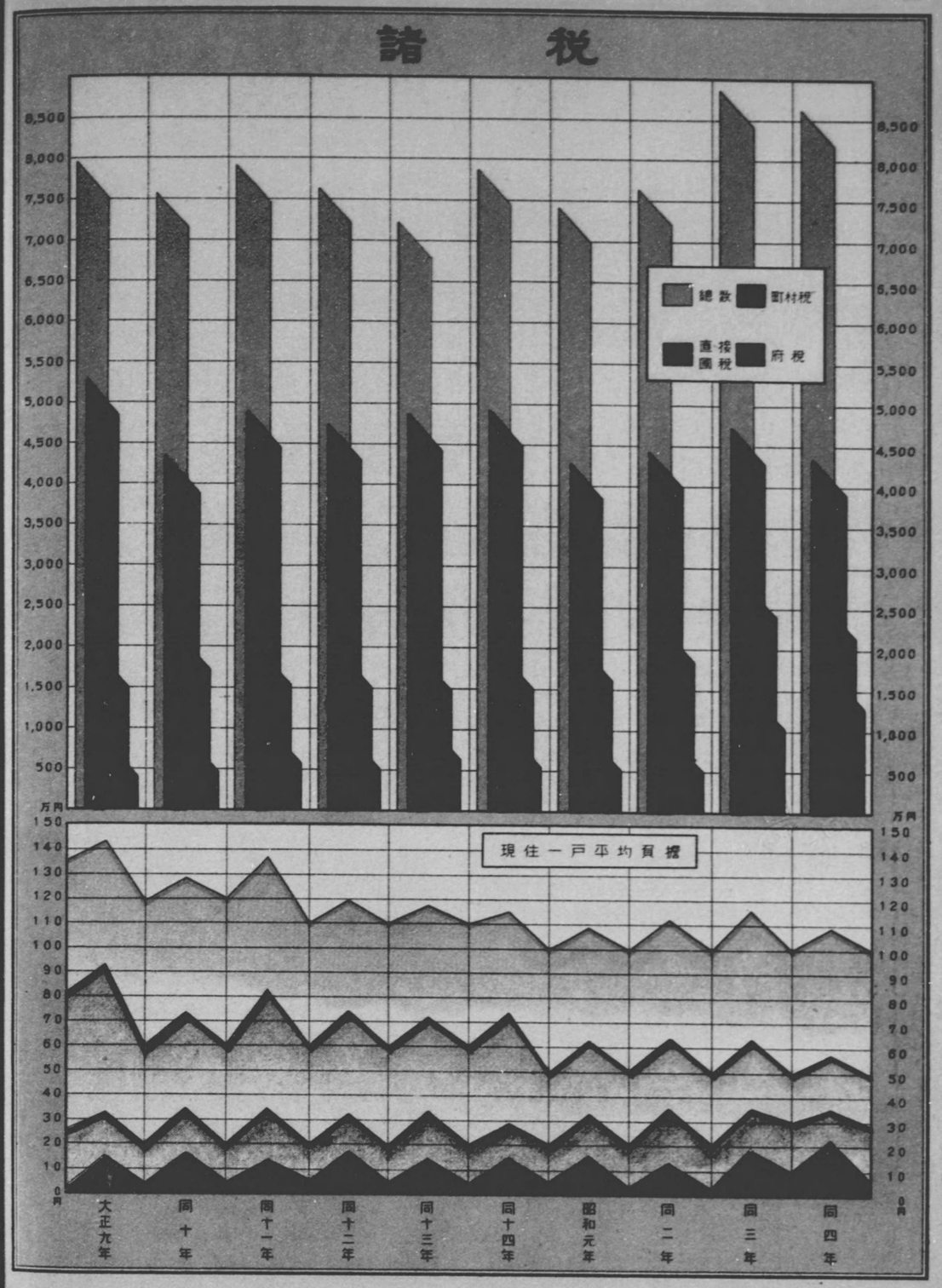

100
90
80
70
60
50
40
30
20
10人
百人中就職數
大正十四年
昭和元年
昭和二年
昭和三年
昭和四年


府市町村費決算
歳出
歳入
府
堺市
岸和田市
大阪市
町村

府市町村費決算

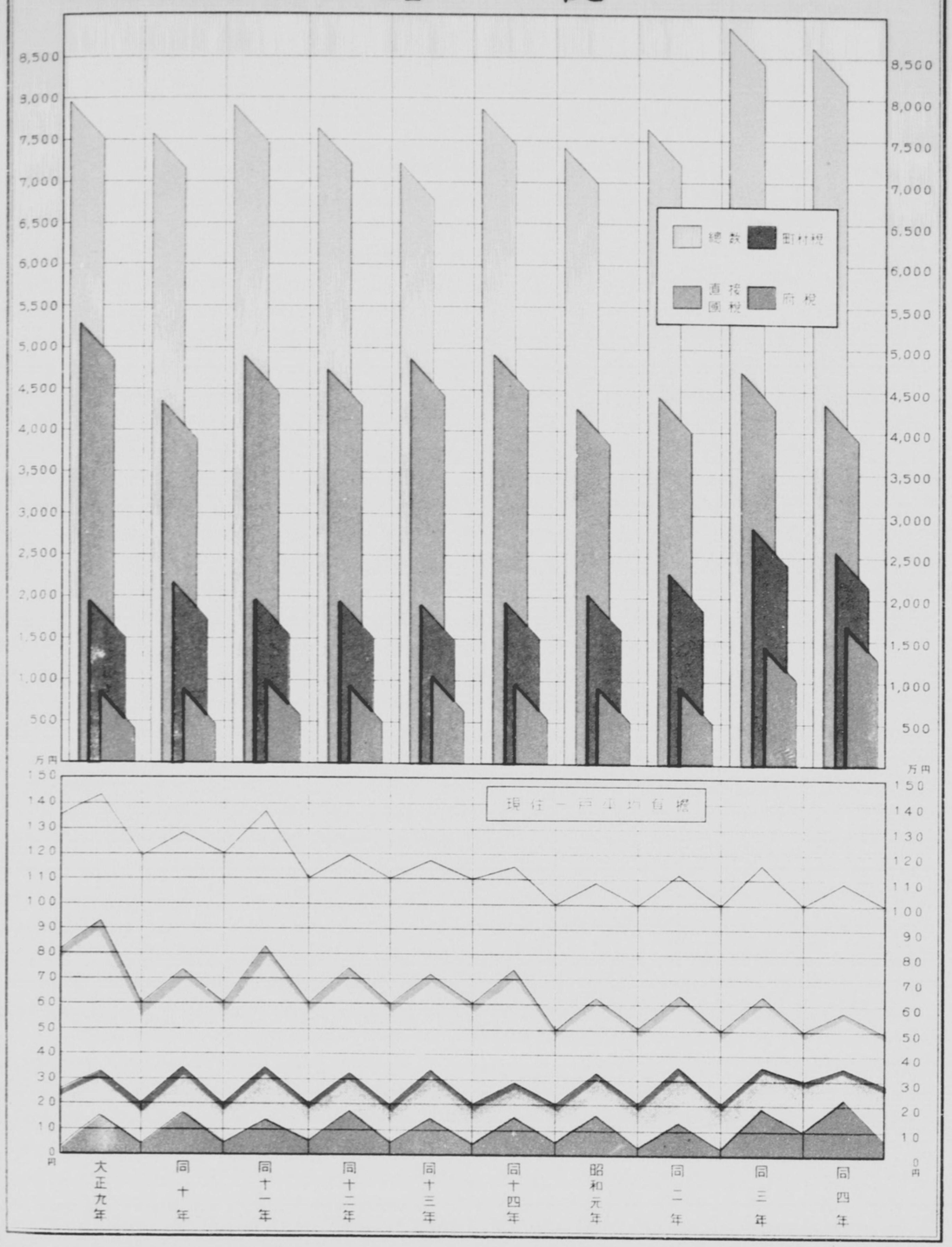


第十七圖


諸　稅
總數
町村稅
直接國稅
府稅
8,500
8,000
7,500
7,000
6,500
6,000
5,500
5,000
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
万円
現住一戸平均負擔
150
140
130
120
110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
円
大正九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年
同十四年
昭和元年
同二年
同三年
同四年

第十七圖

諸　　税


8,500
8,000
7,500
7,000
6,500
6,000
5,500
5,000
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
万円
總數
町村税
直接國税
府税
150
140
130
120
110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
円
大正九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年
同十四年
昭和元年
同二年
同三年
同四年

述　　記

記 述

第一 土 地

位置 本府ハ帝國本土ノ中央部ニ位シ攝津國大阪市及三島、豐能ノ二郡ト、河內國ノ全部、即チ南河內、中河內、北河內ノ三郡ト和泉ノ國全部即チ堺、岸和田兩市及泉北、泉南ノ二郡ノ廣域ニ亘リテ管轄シ、東北ハ京都府、東一帶ハ山脈蜿蜒ト連リテ奈良縣ニ接シ南ハ和歌山縣、西北ハ兵庫縣川邊郡ニ突入リ西ハ洋々タル大阪灣ニ面シ、遙カニ淡路島ヲ望ミテ景勝ノ地ヲ占メテヰル

而シテ管內極所ノ經緯度ハ次ノ如クデアル。

方位	地名	經度	方位	地名	緯度
		度分秒			度分秒
東	北河內郡永室村	東經 135.45.00	南	泉南郡多奈川村	北緯 34.16.40
西	泉南郡多奈川村	東經 135.07.40	北	豐能郡枳根莊村	北緯 35.02.19

地勢 葛城山脈ハ東南ニ起リ、蜿蜒北ニ馳セテ金剛、葛城、二上、信貴、生駒ノ諸山相聳ヘ、南ニハ和歌山縣ニ接スル和泉山脈アリテ支山脈北ニ岐レ著名ナル七越、槇尾、天野ノ諸山之ニ屬シテ居ル、北ハ中國山脈ノ餘勢南ニ延ビテ其窮スル所ニ能勢山及箕面ト稱スル。景勝ノ地ガアル之等ノ諸山麓ニリ平野廣漠ト相連リテ數流ノ河川其間ヲ縫ヒ其中著大ナルハ淀川ト大和川デアル。

淀川ハ源ヲ近江國ノ琵琶湖ニ發シ京都府ヲ貫流シテ本府ノ東北部ヲ流レ西走シテ河口ニ至リ西ニ分流スルヲ神崎川ト稱シ主流ハ毛間ニ至リ南下シテ大阪市ニ入リ更ニ分岐シテ堂島、土佐堀、安治、木津ノ諸川トナリ、大阪市ハ之等ノ川ヲ利用シテ天滿堀、東橫堀、西橫堀、百間堀、江戶堀、立賣堀、京町堀、阿波堀、薩摩堀、堀江、長堀、道頓堀ノ疎水路ヲ設ケ運漕ノ便ニ供シ毛間ニリ分岐シタル新淀川ハ大阪市ノ北部ヲ西流シ西淀川區外島町ニ至リテ大阪灣ニ注イデヰル。

大和川ハ大和國ニ源シ金剛、生駒兩山ノ間ヲ流レテ管內ニ入リ南河內郡道明寺村ニ至リテ、石川ヲ合シ西流シテ堺市ノ北端ヲ過ギテ大阪灣ニ注ギ、淀川ニ亞グ大河ナルモ河心淺ヲ逐ヒテ流砂ニ堀リ淺洲トナリテ舟楫ノ便ヲ缺キ、往々氾濫ノ憂ガアル、サレド河內一帶ノ田圃ヲ灌漑スル利益著大デアル、之等二大河ノ外石津、大津、津田、樫井、男里ノ諸川アルモ流域短ク河心淺洲ナル爲メ舟楫ノ便ニ乏シ。

池沼ハ山間ノ底地、或ハ平原ニ點在シテ其ノ數極メテ多ク、何レモ田圃灌漑ノ用ニ供セラレ就中著大ナルハ泉南郡ノ久米田池ニシテ南河內郡ノ狭山池之ニ亞ギ兩者共田圃ヲ灌漑シ其區域實ニ數千町歩ニ及ビ無量ノ利益ヲ河泉ノ野ニ與ヘテヰル。

本府ノ地勢ハ概シテ平坦ナルヲ以テ交通極メテ便利ニシテ道路諸方ニ拓ケ何レモ車馬ヲ通ジテヰル。

尙幾近大阪市ヲ中心トシテ鐵道、軌道縱橫ニ其ノ手ヲ延シ大阪市ノ如キ本邦商工業ノ中樞ヲ爲シ今日ノ大ヲ致セシハ斯ク水陸ノ要衝ノ地ヲ占ム天與ニ俟ツモノデアル。

地質 本府地質ノ最大面積ヲ占ムルモノハ第四紀古層及第四紀新層ニシテ、和泉沿海ノ地方ハ主トシテ前者ニ屬シ、攝津ノ東部地方ト河內平坦部ハ後者ニ屬シテ、之ニ亞グモノハ攝津ノ中央部、河

內ノ東北端及和泉中央部ヨリ河內南部ニアル第三紀層、並ニ河內和泉ノ山間部ノ片麻岩及和泉ノ砂岩層デアル、又花崗岩ハ河內東北部ノ山間及攝津北部ニ分布セラレテ、秩父古生層ハ攝津ノ北部ニ於イテ見ルノデアル。以上ノ外雲英安山岩ハ大和川上流ノ河內ノ山間ニ於ケル僅少ノ面積ニ限ラレ、石灰岩ハ攝津北部ノ山間ニ僅カ點在シテキルダケデアル。

面　積　本府ハ大阪、堺、岸和田ノ三市及三島、豐能、泉北、泉南、南河內、中河內、北河內ノ七郡ヲ管シ大阪市ハ之ヲ十三ケ區ニ分レ、郡部通ジテ25ケ町 222ケ村ニシテ總面積ハ117.5 9方里ニシテ郡市別ニ見ルナレバ南河內郡20.855方里、泉南郡18.652方里、三島郡16.114方里、豐能郡14.270方里泉北郡13.225方里、大阪市12.003方里、北河內郡11.740方里、中河內郡9.446方里、堺市1.021方里、岸和田市0 2 3方里デアル。尙總面積ノ內9割2分5厘ハ民有有租地、6分5厘免租地及年期地ニシテ爾餘1分ハ官有地デアル。

在 廳 地　本府ノ在廳地ハ大阪市東區大手前之町一番地ニシテ東經135度 31分、北緯34度 41分ノ地ニ在リテ前ニ有名ナル大阪城ヲ控ヘ隆榮ノ昔日ヲ偲バセ現ニ第四師團司令部城內ニ置カレ兵營其ノ附近ニ散在シテキル。

大阪府管內氣象ノ概況　大阪府ハ本邦ノ中央ニ位シテ氣候ハ頗ル溫和デ和泉沿海部地方カラ攝津、河內ノ平坦部地方ニ至ル一帶ハ一年中ノ平均氣溫ハ約十五度ヲ示シ攝津北部、河內東部ノ山間部地方ハ稍々寒冷デアルガ年中ノ平均氣溫ハ11度位デアルカラ寒暖兩地ノ差異ハ僅カニ四度乃至五度ニ過ギナイ又降雨量ハ沿海地方カラ平坦地方ニ亘ツテ千三百粍內外山間部地方ニ於テハ千五百粍乃至千六百粍ヲ量ルノヲ通例トスルモ本年ハ著シク少ナイ、多イ地方デモ千三百粍少ナイノハ九百五十粍ニ達シナイ、又雨極ノ差モ約三割ニ過ギナイ。

本府管內ハ南カラ東ニ至ル一帶ハ葛城山脈ヲ以テ圍繞セラルルモ獨リ淀川流域ハ北東ニ奔リ山城ノ國巨椋池ヲ經テ近江國琵琶湖ニ達シテ居ル。

又西方一帶ハ大阪灣ニ面シテ居ルタメ風ハ淀川流域カラ吹キ込ム所ノ北東風及瀨戸內海カラ來ル所ノ西風ハ最モ多ク和泉地方カラ大阪灣ニ至ル沿海地方ハ特ニ甚シク內陸ニ入ルニ從ツテ風力ハ漸次減少スル而シテ北東風ハ四季ヲ通ジテ多ク殊ニ夜間ニ多イノヲ常トシ、西風ハ夏季ニアツテハ稍々南ニ變ジテ南西風トナリ日中ニ最モ多ク冬季ニハ西乃至北西風ハ旺盛トナリ且ツ强烈デ往々數日間吹キ續クコトアリ之レヲ冬ノ季節風ト言フ。

霜ハ北部ノ山間地方ニ於テハ十月下旬カラ翌年四月上旬ニ終リヲ告ゲル雪モ同ジク北部ノ山間地方ニ早ク十一月末ニ初雪ヲ見四月中旬ニ渉ルモ降雪日數ハ二十日內外デ地上積雪ヲ見ルコトハ極メテ少ナク既往ニ徵シテモ明治四十年二月十一日大阪市ニ於テ積雪五寸八分ニ達シタノハ稀有ノ大雪トスルニ過ギナイ。

第 二 人 口

一、人口靜態

昭和四年末ニ於ケル本府現住人口ハ3,480,218人デ、全國人口ノ十八分ノ一（5分5厘）ヲ有シ、各府縣

中第二位ニ位シテ、帝國人口構成ノ上ニ偉大ナル力ノ有ルコトヲ示シテ居ルノデアル、之レヲ前年ニ比スルト103,357人卽チ3分1厘ノ增加ニ當リ、大正十四年國勢調査人口ニ比較スルト420,716人ノ增加ニ當ル。卽チ一ケ年平均105,713人(人口千ニ付34.35）ノ增加デ、內地 ケ年平均增加率14 20（千ニ付）ニ比シ、約二倍半ノ高率ヲ示シテ居ル。是等ハ元ヨリ商工業都市トシテノ大阪市ヲ抱擁セル關係上、人口ノ社會的增加並ニ之ニ伴フ自然的增加ニ起因スルモノデ、所謂人口ノ都會集中、一面又都市ノ進展ヲ語ツテ居ルモノデアツテ、大大阪ノ偉大サガ窺ヒ得ラルルノデアル。

今此ノ狀勢ヲ研究センガ爲メニ四十年ヲ遡リ、明治二十三年ヲ百トシタル指數ヲ以テ各年ノ增加狀況ヲ比較對照スルナラバ

明治二十四年	101	同 二十五年	101	同 二十六年	102
同 二十七年	103	同 二十八年	106	同 二十九年	106
同 三 十 年	112	同 三十一年	116	同 三十二年	120
同 三十三年	123	同 三十四年	126	同 三十五年	129
同 三十六年	133	同 三十七年	136	同 三十八年	140
同 三十九年	144	同 四 十 年	150	同 四十一年	156
同 四十二年	157	同 四十三年	161	同 四十四年	166
大正 元 年	173	同 二 年	179	同 三 年	184
同 四 年	188	同 五 年	195	同 六 年	201
同 七 年	210	同 八 年	210	同 九 年	189
同 十 年	199	同 十 一 年	204	同 十 二 年	215
同 十 三 年	223	同 十 四 年	224	昭和 元 年	231
同 二 年	240	同 三 年	247	同 四 年	254

等ニ該當シ、其ノ遲增驚クベキ現象ヲ表ハシテ居ル。唯單ニ大正九年ニ至リ急激ニ低下シテ居ルノハ是卽チ國勢調査施行ニ因スルモノデ、其反面ニハ國勢調査ノ實價ヲ語ルモノト見テヨイノデアル。

以上ノ事實ヲ現住人口增加實數ト照合シテ考究スルナラバ、府ノ人口ハ明治二十三年ヲ基準トシ、以降明治三十三年迄、卽チ十年後ニハ1割1分、二十年後ニシテ5割7分ノ增加ヲ示シ、大正六年ニ至リ約倍數ノ增加ヲ見、現在ニ在リテハ倍數半ノ增加トナツテ居ル。然ラバ以後益々增加率ヲ昂メ其ノママ進行スルナラバ來ル昭和三十年ニハ驚クベキ增加ヲ見ルデアラウト豫想出來得ルガ、然シ人口ノ增加ハ文化ノ進展ト比例シナイト言フコトハ、歐洲文明國ガ立證シテ居ル所デアツテ、現在我國ニ於テモ產兒制限ノ思潮ト、婦女ノ知識ノ向上ヲ重因トシテ生產增加ハ既ニ其ノ頂キニ達シタト云フ學者モアル。ガ然シ商工業ノ中心地トシテ異常ナ發達ヲナシツツアル本府今後ノ人口ハ蓋シ一考ニ値スルモノガアラウ。

人口分布ノ狀況　管內人口分布ノ狀況ハ大阪市2,408,800人ニシテ全管ノ6割9分2厘ヲ占メ、郡部（堺岸和田ヲ含ム）ハ1,071,418人デ全管ノ、4割0分8厘ニ相當シ、府下人口ノ分布狀態ハ恰モ靜水ニ描ケル波紋ノ如ク、中心地卽チ都市ヲ離ルルニ從ヒ漸次粗トナツテ居ルコトハ爭ハレナイ事實デアル。

今之レガ狀況ヲ前年ニ比較スルト大阪市ハ75,000人(3分1厘)ヲ增加シ、郡部(堺、岸和田ヲ含ム)ニ在ツテハ28,457人卽チ2分7厘ノ增加ヲ示シテ居ル。然シ此ノ市部對郡部ノ人口集中狀勢ヲ過去ニ依ツテ

對比スレバ、大正十四年ヲ百トシテ（十四年以前ハ西成郡、東成郡存立ノ爲メ比較スルヲ得ズ）

	大阪市	郡部
大正十四年	100	100
昭和元年	103	103
同二年	106	108
同三年	110	111
同四年	114	114

等ニ相當シ、其ノ增加狀勢ハ卽チ郡部ニ於テ僅カニ優勢ナルヲ表現シテ居ルコトハ窺ハレル。是卽チ交通機關ノ發達ハ市郡ノ連絡ヲ圓滑ニシ又一面保健衛生思想ノ向上ト相俟ツテ居ヲ郊外ニ構ヘルモノ多キヲ算ヘ、自然人口モ都市ノ中央部ヨリ周圍部ヘ、周圍部ヨリ郊外其他ニ移動セントスル事實ヲ窺知スル事ガ出來ルノデアル。

更ニ郡部ニ於ケル人口分布ノ狀況ヲ見レバ中河內郡ノ179,401人ヲ最モ大ナルモノトシテ、郡部人口ノ1割6分7厘ヲ占メ、全管ノ5分2厘ニ相當スル(全國各郡中第三十位)、之レニ亞イデハ泉南郡デ152,011人郡部人口ノ1割4分2厘、全管ノ3分8厘ニ當リ、以下泉北郡135,908人（郡部ノ1割2分7厘、全管ノ3分9厘)、南河內郡133,126人(郡部ノ1割2分4厘、全管ノ3分8厘)、堺市121,770人(郡部ノ1割1分3厘、全管ノ3分5厘)、三島郡 19,425人（郡部ノ1割1分1厘、全管ノ3分4厘)、北河內郡106,875人(郡部ノ1割全管ノ3分1厘)、豐能郡86,534人(郡部ノ8分1厘全管ノ2分2厘)、岸和田市36,368人(郡部ノ3分4厘、全管ノ1分)等ノ順位トナル。而シテ管內町村中人口二萬人以上ノモノ二ケ町村デ、一萬人以上ノモノ八ケ町村、五千人以上ノモノニ至リテハ十七ケ町村ニ及ビ、千人以下ノ小村六ケ村在ル。今其ノ顯著ナルモノヲ擧ゲテ見ルト、三島郡ノ吹田町24,813人、中河內郡ノ布施町ノ22,025人等ヲ最多ナルモノトシ寡少ナルハ豐能郡吉川村ノ646人、同郡止々呂美村651人等トスル。

男女ノ別　現住人口ニ付男女ノ權衡如何ヲ察スルト、男1,822,159人ニ對シ女1,658,059人デ、男ノ女ヲ超過スルコト164,100人ニ及ビ、卽チ女100ニ付男110ノ割合トナル。而シテ全國平均ハ女100ニ付男101デ在ツテ男女殆ド均衡ヲ保ツテルニ比スルト、本府ハ著シク其ノ較差高ク、他府縣ニ於テハ其比ヲ見ナイ所デアル。由來大都市及ビ之レニ接續スル地方ハ商工業繁盛其ノ他ノ影響ニ因リ男ノ多キヲ常トスルノデアルガ、本府ニ於テ特ニ其甚ダシキヲ示シテ居ル。

更ニ之レヲ郡市別ニ見レバ男ノ多キニ在ツテハ大阪市115ヲ筆頭ニ、豐能郡106、南河內郡、中河內郡各105、三島郡102、泉北郡、北河內郡、各101等ノ順位トナル。女ノ超過セルモノハ岸和田市ノ112、堺市109、泉南郡108等デアル。卽チ、堺市、岸和田市、泉南郡地方ハ紡績及織物製業殷盛ヲ極メ、爲メニ多數ノ女子從業者ヲ要シ、隨ツテ女子ノ入寄留ヲ促シ、出寄留ヲ防ギ自ラ女子ノ多キヲ致セルモノデアル。

現住戶數　總數780,498戶ヲ前年ニ比スルト3分8厘ノ增加ニ當ル、之レヲ郡市別ニ見レバ大阪市567,700戶(7割2分7厘)、中河內郡37,306戶(4分7厘)、泉南郡29,002戶(3分7厘)、堺市26,600戶(3分4厘) 泉北郡25,548戶(3分3厘)、南河內郡24,405戶(3分1厘)、三島郡24,040戶 (3分1厘)、北河內郡20,405戶(2分7厘)、豐能郡17,737戶(2分3厘)、岸和田市7,420戶(1分)等ノ順位デアル、總數ヲ前年ニ比較スルト28,590戶ノ增加ニ當リ、一日平均78戶ノ增加トナル、今十五ケ年間ナル大正三年ノ事實デ言トシテ各

年ノ指數ヲ算出シテ增加ノ狀勢ヲ見ルト、大正四年101、同五年101、同六年105、同七年108、同八年110、同九年112、同十年115、同十一年115、同十二年124、同十三年130、同十四年135、昭和元年134同二年1.7、同三年149、同四年1 5等ニ該當シ、年ヲ追テ增加シツツアルノデアル。

又戶數對人口ノ割合ハ平均一戶4人5分ニ當リ、全國平均4人9分 厘ニ比シテ4分8厘少ナイ 此ノ一戶平均ヲ郡市ニ就テ考察スルト、大阪市4.2、堺市4.7、中河內郡4 8、豐能郡4.9、 岸和田市4 9、三島郡5 0、泉南郡、北河內郡各5.2、泉北郡5.3、南河內郡5.5等ニ該當シ、大阪市ノ如キハ本府平均ニ比シテ3分ノ少ナキヲ示シ、 以下郡部方面ニ於テ其ノ割合ノ多イコトヲ現ハシテ居ル。之レ卽チ自然ノ趨勢ノミデハナク、大都市ハ勿論小都市其他人口ノ密集セル地方ハ、農村ニ比シテ社會狀態ヲ異ニセルハ一面經濟組織ノ變遷ニ伴フ小家族制ノ反映トモ見ルコトガ出來ルノデアル。

人口ノ密度　現住人口ヲ面積ニ比例スルト一方里ニ付29,596人ニ相當シ、 全國ノ平均一方里2,417人ニ比スルト十二倍强ニ當リ、全國各府縣中第二位ニ位スル(東京府32,289人)。殊ニ大阪市ノ一方粁約一萬三千人(一方里200,441人)ハ歐米ノ大都市ニ比シテモ紐育17,400人、市俄古ノ約5,400人ヨリ遙カニ高ク、巴里ノ約30,000人、東京市ノ約28,000人ニハ及バナイガ、依然世界屈指タルヲ失ハナイ。而シテ亦郡部(堺市、岸和田市ヲ含ム)ニ於テ之レヲ見ルニ岸和田市ノ138,281人、 堺市ノ19,[illegible]55人、中河內郡18,992人、泉北郡10,277人、北河內郡 9,103人、泉南郡 8,150人、三島郡7,411人、南河內郡6,374人豐能郡6,064人等デ、各々全國平均ニ比シ遙カニ高率ナルヲ示シテ居ル。蓋シ人口ノ疎密ハ其面積地勢等ニ關係ヲ有シテ居ルコトハ勿論デアルガ、主トシテ經濟的社會事情ニ由因スル所亦大ナリトセナケレバナラナイ。

而シテ之レヲ既往ニ就テ見ルニ前年ニ比スルト一方里879人、 五ケ前卽チ大正十四年ノ一方里26,485人ニ比シテ3,111人、十ケ年前ニ比シ7,195人、 十五ケ年前ニ比シ8,[illegible]82人ヲ增シ、人口ノ增加急激ナルニ伴ヒ歲ト共ニ稠密ノ度ヲ加ヘツツアルコトヲ示シテ居ル。

管內在留殖民地及外國人　在留殖民地人ハ朝鮮人ノミデ67,972人、 內男48,510人(7割1分4厘)、女19,462人(2割8分6厘)デアル、之レヲ前年ニ比較スルト2割3分1厘、五ケ年前ナル大正十四年ニ比較スルト11割3分3厘ノ增加デアル。今大正九年ノ男3,876人、 女618人ヲ各100トシタル指數ヲ算出シテ比較スルト、男ニ在ツテハ大正十年159、同十一年290、同十二年504、 同十三年777、同十四年666、昭和元年696、同二年806、同三年1,037、同四年1,252等トナリ、歲々移住スルモノ多シ。女ニ在ツテモ大正十年20[illegible]、同十一年340、同十二年661、同十三年1,124、同十四年980、昭和元年1,333、同二年1,570、同三年2,431、 同四年3,149等トナリ之亦驚クベキ增加ヲ表ハシテ居ル。尙又外國人ニ付テ見ルト男3,426人、女500人、計3,926人デ前年ニ比較スルト男169人、女66人ヲ增加シ、十ケ年前ニ比スルト約三倍ノ增加トナル。而シテ之レガ國籍別ヲ見ルト支那人3,747人デ、 總數ノ大部分ヲ占メ、次ニ露西亞人ノ56人、北米合衆國人48人、英領印度人20人、佛蘭西人19人、英國人13人、獨逸人10人、西班牙人 6人、英領海峽植民地人5人、白耳義人瑞西人ハ僅カニ各1人デアル。

二、人 口 動 態

人口ノ自然的動態ニ就テハ現住人口ノ調査ヲ闕クヲ以テ現在地ニ於ケル事實ニ付觀察ヲ試ミルコトニスル。

婚 姻 昭和四年中ニ本府ニ於テ行ハレタル婚姻總數ハ29,342件デ一日平均80件、人口千ニ付8.43ニ當ル。之レヲ前年ニ比スルト總數ニ於テ651件、人口千ニ付0.35ヲ減シテ居ル。今既往十ケ年間ノ狀況ヲ比較シテ見ルト

	件數	率（千人ニ付）
大正九年	19,402	9.46
同 十年	18,994	9.94
同 十一年	28,398	10.12
同 十二年	29,207	9.94
同 十三年	28,924	9.46
同 十四年	27,491	8.98
昭和元年	27,993	8.85
同 二年	28,379	8.64
同 三年	29,993	8.88
同 四年	29,343	8.43

トナリ、件數ニ於テ逐年增加ヲ現ハシテ居ルノハ人口增加ニ伴フ自然ノ現象デアルガ、其率ヲ見ルニ年々其割合ヲ減少シテ居ル傾向ヲ示シテ居ル、之レ蓋シ世運ノ進展社會生活ノ變遷ニ伴ヒ、經濟的、社會的關係等ニヨリ婚姻率ノ減少ヲ來シテ居ルモノト考察スル事ガ出來テ注目スベキ現象デアル。

尙又之レヲ郡別ニ觀察スルト、大阪市ハ17,494件5割9分6厘ニ該リ、郡部（堺、岸和田ヲ含ム）ニ在ツテハ11,848件1割0分4厘ニ相當スル。其率ニ於テハ大阪市千人ニ付7.26ナルニ對シ、郡部11.05ニ該當シ、遙カニ高率ナルヲ示シテ居ル。

總數ヲ各郡市別ニ比ヲ求ムレバ次ノ通リデアル、大阪市59.62%、堺市3.19%、岸和田0.99%、三島郡4.78%、豐能郡3.40%、泉北郡4.78%、泉南郡5.21%、南河內郡6.44%、中河內郡7.04%、北河內郡4.53%等ニ該ル。

離 婚 離婚總數ハ2,410件デ一日平均5件59ニ該リ、人口千ニ付0.69ニ相當スル。之レヲ前年ニ比較スルト實數ニ於テ517件ノ減少ヲ見セテ居ル。

今既往十年間ノ狀況ヲ比較シテ見ルト

	件數	千人ニ付	婚姻百ニ付離婚
大正九年	1,985	0.76	10.23
同 十年	1,791	0.67	9.42
同 十一年	2,712	0.97	9.54
同 十二年	2,742	0.93	9.39
同 十三年	2,786	0.91	9.64
同 十四年	2,881	0.94	10.38
昭和元年	2,785	0.88	9.94
同 二年	2,856	0.87	10.04
同 三年	2,927	0.87	9.75
同 四年	2,410	0.69	8.21

等ニ該當シ、實數ニ於テ婚姻ト同ジク逐年增加ヲ爲シテ居ルガ（特ニ本年ノ減少ハ一時的現象ト見ルベキカ）、其率ニ依レバ大勢ヨリ見テ增加ノ傾向ハ窺ハレル、之レ離婚ニハ夫々其事由アリトスルモ又一面近時社會ノ複雜化ニ伴フ思想ノ變遷ニ因シ、我國民ノ誇リトスル男女ノ傳統的貞操觀念ノ薄ラギ行クヲ證スルモノデナカロウカ、果シテ然リトセバ時代ノ風潮上止ムヲ得ザルモノトノミ斷念スルコトハ忍ブ可ラザル現象デアル。

次ニ總數ヲ市部、郡部ニ分テバ大阪市1,927件（人口千ニ付0.80）郡部（堺、岸和田市ヲ含ム）483件（人口千ニ付0.45）ニ當リ、大阪市ハ郡部ニ比シ離婚率ノ高キヲ現ハシテ居ル。更ニ郡部ヲ各郡市別ニ其率ヲ比較スレバ、堺市0.96、岸和田市0.80、南河內郡0.49、豐能郡0.45、泉南郡0.40、泉北郡0.39、北河內郡0.36、三島郡0.33、中河內郡0.23等ノ順位トナリ、本府ニ於テ最モ高キヲ堺市トシ、亞テ大阪市、岸和田ノ同率トスル。

出 生 總數ハ104,342人ヲ算ス。內男53,432人、女50,910人トスル。一日平均出產285.86、人口千ニ付29.78人ニ當ル。男女ノ比列ハ女100ニ對シ男104.95デ、前年ニ比較スルト實數ニ於テ5,626人ヲ、率ニ於テ2.58ヲ孰レモ減少シテ居ル。而シテ其ノ身分別ヲ見ルニ、男子ニ在ツテハ男總數ノ內嫡出子84.48%、庶子1.92%、私生子13.59%ニ該リ。女子ハ嫡出子84.06、庶子2.03、私生子13.91等ニ割合スル。

今既往十ケ年ヲ通リ各年出生率ヲ比較對照スレバ（人口千ニ付）

大正九年	33.19	同 十年	31.92
同 十一年	32.48	同 十二年	32.36
同 十三年	30.76	同 十四年	30.87
昭和元年	34.84	同 二年	29.75
同 三年	32.86	同 四年	29.98

等ニ當リ、昭和二年及本年ヲ除クノ外大体30以上ヲ持續シテ居ル。然レドモ之レヲ全國平均34.38ニ比ベルト、仍低率ニ在リト云ハナケレバナラナイ。尙總數ヲ郡市ニ分テバ大阪市大部分ヲ占メ68.79%、次ハ中河內郡5.59%、泉南郡4.31%、泉北郡4.14%、豐能郡3.64%、三島郡3.62%、北河內郡3.06%、堺市2.87%、岸和田市1.06%等ノ順位トナリ、又身分別ニ郡市ノ狀況ヲ觀察スレバ次ノ通リデアル。

	嫡出子	庶子	私生子
大阪市	83.34	7	16.66
堺市	87.77	7.17	5.15
岸和田市	72.70	—	27.30
三島郡	89.85	5.72	4.43
豐能郡	92.37	3.14	4.49
泉北郡	86.44	6.96	6.60
泉南郡	25.16	7.11	7.73
南河內郡	87.44	7.98	4.58
中河內郡	83.86	6.95	9.19

北河内郡	88.33	3.85	7.82

之レニ依ツテ見ルニ嫡出子ノ出生ノ多イノハ豊能郡デ百人中92.37ヲ占メ、最モ少イノハ岸和田市ノ72.70デアル、又庶子ニ在ツテハ南河内郡最モ多ク百人中7.98ニ該リ、最モ寡少ナノハ豊能郡デ3.14デアル。私生子ハ岸和田市最多デ百人中27.30ト云フ驚クベキ数ヲ示シテ居リ、最少ナノハ堺市ノ5.15等トナツテ居ル。

死亡　死亡者ハ男35,043人、女33,203人、計68,246人デ、一日平均187人ニ該リ、男女ノ比ハ女百ニ對シ男105.54デアル。総人口ニ對スル死亡率ハ19.61デ、各性別ニ分ツト男19.23、女2 00トナル之レヲ前年ニ比較スルト實数ニ於テ男102人ヲ減ジ、女8,273人ヲ増ス。死亡率ニ於テハ男0.49ヲ増シ女1.38ヲ減ジテ居ル。又翻ツテ既往ヲ省レバ大正六年迄ハ甚シイ弛張ヲ呈セズ、一年間ノ総数六萬内外デ在ツタガ、大正七年ニ至リ一躍七萬六千ニ垂ントシ、翌八年ニハ六萬四千ニ低下シ、九年ニ至リ再ビ七萬ヲ數ヘ、以下一高一低六萬四千内外ヲ上下シテ居ル。即チ大正七年及同九年ニ死亡數ノ多カツタノハ、各種傳染病ノ襲フタ結果デ、殊ニ流行性感冒猖獗ヲ極メ、之レガ直接ノ原因トナリ、又同病ヨリ肺炎等ノ續發シテ死亡者ノ多カツタノニ原因スル様デアル。

今過去十年間ノ死亡率ヲ示スニ人口千ニ付大正九年27.79、同十年23.89、同十一年23.8[illegible]、同十二年21.88、同十三年20.58、同十四年19.38、昭和元年18.5[illegible]、同二年17.81、同三年19.22、同四年19.61等ニ當リ、大正九年ニ甚シク高率ヲ示シテ居ルノハ前記ノ通リデ、以降順次下向シテ、昭和二年ニハ最低率ヲ示シ、同三年ヨリ僅カニ向上シテ居ルガ、本年ノ如キハ全國ノ平均19.91ニ比シ稍々低ク、大勢ヨリ見テ、其ノ率漸減ノ狀態ニ在リト云ハヲケレバナラナイ。之レ保健衛生思想ノ普及向上ト見テ誠ニ嬉バシイ現象デアル。

死亡者ノ年齢ハ死亡総數ノ内〇歳ヨリ五歳迄ノモノ40.89%、五歳以上十五歳未満4.48%、十五歳以上四十歳未満20.42%、四十歳以上六十歳未満14.71%、六十歳以上19.49%ニ該リ、上記五歳未満ノ者ノ中、生後一ケ年未満ノ乳兒ハ14,097人ノ多キヲ占メ、総數ノ23 59%デアル、又一年以上五歳未満ノ小兒ハ11,813人デ、総數ノ17.31%ニ該リ、兩者ヲ合スルトキハ全死亡総數ノ4割0分8厘ヲ占ムルコトハ最モ注目ニ値スルノデアル。

次ニ死亡原因別ニ依ル死亡者ノ數ヲ見ルニ、肺炎及氣管支肺炎最モ多ク總數ノ13.12%ニ當リ、之ニ亞イデ先天性弱質及畸形デ12 02%、老衰4.11%、癌腫3.44%、血行器ノ疾患3.74%、胃ノ疾患2.78腹膜炎2.29%、等ヲ多キモノトシ、變死1.94%、其他消化器ノ疾患1.57等相亞イデ多キ部ニ屬シテ居ル。死亡者ヲ月別ニ見ルトキハ一月9.64%、二月9.65%、三月11.05%、四月8.63%、五月7.84%、六月6.74%、七月7.89%、八月9.25%、九月7.57%、十月7.39%、十一月6.90%、十二月7.31%ニ割合シ、三月最モ最ク二月一月之ニ亞イデ居リ、又最モ少數ナルハ十一月デ、之レニ亞デハ十月九月等ノ順位トスル。

尚又之レガ郡市ニ於ケル死亡率ハ豊能郡23.5ヲ最高トシ、岸和田市23 1、泉北郡21.4、泉南郡21.0、中河内郡20.7、北河内郡20.6、堺市20.5、南河内郡19.42、大阪市18.9等トナツテ、郡部ニ於テ夫々高率ヲ示シテ居ルガ、大阪市ニ於テ低率ヲ示シテ居ルコトハ又研究ニ値スルモノガアラウ。

自然増加　出生ト死亡ノ差増ニ依ル人口ノ自然増加ハ年ニ依リテ多少ノ相違ガアルガ、延年増加ノ進

程ヲ辿ツテ居ル。

今大正九年ノ自然増加13,976人ヲ100トシテ各年ノ指數ヲ算出シテ見ルト、十年157(21,875人)、十一年205(28.609人)、十二年220(30,748人)、十三年222(31,084人(、十四年237(33,178人)、昭和元年307(42,843人)、同二年234(32,773人)、同三年336(22,773人)、同四年335(46,891)等ニ當ル。之レヲ率ニ依ツテ見レバ、九年5 40、十年8.03、十一年10.25、十二年10 47、十三年10.17、十四年10.84、昭和元年13 55、同二年10.00、同三年13.88、同四年10 25等ノ經路ヲ辿ツテ増加シツツアルガ、全國ノ平均14 47ニ比スルト最高率ヲ示シテ居ル昭和三年ニ於テスラ尚0.59低イノデアル。

第三　農　業

管内ニ於ケル農業ノ狀勢　吾大阪府ハ夙ニ商工業ニ聞エテ居ツテ、今更之ヲ述ベル迄モナイガ、刻々ニ發達シテ行ク斯業ノ爲ニ、他ノ產業殊ニ農業ニ在ツテハ最モ之ガ影響ヲ受ケ、耕地面積ノ減少ト共ニ純農者ハ次第ニ半農者ニ、更ニ半農者ハ他ノ商工業ニ轉業セラルルモノガ漸次某ノ數ヲ増シテ來タ。而モ近年ノ農業勞賃昂マリ生產費モ益々嵩ンデ來テ、サナキダニ收入ノ少ナイ農家ノ經濟ハ愈々苦境ニ陷リ、自然ト農業離與ノ路ヲ塞グ素因ヲナシテ居ルノデアル。コノ現狀ニ鑑ミタ本府デハ早クカラ共同耕作、畜力機械力ノ利用ヲ奬メ、以テ作業能率ヲ圖リ、又一方副業ヲ奬勵シ、更ニ又農業知識ヲ普及スル爲ニハ農談會、農業技術ノ競技會ヲ開催シテ之ガ向上善導ニ就テ努力シツツアルノデアル從ツテ府下農業ノ技術方面ニ於テハ逐年進歩シ、其ノ實跡ガ著々トシテ現ハレテ居ルノデアル。以下其ノ内容ニ付大体ノ狀況ヲ述ベヨウ。

耕地面積　昭和四年末現在ニ於ケル府内耕地總面積ハ61,444町6段歩デアツテ、中、田59,072町1段歩(8割1分5厘)、畑11,372町5段歩(1割8分5厘)デアル。之ヲ前年ニ比スル總數ニ於テ3,348町2段歩(5分2厘)ヲ、田ニ於テ2,411町2段歩(4分6厘)ヲ、畑937町歩(8厘)ヲ各々減少シタ。然シテ連年コノ現象ヲ續ケテ居ル。之ガ郡市別割合ヲ見ルト南河内郡15.57%、北河内郡15.46%、中河内郡14.23%、三島郡13.65%、泉南郡13.38%、泉北郡12.35%、豊能郡7.64%、大阪市6.60%、堺市0.84%、岸和田市0.31%トナツテ居ル。尚種類別ニ依ル郡市ノ割合ヲ見ルト田ニ於テハ北河内郡最モ多ク16.62%次ハ三島郡デ15.54%、南河内郡15.27%、中河内郡14.40%、泉南郡13.58%、泉北郡10.62%、豊能郡7.38%、大阪市5.84%、堺市0.42%、岸和田市0.33%ニ割合シ。畑ニ於テハ泉北郡最モ多ク總數ノ19.98%ヲ占メ、次ハ南河内郡ノ16.84%、中河内郡13.41%、泉南郡12.49%、北河内郡10.34%、大阪市9.98%、豊能郡8.75%、三島郡5.30%、堺市2.71%、岸和田市0.20%等ニ該當シテ居ル。

耕地面積ノ昭和四年中ニ於ケル年内移動ヲ觀ルト増加面積130町5段歩デ内擴張129町4段歩、實測ノ結果ニ依ル増加ハ1町1段歩デアル。次ニ減少面積740町6段歩ノ内潰廢739町6段歩、實測ノ結果1町歩デアル。以上ノ外田畑相互間ニ於ケル移動面積ハ田ヲ畑トセルモノ1町1段歩、畑ヲ田トシタルモノ1町1段歩デアル。又潰廢面積ヲ郡市別ニ觀ルト豊能郡34.67%ヲ占メ最モ多ク、大阪市ノ23.12%之ニ亞ギ、岸和田市ノ0.07%ガ最モ少ナイ。

農家一戸當耕地面積　耕地面積總數61,444町6段歩、農家戸數86,175戸デ、大阪府ノ農家一戸當耕地

面積ハ7段1畝歩デアル。今之ヲ郡市別ニ田、畑、計各々ニ付テ農家一戸當耕地面積ヲ觀ルト、

	田	畑	計
	段 畝	段 畝	段 畝
昭和四年	5.800	1.300	7.100
大阪市	5.100	2.000	7.200
堺市	3.900	5.700	9.600
岸和田市	6.100	0.800	6.900
三島郡	7.700	0.500	8.300
豊能郡	5.800	1.500	7.300
泉北郡	4.000	1.700	5.700
泉南郡	5.700	1.200	7.000
南河内郡	5.000	1.200	6.300
中河内郡	5.500	1.100	6.600
北河内郡	8.000	1.100	9.200

以上ニ依レバ計ニ於テ堺市ガ最モ多ク一戸ニ對スル耕地面積9段6畝歩、次ハ北河内郡デ9段2畝歩、三島郡8段3畝歩、豊能郡、大阪市、泉南郡等是ニ亞イデ多ク、泉北郡ノ5段7畝歩ハ最少デアル。

自作地及小作地別耕地累年比較

	自作地		小作地		合計			農家一戸當耕地	
	田	畑	田	畑	田	畑	計	田	畑
	町 畝	町 畝	町 畝	町 畝	町 畝	町 畝	町 畝	段 畝	段 畝
大正九年	18,192.3	5,614.2	35,596.8	6,803.2	53,789.4	12,417.4	66,206.8	5.800	1.300
同 十年	18,198.9	5,599.2	35,282.6	6,623.2	53,481.5	12,222.4	65,703.9	5.800	1.300
同 十一年	17,783.4	5,510.9	35,054.4	6,507.1	52,837.8	12,018.0	64,855.8	6.000	1.300
同 十二年	17,763.1	5,595.0	34,719.7	6,312.1	52,482.8	11,907.1	64,389.9	5.900	1.300
同 十三年	17,796.9	5,667.6	34,902.2	6,254.7	52,699.1	11,922.3	64,621.4	5.900	1.300
同 十四年	17,478.1	5,601.9	34,314.6	5,955.6	51,792.7	11,557.5	63,350.2	6.000	1.300
昭和元年	17,737.5	5,566.6	33,887.5	5,721.5	51,625.0	11,288.1	62,913.1	6.000	1.300
同 二年	17,693.7	5,705.5	33,565.2	5,996.2	51,258.9	11,701.7	62,960.6	5.900	1.300
同 三年	18,061.9	5,459.3	33,110.4	5,947.1	51,172.3	11,406.4	62,578.7	5.900	1.300
同 四年	18,380.7	5,533.2	32,043.0	5,249.9	50,423.7	10,783.1	61,206.8	5.900	1.300

以上ノ如ク都市發展ノ爲ニ府ノ耕地ガ漸次ニ減少シツツアルコトヲ知ル事ガ出來ル。即チ表示セル如ク昭和四年末現在ノ耕地ハ61,206町8段歩デアル、五年前ノ大正十四年ニ比ベルト2,143町4段歩、更ニ十ケ年前ノ大正九年ニ比スルト6,000町歩ノ何レモ減少シテ居ル。耕地總段別ヲ田畑ニ分テバ、田多クシテ50,423町7段歩、畑10,783町1段歩デ此ノ割合ハ田ガ8割2分4厘、畑1割7分6厘ニ當ル。

耕地總數ノ内デ、自作地ハ3割9分1厘、小作地6割9厘ニ當ル。農家一戸當リノ耕地ハ田デハ5段9畝歩畑1段3畝歩ニ當ツテ居ル、之ヲ既往ノ事實ニ比ベタナラバ表示ノ如クデ大体ニ於テ同ジデアルガ本年

ハ田、畑共ニ少シク減少シテ居ルコトガ見ラル。

農家戸數 昭和四年末現在ニ於ケル府下農家總戸數ハ86,175戸デアツテ内專業55,885戸 6割4分9厘）兼業30,290戸(3割5分1厘)デアル。前年ニ比シ總數ニ於テ82戸(1厘)ヲ減ジ、專業ニ於テ530戸(1分)ヲ増シ、兼業ニ於テ612戸(1分2厘) ヲ減少シタ。最近五ケ年間ノ趨勢ハ專業ニ在ツテハ徐々ニ増加シテ居ルガ、之ニ反シ兼業ニ於テハ前者ノ増加以上ニ漸減ヲ示シ、結局本府ノ農家戸數ハ耕地面積ト共ニ衰退シテ居ルノデアル。現住戸數ニ對スル農家戸數ノ割合ハ前者1000ニ對シ121戸デアル。過グル五ケ年前ノ大正十四年ニハ130戸デアツタノデアルガ、現住戸數ノ増加ニ加ヘテ農家戸數ノ減少トデ益々其ノ率ガ減ツテ行クノデアル、此ノ割合ヲ郡市別ニ觀ルト、南河内郡ノ656戸ガ最多デ、泉北郡ノ538戸之ニ亞ギ、北河内郡504戸、泉南郡484戸、三島郡412戸、中河内郡356戸、豊能郡355戸、岸和田市3戸、堺市20戸、大阪市11戸等ニ當ツテ居ル。

次ニ農家戸數ヲ自作小作別ニ觀ルト、自作農19,860戸(2割3分)、小作農41,905戸(4割8分6厘)、自作兼小作農24,410戸(2割8分3厘)デアル。

前年ニ比シ自作農ニ於テ488戸(2分5厘)、自作兼小作ニ於テ256戸(1分1厘)ノ各増、小作農826戸(1分1厘)ノ減少ヲ見タ。最近五ケ年間ノ趨勢ハ自作農及自作兼小作農ハ大体ニ於テ漸増ノ傾向デアルガ、小作農ハ規則正シク減退シテ居ル。又小作農家數ハ全体ノ約半ヲ占メテ居ルガ、中河内郡デハ6割9厘泉北郡デハ4割6分7厘、南河内郡デハ4割4分4厘ヲ占メテ小作農家ガ非常ニ多イノデアル。

次ニ農家戸數ヲ耕作耕地ノ廣狹別ニ觀レバ

	農家戸數	割合	前年ニ比シ
5段未満	40,461	4割7分	144増(4割5分4厘)
5段以上	33,000	3割8分3厘	421増(1分3厘)
1町以上	11,560	1割3分4厘	576減(4分7厘)
2町以上	916	1分1厘	40減(4分2厘)
3町以上	205	2厘	9減(4分4厘)
5町以上	33	—	22減(4割)

デアツテ最近五ケ年間ノ趨勢ヲ見ルト大体ニ於テ5段未満ハ漸増シテ居ルガ、之ニ反シ5段以上ニナルト年ト共ニ減少シテ居ルノハ注目スベキ現象デアル。假リニ5段未満ヲ小農トシ5段以上ヲ大農トスルナラバ府下全体ノ平均割合ハ前者47ニ對シ後者53デアル。今郡市ニ於ケル此ノ割合ヲ觀ルト、大阪市ハ前者56、後者44、堺市ハ前者49、後者51、岸和田市ハ前者54、後者46、三島郡前者39、後者61、豊能郡前者41、後者59、泉北郡ハ前者54、後者46、泉南郡前者ハ46、後者54、南河内郡ノ前者ハ55、後者45、中河内郡前者46、後者54、北河内郡前者35、後者65デ、郡市ニ於テ兩者ノ差最モ著シイノハ北河内郡デ、小農ノ多イハ大阪市ノ100中56デアル。

農事ニ關スル教育ヲ受ケタ者 農事ニ關スル教育ヲ受ケタモノノ總數ハ 2,532人デ、前年ニ比シ75人(3厘) ヲ増加シタ。然シテ大体ニ於テ漸増ノ傾向ガアル。今此ノ教育ヲ受ケタモノヲ其ノ教育期間ノ長短別ニ觀ルト、長期ハ農學校農事講習所又ハ之ニ準ジタルモノヲ卒業シタ者デ15,022人 (6割6分7厘) 短期ニ屬スルモノハ農事講習會又ハ之ニ準ジタル講習ヲ受ケタルモノデ7,510人(3割3分3厘) デアル。

前者ヲ更ニ其ノ程度別ニ觀ルト小學程度13,943、中學程度998、高等學校程度61、 大學程度20トナツテ居ル。

總數ニ於テハ中河內郡最モ多ク(1割6分8厘)、泉北郡(1割6分5厘)、泉南郡(1割5分2厘)、南河內郡 (1割4分2厘)、豐能郡(1割1分6厘)、北河內郡(1割1分1厘)、三島郡(1割8厘)、大阪市(3分)、堺市(5厘) 岸和田市(3厘)デアル。

耕 地 整 理

事業完了 明治37年耕地整理組合設置セラレテ以來、管下ニ於テ本年迄ニ事業ヲ完了シタ總面積ハ2,105.8町デ本年末耕地總段別ノ3分4厘ニ當ツテ居ル。組合數ハ55デ前年ニ比シ2ヲ增シタ。之ヲ郡市別ニ觀ルト、泉北郡、 泉南郡ノ10組合ガ第一位デ、三島郡9、豐能郡、南河內郡、 北河內郡各6、大阪市5、中河內郡ノ3組合トナツテ居ル。完了サレタ面積ヲ郡市別ニ觀ルト總數2,105.8町、大阪市241.3町、三島郡323.5町、豐能郡227.8町、泉北郡179.4町、泉南郡184.7町、 南河內郡53.2町、 中河內郡93.9町、北河內郡802町トナツテ居ル。今是等郡市別ヲ割分カラ見ルト北河內郡最モ多ク總數ノ38.08%ヲ占メ、次ハ三島郡ノ15.36%、大阪市11.46%、豐能郡10.82%、泉南郡8.77%、 泉北郡8.52%、中河內郡4.46%、南河內郡2.53%等トナル。55組合中最モ地域ノ廣大ナノハ北河內郡ノ五ケ總耕地整理組合デアツテ647.5町又工事費出算額ハ34,285圓デ一位デアル。 尙最モ規模ノ小ナノハ泉北郡天井坊耕地整理組合デ工事費決算額343圓デアル。

工事完了 始業以來本年度末迄ニ工事ヲ完了シタ總面積ハ2,514.5町デ年末現在耕地總面積ノ4分1厘ニ當ル。又其ノ組合數ハ48デ前年末ニ比シ5ヲ增シタ。郡市中組合數ノ多イノハ三島郡デ11、 泉北郡ノ8ハ是ニ亞ギ、大阪市7デ、 堺市ハ最モ少ク僅カニ1デアル。完了面積ノ郡市分布ノ狀況ハ大阪市649.6町(2割5分8厘)ガ最多デ、三島郡ノ432.1町之ニ亞ギ、 豐能郡334.3町、泉北郡313.8町等モ多イ。最少ハ岸和田市ノ21.2町デアル。

一組合デ工事費ノ最多額ハ大阪市ノ神津耕地整理組合ノ428,352圓デアツテ、 少イノハ同ジク大阪市住吉第一組合ノ969圓デアル。

工 事 中 工事中ニ屬スル組合數ハ54デ前年ニ比シ3ヲ減ジタ。 其ノ中中河內郡ハ17組合デ首位ヲ占メ、北河內郡ノ8組合之ニ亞ギ、岸和田市、豐能郡ノ各2組合ガ最モ少イ。

地區面積4,775.8町ノ中、中河內郡ハ2,593.4町(5割4分3厘)デ斷然首位ヲ占メ、泉南郡535.2町 (1割1分2厘)デ是ニ亞ギ、豐能郡32.5町デ最モ少イ。

工事費豫算額ハ2,263,199圓デアツテ、中河內郡830,958圓(3割6分7厘)最モ多ク、次ハ大阪市463,413(2割5厘)、北河內郡369,303圓之ニ亞グ、最モ少イノハ豐能郡53,989圓デアル。

產米檢査ノ成績 昭和四年中ニ於ケル產米檢査總俵數ハ1,340,688俵デ 其ノ內合格數ハ1,289,234俵 卽チ9割6分2厘デアル。五ケ年前ナル大正十四年度ノ成績ヲ見ルト受檢俵數1000中合格數971デアツタガ漸次成績良好ニナツタノハ喜バシイ。

郡市中最モ良イノハ堺市デ9割9分7厘、次ハ南河內郡デ9割9分2厘等デ最モ惡イノハ大阪市ノ8割1厘ノ合格率デアル。

農產物價額 昭和四年中ニ於ケル農產物總價額ハ52,054,414圓デアツテ之ヲ前年ニ比スルト、463,85

4圓(9厘)ヲ增シタ。

最近十ケ年ニ於ケル趨勢ヲ見ルト大体ニ於テ大正九年ヲ最高トシテ、以後衰退ノ傾向デアル。卽チ大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ求メルト大正10年67、大正11年59、大正12年63、大正13年63、大正14年68、昭和元年60、昭和2年59、昭和3年57、昭和4年57トナツテ居ル。

總價額ヲ9大別シテ其ノ割合ヲ見ルト、ヤハリ一位ハ米デ總額ノ62.54%ヲ占メ、園藝農產物之ニ亞ギ25.11%、麥5.56%、工藝農產物2.82%、食用農產物2.48%、繭0.72%、苗木0.64%、綠肥用作物0.13%、蜜蜂ハ僅デアル。今是等ヲ各別ニ最近十ケ年間ノ趨勢ヲ大觀シテ見ヨウ。

先ヅ米ハ昭和元年迄一高一低シツツ減少シテ來タガ、元年以來規則正シク漸減シ本年ハ更ニ減少シテ居ル。麥モ亦大正9年ヲ最高トシテ以來非常ナ減少ヲ示シ、 大正十三年及十四年ノ兩年ニ至ツテ稍增加ノ傾向ヲ示シタガ、昭和元年ヨリ又漸減ノ形トナツタ。然シテ本年ノ價額ハ最多ナル大正9年ノ約9分ノ1デアル。

食用農產物ハ一高一低シツツ大勢減退シテ居ル。

園藝農產物ハ一高一低ノ現象デアル。

工藝農產物ハ大正9年ヨリ大正十二年迄減少シタルモ、以來次第ニ增加ノ形トナツテ居ル。

綠肥用作物ハ前年ニ比シ17,010圓(2割5分7厘)增加シ五ケ年前ノ大正十四年ニ比スルト5,753圓 (8分7厘) ノ之亦增加デアル。苗木モ大体ニ於テ一高一低デアル。

繭ハ大正9年ヨリ大正十二年迄遞增シタルモ大正十三年以來一高一低デアル。

最後ニ蜜蜂ヲ見ルト大正十一年ヨリ大正十四年迄一高一低ナルモ其後ハ次第ニ減少シテ居ル。

次ニ此ノ價額ヲ郡市別ニ見ルト總價額デハ中河內郡最モ多ク15.64%、 南河內郡15.61%、 北河內郡14.56%、泉南郡14.42%、三島郡13.30%、泉北郡11.14%、豐能郡6.98%、大阪市6.91%、堺市1.14%、岸和田市0.30%デアル。各郡市夫々面積ノ大キサモ異ナリ、土地ノ狀況モ一樣デナイカラ、直チニ斷ズルコトハ出來ナイガ之ニ依ツテ各地方ニ於ケル農產物ノ多寡延イテハ農業ノ盛否ヲ大体研究スル事ガ出來ヨウ。今各種別類ニ依ル郡市ノ割合ヲ見ルト、

米 本年ハ前年同樣北河內郡首位デ總數ノ17.92%ヲ占メ、三島郡17.02%コレニ亞ギ、中河內郡16.25%、南河內郡14.13%、泉南郡11.65%、泉北郡9.68%、豐能郡7.28%、大阪市5.41%、堺市0.33%ニ當リ、岸和田市ハ0.32%デ最少デアル。

麥ニ於イテハ南河內郡ガ筆頭デ18.67%ヲ占メ泉北郡コレニ亞イデ17.43%ニ當リ、 北河內郡16.88%泉南郡13.14%、中河內郡11.65%、三島郡9.65%、豐能郡7.64%、大阪市3.28%、堺市1.17%、岸和田市0.40%等ニ當ツテ居ル。

食用農產物ニ在ツテハ、中河內郡ガ22.17%デ第一位、 次ハ北河內郡デ16.79%、南河內郡15.88%、泉北郡12.42%、大阪市9.59%、泉南郡7.60%、三島郡4.42%、 豐能郡3.49%、岸和田市0.03%等ニ該當シテ居ル。

園藝農產物デハ、泉南郡21,71%デ首位、南河內郡19.63%、中河內郡16.58%、大阪市12.08%、泉北郡11.52%等多ク、岸和田市ハ最モ少ク0.28%等ノ割合トナル。

工藝農產物デハ三島郡28.97%ヲ占メ最モ多ク、綠肥用作物ハ豐能郡ノ24.93%多ク、苗木モ同ジク豐

能郡デ55.49%、繭ニ在テハ北河内郡デ47.37%ヲ占メ最モ多シ。尙工藝農產物、綠肥用作物苗木蘭蜜蜂等ニ在リテハ各郡市ノ内二乃至三郡該當ガナイ。

米 昭和四年ニ於ケル米ハ作付段別44,687.9町内餅米42,208.4町(6割4分5厘)糯米2,474.2町(5分5厘)陸稻ハ僅カ5.3町デアツテ、之等ヲ前年ニ比スルト、作付段別ニ於テ377.9町(9厘)ヲ增シ、收穫高ニ於 9,669石(9厘)ヲ減少シタ。

今大正9年ヲ 00トシタル各年ノ指數ヲ求メルト作付段別デハ大正10年98、大正11年88、大正12年91、大正13年91、大正14年85、昭和元年88、昭和2年88、昭和3年83、 昭和4年84トナル。卽チ之ニ依ツテ見ルト天候或ハ其ノ他ノ原因ニ依リ年ニ豐凶ガアツタ關係上兩者ノ指數ガ其ノ歩ヲ一ニシテ居ナイノヲ見出スノデアル。作付段別ヲ郡市別ニ見ルト北河内郡7,605町3段歩(17.02%)最モ多ク、三島郡7,133町8段歩(15.96%)、中河内郡6,810町3段歩、(15.24%)等之ニ亞ギ、以下南河内郡14.75%、泉南郡12.48%、泉北郡10.60%、豐能郡7.60%、大阪市5.65%、堺市0.38%、岸和田市0.32%等ニ位スル。

次ニ收穫高ノ郡市別割合ハ北河内郡195,144石(17.90%)デ最多デアリ、三島郡178,103石(16.34%)デ之ニ亞ギ、中河内郡176,097石(16.15%)デ最少ナノハ岸和田市デ3,730石(0.34%)デアル。

價 額 之ガ總價額ハ32,554,292圓デアル、之ヲ前年ニ比スルト13,325圓(1厘)ヲ減少シタ、大正十四年以來常ニ規則正シク減退シテ居ルノデアル。總額ノ内餅米30,758,900圓(9割4分5厘)、糯米1,793,125圓(5分5厘)、陸稻ハホンノ僅デアル。

總額ノ郡市分布狀況ヲ見ルト北河内郡首位ヲ占メ17.92%、三島郡17.02%、 中河内郡16.25%、南河内郡14.13%、泉南郡11.65%、泉北郡9.68%、豐能郡7.29%、大阪市5.41%、堺市0.33%、岸和田市0.32%トナツテ居ル。

次ニ米ノ一段歩收穫高ニ於イテ觀察スレバ、府下平均ハ粳米2.449石、 糯米2.288石、陸稻1.328石デアツテ前年平均ニ比スルト粳米ニ於テ0.042石、糯米ニ於テ0.046石、 陸稻ニ於テ0.681石ヲ各減收シタノデアル。蓋シ本年ハ其ノ初期卽チ播種以來出穗期ノ直前迄降雨極メテ少ク、挿秧著シク遲延シ、地方ニ在リテハ旱害ニテ相當影響ヲ受ケタガ生育期ニ入リテ晴天高溫ヲ持續シタ爲メニ用水潤澤ノ地方ハ殊ノ外發育ガ好カツタ、 加フルニ農家ノ慮トスル厄日モ無事經過シ結實上差シタル影響ヲ及ボサザリシモ、其ノ後俄然結實期カラ收穫期間中天候一變シテ降雨多ク氣溫モ低下シ、從ツテ結實ニモ影響シテ思ハシカラズ、加フルニ螟虫浮塵子其ノ他ノ病虫ノ被害モアリテ以上ノ如キ減收ヲ示シタノデアル。今其ノ段當收量ヲ郡市別ニ見ルト、粳米ハ岸和田市最モ多ク2.600石、中河内郡ノ2.593石、北河内郡ノ2.57 石等是ニ亞ギ、泉南郡ノ2.258石ハ最少デアル。 糯米ハ中河内郡最モ多ク2.465石デ北河内郡ノ24.36石之ニ亞ギ、泉北郡2.978石最少デアル。

麥 昭和四年ニ於ケル麥ハ作付段別14,300町歩デ、内大麥2,537町4段歩(1割7分7厘) 裸麥10,462町歩(7割3分2厘)、小麥1,300町6段歩9分1厘デアル。收穫高ハ244,748石デ、内大麥53,779石(2割2分)裸麥170,948石(6割8分9厘)、小麥20,0 1石(8分2厘)デアル。之等ヲ前年ニ比スルト作付段別デハ大麥13町2段歩(5厘)、裸麥297町6段歩(2分9厘)、 小麥ニ於テハ16町5段歩(1分3厘)ヲ各增シタ、尙燕麥ハ該當ガナイ。又收穫高ヲ前年ニ比スルト大麥デハ50石(1厘)ヲ減ジ、裸麥ハ5,260石(3分2厘)ヲ增シ、小麥ニ於テハ426石(2分1厘)ヲ減ジ、總數ニ於テ4,779石(2分)ヲ增加シタノデアル。

次ニ指數ヲ以テ之等最近十ケ年間ノ趨勢ヲ明カニショウ。

先ヅ作付段別總數ヲ觀ルト大正9年ヲ100トスレバ10年96、大正11年61、大正12年58、大正13年58、大正14年58、昭和元年56、昭和二年57、昭和三年50、昭和4年52トナツテ居ル。

之ガ總價額ハ2,893,156圓デアツテ、内大麥469,445圓(1割6分2厘)、裸麥2,135,352圓(7割3分8厘)、小麥288,359圓(1割)デアル。前年ニ比シ總額ニ於テ89,066圓(3分)ヲ減少シタ。最近5ケ年間ノ趨勢ハ大正十四年ヲ最高トシテ以來漸減ヲ續ケテ居ル。

品種別ニ郡市ノ狀況ヲ見ルト、大麥ハ北河内郡ハ斷然首位ヲ占メ73,115圓(7割95厘)、 泉南郡最少デ84圓、堺、岸和田、南河内郡ハ皆無デアル。裸麥ハ南河内郡首位ヲ占メ509,133圓(2割3分8厘)、泉北郡、泉南郡等之ニ亞ギテ多ク、岸和田市ハ11,024圓デ最モ少イ。又小麥デハ豐能郡ハ一位デ75,966圓(2割6分3厘)、北河内郡、三島郡等之ニ亞ギ、岸和田市ハ651圓デ最少デアル。尙堺市ニハ該當ガナイ燕麥ハ本年各郡共ニナイ。

次ニ麥ノ一段歩收穫高ヲ見ルト、府下平均ハ1.746石デ、大麥ハ2.119石、裸麥1.634石、小麥1.539石デアル。之等ヲ前年事實ニ比スルト大麥0.014石減ジ、裸麥0.004石增シ、小麥0.053石ノ減收デアル。郡市中之ガ收量最モ多キハ大麥デ三島郡ノ2.296石、裸麥ハ堺市ノ2.050石、 小麥ハ北河内郡ノ1.760石デアル(何レモ田)。

食用農產物 昭和四年食用農產物價額ハ1,289,217圓デ前年事實ニ比シ37,663圓(2分8厘) ヲ減ジテ居ル。之ヲ郡市別ニ見ルト中河内郡285,869圓(2割2分2厘)デ首位ヲ占メ、北河内郡216,522圓 (1割6分8厘) 之ニ亞ギ、以下南河内郡、泉北郡等ノ順位ニシテ岸和田市435圓ハ最モ少イ。

食用農產物中主ナルモノニ付略述ショウ。

甘 藷 昭和4年甘藷ノ作付段別ハ1,48 町3段歩、 收穫高ハ3,564,087貫、其ノ價額ハ728,344圓デアル。之ヲ前年ニ比スルト作付段別ニ於テハ55町9段歩(3分6厘)、收穫高ハ248,376貫(6分5厘)、價額65,804圓(8分3厘)ヲ夫々減少シタ。

最近十ケ年間ノ趨勢ハ作付段別ハ漸減ヲ示シテ居ルガ、 收穫普及價額ハ必ズシモ之ニ伴ハナイカラ一高一低シテ居リ、卽チ收穫高ニ在ツテ大体ニ於テ增加ノ傾向ガアル。又價額ハ大シタ增減ガナイ。之ヲ郡市別ニ見ルト北河内郡ノ167,971圓(2割3分)首位ヲ占メ、泉北郡118,752圓之ニ亞ギ、 豐能郡ノ16,809圓ハ最少デ岸和田市ニハ該當ガナイ。尙平均一段歩收穫高ハ240貫デ、此ノ點デハ中河内郡ノ291貫ガ最多デアル。

馬鈴薯 昭和4年馬鈴薯ノ作付段別ハ716町1段歩、收穫高2,131,003貫、其ノ價額323,769圓デアル。之等ヲ前年ニ比スルト段別ニ於テ92町1段(1割4分8厘)ヲ增シ、收穫高ニ於テ429,248貫(2割5分2厘)、價額ニ在ツテハ41,680圓(5分2厘) ヲ夫々增加シテ居ル。最近5ケ年間ノ趨勢ハ何レモ漸增ノ傾向デアル。價額ヲ郡市別ニ見ルト中河内郡ガ斷然首位ヲ占メテ其ノ額162,475圓ニ達シ、 南河内郡ハ其ノ約半ニ當リ67,466圓デ之ニ亞ギ岸和田市ハ155圓デ最少デアル。

大 豆 大豆ノ作付段別827町1段歩ヲ前年ニ比スルト12町3段歩(1分5厘) ヲ減少シタ、然シテ各年規則正シク漸減シテ居ル。收穫高ハ10.597石デ價額ハ190,117圓デアル。價額ヲ前年ニ比スルト7,856圓(4分)ヲ減ジタ。 之モ亦作付段別ト同ジク遞減シテ居ル。郡市中最モ盛ンナノハ南河内郡デ48,874

圓(2割5分7厘)デアル。

園藝農產物　昭和4年中國藝農產物總價額ハ13,071,881圓デアル、其ノ中果實ハ3,292,162圓(2割5分2厘)、蔬菜及卉ハ9,779,719圓(7割4分8厘)デアル。前年ニ比シ果實ハ445,797圓(1割1分9厘)ヲ減ジ、蔬菜及花卉ハ798,776圓(5分)ヲ增加シタ。全体カラ見テ果實ニ於テハ南河內郡ハ1,207,486圓(9分2厘)ヲ占メテ他ヲ「リード」シ、中河內郡、泉南郡、泉北郡、等之ニ亞ギ、堺市ハ最モ少ク1,148圓デ岸和田市ニハ該當ガナイ。又蔬菜及花卉ノ盛大ナルハ泉南郡ガ第一位デ、中河內郡、大阪市等ノ順位デアル。

以下園藝農產物中主ナルモノ巻柑外七種類ニ付略述ショウ。

密柑　樹數總數1,980,140本デ收穫高ハ3,982,701貫、價額ハ1,188,948圓デアル。之等ヲ前年ニ比スルト樹數ニ於テ72,143本(3分5厘)ヲ減ジ、收穫高ハ2,085,413貫(3割6分)ヲ、價額ニ於テハ439,222圓(2割7分1厘)何レモ減少シタノデアル。最近ノ趨勢ハ大体ニ於テ樹數收穫高、價額トモニ減少ノ傾向ニアル。郡市中最モ生產大ナノハ泉北郡デ價額430,677圓(3割6分4厘)ニ達シテ居ル、之ニ亞グハ泉南郡ノ380,094圓デ南河內郡モ前二者ニ亞イデ多イ。尙最モ少イノハ三島郡ノ19,657圓デアル。

葡萄　樹數684,781本デ前年ニ比シ61,1[illegible]7本(9分8厘)ヲ增加シタ、而シテ年々著シキ增加ヲ示シテ居ル。本年ノ收穫高ハ2,790,006貫デ5ケ年中ニ於テノ最高デアル。價額ハ1,116,370圓デ之ヲ前年ニ比スルト37,765圓(3分3厘)ヲ減少シタ。郡市別ニ見ルト南河內郡ハ斷然首位ヲ占メ其ノ額584,565圓(5割2分4厘)ニ達シテ居ル。之ニ亞グハ中河內郡ノ434,865圓デ他郡市ハ40,000圓ニモ及バナイ。

生大根　昭和4年ノ生大根作付段別ハ1,491町3段步デアル。之ヲ前年事實ニ比スルト88町3段步(6分3厘)ノ增デ昭和2年以來增加ノ傾向デアル。收穫高ハ13,662,833貫デアツテ前年ニ比シ760,399貫(5分9厘)ノ增、尙最近5ケ年間ノ趨勢ハ遞增ノ傾向デアル。價額ハ1,150,711圓デ之ヲ前年ニ較ベルト181,082圓(1割8分7厘)ヲ激增シタ。

然シテ5ケ年前ノ大正14年ニ比スルモ尙206,861圓(2割1分9厘)ノ增加ニ當ル。郡市別ニ見ルト泉北郡ノ326,254圓(2割3分4厘)首位ヲ占メ、之ト殆ンド同ジウシテ泉南郡ノ326,233圓多ク岸和田市264圓デ最少デアル。

葱頭　葱頭ノ本年作付總段別ハ1,792町8段步デ、前年事實ニ比シ49町1段步(2分8厘)ヲ增シ、年々規則正シキ漸增ヲ示シテ居ル。郡市中最モ多キハ泉南郡デ1,[illegible]96町1段步デアル。收穫高ハ10,954,083貫デ之ヲ前年ニ比スルト78,690貫(7厘)ノ減少デアル。郡市中最モ多イノハ泉南郡デ10,441,648貫(9割5分3厘)デ府下デノ殆ンドガ泉南郡デアル。

價額ハ1,858,918圓前年ニ比スルト423,572圓(4割5分3厘)ヲ增加シタ。尙5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト828,646圓(3割1分9厘)增加トナル。郡市分布ノ狀況ハ泉南郡94.61%デ最モ多ク、次ハ岸和田市1.76%、泉北郡1.42%、大阪市0.93%、中河內郡0.38%、三島郡0.33%、南河內郡0.18%、北河內郡0.16%、堺市0.14%、豐能郡0.09%等トナル。

1段步收穫高ハ611貫デ前年ヨリ少シ減少デアル。

西瓜　作付段別ハ597町5段步、收穫高ハ4,005,233貫デ、價額ハ984,594圓デアル。之ヲ前年ニ比スルト作付段別ニ於テ98町1段步(1割9分6厘)、收穫高ニ於テハ998,665貫(3割3分2厘)、價額ハ130,832圓(1割5分3厘)ヲ各々增シタ。連年大シタ增減ガナイガ本年ハ特ニ增加シタノデアル。

價額ヲ郡市別ニ見ルト南河內郡ハ一位ヲ占メ269,873圓(2割7分4厘)デ、中河內郡之ニ亞ギ232,108圓(2割3分6厘)、泉南郡ノ208,591圓(2割1分2厘)モ多イ。最少ハ堺市ノ602圓デ岸和田市皆無デアル。

茄　昭和4年茄作付段別ハ572町3段步デ前年事實ニ比シ7町1段步(1分4厘)ノ增加デアル。郡市中中河內郡ノ作付ガ最モ多ク167町6段步(2割9分3厘)、大阪市之ニ亞ギ109町1段步(1割9分1厘)、以下泉北郡、南河內郡、泉南郡ノ順位デ岸和田市3.7町デ最少デアル。

收穫高ハ4,798,312貫デ、前年ニ比シ1,404,827貫(4割1分4厘)ヲ增加シタ、最近5ケ年間ノ趨勢ハ作付段別ト共ニ大体ニ於テ漸增ノ傾向デアル。價額ハ856,592圓デアツテ、前年ニ比シ108,403圓(1割4分5厘)ヲ增シタ。之ヲ郡市別ニ見ルト大阪市第一位デ238,120圓(2割7分8厘)、中河內郡211,636圓(2割5分1厘)之ニ亞ギ、岸和田市5,994圓デ最モ少イ。

蠶豆　作付段別2,185町[illegible]段步デ前年ニ比シ36町1段步、(1分7厘)ヲ減ジ、5ケ年前ト19町3段步減ジタ。收穫高ハ25,727石デ之ヲ前年ニ比スルト149石(6厘)ヲ增シタ。

價額ハ604,129圓デアツテ、前年ニ比シ32,322圓(7分3厘)ヲ減ジ、5ケ年前ニ比スルト46,485圓ノ增加トナル。

之ガ郡市ノ狀況ハ南河內郡最モ多ク282,488圓(4割6分8厘)デ、中河內郡ハ之ニ亞ギ132,233圓(2割1分9厘)デアル、最少ハ岸和田市デ2,737圓デ堺市ニハ該當ガナイ。

青芋　作付段別ハ562町8段步デアル、前年ニ比スルト17町5段步(3分2厘)、收穫高ハ2,601,880貫デ前年ニ比シ252,101貫(1割7厘)ヲ增加シタ。最近5ケ年間ノ趨勢ハ大体ニ於テ作付段別ト共ニ稍漸增ノ傾向デアル。

價額ハ650,962圓デ之ヲ前年ニ比スルト60,091圓(1割2厘)ヲ增シタ。郡市ニ於テ最多ナノハ南河內郡ノ209,241圓(3割2分1厘)デ、泉南郡、中河內郡ハ之ニ相亞イテ居ル。最少ハ岸和田市ノ1,575圓デアル。

工藝農產物　昭和4年工藝農產物總價額ハ1,470,013圓デアル。之ヲ前年ニ比スルト201,551圓(1割5分9厘)ヲ、又前々年ニ比スルト217,660圓(1割7分4厘)ヲ夫々增加シテ居ルコトニナル。之ヲ郡市別ニ見ルト三島郡一位ヲ占メテ425,805圓(2割9分)、泉北郡395,277圓、泉南郡332,087圓モ之ニ亞イデ主ナルモノデアル。

次ニ本農產物中主要ナルモノ葉煙草741,321圓(5割4厘)、ナタネ368,012圓(2割5分)ニ付略說ショウ。

葉煙草　昭和4年葉煙草ノ作付段別ハ450町6段步デアル、前年ニ比シ28町3段步ヲ減ジタ。之ハ許可栽培デアル關係上其ノ耕作ハ現在デハ泉北、泉南、南河內郡ノ三郡ニ限ラレテ居ル。

收穫高ハ227,290貫デ、前年ニ比シ11,058貫(5分1厘)增加シタ。價額ハ741,321圓デ、前年ニ比シ153,709圓(2割6分2厘)ノ增加ニ當ル。之ヲ郡市別ニ見ルト泉北郡51.09%、泉南郡42.95%、南河內郡5.96%等トナル。

菜種　本年ノ作付段別ハ2,216町9段步デアル、前年ニ比シ27町5段步(1分2厘)減ジ、又5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト103町6段步ノ增加トナル。收穫高ハ21,616石デ前年ニ比シ316石ヲ、又5ケ年前ニ

比較スルト805石夫々増加シテ居ル。

價額ハ368,012圓デアツテ、前年ニ比スルト17,047圓(4分9厘)ヲ増シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト1,475圓(4厘)減ジタ 。之ヲ郡市別ニ見ルト北河内郡ノ134,403圓(3割6分2厘)新盤首位ヲ占メ、三島郡78,400圓之ニ亞イデ多ク、中河内郡ノ5,870圓最モ少イ。

綠肥用作物 價額66,303圓デ前年ニ比シ17,010圓(3割4分5厘)ノ増加ニ當ル。種類別ニ見ルト紫雲英ガ總數ノ98.93%ヲ占メテ最モ多ク、其ノ他ハ極小數デアル。

以下コレラ主ナルモノニツキ說明スレバ

紫雲英 播種段別391町5段歩其ノ内田ハ9割9分3厘、畑ハ7厘ノ割合デアル。而シテコノ收穫高2,41,986貫デ、ソノ内田ノ收穫ハ9割9分6厘、畑1收穫ハ僅カ4厘デアル。又價額ハ65,595圓デ其ノ各郡ニ於ケル生產ノ割合ハ豐能郡總數ノ25.04%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ南河内郡ノ24.22%、三島郡22.58%、泉北郡14.31%、泉南郡10.57%、北河内郡2.90%、中河内郡0.38%等ニ當ツテ居ル。蠶豆豌豆ハ作付段別ハ2町2段歩、收穫高ハ5,0 3貫、價額ハ426圓デアル。重ニ泉南郡ト三島郡ノ生產デ其ノ他ハ皆無デアル。

桑畑 昭和5年6月末現在ノ府下桑畑總段別ハ351町歩デ、前年同一事實ニ比シ50町3段歩卽チ1割6分7厘ヲ増シテ居ル。

總數ヲ植栽ノ種類ニ分節比ヲ求メルト根刈ガ9割4分1厘デ大部分ヲ占メテ居リ、中刈ガ3分1厘、高刈ガ1分5厘、立通1分3厘等ノ割合トナル。又各郡分布ノ狀況ハ北河内郡首位デ總數ノ43.59%、次ハ南河内郡デ26.78%、泉北郡15.84%、泉南郡9.34%、豐能郡3.68%、三島郡0.63%、中河内郡0.14%等ニ當ツテ居ル。

茶畑 昭和5年6月末現在茶畑段別ハ139町7段歩デ、前年同一事實ニ比シ42町5段歩3割4厘ノ減少ニ該ル。各郡ニ於ケル段別ノ割合ハ泉南郡最モ多ク38.01%、次ハ泉北郡ノ28.20%、北河内郡22.48%、南河内郡8.88%、豐能郡1.07%、中河内郡0.79%三島郡0.50%、大阪市0.07%等ニ該當スル。

果樹苗 苗木總數198,084本デ、種類別ニ見レバ桃苗25,900本(1割3分1厘)、梨苗19,900本(1割)、リンゴ苗10,000本(5分)、柿苗13,130本(6分6厘)、柑橘苗43,284本(2割1分9厘)葡萄苗74,570本(3割7分6厘)、其他果樹苗11,300本(5分7厘)等デアル。

尙總數ヲ前年ニ比スルト10,507本卽チ5分6厘ノ増加トナリ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト7割3分1厘ノ増加デアル。

而シテ各郡ニ於ケル生產ハ、中河内郡30.85%ニテ最モ多ク、豐能郡27.12%、泉南郡7.06%、南河内郡3.44%、泉北郡11.53%ニ當リ、北河内郡ハ皆無デアル。

價額合計ハ21,60圓デソノ内桃苗6分3厘、梨苗6分1厘、リンゴ苗1分4厘、柿苗6分5厘、柑橘苗5割6分6厘、葡萄苗2割4厘、其ノ他果樹苗2分8厘等ニ割合シテ居ル。

總數ヲ前年ニ比スルト1割1分8厘ヲ減ジ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スレバ、5割4分1厘ノ増加トナル。

又郡ニ於ケル生產ノ割合ハ泉北郡最モ多ク總數ノ32.98%、次ハ泉南郡22.72%、中河内郡8.53%、南河内郡13.09%、豐能郡12.68%等ニ該當シテ居ル。

造林用苗木 苗圃面積44,178坪ヲ前年ニ比スルト3割6分1厘ノ増加デアル。コノ樹數ヲ種類別ニ分節

比ヲ求ムルト、杉ハ804,614本デ總數ノ2割8分3厘、檜ハ686,268本2割4分1厘、松940,960本3割3分1厘栗102,820本3分6厘、櫟149,448本5分3厘、他ハ何レモ少數デアル。又郡別ニ見ルト泉南郡850,300本デ總數ノ29.83%デ最モ多ク、次ハ南河内郡ノ678,175本デ23.83%、泉北郡481,000本6.90%、豐能郡366,755本12.89%、中河内郡281,050本9.38%、三島郡123,400本4.34%、北河内郡65,000本2.28%等ニ當ツテ居ル。

價額計ハ107,637圓デ前年ニ比シ、1割8分5厘ヲ増シタ、各種類別價額ノ割合ハ杉1割5分、檜ハ9分6厘松8分7厘、栗3分8厘、櫟4割8分6厘デアル。

尙コレラ價額ノ各郡分布ノ狀況ヲ見ルニ豐能郡ノ39.74%ヲ最高トシ、南河内郡17.11%、中河内郡15.40%泉南郡13.35%、泉北郡6.90%、三島郡6.71%、北河内郡0.79%等ノ數字ヲ示シテ居ル。

觀賞樹 總數1,143,337本デアル。其ノ内盆栽トシテ生產販賣サレタルモノハ、349,461本前年ニ比シ1割6分9厘ノ減少デアル。庭木トシテ生產販賣サレタルモノハ793,876デ前年ニ比シ1割4分4厘ノ減少デアル。

價額合計ハ181,389圓デ前年ニ比シ、9分ノ増加ニ當ル。各郡市生產ノ狀況ヲ100分比ヲ以テ表ハスト豐能郡ガ大半ヲ占メテ總數ノ76.57%、次ハ中河内郡デ6.84%、南河内郡6.51%、大阪市3.13%、泉南郡2.80%、北河内郡1.52%、泉北郡1.48%、三島郡1.15%等ノ割合トナル。

蠶業 本年ニ於ケル養蠶戶數ハ1,342戶デ前年ニ比シ96戶(6分7厘)ヲ減ジ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スレバ428戶(4割6分8厘)ヲ増シタ。各郡分布ノ狀況ハ北河内郡423戶(3割1分5厘、南河内郡310戶(2割3分1厘)、泉北郡228戶(1割7分)、泉南郡205戶(1割5分3厘)豐能郡166戶(1割2分4厘)、三島郡10戶(7厘)等デアル。

掃立枚數ハ8,628枚デアル、前年ニ比シ1割1分5厘ノ増加、5年前ノ大正14年ニ比シ11割5厘ノ増加ニ當ル。各郡ニ於ケル掃立ノ狀況ハ北河内郡3,880枚デ總數ノ44.97%ヲ占メ、南河内郡1,738枚デ20.14%泉北郡1,368枚15.86%、泉南郡923枚10.70%、豐能郡673枚7.80%、三島郡46枚0.53%等ニ當ツテ居ル。

收穫高總數ハ56,691貫デアツテ、前年ニ比シ1割9分ヲ増シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比シ15割3分ノ増加デアル。總數ノ内8割7分2厘ハ上繭、9分5厘ハ玉繭3分3厘ハ屑繭デアル。各郡收繭ノ割合ハ北河内郡總數ノ46.34%、南河内郡20.83%、泉北郡15.02%、泉南郡10.19%、豐能郡7.11%、三島郡0.51%等トナル。

價額總計372,971圓ヲ前年ニ比スレバ2割4分1厘ノ増加、5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト5割9分7厘ノ増加ニ當ル。而シテ各郡生產ノ狀況ハ北河内郡47.37%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ南河内郡20.90%、泉北郡14.62%、泉南郡9.06%、豐能郡7.48%、三島郡0.57%等デアル。

蜜蜂 飼養戶數43戶、其ノ内箱數十箱未滿ノモノ36戶、十箱以上五十箱未滿ノモノ7戶デアル、總數ニ於テ前年ニ比シ4戶減ジタ。郡市別ニ見ルトキハ泉南郡15戶最モ多ク、豐能郡、北河内郡、各9戶、三島郡、南河内郡各4戶、大阪市、泉北郡各1戶等デアル。

價額合計2,456圓デ内蜂蜜價額2,157圓(8割7分7厘)、蜂蠟價額299圓(1割2分2厘)デアル、總數ヲ前年ニ比スルト1割1分3厘ノ減ニ當ル。各郡市生產ノ狀況ハ泉南郡最モ多ク、總數ノ41.21%、次ハ豐能郡

30.78%、大阪市14.86%、北河内郡5.74%、泉北郡2.93%、三島郡2.81%、南河内郡1.67%等ノ割合デアル。

第四 畜産業

管内ニ於ケル畜産業ノ狀況 元來本府ハ家畜ノ消費地所謂畜産工業地デアツテ、從ツテ最近マデハ之ガ繁殖等助長策トシテ特別ニ之レト云フ大施設ヲ見ナカツタノデアル。只昔カラ中國及ビ九州地方カラ犢牛ヲ移入シテ之ヲ育成シナガラ耕作用、若シクハ運搬用ニ供シツツアツタノデアルガ、近時文化ノ進展ハ生活ノ向上、諸種經濟ノ發展トナリ、畜産業ニ於テモ昔ノママ足踏シテ居ルコトモ出來ナイ狀態トナリ、茲ニ於テ以上ノ外ニ、乳牛ヤ富肉ノ良種モ選バネバナラヌ必要カラ、飼牛ニ付テハ專ラ肥育々成ノ改善ニ努メ、一方之ガ牛乳改善ニ意ヲ用ヒ、尙農家ノ飼牛ニ對シテハ最善ノ方法ヲ講ジテ改良ヲ促ス等、其ノ大成ヲ期シテ居ルノデ、既ニ之ガ効果モ著々トシテ顯ハレテ居ル、即チ每年成育シタル移出牛ノミニテモ七、八千頭ニ及ブ等大イニ明ルイ前途ガ展開シツツアルコトガ窺ハレルノデアル。

馬ハ少シ許リノ乘馬ト運搬用トガアルノミデアツタガ乘馬用ニシテモ、運搬用ニシテモ、年々素質ノ向上ハ勿論其ノ數ニ於テモ增加ノ傾向デアル、又養豚ニ於テハ泉北郡ヲ中心トシ其ノ量及質ニ於テモ相當向上シツツアル。家禽ニ於テモ時代進展ニ伴ヒ卵肉ノ需要ハ幾何級數的ノ增加ヲ示シ、之ガ取引量及價格ノ如キモ昇騰シツツアルガ其ノ內、本府產ノモノハ實ニ寥々タルモノデ、卵ノ如キハ一、二割ニ過ギナイ、之等ノ現況ニ促サレ、近年ハ自然ニ飼養モ增加シ、府ニ於テモ農家ノ副業トシテハ最モ適當ナル事業トシテ大イニ奬勵ニ努メツヽアルノデアル。尙兩々相俟ツテ現今デハ、進步發展ノ跡ガ明瞭ニ畫カレテ居ル。以下之等ノ狀況ノ詳細ヲ說明スルト

畜產價額累年比較

本年畜產物總價額ハ14,001,876圓デアル。之ヲ前年同一事實ニ對比スルト、 203,988圓即チ1分5厘ノ增ニ當ツテ居ル、5年前ナル大正14年ノ事實ニ比スルト3分8厘ノ增加ニ當リ、10ケ年ヲ遡リ大正9年ノ事實ニ比スルト2割9分4厘ノ增加ニ當ツテ居ル。 總額ヲ大分類ニ分節比ヲ求ムルト屠殺ニ係ル價額ハ5割9分1厘ヲ示シテ最モ多ク、次ハ產乳價額デ2割1分2厘、家禽1割5厘、 牛乳8分3厘、出產9厘等ニ該當スル。即チ屠殺價額ハ以上ノ如ク最高位ヲ示シ、ソシテ其ノ他家禽、產卵等ハ價額モ相當ノ高率ヲ示シテ居ルコトハ、人口稠密、即チ消費地デアル大阪市ト大ナル關係ヲ有スルカラデアル。ケレドモ以上ノ產物價額デ此ノ大大阪ノ需用ヲ充足シ居ルカト云フト、固ヨリ之等ハ九牛ノ一毛、數多ノ移輸入ニ依ルコトハ勿論デアル。以上各分類ガ如何ナル經路ヲ辿リ增減シツツアルカ、之等ノ詳細ヲ大正9年ヲ100トシテ各年ノ指數ヲ求ムルト、大正10年111、同11年104、同12年104、同13年99、同14年124昭和元年114、同2年121、同3年127、 同4年129等ニ該當スル。即チ大正10年ハ產額ガ多イ、大正11年ヨリ逐次減少シ、大正14年ヨリ次第ニ增加ヲ示シテ居ル。

屠殺價額ヲ大正9年ヲ100トシテ同一算法ニ依リ增減ヲ見ルト、大正10年114、 同11年94、同12年90、同13年102、同14年126、昭和元年124、同2年118、同3年117、同4年121等ニ該當シ、 即チ大正10年ヨリ逐次增加シ、昭和3年ニ於テ少シク減少セルモ、同4年ニハ增加ヲ示シテ居ル。

家禽價額ニ在ツテモ同樣ノ方法デ增減ヲ見ルト大正10年94、同11年98、 同12年100、同13年89、同14年103、昭和元年107、同2年119、同3年128、同4年129等ニ當リ、10年同11年ハ減少シ、同12年ハ同數ニシテ13年ハ減少シ、同14年ヨリ逐次增加ヲ示シテ居ル。

產卵價額ハ大正10年124、同11年123、同12年132、 同13年98、同14年159、昭和元年146、同2年194、同3年187、同4年186ニ該當シ、逐次增加ノ休デアルガ然シ又大正13年ニハ減少トナリ、更ニ同14年以降再ビ增加ヲ示シテ居ル。

牛乳ノ價額ハ大正10年100、同11年156、同12年107、同13年84、同14年94、昭和元年71、同2年93、同3年105、同4年107等ニ該當シテ居ル。即チ大正10年ヨリ逐年增加シ來タケレドモ同13年ヨリ著シク減少シ、昭和3年ヨリ增加ノ現象ヲ表ハシテ居ル。

畜產物價額郡市別

前述スル本年畜產價額ノ14,001,876圓ノ郡市ニ於ケル生產ノ割合ハ、 大阪市ハ其ノ55,77%ニ當リテ最モ多ク、次ハ中河內郡15.63%デ、豐能郡ハ7.41%、泉北郡6.07%、南河內郡4.19%、北河內郡3.56%、三島郡3.26%、泉南郡3.16%、堺市0.73%、 岸和田市0.22%等ニ當ツテ居ル。即チ大阪市ノ畜產物價額ノ首位タル事ハ少シク奇異ノ感ガナイデモナイガ是等ハ屠殺並ニ牛乳等ノ需給關係ニ依ルノデアル。

家禽價額ヲ見ルト之亦大阪市ガ最多デ37.89%、次ハ中河內郡15.73%、三島郡9.58%、泉南郡8.06%北河內郡8.02%、泉北郡6.91%、南河內郡6.48%、豐能郡5.86%、堺市1.04%、岸和田市0.43%等ニ當ル。

產卵價額ニ在ツテハ大阪市最多ニシテ總額ノ41.79%ヲ占メ、次ハ中河內郡ノ17.22%、泉北郡7.98%北河內郡7.89%、南河內郡7.09%、三島郡6.89%、泉南郡6.44%、豐能郡3.58%、堺市0.78%、岸和田市0.34%等ニ割合スル。

牛乳價額ニ在リテハ大阪市總數ノ55.21%、中河內郡15.01%、泉南郡6.02%、堺市5 03%、泉北郡4.22%、南河內郡4.34%、豐能郡3.38%、三島郡3.36%、北河內郡3.36%、岸和田市1.06%等ノ順位ニ割合ス。

以上分類ノ解剖ニ依リテ生產率ノ割合ガ明瞭ニ各郡ノ狀況ヲ語ツテ居ルコトガ見ラレル。

家畜家禽飼養戶數

家畜ヲ飼養シタル總戶數ハ32,882戶デアル、其ノ中牛ノ飼養戶數ハ93.66%ヲ占メ、 馬ハ5.13%ニ當リ、豚ハ1.16%、緬羊ハ2戶、山羊ハ8戶デアル。

總數ヲ前年事實ニ比スレバ3分8厘ヲ增加シテ居ル。尙種類別ニ前年事實ニ對スル增減ヲ見レバ、牛ノ飼養戶數ハ4厘ノ增加デ、馬モ1分6厘ノ增加、豚モ3分7厘ノ增加デ、緬羊ハ1戶減少シテ居リ、山羊ハ2戶ノ增加トナツテ居ル。

牛ノ飼養戶數ハ泉南郡最多ニシテ總數ノ19.63%ヲ占メ、次ハ南河內郡16.48%、 泉北郡14.12%、三島郡14.04%、豐能郡10.71%、北河內郡9.66%、中河內郡8.95%、大阪市5.42%、堺市0.53%、岸和田市0.46%等ニ割合ス。馬ニ在リテハ大阪市ガ最多デ60,66%ニ當リ、次ハ中河內郡8.59%、堺市5.6

8%、豊能郡5.39%、泉南郡5.39%、泉北郡4.03%、三島郡3.32%、 南河内郡2.73%、岸和田市2.19%、北河内郡1.96%ニ割合スル。

緬羊ハ大阪市1戸泉南郡1戸アリ。山羊ハ大阪市ニ5戸豊能郡、泉北郡、北河内郡ニ各1戸アルノミナリ

本年家禽ノ飼養戸數ハ53,708戸デアル。

中鶏ノ飼養戸數ハ9割8分ニ當リ、鶩ノ飼養戸數ガ2分ニ割合ス。 總數ヲ前年事實ニ比スレバ3分2厘ノ減少デアル。尚種類毎ニ前年トノ對比關係ヲ觀ルト、鶏ノ飼養戸數ハ5厘ノ增加デ、鶩ハ3毛ノ增加、七面鳥ハ本年皆無トナツタ。

總飼養家ノ郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ、中河内郡最モ多ク16.18%ヲ占メ、次ハ三島郡14 26%、南河内郡13.84%、北河内郡13.57%、泉北郡12.23%、泉南郡10.43%、豊能郡9 45%、大阪市7 56%、堺市1.66%、岸和田市0.82%等ニ割合シテ居ル。尚各種別ニ割合ヲ見ルト鶏ノ飼養戸數ハ中河内郡最モ多ク16.44%ヲ占メ、次ハ南河内郡14.27%、三島郡13.74%、北河内郡13.62%、 泉北郡12.59%、豊能郡9.71%、泉南郡9.42%、大阪市7.69%、堺市1.70%、岸和田市0.82%等ニ割合ス。

鶩ノ飼養戸數ハ泉南郡最モ多ク42.28%ヲ占メ、次ハ三島郡30.57%、北河内郡12.69%、中河内郡7.86%大阪市3 66 、豊能郡1.32%、堺市0.42%、南河内郡0.30%、岸和田市0.12%等デアル。

家畜頭數累年比較

牛ノ年末現在頭數ハ35,362頭デアル。之ヲ前年事實ニ比スルト1分2厘ノ增加デアル、 5ケ年前ナル大正14年ノ事實ニ比スルト6分6厘ノ增加ニ當リ、10ケ年ヲ遡リ大正9年ニ比スレバ1割3厘ノ增加ニ當ル。即チ僅少デハアルガ大勢增加ノ現象ヲ示シテ居ル。尚最近10ケ年ノ狀況ヲ大正9年ヲ100トシタル各年ノ指數ニヨリ對比スルト、大正10年103、同11年101、同12年104、 同13年103、同14年103、昭和元年103、同2年106、同3年109、同4年110等ニ該當スル。

馬ノ年末現在頭數ハ3,465頭デ、內和種ハ3割6分4厘、雜種6割1分8厘、 外種ハ1分8厘ニ割合ス。總數ヲ前年事實ニ比スレバ41頭ヲ減少シ、5ケ年前ナル大正14年ニ比スレバ1割1分4厘ヲ增加シ、10ケ年前ナル大正9年ニ比スルト6割6分4厘ノ增加ヲ見ル。馬總數ノ3割6分4厘ヲ占ムル和種頭數1,263頭ヲ前年ニ比スルト1厘ヲ減少シ、5ケ年前ナル大正14年ニ比スレバ1割8分ヲ減少シ、10ケ年前ナル大正9年ニ比スレバ3分2厘ノ減少デアル。總數ノ內半數以上ヲ即チ2,144頭ヲ占メテ居ル雜種ニ在リテハ、逐年增加ヲ示シ、之ヲ前年事實ニ比スレバ9厘ノ減少デハアルガ、 5年前ナル大正14年ニ比スルト7割4分4厘、10ケ年前ナル大正九年ニ比スルト18割6厘ノ各增加ヲ示シテ居ル。 尚大正9年ヲ100トシタル指數ニヨリ對比スレバ大正10年76、同11年134、同12年164、同13年178、同14年198、 昭和元年202、同2年207同3年283、同4年281等ニ該當ス、即チ逐年遞增ノ現象ヲ示シテ居ル。

外種ハ年々增加ノ現象デアル。

豚ノ現在頭數ハ9.179頭ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレバ1,173頭即チ1割3分6厘ノ增加デアル、5ケ年前ナル大正14年ニ比スレバ5割4分2厘ヲ增加シテ居ル。今10ケ年ヲ遡リ大正9年ヲ100トシタル指數ニヨリ各年ヲ對比スレバ大正10年105、同11年124、同12年211、同13年215、同14年188、昭和元年169、同 2年200同3年254、同4年291等ニ該當シ、即チ逐年遞增ノ現象ヲ示シテ居ル。

緬羊ノ現在頭數ハ僅カ7頭デアル前年事實ニ比シ3割ノ減少デアル。

山羊ノ現在頭數ハ50頭之ヲ前年事實ニ比スレバ2頭(4分1厘)ノ增加デアル、5年前ナル大正14年事實ニ比スレバ6割6分6厘ノ減少デ、昭和元年迄ハ逐年增加デアツタガ、昭和2年ヨリ漸次減少ノ現象ヲ示シテ居ル。

牛ノ飼養戸數ハ30,801戸デアル之ヲ飼養セル頭數ノ階級ニ依リ分節比ヲ求ムルト、 1頭ヲ飼養セルモノハ9割7分7厘ニ當リ、2頭ヲ飼養スルモノ1分4厘、5頭以上ヲ飼養スルモノ5厘、3頭又ハ4頭ヲ飼養セルモノ4厘ニ割合ス。

飼養戸數ノ郡市ニ於ケル割合ハ泉南郡ガ最多デ19.63%ヲ占メ、次ハ南河内郡16.48%、 泉北郡14.12%、三島郡14.04%、豊能郡10.71%、北河内郡9.58%、中河内郡8.96%、大阪市5.42%、堺市0.59%岸和田市0.47%等ニ割合シテ居ル。

年內ニ出產シタル牝ハ935頭、牡676頭デアル、之ガ郡市ニ於ケル出產割合ハ大阪市最モ多ク總數ノ59.78%ヲ占メ、次ハ中河內郡9.68%、豊能郡6.08%、堺市4.72%、泉南郡4.59%、 南河內郡4.47%、泉北郡4.16%、北河內郡2.66%、岸和田市1.49 等ニ該當ス。

年末現在ニ於ケル成牛頭數ハ35,362頭デアル、其ノ8割9分9厘ハ牝デ1割1厘ハ牡デアル。 郡市ノ割合ヲ見レバ泉南郡6,371頭、18.02%ヲ占メ、最モ多ク、次ハ南河內郡14.99%、泉北郡12.92%、三島郡12.63%、大阪市11.17%、中河內郡9.80%、北河內郡8.62%、堺市2.91%、岸和田市0.55%等ニ該當ス。

牛ノ年內斃死ハ滿2年以上134頭、滿1年以上2年未滿173頭、滿1年未滿154頭デアル、 之ガ郡市分布ノ狀況ヲ示スト、大阪市最多デ61.60%、次ハ堺市16.48%、中河內郡5.43%、三島郡4.34%、南河內郡4.12%、泉南郡3.25%、北河內郡2.17%、泉北郡2.17%、岸和田市0.21%、豊能郡0.21%等ニ該當シテ居ル。

馬　年末現在ニ於ケル飼養戸數ハ1,683戸デアル。 之ヲ前年事實ニ比スレバ27戸ノ增加デアル。總數ヲ飼養頭數ノ階級ニ分節比ヲ求ムルト1頭ヲ飼養セル戸數ハ總數ノ6割4分ヲ占メ、2頭ヲ飼養セル戸數ハ1割8分5厘、3頭又ハ4頭ヲ飼養セル戸數ハ1割2分9厘5頭以上4分6厘ニ割合ス。

飼養戸數ノ郡市分布ノ狀況ヲ100分比ニ依リ對比スレバ大阪市最モ多ク總數ノ60.66%ヲ占メ、次ニ多イハ中河內郡8.59%、堺市5.69%、豊能郡5.45%、泉南郡5.39%、泉北郡4.03%、三島郡3.32%、南河內郡2.73%、岸和田市2.19%、北河內郡1.95%等ニ該當ス。

年末現在ニ於ケル頭數ハ牝51頭、牡3.414頭、計3,465頭デアル、之ヲ前年事實ニ比スレバ41頭ノ減デアル。郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ大阪市最モ多ク73 51%ヲ占メ、次ハ中河內郡6.00%、堺市4.94%、泉南郡3.81%、豊能郡2.91%、三島郡2.45%、泉北郡2.25%、岸和田市1.70%、南河內郡1.39%、北河內郡1.04%等ニ割合ス。

豚　飼養戸數ノ年末現在ハ1頭ヲ飼養スルモノ6戸、2頭ヲ飼養スルモノ49戸、3頭ヲ飼養スルモノ105戸、5頭以上ヲ飼養スルモノ223戸、計383戸デアル。 之ヲ前年ノ事實ニ比スレバ14戸增加シテ居ル。郡市飼養現在ノ狀況ハ泉北郡5 56 デ最モ多ク、次ハ泉南郡1.43%、大阪市1.31%、中河內郡0.65%豊能郡0.31%、南河內郡0.26%、堺市0.15%デ、岸和田市、三島郡、北河內郡ハ各0.11%等ニ割合ス

年末現在ノ頭數9,179頭デアツテ、內牝ハ6割2分4厘、 牡ハ3割7分6厘ニ割合シテ居ル。現在飼養ノ郡

市ノ狀況ハ大阪市ガ最多デ45.07%ヲ占メ、次ハ泉北郡19.66%、泉南郡15.69%、中河內郡8.62%、豐能郡3.61%、三島郡2.64%、堺市1.78%、北河內郡1.31%、岸和田市0.13%等ニ該當ス。

年內出產頭數7,076頭、內牝4,100頭(5割8分) 牡2,967頭(4割2分) デアル、年內斃死總數1,091頭デアル。

緬　羊　年末現在ニ於ケル緬羊ノ飼養戶數ハ僅ニ大阪市ニ1戶泉南郡ニ1戶アルノミデ年末現在頭數ハ7頭デアル。

山　羊　年末現在ニ於ケル山羊ノ飼養戶數ハ8戶デ、2頭ヲ飼養スルモノ4戶、3頭又ハ4頭ヲ飼養スルモノ1戶、5頭以上ヲ飼養スルモノ3戶デアル。之ガ郡市ノ狀況ハ大阪市5戶、豐能郡1戶、泉北郡1戶北河內郡1戶デアル。年末現在頭數ハ50頭デアツテ、內牝ガ29頭ノ(5割3分)牡ノ21頭デ(4割2分) デアル。

屠　殺

成牛ノ屠殺　年中屠殺シタル頭數ハ41,980頭デアル。內牝ハ7割1分2厘、牡ハ2割8分8厘等ニ割合ス。總數ヲ前年事實ニ比スレバ4割6分3厘ヲ增シ、5ケ年前ナル大正14年ニ比較スレバ8割4分5厘ノ增加デアル。總數ニ對スル屠場所在地郡市ノ狀況ハ總數9ニ對シテ大阪市2、其ノ他ノ郡ニ於テハ各1デアル。9屠場ニ於テ屠殺セラレタル肉量ハ牝1,164,690貫、牡550,073貫、總額合計7,393,314圓デアル、價額ヲ前年事實ニ比スレバ4分9厘ヲ增加シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スレバ2割6分3厘ノ減少デアル。1貫ニ付價格平均牝4圓70錢、牡3圓50錢ニ當ル。

犢ノ屠殺　犢ヲ屠殺シタル頭數ハ3,453頭、內8割7分7厘ハ牡デ、1割2分3厘ハ牝デアル、總數ヲ前年事實ニ比スレバ1分8厘ノ增加デアル。前記頭數ノ肉量ハ33,325貫デ、內8割5分4厘ノ28,469貫ハ牡デ1割5分4厘ノ4,856貫ハ牝デアル、之ガ價額ハ80,866圓ニシテ前年事實ニ比スレバ1割2分9厘ノ減少デアル、1頭ニ付テノ肉量ハ牝11貫、牡9貫デ1貫ニ付價格ハ牝2圓87錢、牡2圓35錢デアル。

馬ノ屠殺　年中屠殺シタル頭數ハ1,940頭ニシテ前年事實ニ比スレバ283頭卽チ1割7分1厘ノ增加デ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スレバ5割5分ノ增加デアル。郡市ニ於ケル割合ハ大阪市1,204頭、南河內郡652頭、泉北郡51頭、泉南郡25頭、豐能郡7頭、北河內郡1頭デアル。總肉量ハ60,482貫デ內牝肉ノ割合ハ2分1厘、牡9割7分0厘ニ當ル。之ガ總價額ハ135,764圓デ、前年事實ニ比スルト17,511圓卽チ1割5分ノ增加デアル。1貫ニ付價格ハ牝1圓78錢牡2圓25錢ノ割合デアル。

豚ノ屠殺　年內ニ於ケル屠殺總數ハ20,305頭、前年ニ比スレバ5割6厘ノ增加デ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スレバ3割1分7厘ノ增加ニ當ル。郡市別頭數ノ割合ハ大阪市最モ多ク70.85%ヲ占メ、次ハ泉北郡4.17%、中河內郡2.92%、南河內郡1.10%、泉南郡0.87%、豐能郡0.09%、三島郡0.004%等ニ當ル。前記頭數ニ對スル總肉量ハ195,1 4貫、之ヲ前年ニ比スレバ4割4分5厘ノ增加デアル。郡市ニ於ケル割合ハ屠殺數ニ比シ大阪市最多デ90.75%ヲ占メ、次ハ泉北郡3.66%、中河內郡3.04%、南河內郡1.[illegible]0%、泉南郡0.83%、豐能郡0.07%、三島郡0.01%等ニ該當スル。總價額ハ634,133圓デ前年ニ比シ202,739圓卽チ4割6分9厘ノ增加デアル。1貫ニ付牝ノ價ハ3圓2[illegible]錢牡ハ3圓27錢ニ當ル。

牛乳搾乳戶數　145戶デ前年ニ比スレバ差ナク5ケ年前ナル大正14年ニ比スレバ23戶ヲ增加シテ居ル。

郡市ニ於ケル分布狀況ハ大阪市59戶、堺市4戶、岸和田市3戶、三島郡6戶、豐能郡8戶、泉北郡11戶、泉南郡15戶、南河內郡3戶、中河內郡27戶、北河內郡4戶デアル。

乳牛頭數　3,189頭內農家其ノ他ニ屬スルモノ46頭デ其ノ大部分ハ搾乳業者ノ所有デアル、之ヲ前年ニ比スルト1割1厘ノ減少デアル。總數ヲ郡市別トシタル割合ハ大阪市最多デ54,11%ヲ占メ、次ハ中河內郡16.52%、泉北郡6.26%、泉南郡5.47%、南河內郡4.67%、堺市3.59%、豐能郡3.37%、三島郡2.81%、北河內郡1.93%、岸和田市1.27%等ニ該當ス。

搾乳高總數量37,471石內農家其ノ他ノ搾乳高ハ846石、他ハ搾乳業者ニ於テ採乳シタモノデアル、之ヲ前年ニ比スレバ2,399石ノ增加デアル。郡市別トシタル割合ハ大阪市ガ最多デ總數ノ59.84%ヲ占メ次ハ中河內郡13.81%、泉南郡5.24%、泉北郡4.78%、南河內郡3.99%、堺市3.55%、豐能郡3.27%、三島郡3.09%、北河內郡1.69%、岸和田市0.74%等ニ該當ス。

牛乳價額　價額1,180,414圓內農家其ノ他ノ生產牛乳ノ價額ハ20,372圓卽チ1分2厘デアル。總額ヲ前年事實ニ比スレバ6厘ノ增加デアル。郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多ク55.21%ヲ占メ、次ハ中河內郡ノ15.01%、泉南郡6.03%、堺市5.03%、泉北郡4.42%、南河內郡4.35%、豐能郡3.38%、三島郡3.06%、北河內郡2.45%、岸和田市1.06%等ニ割合ス。

家畜市場　常設市場ハ13ニシテ前年ニ比シ2ノ減少デアル。出場總數ハ65,322頭デ內馬ハ106頭其ノ他ハ牛デアル。

販賣頭數ハ57,740頭デ內馬ハ69頭、其ノ他ハ牛デアル。販賣價額牛ニ於テハ牝7,394,188圓、牡2,211,998圓デ馬ノ牝ハ295圓、牡11,415圓デアル、此ノ合計9,617,896圓、內馬ノ價額11,710圓デアル。總額ヲ前年事實ニ比スレバ1割2厘ノ增加デアル。之ガ郡市ノ狀況ヲ見レバ大阪市61.18%ヲ占メテ最モ多ク次ハ泉南郡13.50%、南河內郡9.09%、堺市7.45%、豐能郡2.97%、中河內郡2.92%、三島郡1.85%、北河內郡0.23%ニ割合ス。

家　禽

鷄現在數　飼養戶數52,043戶デ之ヲ飼養羽數ノ階級別ニ割合ヲ算出スレバ、10羽未滿ヲ飼養スルモノ7割5分6厘、10羽以上50羽未滿2割7厘、50羽以上3分7厘ニ該當スル。總數ヲ前年事實ニ比スレバ2分9厘ノ減少デアル。總數ニ於ケル郡市分布狀況ハ中河內郡16.45%デ最モ多ク、次ハ南河內郡ノ14.28%三島郡13.75%、北河內郡13.59%、泉北郡12.59%、豐能郡9.71%、泉南郡9.41%、大阪市7.68%、堺市1.71%、岸和田市0.82%等ニ該當スル。

6月末日ニ現在シタル成鳥ハ694,688羽(8割4分7厘)雄103,104羽(1割5分3厘)デアツテ總數ハ897,792羽デアル。之ヲ前年事實ニ比スレバ2割2分6厘ノ增加デアル。

成鳥ノ價額總計1,164,808圓デアル、內8割8分5厘ハ雌ノ價額デ1割1分5厘ハ雄ノ價額ニ當ル。之ヲ前年事實ニ比スレバ2割9分7厘ノ減少デアル。

6月末日現在ノ雛ハ558,936羽デ、前年ニ比スレバ4割1分6厘ノ增加デアル。總數ニ對スル郡市分布ノ割合ハ大阪市41.41%、中河內郡15.80%、三島郡10.08%、泉北郡7.51%、北河內郡6.94%、泉南郡6.54%、南河內郡6.37%、堺市0.43%、岸和田市0.36%等ニ該當スル。

價額ハ256,034圓デ前年ニ比シ61,331圓ノ增加デアル。產卵個數ハ73,900,158個之ヲ前年ニ比スレバ

7,821,175個即チ1割1分8厘ノ增加デアル。 總數ヲ郡市ニ分節比ヲ求ムレバ大阪市34.49%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ中河內郡16.60%、泉北郡9.29%、堺市7.69%、南河內郡6.97%、 泉南郡6.53%、三島郡6.39%、北河內郡6.24%、豐能郡3.48%、岸和田市3.42%等ニ該當スル。

產卵價額ハ2,925,598圓デ前年ニ比シテ僅ニ47圓ノ增加デアル。是等ハ取引價格ノ低落デアル。

蠶現在數 6月末日現在ニ於テ蠶ヲ飼養シタル戶數1,665戶、其ノ內10羽未滿ヲ飼養スルモノ7割6分3厘 10羽以上50羽未滿ヲ飼養スルモノ1割7分2厘、50羽以上ヲ飼養スルモノ6分5厘デアル。今總數ヲ前年ノ事實ニ比スレバ3厘ヲ增シ、 5ケ年前ナル大正14年ノ事實ニ比スルト3割9分7厘ノ減退デアル。之ガ郡市ノ割合ハ泉南郡最多ニシテ42.28%ヲ占メ、次ハ三島郡30.67%、 北河內郡12.67%、中河內郡7.36%、大阪市3.66%、豐能郡1.32 %、堺市0.42%、岸和田市0.12%等ニ割合ス。

6月30日現在ノ成蠶總數ハ38,655羽、內雌ハ7割2分3厘、雄ハ2割7分7厘ニ當ル、 總數ヲ前年ト比較スルト5分9厘ノ增加デアル。總數ニ於ケル郡市ノ割合ハ大阪市38.71%デ最モ多ク、次ハ中河內郡33.02%、三島郡10.45%、北河內郡10.12%、泉南郡2.70%、堺市2.27%、泉北郡1.47%、豐能郡0.29%、南河內郡0.90%、岸和田市0.07%等デアル。

成蠶價額ハ45,505圓デ其ノ內雌ハ7割2分9厘ニ當リ、雄ハ2割7分1厘ニ該當ス。之ヲ前年ニ比スレバ 5分5厘ノ減少デアル。郡市ノ割合ハ、大阪市ガ最多デ41.26%ヲ占メ、 次ハ中河內郡31.36%、北河內郡10.40%、三島郡9.71%、堺市2.51%、泉南郡2.21%、泉北郡1.50%、南河內郡0.65%、豐能郡0.34%、岸和田市0.06%等ニ割合スル。

繭ノ現在數ハ24,841羽、之ヲ前年事實ニ比スレバ2割5分ノ減少デ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スレバ2割5分3厘ノ減少デアル。總數ニ對スル價額ハ8,395圓デ、前年ニ比シ3割6分8厘ノ減少デアル。郡市ノ割合ハ大阪市29.87%デ最モ多ク、次ハ中河內郡ノ24.16%、泉南郡13.56%、北河內郡12.43%、三島郡11.29%、泉北郡7.36%、堺市0.71%、南河內郡0.39%、岸和田市0.14%、豐能郡0.09%等ニ該當ス。

產卵數量ハ1,342,842個、價額48,798圓デアル。價額ヲ前年ニ比スルト3割1分9厘ノ減少デ、之ガ郡市別ノ割合ハ總數ノ56.38%ヲ占メテ居ル大阪市ガ最多デアリ、次ハ中河內郡20.34%、 北河內郡13.99%、泉南郡4.63%、三島郡3.52%、豐能郡0.51%、泉北郡0.38%、南河內郡0.22%、岸和田市0.03%等デアツテ、堺市ニハナイノデアル。

第 五 林 業

管內ニ於ケル林業ノ狀勢 本府ニ於ケル林業ハ、 公有林野並ニ社寺有林野ノ整理トシテ、推定面積9,192町歩ノ整理開發ニ努メ、町村及町村組合有林野3,128町歩ト、新タニ部落有林野ノ町村ニ統一歸屬セシメタルモノニ向ツテハ、施業計畫ノ確立ニ努力シ、 既ニ2,000餘町歩ノ施業計畫案ノ編成ヲナシ、尙引續キ未了地ニ對シテハ之ガ計畫編成ニ努メツヽアリ。又町村、町村組合、社寺、學校、水利組合、森林組合等ノ造林事業、其ノ他自家造林用苗木養成、竹林ノ新植並ニ改良事業ニ對シテハ府令造林奬勵規則ニ依リ、夫々奬勵金ヲ交付シ、之ガ開發促進ニ力メツヽアル。

荒地復舊事業トシテハ保安林及造林命令地ノ禿赭崩潰地ヲ復舊セシガ爲、年々補助金ヲ交付シ、以テ

其ノ地盤ノ保護工事並ニ植栽ヲ奬勵シ、既ニ泉南、泉北、南河內ノ各郡ニ於テハ60餘町歩ノ施行ヲ爲シ、其ノ成績實ニ良好ニテ既ニ十數年ヲ經過セルモノハ全ク舊ノ如ク復舊セルヲ見ル。然レ共尙第一期要復舊面積240町歩ヲ存スルヲ以テ、未ダ本業ノ前途ハ遼遠ト云フベキデアル。

林業共同施設事業トシテ、森林ノ利用開發ハ一ツニ運搬設備ニ俟ツコト大ナルヲ以テ、 府ハ昭和3年度ヨリ補助金交付ノ途ヲ開キ、以テ關係地方ニ林道ノ開設ヲ勸奬シ、其ノ林利ノ增大ニ努メツヽアル

水源涵養造林事業トシテハ府下ニ於ケル林楚中、水源涵養ニ關係アル私有、社寺有ノ造林ニ對シ奬勵金交付ノ途ヲ開キ、以テ水源ノ涵養ニ努メ、規則制定以來約100町歩ノ造林ヲ實行セシメタ。

保安林ハ維新以後、林政ノ弛廢著シク、林地ヲ荒廢ニ歸セシメタノデ、曩ニ府下ノ重要ナル箇所560町歩ヲ選定シテ保安林ニ編入シ、以テ是ガ作業上嚴重ナル監督ヲナシ遺漏ナキヲ期シツヽアル。

尙又、府下ニ於テ治水上重要ナル箇所64ケ所、面積9,739町歩ニ對シ、 開墾監督地トシテ開墾ヲ制限以テ其ノ取扱ヲ嚴ニシ、開墾ノ申請ニ對シテモ一々實地ノ踏査ヲ行ヒ其ノ許否ヲ決シテキル。

更ニ、私有林野ノ開發ハ森林組合ノ組織ニ俟ツコト大ナルモノアルヲ以テ、從來是ガ設立ヲ奬勵シ、現ニ五郡ニ亘リ10組合ノ組織ヲ見ルニ至リ、尙引續キ是ガ監督ト發達助成ニ努メツツ在リ。尙記念造林事業、府有材造成事業等在リテ大典ノ御儀ヲ永ク記念シ、併セテ地方林業ニ其ノ範ヲ示シ、山村ノ根本振興ヲ圖リツヽ在リテ、即チ府下公有林中、未立木地1,000町歩ニ對シ、 50年間ノ地上權ヲ設立シ、10ケ年間ニ建築用材ノ造成ヲ爲ス爲、每年100町歩宛杉、 扁柏、松ノ人工造林ヲ行ヒ、其ノ收益分收ハ直接伐採ニ要シタル一切ノ費用ヲ控除シタル間伐收入ニ對シ、府7割、土地所有者3割ノ標準ヲ以テ本事業ヲ遂行セントシ、現在迄3ケ年間ニ實行セル面積320町歩ニ達シテキル。其ノ他町村記念補助事業トシテ町村ニ大典記念林ヲ造成セシメ、一ツハ町村ノ基本財產ヲ增殖セシムル目的ノ下ニ、公有林野1,000町歩ニ對シ植樹造林事業ヲ奬勵シ、規則ヲ制定シ每年15,000圓、 即チ10ケ年間繼續事業トシテ150,000圓支出ノ協賛ヲ經、著々其ノ實績ヲ擧ゲツヽアルハ誠ニ喜バシキ次第デアル。

林產物價額累年比較

本年ノ林產物價額ハ1,953,086圓デ、前年ニ比シ1割6分7厘、5年前ニ比シ2割4分4厘ヲ何レモ減少シテ居ル。尙最近10ケ年間ノ增減ノ狀況ヲ大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ニ依リ觀察スレバ、大正10年123、同11年117、同12年119、同13年224、同14年102、昭和元年100、同2年101、同3年93、同4年77トナリ、大勢ニ於テ減少ノ傾向ヲ示シテ居ル。

尙總額ヲ四大分類ニ分ツト、林野產物價額ガ最多デ總數ノ6割9厘、用材價額1割8分、薪炭材價額1割6分1厘、竹材價額ハ最少デ僅カ4分9厘デアル。更ニ是等各種類ニ就キ增減狀況ヲ見ルニ、用材價額352,343圓ハ前年ニ比シ1割6分7厘ノ減、5年前ニ比スレバ6割5分8厘ノ激減デアル。 又大正9年ヲ100トスルト、同10年121、同11年94、同12年106、同13年331、同14年88、昭和元年59、 同2年62、同3年36、同4年30トナリ減少ノ趨勢ヲ示シテ居ル。

薪炭材ノ價額352,343圓ハ前年ニ比シ2割8分6厘、5年前ニ比シ2割6分ヲ何レモ減少シテ居ル、大正9年ヲ100トシタ指數ハ、同10年108、同11年277、同12年110、同13年112、同14年84、昭和元年77同2年86同3年87、同4年6 トナリ、コレ亦遞減ノ現象ヲ示シテ居ル。

竹材ノ價額95,611圓ハ前年ニ比シ1割1分1厘ノ減、5年前ニ比シ1割9分9厘ノ減少デアル。又大正9年ヲ

100トスレバ同10年91、同11年101、同12年92、同13年74、同14年74、昭和元年71、同2年81、同3年67同4年59トナリ、同11年以後ハ逐年減少シツツアル。

林野産物價額1,189,917圓ハ前年ニ比シ1割3分3厘ノ減少デアルガ、5年前ナル大正14年ニ比スレバ1割8分2厘ヲ増加シテ居ル。更ニ10年前ノ大正9年ヲ100トスレバ、大正10年149、同11年156、同12年154同13年156、同14年148、昭和元年194、同2年183、同3年202、同4年175トナリ、一高一低ノ現象ヲ示シテ居ル。

林産物價額郡別

林産物價額ノ各郡生産狀況ヲ見ルニ、總額ニ於テハ豐能郡最モ多ク、26.14%ヲ占メ、三島郡19.09%デコレニ亞ギ、以下南河内郡18.55%、泉南郡16.03、泉北郡13.28%、北河内郡5.68%ノ順デ中河内郡ノ1.23%ハ最少デアル。

次ニ四大分類ニ依ル各郡生産ノ割合ハ、用材ニ在テハ南河内郡總數ノ31.90%ヲ占メテ首位、次ハ三島郡デ23.41%、泉南郡19.51%、豐能郡17.78%、泉北郡5.85%、北河内郡1.56%等デ中河内郡ハ皆無デアル。

薪炭材ニ在ツテハ、南河内郡ノ32.92%ヲ最多トシ、豐能郡23.35%、泉南郡15.69%、三島郡10.48%中河内郡6.58%、北河内郡5.55%、泉北郡5.43%ノ割合デアル。

竹材ニ在ツテハ、三島郡ガ28.16%デ最モ多ク、泉北郡21.88%、泉南郡17.29%、北河内郡14.66%、南河内郡9.31%、豐能郡7.89%、中河内郡0.82%ニ該ツテ居ル。

林野産物ニ在ツテハ豐能郡30.81%デ首位ヲ占メ、三島郡19.37%、泉北郡16.86%、泉南郡14.93%、南河内郡11.54%、北河内郡6.21%等ニ割合シ、中河内郡ハ0.22%デ最少デアル。

林野面積

國有林 國有林野面積ハ三島郡548.8町、豐能郡327.0町、計875.8町デ之ヲ前年事實ニ比スレバ三島郡ニ於テ1段ヲ減ジタルノミデアル。尙總數ノ内保安林ハ2.60%ニ當リ、共有林ハ97.40%デアル。

民有林野面積

民有林野面積ハ33,039.5町、コレヲ所有別ニ分類スレバ私有ニ屬スレモノハ7割1分6厘ノ多數ヲ占メ公有ニ屬スルモノ2割1分1厘、社寺有ニ屬スルモノ7分3厘ニ該當シテ居ル。之ガ郡市分布ノ狀況ハ南河内郡最多デ總數ノ20.14%ヲ占メ、豐能郡17.57%、泉南郡17.11%、泉北郡16.52%、三島郡13.03%北河内郡11.34%、中河内郡4.29%ノ割合トナル。

公有林 公有林野面積6,986.4町ノ内、立木地面積5,856.4町、無立木地面積1,130.0町デアル。立木地面積ノ郡市分布狀況ハ泉南郡最モ多ク、總數ノ24.60%ヲ占メ、次ハ北河内郡デ21.10%、豐能郡20.54%、三島郡18.60%、南河内郡9.17%、泉北郡5.23%、中河内郡0.76%ニ割合ス。無立木地ニ於イテハ南河内郡最多デ48.10%、泉南郡37.57%デコレニ次ギ、豐能郡6.15%、北河内郡4.90%、三島郡2.89%、泉北郡0.35%、中河内郡0.04%ニ該ツテ居ル。

更ニ公有林立木地無立木地總面積ニ於イテハ、泉南郡26.69%デ第一位ヲ占メ、北河内郡18.46%、豐能郡18.21%、三島郡16.17%、南河内郡15.47%、泉北郡4.44%等ニ當リ中河内郡ノ0.56%ハ最少デアル。

社寺有林 社寺有林面積2,391.0町ノ内、立木地面積2,038.5町、無立木地面積352.5町デアル。立木地面積ノ郡市分布ノ狀況ハ泉北郡最モ多ク總數ノ42.68%ヲ占メ、次ハ南河内郡デ25.64%ニ當リ、三島郡13.90%、豐能郡7.04%、泉南郡6.34%、北河内郡[illegible].55%、中河内郡1.79%、大阪市0.06%等デアル。

私有林 私有林面積23,662.1町、其内立木地面積22,328.5町、無立木地面積1,333.6町デアル。而シテ立木地面積ノ郡市分布ノ狀況ハ、南河内郡最モ多ク、總數ノ20.86%、豐能郡コレニ亞イデ19.13%、泉南郡15.86%、泉北郡14.24%、三島郡12.58%、北河内郡10.81%、中河内郡6.50%、大阪市0.07%等ニ割合シ。無立木地面積ノ郡市分布ノ狀況ハ泉北郡ガ總數ノ58.28%デ過半ヲ占メ、豐能郡9.06%、泉南郡8.19%、南河内郡3.02%、中河内郡7.39%、三島郡5.79%、北河内郡2.78%、大阪市0.49%等ニ割合シテ居ル。

而シテ是等總面積ノ分布ノ割合ハ南河内郡最多デ20.13%、豐能郡18.56%、泉北郡16.72%、泉南郡15.42%、三島郡12.19%、北河内郡10.35%、中河内郡6.55%、大阪市0.08%等ニ該ツテ居ル。

保安林 總數267ケ所面積562.7町、之ヲ前年ニ比スレバ4ケ所、3.8段ヲ減ジタ。總數ノ内、制限地ハ265ケ所、527.7町歩、禁伐地ハ2ケ所35.0町歩デアル。總數ヲ所有別且目的別ニ觀察スレバ、國有ニ屬スルモノニアツテハ水源涵養林ニテ制限ノモノ1ケ所5.3町歩、風致林ニシテ禁伐ノモノ1ケ所、20.5段歩デアル。次ギニ公有地ニ在テハ土砂打止ノ目的ヲ有スルモノ制限地28ケ所、365.6町歩、魚附林ニシテ制限ノモノ2ケ所、1町歩、墜石防止ノ目的ノモノニテ制限地1ケ所1.5町歩デアル。社寺有地ニ在ツテハ土砂打止ノ目的ヲ有スルモノ制限地16ケ所、9.8町歩、魚附林ニシテ制限ノモノ2ケ所1.4町歩、風致林ニシテ制限ノモノ45ケ所、98.8町歩、同上禁伐ノモノ1ケ所、14.5町歩デアル。

最後ニ私有地ニ在ツテハ、土砂打止ノ目的ノモノ制限地122ケ所、34.4町歩、魚附林ニシテ制限ノモノ37ケ所、4.3町歩、風致林ニシテ制限ノモノ11ケ所5.6町歩デアル。

民有林野人工造林

新植 本年新植シタル面積ハ396.4町歩デ、前年事實ニ比シ92.1町歩(1割8分9厘)ヲ減少シテ居ル總數ヲ所有別ニ分節比ヲ求ムレバ、公有ニ屬スルモノ5割6分3厘デ過半ヲ占メ、社寺有1分5厘、私有4割2分2厘ニ當ツテ居ル。更ニ公有林野ヲ所有別ニ見レバ府有113.7町歩、市町村有70.6町歩、部落有33.6町歩、其ノ他5.3町歩デアル。尙社寺有ニ屬スルモノハ6.1町歩、私有ニ屬スルモノハ167.1町歩デアル。又新植シタル樹數ハ2,883,758本デ前年ニ比シ541,642本(1割5分8厘)ノ減少デアル。

補植 本年補植シタル樹數ハ374,020本デ、之ヲ前年事實ニ比スレバ27,489本(6分8厘)ノ減少デアル。總數ヲ所有別ニ見レバ公有ニ屬スルモノ2割5分5厘、社寺有ニ屬スルモノ3厘、私有ニ屬スルモノ7割4分2厘ニ當ツテ居ル。又、總數ヲ樹種別ニ見レバ8割9分3厘ハ針葉樹1割7厘ハ濶葉樹デアル。更ニ之ヲ種類ニ依リ細別スレバ、針葉樹ノ内デ杉3割1分5厘、扁柏3割5分1厘、松3割3分4厘ニ割合シ、濶葉樹デハ栗ノ4割9分櫟ノ4割9分7厘等ガ主要ナルモノデアル。

民有林野天然造林

本年中ノ天然造林ハ546.1町歩デ、前年ニ比シ89.6町歩(1割9分6)厘ヲ増シ、5年前ノ大正14年ニ比シ

72.6町歩1割5分3厘ヲ増加シタ。總數ヲ所有別ニ見レバ私有地最モ多ク8割4分2厘、公有地1割4分6厘社寺有地1分2厘ニ該當スル。更ニコレヲ樹林別ニ見レバ針葉樹林4割1分3厘、濶葉樹林4割1厘、針濶混淆樹林1割8分6厘ニ割合シテ居ル。

針葉樹林ノ面積225.5町歩ノ各郡分布ノ狀況ハ三島郡ガ總數ノ45.14%デ最モ多ク、豊能郡28.65%デ之ニ亜ギ、泉南郡11.44%、北河内郡10.86%、南河内郡2.31%、中河内郡1.24%、泉北郡0.35%ノ順トナル。濶葉樹林ニ在リテハ總數219.2町歩、其ノ46.53%ハ三島郡29.11%ハ豊能郡ガ占メ、北河内郡10.81%、泉南郡6.30%、南河内郡3.33%、泉北郡2.05%、中河内郡1.87%等ニ當ル。針濶混淆樹林ハ總數101.4町歩デ、其ノ各郡分布ノ割合ハ豊能郡30.18%、北河内郡26.53%、三島郡15.58%、泉南郡12.62%、南河内郡10.36%、泉北郡2.76%、中河内郡1.97%デアル。

天然造林總面積546.1町歩ノ各郡分布ノ狀況ハ三島郡總數ノ40.21%デ最モ多ク、豊能郡29.12%、北河内郡13.75%、泉南郡9.60%、南河内郡4.21%、中河内郡1.63%、泉北郡1.48%等ニ當ツテ居ル。

民有林用材伐採

用材トシテ本年伐採シタル面積ハ131.3町歩材積ハ78,297石デアル、前年ニ比シ面積ニ於テ1割9分4厘ヲ減ジ、材積2割3分6厘ノ減少ヲ示シテ居ル。

總數ヲ所有別ニ分節比ヲ求ムレバ伐採面積ニ於テハ私有8割8分7厘、公有1割7厘、社寺有6厘ニ當リ、材積ニハ私有9割8厘、公有8分2厘、社寺有1分ニ當ル。

價額合計332,042圓ヲ前年ニ比スレバ1割9分5厘ノ減、5年前ナル大正14年ニ比スレバ6割7分2厘ノ激減デアル。又總數ヲ所有別ニ見ルト私有9割5分、公有4分2厘、社寺有8厘ニ割合シ、コレヲ樹材別ニ見ルトキハ針葉樹9割7分8厘、濶葉樹2分2厘ニ當ツテ居ル。

總數ニ對スル各郡生産ノ割合ハ南河内郡33.85%デ最モ多ク、三島郡20.86%デコレニ亜ギ、泉南郡20.69%、豊能郡16.75%、泉北郡6.20%、北河内郡1.65%ニ當リ、中河内郡ハ皆無デアル。

林野産物

本年ニ於ケル林野産物總價額ハ1,189,538圓デ前年ニ比シ1割3分3厘ヲ減ジ、5年前ナル大正14年ニ比スレバ1割8分2厘ヲ増加シテ居ル。種類別ニ觀察スレバ最モ多イノハ筍デ總數ノ46.30%ヲ占メ、次ハ木炭デ21.46%、松茸18.24%、樹實7.63%、柴草4.65%、竹皮0.86%、樹皮0.76%、造林用種子0.07%、茎及草0.02%、五倍子0.02%等ニ該當シテ居ル。以下主ナル種類ニ就キ概説スレバ

松　茸　本年ニ於ケル採取高ハ721,381斤デ前年ニ比シ9厘ヲ増加シタ。各郡ニ於ケル收量ハ泉南郡25,681斤デ最モ多ク、泉北郡171,331斤デコレニ亜ギ、三島郡132,838斤、豊能郡98,182斤、南河内郡50,189斤、北河内郡10,497斤、中河内郡663斤等デアル。

價額合計ハ216,943圓デ前年ニ比シ4分2厘ヲ減少シタ。總數ニ對スル各郡生産ノ割合ハ泉南郡ノ30.11%ヲ最多トシ、泉北郡22.41%、三島郡21.49%、豊能郡16.03%、南河内郡7.34%、北河内郡1.93%中河内郡0.15%ニ該ツテ居ル。

筍　本年ニ於ケル生産數量ハ1,288,798貫デ前年ニ比シ5分2厘ヲ減少シタ。

各郡生産ノ狀況ハ豊能郡367,449貫、三島郡322,997貫、泉北郡265,830貫、泉南郡194,875貫、北河内郡126,115貫、南河内郡11,892貫、中河内郡140貫デアル。

價額合計ハ550,728圓デ前年ニ比シ2分9厘ヲ減少シタ。尙各郡生産ノ狀況ハ豊能郡總數ノ25.57%占メテ最モ多ク、三島郡24.25%、泉北郡23.25%、泉南郡16.26%、北河内郡10.01%、南河内郡0.66%、中河内郡0.01%等ノ割合トナル。

木　炭　生産數量873,162貫デ、前年ニ比シ2割9分4厘ヲ減ジタ。總數ノ内、白炭ハ243,303貫、黑炭ハ629,859貫デアル、各郡ニ於ケル生産數量ハ、白炭ニ於テハ南河内郡ノ152,446貫ヲ筆頭ニ泉北郡35,827貫、豊能郡35,800貫、泉南郡19,230貫等デアル。黑炭ニ於テハ豊能郡ノ342,585貫ヲ最多トシ南河内郡163,089貫、三島郡116,750貫、泉南郡7,000貫、泉北郡435貫等デアル。

價額合計ハ255,245圓デ前年ニ比シ3割6分1厘ヲ減ジタ。總數ノ内、白炭ハ3割2分、黑炭ハ6割8分ニ當ル。又各郡生産價額ノ割合ハ豊能郡總數ノ40.40%ヲ占メテ最多ヲ示シ、南河内郡38.42%デ之ニ亜ギ其ノ他三島郡11.02%、泉北郡[illegible].38%、泉南郡3.78%等デアル。

第六　鑛　業

本府ニ於ケル鑛業ハ他ノ産業ニ比シテ洵ニ微々タルモノデアル。加之大正4年以前ハ土石類ガ調査セラレテ居ナカツタ爲ニ一層少額デアツタガ彼ノ歐洲大戰ニ依ル物資ノ缺乏ニ煽リ立テラレタ企業熱、就中軍需品トシテ鑛物ガ大イニ需要セラレタ關係カラ採鑛モ大イニ増加シ、其ノ販路モ比較的各方面ニ擴マリ、一時ハ遞増驚クベキモノガアツタ。シカシ平和克復後ハ需要ハ固ヨリ昔日ノ比ニ非ズ、大正7年ニハ殆ド形態ヲ存スルノミトナリ、同8年ニハ少シク反動的氣勢ヲ現ハシタガ同9年カラハ皆無トナリ今日ニ至ツタノデアル。

土石類ハ大正5年カラ調査セラレルコトトナリ、同8年ニ至ル間ハ遞増ノ現象ヲ示シテ居タガ、同9年及同10年ニハ財界不況ノ影響ヲ受ケテ減少シ、同11年ニ至リ農商務統計規則ガ改正セラレタ結果急激ナ増加ヲ來シ、其ノ後ハ遞減ノ現象ヲ示シテ居ル。

今以上各種ノ盛衰消長ヲ研究スル爲ニ大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ求メ比較スルト、同10年96、同11年447、同12年132、同13年143、同14年119、昭和元年76、同2年108、同3年104、同4年80等ニ該當スル。

試　掘

鑛業區ハ明治40年ニハ5區、鑛夫13人、1,291,925坪ノ事實ガアツタガ、漸次遞減シ、明治43、4年、大正元年ハ全部休業トナリ、同2年ニ至ツテ僅カニ1區、2人デ21,829坪ヲ試掘シ、同3年ニハ復休業トナル。同4年以後ハ明治40年當時ニ比シテハ遙カニ事實少數トナツテ大正7年ニ至ツタガ、同8年以後ハ事業皆無トナツタ。

採　掘

明治42年ニハ4區、鑛夫65人、60,733坪デ其ノ後大正5年ニ至ル10ケ年間ハ一高一低シ、同7年ニハ11區99人、722,501坪ノ最多ナル事實ヲ留メ、同8年ニ至ツテ3區103人、539,552坪ニ減退シ、同9年ヨリ事業皆無トナル。

今コノ増減ノ狀況ヲ鑛石販賣價額ノ方面ヨリ觀察スレバ、明治42年ヲ100トセル各年ノ指數ハ同43年1

,690、同44年192、大正元年100、同2年60、同3年300、同4年483、同5年7,368、同6年17,040、同7年5,330、同8年8,929トナリ、大正9年以後ハ皆無デアル。

石材土石及鑛水

價額合計429,473圓デ前年ニ比シ2割2分6厘ノ減少デアル。郡市生産ノ割合ハ南河内郡最多デ總數ノ45.03%、中河内郡11.30%、泉南郡11.03%、泉北郡0.70%、大阪市9.07%、北河内郡5.30%、豊能郡3.36%、三島郡3.61%、岸和田市0.10%等ニ當ル。

第七　漁　業

本府ニ於ケル漁業ハ、沿海地ノ交通至便ニシテ且商工業ノ盛ナル關係カラ、年ト共ニ漁法ニ漁具ニ改善ヲ見、逐年進歩ノ趨勢ニアル。ノデアル。尚府ニ在リテハ溜池養殖トシテ鯉種ヲ配付シテ委託試驗ヲナシ、或ハ漁業組合ニ對シテハ漁獲物運搬、漁船建造補助、淺海養殖奬勵トシテ蛤苗ヲ配付シ、又他面ニハ魚群ノ來集繁殖策トシテ沿岸築磯ノ設備ヲ督勵シ、或ハ漁業取締船なにはヲ建造シ、侵漁者並ニ禁止漁具漁法ノ取締ヲ勵行シ、一面稚魚ノ繁殖保護方法ヲ講ジ漁具漁法ノ改善促進ト相俟ツテ斯業ヲ永遠ニ盛大ナラシムル施設方法ヲ講ジテ居ル。只表面的ニ漁業ヲ大觀スルト進歩ガ遲レテ居ル感ガアルガ、其ノ内容ニ於ケル施設經營ハ前述ノ通デ漁業其ノモノモ進展ノ域ニ達シツウアルノデアル。尚幸ナコトニハ沿岸ニ大阪、神戸、堺等ノ大都市ガ圍繞シテ居ル關係上、時ニハ魚類ニ有害ナ排泄物モアルガ、大体ニ於テ其ノ成育ニ必要缺クベカラザル食料分ガ注入セラレル自然的恩惠モアリ、僅々18里10餘町ノ沿海線ヲ有スルニ過ギナイガ、之ヲ他府縣ノ長イ沿海線ヲ有スルモノニ比シ、却ツテ豊漁ノ地位ニアルハ洵ニ欣バシキ次第デアル。以下各事項ニ就キ概設ショウ

水産物價額累年比較

本年ノ總價額ハ6,790,661圓デ、其ノ内漁獲物價額ハ6割2分9厘、水産製造物價額ハ3割7分1厘デアル。更ニコレヲ細別スルト漁獲物ノ内デハ其ノ他ノ水産動物價額ガ最モ多ク、漁獲物總額ノ5割7分8厘ヲ占メ、次ハ魚類デ3割1分4厘水産養殖7分3厘、介類3分4厘、藻類ハ僅カ278圓デアル。水産製造物ノ内デハ食料品ガ大部分デ總額ノ9割5分9厘ヲ占メ、次ガ雜類デ3分6厘、肥料5厘ニ割合シテ居ル。

總數ヲ前年事實ニ對比スルト僅カ1厘ノ減少トナリ、又5年前ナル大正14年ニ比スレバ1割1厘ノ減少トナルガ10年前ナル大正9年ニ比ベルト3割9分ヲ増加シヲ居ル。尚大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ求メルト大正10年-6、同11年118、同12年122、同13年133、同14年155、昭和元年120、同2年138、同3年139、同4年139トナリ、大体ニ於テ漸次増加ノ狀況デアル。

次ニ各種別ニ就キ増減ノ詳細ヲ見ルニ

魚類價額1,340,815圓ハ前年ニ比シ4分2厘減少5年前ニ比シ8分3厘ノ増加、10年前ニ比シ1割2分5厘ノ減少ニ當ル。又大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ求メルト大正10年88、同11年120、同12年103、同13年103、同14年81、昭和元年89、同2年88、同3年91、同4年83トナリ、大正14年以後一高一低ノ狀態ヲ示シテ居ル。

介類價額ハ147,659圓デ前年ニ比3割6分1厘ヲ減ジ、5年前ニ比シテハ却ツテ1割8分1厘ヲ増加シ、10年前ニ比スレバ6割5分8厘ノ激減デアル。尚大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ハ大正10年69、同11年75、

同12年13、同13年15、同14年29、昭和元年33、同2年53、同3年54、同4年34トナル。

其ノ他ノ水産動物價額ハ2,471,886圓デ、前年ニ比シ4分3厘ヲ増加シ、5年前ノ大正14年ニ比シテハ3割6分4厘ヲ減ジ、10年前ナル大正9年ニ比スレバ39割2分8厘トイフ著シキ増加デアル。尚大正9年ヲ100トスレバ、同10年108、同11年374、同12年433、同13年510、同14年775、昭和元年453、同2年550、同3年473、同4年493ノ割合トナル。

水産製造物中、食料品價額ハ2,416,660圓デ、前年ニ比シ1分8厘ノ減少、5年前ノ大正14年ニ比シ2割2厘ノ増加、10年前ナル大正9年ニ比スレバ74割5分1厘ノ激増デアル。尚大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ算出スルト、同10年66、同11年462、同12年636、13年702、14年703、昭和元年604、同2年718、同3年860、4年845トナリ、概シテ遞増ノ傾向ヲ示シテ居ル。

肥料ノ價額ハ12,485圓デ前年ニ比シ2割4分6厘ヲ減少シ、5年前ナル大正14年ニ比スレバ4割3分4厘ヲ増加シ、10年前ナル大正9年ニ比スレバ7割3分6厘ノ減少デアル。而シテ大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ハ、同10年173、同11年同122、同12年41、同13年10、同14年18、昭和元年22、同2年35、同3年35、同4年26トナリ、大勢減少ノ途ヲ辿ツテ居ル。

其ノ他ノ雜類ノ價額ハ90,410圓デ、前年ニ比シ11割5分2厘ノ激増、5年前ノ大正14年ニ比シテモ9割4分4厘ノ著増デアルガ、10年前ノ大正9年ニ比スルト2割6分7厘ノ減少ニ當ル。次ニ大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ求メ對比スルト同10年133、同11年124、同12年113、同13年124、同14年38、昭和元年48、同2年25、同3年34、4年73トナリ、大正14年ニ激減シ以後稍遞増ノ傾向ガ見ラレル。

水産物價額郡市別

總價額6,790,661圓ヲ郡市別ニ分節比ヲ求メ生産ノ狀況ヲ對比スルト、大阪市ハ總數ノ56.26%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ泉南郡デ16.59%、堺市11.06%、岸和田市7.35%、泉北郡4.87%、北河内郡1.62%南河内郡0.93%、中河内郡0.68%、三島郡0.41%、豊能郡0.23%等ニ割合シテ居ル。更ニ漁獲物、製造物ニ分ツテ觀察スルト漁獲物價額ハ大阪市ガ第一位ヲ占メテ總數144.97%、次ガ泉南郡デ24.27%堺市13.46%、岸和田市8.56%、泉北郡4.56%、南河内郡1.47%、中河内郡1.09%、北河内郡0.74%三島郡0.52%、豊能郡0.36%等ニ該當スル。水産製造物價額デハ大阪市總數ノ75.41%ヲ占メテ最モ多ク、堺市6.98%、泉北郡5.41%、岸和田市5.31%、泉南郡3.56%、北河内郡3.09%、三島郡0.24%等デ豊能、南河内、中河内ノ三郡ニハ該當ガナイ。

漁獲物

魚類價額ノ内最モ多イハ鰮ノ237,629圓デ魚類總價額ノ1割7分7厘ヲ占メ、鯔ノ142,824圓(1割7厘)、鯛ノ100,465圓(7分5厘)等ガコレニ亞ギ、其ノ他鯵、鰈鮃、鰻、鰆、鮎等モ相當多イガ何レモ100,000圓以下デアル。

鰮ノ價額237,629圓ハ前年ニ比シ、3割6分7厘ノ減、5年前ノ大正14年ニ比シ1割2分4厘ノ増加ニ當ル郡市別ノ生産狀況ハ泉南郡最多デ總數ノ46.32%、泉北郡26.33%、堺市16.97%、大阪市6.18%、岸和田市4.20%等ニ當ル。

鯔ノ價額142,824圓ハ前年ニ比シ1割1分4厘ノ減少、5年前ノ大正14年ニ比シテハ1割2分3厘ノ増加ニ當ル。各郡市生産ノ狀況ハ泉南郡總數ノ37.82%ヲ占メテ最モ多ク、堺市22.69%、大阪市21.19%、泉

北郡14.46%、岸和田市3.85%等ニ當ル。

鋼ノ價額100,465圓ハ前年ニ比シ21割6分1厘ノ激增デ、5年前ノ大正14年ニ比シテモ7割6分8厘ノ增加デアル。而シテ總數ノ97.49%ハ泉南郡ガ占メ、他ハ堺市、岸和田市ノ漁獲額デアル。

介類ノ內デハ蛤ノ38,992圓ガ筆頭デ介類總價額ノ2割6分4厘ヲ占メテ居ル。其ノ大部分ハ大阪市ガ占メ堺市、泉南郡ニモ多少ノ產額ガアル。蛤ニ亞イデハ赤貝ノ24,855圓、蛸ノ19,335圓等ガ多イモノデアル。

水產動物デハ鯨ガ價額1,544,835圓デ總額ノ6割2分5厘ヲ占メテ居ル。鰯ノ390,954圓(1割5分8厘)、蛸ノ260,401圓(1割5厘)等ガコレニ亞ギ、泉南郡、岸和田市ヲ主產地トシ、大阪市、堺市ニモ相當ノ產額ガアル。

水產養殖

養殖場數ハ1,796、前年ニ比シ134ノ減デアル。コレガ郡市分布ノ狀況ハ、泉北郡ノ479ヲ最多トシ、南河內郡311、泉南郡271、北河內郡254、豐能郡210、中河內郡170等デ他ノ郡市ハ何レモ100以下デアル。養殖場面積ハ總數3,788,547坪デ、前年ニ比シ114,160坪ヲ減少シ、其ノ郡市ニ於ケル割合ハ泉南郡1,395,913坪(3割6分8厘)デ首位ヲ占メ、泉北郡795,545坪(2割1分)デコレニ亞ギ、南河內郡624,157坪(1割6分5厘)デ他郡市ハ1割未滿デアル。

收穫高ニ就イテ觀ルト價額310,463圓ハ前年ニ比シ1割1分ノ增加、5年前ノ大正14年ニ比スレバ2割9分3厘ノ增加ニ當ル。種類別ニスルト過半ハ鯉デ201,166圓(6割4分8厘)、其ノ他(主トシテ鮒)ガ88,024圓(2割8分4厘)、鰻ガ19,172圓(6分2厘)、金魚2,106圓(7厘)等ニ當ル。

水產業者

年末ニ於ケル水產業者ハ、總計7,014人デ、內男ハ6,808人デ9割7分1厘ニ當リ、女ハ206人デ2分9厘ニ當ル。之ヲ前年ノ同一事實ニ比較スルト男164人、女66人、計230人ヲ減ジタ。尙業主、被用者ニ分ツト、業主ハ3,699人デ總數ノ5割2分7厘、被用者ハ3,315人デ4割7分3厘ニ當ル。尙之ヲ前年事實ニ比較スルト業主97人、被用者133人ヲ何レモ減少シテ居ル。又總數ヲ漁撈、養殖、製造ノ三大分類別ニ觀察スルト、漁撈最多デ5,072人(7割2分3厘)製造1,265人(1割8分)、養殖677人(9分7厘)ニ當リ、又之ヲ前年ニ比較スルト漁撈336人、製造37人ヲ何レモ減少シ、養殖ハ143人ヲ增加シテ居ル。

總數ノ郡市分布ノ割合ハ泉南郡33.59%ヲ占メテ最多ヲ示シ、大阪市30.05%デコレニ亞ギ、泉北郡11.99%、堺市9.45%、岸和田市5.89%、北河內郡3.38%、豐能郡2.31%、三島郡1.60%、南河內郡1.04%ニ當リ、中河內郡ハ最少デ0.70%デアル。尙之ヲ三大分類別ニ見レバ漁撈業者ハ泉南郡、大阪市ヲ始メ、堺市、岸和田市等ニ多ク、養殖業者ハ北河內、豐能兩郡ニ、製造業者ハ大阪市及泉南、泉北二郡ニ多イコトガ知ラレルノデアル。

漁 船

動力ヲ有セザルモノ、年末現在船數2,563隻デ前年末ニ比シ9隻ヲ增加シタ。各郡市ニ於ケル分布ハ泉南郡1,216隻、大阪市432隻、堺市371隻、泉北郡300隻、岸和田市220隻、三島郡18隻、北河內郡5隻、中河內郡1隻デ、豐能郡、南河內郡ニハ該當ガナイ。

尙年內ニ於ケル新造船ハ142隻、廢用船ハ183隻デアル。噸數ヨリ見レバ5噸未滿ガ大部分デ2,504隻

5噸以上ノモノハ泉南郡ニ57隻、泉北郡ニ2隻、計59隻ニ過ギナイ。

動力ヲ有スルモノノ內、蒸氣機關ヲ有スルモノハ皆無デ、發動機ヲ有スルモノハ、年末現在船數309隻、前年末ニ比シ57隻ヲ增加シ、年內ニ於イテ新造セルモノ55隻、廢用セルモノ15隻デアル。郡市別分布ハ泉南郡234隻、大阪市42隻、堺市32隻、泉北郡1隻ニ當リ、噸數ヨリ見レバ5噸未滿277隻、5噸以上32隻デアル。近年時代ノ要求ニ依リ小サイ大阪灣內ニ動力漁船ガ次第ニ增加スル傾向ガアリ、從ツテ小漁業者ガ漸次影ヲ潛メテ行クコトトナリ、漁業者漸減ノ原因モ一ハ此處ニアルト思ハレルノデアル。

第八 工 業

本府ノ工業ハ既ニ帝國ノ工業界ニ君臨シテ居ルノデアルカラ其ノ消長ハ可成ノ影響ヲ全國ニ及ボスモノデアルコトハ言フ迄モナイ。シカシテ本府ノ現狀ハ如何ナルモノデアロウカ。去ル大正9年ニハ未曾有ノ財界恐慌ニ見舞ハレタ、以來十年ノ星霜ヲ閱シタガ一向好轉ノ機運ガ見エナイ、勿論所謂空景氣ト云フベキモノガ幾度カアツタ。空景氣デナクトモ安心ノ出來ルモノデハナカツタ、ソノ間ニ於ケル斯業家ノ苦心ハ一通デハナイノハ無論ノコト、經營難ニ伴フ幾多ノ社會問題ガ起ツタノデアル。實ニ經營內部ノ苦心ハ言語ニ絕スト云フモ、强チ過言デハナイト信ズルノデアル。コノ實狀ガ如何ニ數字ニ映ジタカ。然シ乍ラ生產價額ハ次ニ說明スル如ク減少ドコロカ、增加ノ步ヲ止メナイノデアル。如何ニ解釋スベキダロウカ、蓋シ文化ノ進步ニ伴ヒ日常生活ノ上ニ景氣等ヲ超越シタ要求ハ然ラシムルモノト見ルノガ實際デハナカロウカ。

次ニ項ヲ追フテ工業別ノ大体ニ付說明シヨウ。

工業總覽

製造場數 昭和4年末ニ於ケル工產物製造場總數ハ56,436デ、前年ノソレニ比シ1,521(2分8厘)、5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト11,595(2割5分9厘)、10ケ年ヲ遡ツテ大正9年ノ事實ニ比較スルト、22,674(6割7分2厘)ノ各增加トナツテ居ル。總數ニ對スル5大分類ニ就イテ其ノ比ヲ見ルト、雜工業ハ首位ヲ占メ4割6分4厘、飲食物工業之ニ亞イデ2割2分7厘、機械器具工業1割3分9厘、染織工業1割1分1厘、化學工業5分9厘トナル。尙之ガ郡市別ハ大阪市ガ斷然多ク55.59%、第二位ハ南河內郡ノ7.84%、以下三島郡7.78%、泉北郡7.92%、豐能郡5.72%、泉南郡4.54%、中河內郡3.82%、北河內郡3.66%、堺市3.23%、岸和田市0.80%ノ順位トナツテ居ル。

職工數 前項製造場數ニ對スル職工總數ハ320,208人デ、內男200,695人(6割2分7厘)、女119,513人(3割7分3厘)デアル。之ヲ前年事實ニ比スルト12,086人(3分9厘)ヲ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト14,847人(4分7厘)ヲ各增加シタガ、10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト32,647人(9分3厘)ノ減少ニナツテ居ル。今男女別ニ5大分類並郡市別分布ヲ見ルト、先ヅ男工ハ機械器具工業ニ最モ多ク3割3分5厘、雜工業2割4分5厘、染織工業1割9分8厘、化學工業1割3分2厘、飲食物8分9厘デ、之ガ郡市別ハ大阪市78.86%ヲ占メテ斷然多ク、第二位ノ堺市ガ4.81%、泉南郡4.40%、中河內郡2.41%、泉北郡2.39%、三島郡2.24%、南河內郡1.93%、豐能郡1.08%、岸和田市1.06%、北河內郡0.81%トナル。女工デハ

其ノ中ノ7割1分ガ染織工業ニ從事シ、雜工業ハ1割3分、化學工業7分9厘、飲食物工業4分2厘、機械器具工業3分9厘ノ狀況デアル。郡市ノ分布ハ大阪市ガ依然首位ヲ占メ52.86%、泉南郡17.26%、堺市6.86%、泉北郡7.41%、三島郡3.43%、中河內郡3.22%、南河內郡3.04%、岸和田市2.85%、北河內郡1.75%、豐能郡1.32%デアル。以下各工業別ニ稍詳細ナ觀察ヲ試ミヨウ

染織工業 製造場數6,253前年事實ニ比シ214(3分5厘)、5ケ年前ノ大正14年ニ比シ1,656(3割6分)、10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト2,981(9割1分1厘)ノ何レモ增加トナリ、大体ニ於テ連年增加ノ傾向ガアル。

例ニ依ツテ大阪市ガ最大多數ヲ占メ4,153(6割6分4厘)ヲ有シ、第二位ノ泉北郡ハ590、泉南郡ハ456デ最モ少イノハ岸和田市ノ75デアル。

之ニ對スル職工總數ハ124,636人デ、其ノ內ノ3割1分9厘ハ男、女ハ6割8分1厘デアル。前年事實ニ比シ2,416人ヲ增シタガ其內譯ハ男620人、女1,796人デアル。郡市分布ハ大阪市45.26%、泉南郡23.76%、泉北郡9.84%、堺市5.12%、三島郡3.88%、岸和田市3.79%、南河內郡2.57%、中河內郡2.31%北河內郡1.99%、豐能郡1.48%デアルガ、今試ニ各郡市ノ一工場平均職工數ヲ調ベテ見ルト

大阪市	15	泉北郡	18
堺市	54	泉南郡	57
岸和田市	58	南河內郡	20
三島郡	54	中河內郡	9
豐能郡	13	北河內郡	16

トナリ、大体ニ於テ規模ノ大小ヲ見ルコトガ出來ル。卽チ岸和田、泉南、堺、三島ノ各郡市ハ比較的大キク、中河內、豐能、大阪、北河內等ハ小サイ、大阪市ノ15人ハ意外ニ少イガ、コレハ染織工業トシテ西洋洗濯、燒付洗張湯熨斗等ノ家內的工業ガ比較的多數ニ上ツテ居ル關係デアル。

機械器具工業 製造場數ハ前年末ヨリ109ヲ減少シテ7,846トナツタ。

職工數ハ71,923人(男67,229人、女4,694人)デ、前年ノソレニ比シ場數トハ反對ニ3,061ヲ增加シタ、シカモ連年增加ノ狀勢デアツテ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト、實ニ19,774(3割7分9厘)ヲ增シテ居ル。

コノ郡市分布ハ大阪市91.05%ニ當リ、他郡市ハ比較ニナラナイ程僅少デアル。卽チ第二位ニ當ル堺市ハ4.68%デアツテ、以下中河內郡1.47%、三島郡0.85%、泉南郡0.83%、中河內郡0.51%、岸和田市0.23%、豐能郡0.14%、北河內郡0.13%、泉北郡0.10%ノ狀勢デアル。

化學工業 製造場數3,337、前年事實ニ比シ334(1割1分1厘)ヲ、5ケ年前ノ大正14年ニ比シ694(2割6分3厘)ヲ、又10ケ年ヲ遡ツテ大正9年ニ比較スルト1,799(11割7分)ノ各增加ニ當リ、連年コノ傾向ヲ辿ツテ居ル。從ツテ之ガ職工數ニ於テモ增加ヲ來シ35,970人ヲ算シテ居ルノデアル。內男ハ7割3分8厘女ハ2割6分2厘ニ當リ兩者トモ大体ニ於テ一樣ニ增加ノ傾向ガアル。

郡市ノ分布ハ依然大阪市ガ斷然優勢デ總數ノ74.76%ヲ占メ、次ハ堺市ノ6.52%、中河內郡ノ4.83%、泉北郡4.44%、泉南郡3.25%等ハ先ヅ主ナルモノデ最少ハ北河內郡ノ151人(0.42%)デアル。

飲食物工業 製造場數ハ12,788ハ前年事實ニ比シ680ヲ、5ケ年前ノ大正14年ノソレニ比シ2,8752割

9分)ヲ、10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト7,247(13割8厘)ノ夫々大增加ニ當ツテ居ルノデアツテ。連年些ノ減少モ見セズニ明確ニ漸增シテ居ルノハ未ダ飽和點ニ達シナイ關係ト思ハレル。今試ミニ大正9年ノ事實ヲ100トスレバ其ノ指數ハ

大正 9 年	100	大正 14 年	179
〃 10 年	152	昭和元年	210
〃 11 年	153	〃 2 年	212
〃 12 年	170	〃 3 年	220
〃 13 年	178	〃 4 年	231

トナリ、其ノ增加狀態ハ明瞭デアル。

郡市中ノ最多ハ依然大阪市デ全体ノ4割2厘、南河內郡之ニ亞ギ1割7分7厘、泉北郡8分4厘、北河內郡8分2厘等ガ主ナルモノデ、少イノハ岸和田市ノ108(8厘)、中河內郡370(3分)デアル。

場數ニ對スル職工總數ハ22,953人デ、其ノ內7割7分9厘ハ男、2割2分1厘ハ女デアル。前年事實ニ比シ男ニ於テ167人、女ニ於テ185人ヲ何レモ增シタ、5年前ノ大正14年ニ比スルト1,032人、10ケ年前ニ比スルト15,368人ノ增加ニ當ツテ居ル。昭和元年及同二年ニ減少ヲ示シタ外漸增シテ居ル。

郡市ノ分布ハ大阪市(6割6分3厘)ヲ除イテハ三島郡(6分)、堺市(5分5厘)南河內郡(5分5厘)等ハ比較的多數ヲ占メテ居ル。

雜工業 製造場數26,212ヲ前年事實ニ比較スルト474(1分8厘)ヲ、5ケ年前ノ大正14年ニ比シ3,915(1割7分6厘)ヲ夫々增加シタ。

職工總數ハ64,726人デ內男ハ49,219人(7割6分)、女ハ15,507人(2割4分)デアル。前年事實ニ比シ男331人(7厘)、女837人(5分7厘)ヲ增加シタ。

郡市分布ハ大阪市78.81%、堺市7.33%、中河內郡3.72%、南河內郡3.40%、泉南郡1.69%、三島郡1.46%、豐能郡、泉北郡ハ同ジク1.04%、北河內郡ハ0.86%デ最少ハ岸和田市ノ0.66%デアル。

工產物總價額

昭和4年中ノ工產物總價額ハ1,628,149,405圓ト云フ記錄破リノ數字ヲ示シタ。前年同一事實ニ比シ141,262,907圓(9分ノ厘)ヲ增シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト279,257,879圓(2割7厘)ヲ、更ニ10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト554,531,025圓(5割1分7厘)ヲ、何レモ增加シタノデアル。今大正9年ノ事實ヲ100トスレバ

大正 9 年	100	大正 14 年	126
〃 10 年	90	昭和元年	127
〃 11 年	98	〃 2 年	130
〃 12 年	104	〃 3 年	138
〃 13 年	120	〃 4 年	152

トナリ、激增狀態ヲ明瞭ニ示シテ居ル。

總額ノ工業別ハ染織3割7厘、機械及器具2割4分9厘、化學1割5分4厘、雜1割1分2厘、特別9分8厘、飲食物8分ノ割合ヲ示ス。

又其ノ郡市生産狀況ハ大阪市77.16%、泉南郡3.76%、堺市3.92%、 泉北郡2.83%、三島郡2.01%、中河内郡1.62%、岸和田市1.45%、南河内郡1.11%、豐能郡0.63%、北河内郡0.51%トナツテ居ル。

以下工業別ニ之等ノ狀態ヲ少シ觀察シテ見ヨウ。

染織工業ハ6分類中ニ在ツテ斷然一位ヲ占メテ居テ其ノ價額ハ500,004,658圓デアル。前年事實ニ比シ31,524,172圓(6分7厘)ヲ增加シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト11,822,633圓(2分3厘) ノ減少ニ當リ、10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト97,727,705圓(2割4分3厘)ノ增加ニ當ル。

總數ノ大多數ハ無論大阪市デ(46.18%)、 泉南郡(26.66%)モ亦ナカナカ多額ヲ示シテ居ル、 他郡市ハ之等ニ比シ極メテ少ナイ、卽チ泉北郡8.63%、岸和田市4.35%、堺市4.34%、中河内郡2.96%、三島郡2.22%、南河内郡2.18%、豐能郡1.45%、北河内郡1.30%デアル。

本工業中1,000萬圓以上ノ生産アルモノハ織物類ノ213,595,469圓ヲ筆頭ニ綿糸紡績、莫大小、染物及晒工賃、撚糸等デアル。

機械器具工業ノ總價額ハ405,883,887圓デ、前年事實ニ比シ2割1分6厘ノ增加デ、近年著シク發達シテ來タ。試ミニ既往5ケ年間ノ事實ヲ指數ヲ以テ表セバ

大正	14年	100
昭和	元年	111
〃	2年	122
〃	3年	145
〃	4年	177

ノ如クデアル。前ニ述ベタ職工數ノ增加ト正比例シテ居ルコトヲ知ルノデアル。

大阪市ノ産額ハ他郡市ヲ斷然壓倒シ96.18%デ、 僅ニ氣ヲ吐ク堺市ハ1.81%ニ當ル、最少ハ北河内郡ノ97,164圓(0.17%)デアル。

本工業中最モ現ハレテ居ルノハ車輛製造デ1億圓ヲ越エ、諸機械及附屬品、 針金、電氣器具、金屬管建築及家具用金具、船舶製造等モ1,000萬圓以上ノ生産額ガアル。

化學工業總價額ハ251,046,555圓デ前年事實ニ比シ22,112,505圓卽チ9分7厘ノ增加ニ當ル。 之亦近年增加著シイモノデ、大正14年以來ノ指數ハ

大正	14年	100
昭和	元年	109
〃	2年	111
〃	3年	119
〃	4年	130

デアル。

郡市中最多ハ大阪市デ全額ノ8割5分6厘ヲ占メ、堺市ハ6分5厘、中河内、 三島郡等之ニ亞ギ、最少ハ北河内郡デアツテ其ノ割合ハ2厘ニ當ツテ居ル。本工業中主ナルモノハ醫療藥品及實藥(29,756,775圓)ヲ筆頭ニ、工業用藥品、肥料、硝子製品、化粧品等デ何レモ1,800萬圓以上ノ産額ガアル。

飲食物工業價額ハ129,706,034圓デ、前年事實ニ比シ3分8厘ヲ減少シタ。5ケ年前ノ大正14年ノ事實トハ殆ンド同額デアツテ、本工業ノミハ他工業ノ如ク價額ノ激增ガナイ、卽チ既往10ケ年間ノ指數ハ次

ノ通デアル。

大正	9年	100	大正	14年	119
〃	10年	105	昭和	元年	119
〃	11年	92	〃	2年	114
〃	12年	109	〃	3年	123
〃	13年	127	〃	4年	119

今之ヲ前節デ述ベタ本工業製造場數ニ對比スレバ注目ニ値スベキ現象ヲ見出サルルコトト思ハレル。

本工業中ニ在ツテ重キヲ爲シテ居ルノハ砂糖デアツテ年額約2,600萬圓、次ハ酒類、煙草ノ各2,400萬圓及菓子類デアルガ、 其ノ何レモガ前年同一事實ニ比シ2分乃至4分8厘ニ當ル減少ヲ示シテ居ルノデアル、是等ハ現世相ト對比シテ何ヲ語ルモノデアラウカ。

雜工業總價額ハ182,143,429圓デ前年事實ニ比シ5分5厘ノ增、5ケ年前ノ大正14年ニ比シ1割1厘ノ增加ニ當ルガ、最モ多カツタ昭和元年ニ比較スルト4分2厘ニ當ル減少トナツテ居ル。

大阪市ガ總額ノ8割7分7厘ヲ占メ、堺市7分之ニ亞ギ、岸和田市(3厘)ハ最少デアル。 本工業中ノ製本印刷ハ全額ノ2割9分5厘ニ當ル産額ヲ出シ木製品モ亦主ナルモノデアル。

最後ニ特別工業價額ハ159,364,842圓デ、前年ノソレニ比シ7分4厘ヲ增加シタ、 六工業中最モ增加率ノ甚シイモノデアツテ、次ノ指數ガ明瞭ニ物語ツテ居ル。

大正	9年	100	大正	14年	245
〃	10年	145	昭和	元年	234
〃	11年	170	〃	2年	280
〃	12年	195	〃	3年	308
〃	13年	213	〃	4年	331

コノ激增ノ大部分ハ總額ノ7割8分7厘ヲ占メテ居ル、 電氣ノ增加ニ依ルモノデアツテ文化生活、其ノ進展ヲ如實ニ語ツテ居ル。

以下之等各工業ヲ細別シテ其ノ主ナルモノニ付概說ショウ

綿織物

昭和4年末機業場數1,120ハ前年事實ヨリ79ヲ增シタ。コノ增加ハ大休小工場ノ增デアツテ、大工場ハ反對ニ減少シテ居ル。

泉北、泉南兩郡ニ最モ多ク、二郡ヲ合スルト全工場ノ7割3分4厘ヲ占メテ居ルノデアル。

機臺總數ハ74,490デ、 其ノ内9割7分6厘ハ力織機デ他ハ手織機デアル。更ニ力織機ヲ廣幅小幅別ニ見レバ前者ハ6割6分2厘、後者ハ3割3分8厘トナツテ居ル、近年廣幅織ノ奬勵ニ伴ヒ廣幅機臺ガ次ノ如ク增加シテ居ル。

大正	14年	100
昭和	元年	113
〃	2年	117
〃	3年	130
〃	4年	145

職工數ハ39,444人(男1割9分5厘、女8割5厘)デ、前年末ニ比シ546人ヲ增加シタガ、概シテ減少ノ傾向ガアル。

コレガ郡市分布ノ狀況ハ泉南郡15,513人(39.33%) 大阪市25.08%泉北郡17,55%、堺市5.75%、南河內郡5.13%、岸和田市2.66%、中河內郡2.56%、北河內郡1.45%、豐能郡0.50%デアル。

總生產價額ハ185,439,344圓デ前年事實ニ比較シ6,905,314圓ヲ增加シタ。コノ本府生產額ハ全國道府縣中第一位ヲ占メテ居リ、全產額736,533,751圓(商工統計昭和4年度生產)ノ2割5分2厘ニ當ツテ居ル。

主ナル生產品目ハ廣幅物デハ金巾(29,632,832圓)、綾綿布(28,352,190圓)、綿ネル(17,787,942圓)、綿繻子(17,659,269圓)等デ、小幅物デハ白木綿(34,941,713圓)、特殊物デハ、タオル(5,600,335圓)綿毛布(3,121,022圓)、敷布(2,803,304圓)等デアル。其ノ大部分ハ殆ンド泉南泉北兩郡ノ主產デアルガ、金巾ニ限ツテ大阪市ノ產額ガ第一位ヲ占メテ居ル。尙以上揭ゲタ各品目別ニ各道府縣ト比較スルト、綾綿布及金巾ヲ除ク外、全部全國第一位ヲ占メテ居ルノデアル。

綿糸紡績

年末現在ニ於ケル工場數ハ大阪市22、泉南郡9、堺市4、岸和田市、泉北郡各3、豐能郡、南河內郡、中河內郡及北河內郡ハ各1、計45デ、前年事實ニ比シ2工場減少シタ。職工數ハ40,858人デ內男ハ9,404人(2割3分)、女31,454人(7割7分)デアル。之等工場ノ原動力ハ蒸汽20、電力1,297デアル。近年蒸汽ヲ使用スルモノハ漸次減少シ、之ニ變ツテ電力ガ著シク增加シタ。今一工場ノ平均一日使用馬力數ヲ見ルト、最大ハ51,780馬力、最小ハ50馬力デアルガ、1,500前後ノモノガ最モ多クヲ占メテ居ル。

全部ノ運轉錘數一日平均ハ竪針1,196,129、斜針74,540、計1,270,669トナツテ居ル。製造綿糸ハ31,148,792貫デ、前年事實ニ比シ3,770,147貫卽チ1割3分8厘ヲ增加シタ、コノ連年生產狀況ヲ指數ヲ以テ示スト

大正	9年	100	大正	14年	91
〃	10年	67	昭和	元年	88
〃	11年	80	〃	2年	91
〃	12年	76	〃	3年	84
〃	13年	76	〃	4年	95

トナル。尙此ノ外落綿4,354,808貫及屑糸187,190貫ノ生產ガアル、 前年事實ニ比シ前者ハ1割5分7厘ヲ增加シ、後者ハ1割2分6厘ニ當ル減少ヲ示シタ。

以上ノ總價額ハ179,672,745圓デアツテ、其ノ內綿糸176,927,031圓、落綿2,516,868圓、屑糸228,846圓デアル。 總額ヲ前年事實ト比較スルト1割9分9厘ヲ增加シテ居ル。現在ニ於テ一工場ノ生產最多額ハ9,424,235圓デ最少ハ322,075圓デアル。

莫大小

製造場數1,970、前年事實ニ比シ99ヲ增加シタ、最近ニ於テハ每年5分乃至2割4分ノ增加ヲ示シテ居ル職工數ハ12,864人(男4割5分4厘女5割4分6厘)デ、前年ニ比シ男395人、女816人ヲ減少シタガ、依然全國第一位ハ變ラナイ。生產價額ハ29,164,878圓デアツテ、前年事實ニ比シ2,769,595圓(8分7厘) ノ減少ニ當ツテ居ル。主ナル製品ハ、シヤツ及ヅボン下(綿)(19,551,123圓)同(毛及毛綿) 2,449,716圓、靴下2,323,676圓デ共ニ全國第一位デアル。ソノ郡市生產狀況ハ全額ノ9割3分7厘マデ大阪市デアツテ北河內郡2分6厘、中河內郡1分9厘、他郡市ハ極メテ少イ。

染物工賃

染物工賃ハ染織工業價額中順位第四位ニ當ツテ居ツテ、ソノ場數ハ383ヲ、年々減少ノ傾向デ既ニ昭和元年以來94ヲ減退シタノデアル。其ノ職工數ハ8,072人デ(男6,971人女1,101人)、之亦前年事實ニ比シ528人ヲ減ジタ、大阪市ハ絕對ニ多ク、其ノ7割9分2厘ヲ占メテ居ル。之ニ亞グ堺市ハ4分5厘、豐能郡4分4厘デ他ハ僅少デアル。

染賃合計ハ22,370,649圓デ、之ヲ前年事實ニ比較スルト大差ガナイ。コノ價額ヲ染物生地別ニ見ルト綿物最モ多ク8割4分9厘ヲ占メ、毛物ハ1割1分、絹物1分2厘、 其ノ他2分9厘デアル。更ニ之ヲ種類別ニスルト無地物6割6分1厘、捺染物3割1厘、其ノ他3分5厘ニ當ツテ居ル。郡市狀況ハ大阪市84.76%、堺市7.58%、三島郡1.83%、泉北郡1.71%、豐能郡1.64%、泉南郡1.20%、北河內郡0.83%、南河內郡0.41%、中河內郡0.03%、岸和田市0.01%トナツテ居ル。尙本府ト各道府縣ノソレトヲ比較スレバ綿物ニ於テハ第一位タル京都府ニ及ブベクモナイガ、數字ノ大キイ綿物ニ於テ首位ヲ占メテ居ル爲ニ結局總額ニ於テ第一位ヲ持シテ居ル。

毛及其交織物

機業場數ハ10臺未滿54、10臺以上50臺未滿21、50臺以上3、計78デアル。 前年末現在ニ比シ前二者ハ各1ヲ增シ、後者ハ1ヲ減少シタ。機臺數ハ力織機2.463臺、手織機171臺デ、前年事實ニ比較スルト力織機62、手織機71臺ヲ各減少シテ居ル。 職工數ハ3,546人デアツテ前年ニ比シ1,041人(2割2分7厘)ノ之亦夥シキ減少デアル。其ノ男女ノ割合ハ男25ニ對シ女75ニ當ツテ居ル。

生產價額ハ22,147,208圓デアル。之ヲ前年事實ニ比スルト2,921,316圓(1割1分7厘)ヲ減ジタ、近年漸次減退シテ行ク傾向ガアル。主製品ハ「モスリン」デアツテ其ノ產額16,914,793圓 (全額ノ7割6分4厘) ニ達シテ居ル。强イテ次ヲ求ムレバ、ラシヤ(2,130,154圓)毛布(1,806,742圓)等ガアル。モスリン及ラシヤハ共ニ殆ンド大阪市ニ產シ、毛布ハ泉北郡ニ最モ多イ。

尙其ノ他ニモ、フランネル著尺セル地、地氈、綴通等モアルガ全額カラ見ルト極メテ少額デアル。然シ乍ラ地氈(232,040圓)ト、綴通(99,683圓)ノ生產ハ全國唯一デアルコトダケハ特筆ニ値スル。

撚 糸

場數174、前年事實ニ比シ28ヲ減少シタ、其ノ內中河內郡129、大阪市36、北河內郡11、 泉北郡7、堺市4デアル。量ハ洋式ニ比シ和式ガ多數ヲ占メ、總數ノ7割3分6厘ニ當ツテ居ル。

職工數ハ1,664人デアツテ、前年ニ比シ97人ヲ增加シタ。

製品ハ全部綿デアツテ、 其ノ價額ハ13,135,701圓デアル。前年價額ニ比スルト171,286圓ノ增加ニ當ル。製品種別割合ハ漁網糸2割8分4厘、縮用撚糸7分、縫糸3分2厘、其ノ他6割1分4厘デアル。

其ノ他ノ染織工業

前項迄ハ何レモ產額1,000萬圓以上ノモノデアツタガ、以下ノモノニ次ノ如キモノガアル。絹糸紡績(7,257,700圓)、晒工賃(5,103,519圓)、製綿(3,903,190圓)、麻糸紡績(3,369,879圓)、麻及其交織物(3,142,822圓)、カタン糸(3,064,200圓)以下300萬圓未滿、絹及絹綿交織物、 組紐編物、西洋洗濯、

襟付洗張湯熨斗、トロンウオーク及バテンレース、手巾及其ノ他等合セテ22,228,823圓デアル。

機械及器具工業

本工業ニ屬スル總製造場數ハ7,846デ、前年ニ比スルト1分4厘ノ減少ニ當ル、今之ガ10ヶ年ノ傾向ヲ見ル爲大正9年ヲ100トスレバ10年211、同11年220、同12年234、同13年233、同14年238、昭和元年243同2年289、同3年351、同4年346トナリ大正9年ニ比シ同10年ハ二倍以上ノ激増ヲ示スモ、以降昭和3年迄ハ遞增ノ狀態デ、本年ハ稍々減少ヲ示シテ居ル。

以上ノ郡市分布ノ狀態ヲ見ルト大阪市85.88%、堺市7.20%、中河內郡2.71%、南河內郡0.94%、泉南郡0.79%、岸和田市三島郡0.59%、豊能郡0.56%、北河內郡0.43%、泉北郡0.31%ノ割合トナツテ居ル。

職工數ハ71,923人デアツテ事業ノ性質上男工ハ9割3分5厘ヲ占メテ居ル。コノ郡市ノ割合ハ大阪市91.06%、堺市4.68%、中河內郡1.47%、三島郡0.85%、泉南郡0.83%、南河內郡0.51%、岸和田市0.23%、豊能郡0.14%、北河內郡0.13%、泉北郡0.10%ニ該當ス。

價額合計ハ405,883,887圓デ前年ニ比シ2割1分6厘、5ヶ年前ノ大正14年ニ較ベルト7割6分7厘、10ヶ年前ノ大正9年ト比較スルト7割9分2厘ノ各增加ヲ示シテ居ル。今試ニ10ヶ年前ノ大正9年ノ價額ヲ100トスレバ10年84、同11年93、同12年93、同13年98、同14年101、昭和元年112、同2年124、同3年147、同4年179トナリ、大正12年以來遞增ノ傾向デアル。又此價額ヲ各品種別ニ見ルト前年ニ比シ增加シタノハ車輛製造ヲ筆頭ニ9種類アリ、其ノ中刄物類、アルミニューム製品、諸機械及附屬品、車輛製造、鈸力細工、時計、其ノ他ハ每年ノ如ク增加ノ機運ガアル。減少シタモノハ銅器青銅及眞鍮器ヲ最高トシテ其ノ外6種類デ、其ノ他ハ一進一退ノ狀態デアル。鐵管ハ昭和2年以降製造ヲ見ナイ。

價額合計ノ郡市割合ハ大阪市96.18%、堺市1.81%、三島郡0.76%、中河內郡0.55%、泉南郡0.42%南河內郡0.14%、豊能郡0.05%、岸和田市0.04%、泉北郡0.03%、北河內郡0.02%ニ該ル。

以下主ナル種類ニ付略述スレバ

銅器青銅器及眞鍮器

製造場數183、職工數777人、價額3,308,090圓デ前年ニ比シ場數37、職工數152、價額1,549,185圓(3割1分9厘)ノ何レモ減少デアル。郡市生產額ノ割合ハ大阪市94.52%、中河內郡4.07%、堺市1.41%トナツテ居ル。

鐵製鍋釜鐵瓶類

製造場數85、職工數2,438人(男2,074、女364)、價額5,051,494圓デ之等ヲ前年ニ比スルト職工數ノミ295ノ增加デアルガ、製造場數7、價額259,298圓(4分9厘)ノ各減少デアル。價額ノ郡市別ハ大阪市96.88%、堺市1.59%、中河內郡1.53%ニ當リ他郡市ニハ該當ガナイ。

刄物類

製造場數491、職工數1,207人(男1,189、女18)、價額1,870,664圓デ前年ニ比シ8,363圓(4厘)ヲ增シタ。郡市分布狀況ハ堺市56.58%、大阪市29.93%、中河內郡11.43%、南河內郡1.46%、泉北郡0.17%、三島郡0.12%、豊能郡0.11%、岸和田市、北河內郡0.09%、泉南郡0.03%トナツテ、古來刄デ名高イ堺市ハ府下ノ過半ヲ占メテ居ル。

アルミニューム製品

製造場數61、職工數1,460人(男1,217、女243)、價額8,613,797圓デ前年ニ比シ場數1、價額623,475圓(7分8厘)ノ各增加デアルガ、職工數ハ7ノ減少デアル。價額ノ郡市分布狀況ハ大阪市97.85%、堺市2.13%、南河內郡0.02%トナツテ居ル。

金銀製品

製造場數120、職工數187人(內女9人)、價額3,390,373圓デ前年ニ比シ製造場19、職工數22、價額231,828圓(6分4厘)ノ各減少ヲ示シテ居ル。價額ノ郡市割合ハ大阪市99.43%ヲ占メ最モ多ク、堺市0.26%、豊能郡0.17%、中河內郡0.06%、南河內郡0.05%、三島郡0.03%トナル。

針　金

製造場數144、職工數3,196人(男2,761女435)、價額41,973,100圓デ前年ニ較ベルト場數13、職工數91ノ各增加デアルガ價額ハ125,604圓(3厘)ノ減少デアル。價額ノ郡市分布狀況ハ大阪市98.16%、中河內郡1.83%、南河內郡0.01%ニ當リ大阪市ハ殆ンド全部ヲ占メテ居ル。

鈸力細工

製造場數747、職工數1,873人(男1,653女220)、價額4,463,453圓デ、之等ヲ前年ニ比較スルト製造場數33、職工數121ノ各減少デアルガ、價額ハ694,200圓(1割8分4厘)ノ增加トナツテ居ル。價額ノ郡市分布狀況ハ大阪市最モ多ク96.69%ヲ占メ、以下中河內郡0.64%、豊能郡0.62%、堺市、泉南郡0.33%、北河內郡0.32%、三島郡、南河內郡0.30%、泉北郡0.25%、岸和田市0.22%ノ順次トナル。

諸機械及附屬品、電氣器具

製造場數1,631、職工數17,676人(男16,974女702)價額56,590,599圓デ、前年ニ比シ製造場數165(1割1分3厘)、職工數2,777(1割8分6厘)、價額7,491,848圓(1割5分3厘)ノ何レモ增加トナツテ居ル。價額郡市分布ハ大阪市其ノ大部分ノ98.95%ヲ占メ、以下堺市(266,579圓)、岸和田市(88,850圓)、泉南郡70,880圓)、中河內郡(58,550圓)、南河內郡(40,500圓)、北河內郡(38,300圓)、三島郡(29,553圓)、泉北郡(1,520圓)ノ順位ヲ示ス。

電氣器具デハ場數338、職工數5,153人(男4,223女930)、價額18,386,302圓デ前年ニ比シ場數55、職工數725ノ各增加ヲ示スモ、價額ハ61,719圓(3厘)ノ減少デアル。價額ノ郡市分布狀況ハ大阪市87.48%三島郡12.45%、南河內郡、中河內郡0.08%、堺市0.02%トナル。

車輛製造

製造場數1,111、前年ニ比シ38ノ增加デアル。5ヶ年前ノ大正14年ヲ100トシテ指數ヲ算出スルト、昭和元年130、同2年136、同3年149、同4年154トナツテ逐年增加シテ行ク。之ヲ郡市別ニ見ルト大阪市ハ899デ8割9厘ヲ占メ、堺市ハ148デ1割3分3厘ニ當リ、中河內郡16、南河內郡11、泉南郡10、岸和田市7、豊能郡6、北河內郡7、泉北郡4トナル。

職工ハ男7,304人、女174人、計9,471人デ、前年ニ比シ530人(5分9厘)ノ增加デ、5年前ノ大正14年ニ較ベルト2,936人(4割4分9厘)ノ增加トナツテ居ル。郡市別ニ見ルト大阪市79.34%、堺市18.07%、中河內郡0.68%、泉南郡0.67%、南河內郡0.64%、北河內郡0.19%、岸和田市、豊能郡0.14%、三島郡泉北郡0.07%ニ當ツテ居ル。

價額ノ合計ハ105,775,593圓デ、前年ニ比シ49,257,645圓(8割7分2厘) ヲ増シ5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト實ニ86,453,359圓(44割7分4厘) ノ激増デアル。之ヲ種類別ニ見ルト自動車最モ多ク64.62%ヲ占メ、自動車分部品18.42%、自轉車分部品5.30%、汽罐車4.61%、 其ノ他2.97%、電車1.94%、客車1.07%、自轉車0.60%、小車、大車、小供車各0.11%、貨車0.08%、人力車、自動自轉車各0.03%ニ割合シ、 自動車ノ製造ハ本年モ著シク増加シタ。 郡市生産ノ割合ヲ見ルト大阪市95.94%、 堺市3.53%、泉南郡0.26%、南河內郡0 13%、中河內郡0.08%、豐能郡0.03%、北河內郡0.02%、岸和田市、三島郡各0.01%ニ相當シ、泉北郡ハ0.01%ニ達シナイ。

船舶製造

製造場數95前年ニ比シ2ノ減少デ、5ケ年前ノ大正14年トハ同數デアル。其ノ內大阪市ハ61デ最モ多ク岸和田市、泉南郡各8、北河內郡7、堺市6、三島郡4、泉北郡1デ需用ノ尠イ豐能、 南河內、中河內ノ各郡ニハ製造ヲ見ナイ。

職工數3,183人、內女ハ僅カニ5人、前年ニ比シ25人ノ増加デアル、大阪市ハ3,128人(9割8分3厘)ヲ占メ、岸和田市16人、北河內郡14人、泉南郡13人、堺市7人、三島郡4人、泉北郡1人デアル。

價額ハ12,926,830圓デ前年ニ比シ2,020,669圓(1割8分5厘)ノ増加デアルガ、 5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト2,146,938圓(1割4分2厘)ノ減少ニ當ツテ居ル。 之ヲ種類別ニ見ルト汽船ノ製造最モ多ク56.51%、修繕40.52%、日本型船2.09%、バツテラー及ボート0.48%、 其ノ他0.40%ニ割合シ、本年ハ風帆船ノ該當ヲ見ナイ。又コノ郡市別生産ノ割合ハ前記五種ノ內汽船、バツテラー及ボート、其ノ他ノ三種ハ大阪市ガ一手ニ引キ受ケ外ニ日本型船ノ8割5厘、修繕ハ99.96%ヲ占メ總額ハ99.58%ニ當リ、岸和田市0.15%、北河內郡0.14%、泉南郡0.06%、三島郡0.05%、堺市0.02%ニ相當シ泉北郡ハ0.01%ニ達シナイ。

化學工業

本業ニ屬スル製造場數ハ3,337デ前年ニ比シ334(1割1分1厘)、5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト694(2割6分3厘)、10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト1,799(11割7分) ノ各増加トナツテ居ル。今大正9年ヲ100トシタ各年ノ指數ヲ求メルト大正10年130、同11年140、同12年243、 同13年178、同14年172、昭和元年185、同2年201、同3年195、同4年217トナリ、大正9年最モ低ク、以降時ニ高低アルモ概シテ逐年増加ノ傾向デアル。

職工數35,970人(男7割3分8厘、女2割6分2厘)デ、前年ニ比シ5,089人(1割6分5厘、5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト5,423人(1割7分8厘)、10ケ年前ノ同9年ト比較スルト6,649人(2割2分7厘) ノ各増加ヲ示シテ居ル。コノ郡市分布ヲ見ルト大阪市74.76%、堺市6.52%、中河內郡4.83%、 泉北郡4.44%、泉南郡3.25%、三島郡2.79%、南河內郡1.29%、岸和田市1.07%、 豐能郡0.64%、 北河內郡0.42%トナル。

價額ハ251,046,555圓デ前年ニ比シ52,112,505圓(9分7厘)、5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト56,596,961圓(2割9分1厘)、 10ケ年前ノ大正9年ニ比較スルト46,972,680圓(2割3分)ノ各増加トナツテ居ル。今大正9年ヲ100トスレバ同10年66、同11年74、同12年80、 同13年92、同14年95、 昭和元年104、同2年106、同3年112、同4年123トナリ、大正10年ヲ最低トシ爾來逐増シツヽアリ。

本年中ノ化學工業總額ハ前述ノ通リ251,046,555圓ヲ數ヘ、前年ニ比較スルト22,112,505圓卽チ9分7厘ノ増加デアル。此増加ハ主ニ陶磁器外14種類ノ増加ニ因ルモノデ、硝子製品外13種類ハ却ツテ前年ヨリ減少シテ居ル。

此増加ノ中デハ其ノ他ノ9,669,780圓、染料ノ4,973,556圓、 肥料ノ2,629,696圓等ハ實數ニ於テ多イケレドモ、割合デ見ルト陶磁器ノ8割4分2厘、其ノ他ノ6割7分3厘、 染料ノ4割7分3厘、漆器ノ3割7分5厘等ガ多イ。

次ニ減少シタモノノ中デハ實數ニ於テハ煉瓦ノ1,220,258圓、塗料顏料ノ832,981圓デアルガ、割合カラ見ルト製藍ノ5割3分1厘、燐寸ノ3割8分8厘、煉瓦ノ3割8厘、 和紙ノ3割7分5厘等ガ最モ大キイ方デアル。價額總計ヲ種類別ニスルト醫療藥品實藥ガ最モ多クテ11.85%ヲ占メ、 次ハ其ノ他9.57%、工業用藥品9.13%、肥料8.99%、硝子製品 7.51%、化粧品 7.33%、染料6.17%、西洋紙 5.06%、石鹼5.02%等ガ之ニ亞イテ多數ヲ占メテ居ル。

陶磁器

製造場數40、前年ニ比シ1ノ増加デアル、其ノ中大阪市23、泉南郡6、堺市4、 中河內郡、北河內郡各3、南河內郡1デアル。職工數ハ男653人、女68人(9分4厘)計721人デアル。

本燒窯數ハ24デ前年ヨリ4、室數ハ56デ前年ヨリ5ノ各増加デ、 前年北河內郡ニノミ1アリシ錦窯モ本年ハ大阪市2、泉南郡4、北河內郡1トナリ6ノ増加トナル。

素燒窯ハ最モ多ク56ヲ數ヘ、前年ニ比シ1ヲ増ス。

價額合計ハ2,514,856圓デ、前年ニ比シ58,175圓(2分3厘) ノ減少ニ當ル。製造品中最モ多キハ總額ノ4割5分6厘ヲ占メル工業用品デ碍子之ニ亞キ4割5分4厘、其ノ他7分8厘、飲食用器物、家具及裝飾品ハ各6厘ニ割合スル。コノ價額ヲ郡市別ニ見ルト泉南郡過半數ヲ占メテ52.72%、 大阪市27.73%、中河內郡19.32%、堺市0.14%、北河內郡0.09%、南河內郡0.01%等ニ割合ス。

硝子製品

製造場數1,419、前年ヨリ13ノ減少デアル、內泉北郡ハ1,015(7割1分5厘)ノ多數ヲ占メ、大阪市305(2割1分5厘)、中河內郡69(4分9厘)、堺市11、南河內郡10、岸和田市5、泉南郡2、三島郡、豐能郡各1ノ狀態デアル。職工數10,104人(男8,205、女1,899)デ前年ニ比シ591人(5分5厘) ノ減少ニ當ツテ居ル。

熔融窯ヲ見ルト槽窯16、坩堝窯ノ瓦斯窯28、其坩堝數218、又直火窯ノ窯數450、 其坩堝數1,209トナツテ居ル。

槽窯ハ前年ニ比シ4ヲ、 瓦斯窯數ハ17ヲ各減ジタガ瓦斯窯坩堝數ハ1ノ増デアル、 又直火窯ハ窯數42坩堝數142ノ各減少ヲ示シテ居ル。

價額ハ18,843,398圓デ、前年同一事實ニ比シ150,672圓(8厘)ノ減少デアル。製品七種中壜類其ノ他ハ増加シタガ、他ノ五種品ハ何レモ減少デアル。 又大正14年以降5ケ年間ノ大体ノ製造價額ヲ比較シテ見ルト其ノ他ハ年々増加ノ傾向アルモ、板硝子ハ漸減ヲ示シ、他ノ五品ハ一高一低ノ有樣デアル。其等ノ總價額ニ對スル割合ハ壜類39.21%、燈火用品21.85%、食器類12.13%、其ノ他11.48%、珠玉及光珠10.88%、腕輪4.38%、板硝子0.07%トナル。更ニ之ガ郡市分布狀況ヲ見ルト大阪市85.35%、泉北郡6.28%、三島郡2.56%、堺市2.47%、中河內郡1.61%、南河內郡0.85%、岸和田市0.54%、豐能

郡0.18%、泉南郡0.16%ノ割合トナツテ居ル。

セメント、コークス

セメント製造場3、内大阪市2、泉北郡1デ前年ト同數デアル。職工741人(内女58人)ノ内大阪市740人ヲ占メ、泉北郡ハ僅カニ1人デアル。

價額ハ7,260,638圓デ前年ニ比シ1,506,745圓(2割6分2厘)ノ増加ニテ年々増加ノ傾向デアル。

大阪市ノ産額ハ7,260,568圓デ、泉北郡ハ僅カニ70圓ニ過ギナイ。

コークス製造場29、職工數555人(内女33人)、前年ニ比シ製造場2、職工數31ノ何レモ減少デ、價額ハ4,060,757圓デ前年ニ較ベ之ホ208,154圓(4分9厘)ノ減少ヲ示シテ居ル。之ガ郡市生産狀況ヲ見ルト大阪市97.10%、堺市2.59%、岸和田市0.31%ニ該當ス。

煉 瓦

製造場數27、前年ニ比シ1ノ増、職工數ハ932人(男733、女199)デ前年ニ較ベ206人(1割8分1厘)ノ減少デアル。職工數ヲ郡市別ニ見ルト岸和田市ハ286人デ30.69%、泉南郡29.29%、大阪市26.61%、堺市9.98%、中河内郡1.61%、泉北郡1.07%、三島郡0.43%、北河内郡0.32%トナツテ居ル。

生産額1,991,641圓デ、前年ニ比シ1,220,258圓(3割3分)ノ減少デアル。大正14年ヲ100トシ以降5ケ年間ノ指數ヲ求メルト昭和元年73、同2年69、同3年93、同4年57トナリ、即チ昭和3年迄ハ一高一低ノ有樣デアルガ本年ハ大ナル減少ヲ示シテ居ル。又産額ヲ製品別ニ分ツテ見ルト普通最多デ4割3分5厘其ノ他2割8分1厘、耐火2割8分、張附4厘ニ割合ス、而シ耐火張附ハ大阪市バカリデ他郡市ニハ生産ハナイ。又郡市別ニ見ルト大阪市最多デ43,87%ヲ占メ、以下泉南郡26.48%、岸和田市20.33%、堺市7.70%、泉北郡0.90%、中河内郡0.48%、三島郡0.13%、南河内郡0.10%ノ順位トナツテ居ル。

西洋紙

製造場數大阪市8、堺市、三島郡各1、計10デ、前年ニ比シ1ノ増デアル。資本金ハ405萬圓デ前年ニ比シ15萬圓ノ増加デアル。原動力機關數ハ電力126、蒸汽24デ前年ニ比シ前者ハ19、後者ハ2ヲ各増加シタ。職工數ハ1,640人、(男1,136人、女504人)、デ前年ニ比スルト男60人ノ増加、女ハ9人ノ減少デアル原料需要高14,872,871貫ノ内最モ多ク用ヒラルヽノハ其ノ他ノ3割1分2厘、次ハ木質繊維ノ亞硫酸木原質ノ3割1厘、稻藁ノ2割5分、櫻稜ノ1割3分、木質繊維ノ碎木原質ノ6厘デ木質繊維ノ曹達木原質ハ皆無デアル。

價額ハ12,707,956圓デ前年ニ比シ1割3分8厘、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト2割5分5厘ノ各増加デアル、尙逐年ノ増減ヲ見ル爲大正14年ヲ100トスル指數ヲ算出スルト、昭和元年123、同2年1 9、同3年110、同4年126トナツテ居ル。

之ヲ種類別ニ見ルト印刷原紙最モ多ク總額ノ3割8分2厘ヲ占メ、煙草用紙3割4分5厘、ボール紙1割2分9厘、其ノ他1割4分4厘ニ當ツテ居ル、更ニ之ヲ郡市別ニ見ルト大阪市最高デ70.83%、三島郡22.85%堺市6.32%ニ相當ス。

製 革

製造場數45、職工數322人(内女2)、前年ニ比シ場數5、職工數27ノ各減少デアル。

價額ハ3,518,579圓デ、前年ニ比シ55,112圓(1分6厘)ノ減少ヲ示ス。種類別デハ牛革ガ最モ多ク9割3分2厘ヲ占メ、馬革4分7厘、其ノ他2分1厘トナル。其ノ生産ヲ郡市別ニ見ルト大阪市98.77%、三島郡0.74%、南河内郡0.49%デアル。

植物油

製造場數37デ前年ヨリ1ヲ減ズルモ、職工數ハ1,009人(内女60)デ前年ヨリモ21人ヲ増シタ。職工數ヲ郡市別ニ見ルト大阪市ハ551人デ54.61%ニ當リ、中河内郡19.82%、堺市14.37%、南河内郡10.11%三島郡、北河内郡各0.40%、泉南郡0.30%等ニ當ル。

生産價額ハ11.385,328圓デ前年ニ比シ7分6厘、5ケ年前ノ大正14年ニ較ベ3分9厘ノ各増加トナツテ居ル、前年迄ハ其ノ全部ガ脂肪油デアツタガ、本年ハ脂肪油9割9分5厘、揮發油5厘ノ割合トナツテ居ル之ヲ細分シテ割合ヲ求メルト、菜種油3割3厘、棉實油2割3分、亞麻仁油1割6分9厘、其ノ他1割2分8厘椰子油7分9厘、荏油5分3厘、落花生油1分6厘、胡麻油1分3厘、大豆油5厘、松精油4厘ニ當リ、椿油、松根油ハ1厘ニモ達シナイ。

次ニ郡市生産狀況ヲ見ルト大阪市58.34%、堺市16.64%、南河内郡13.48%、中河内郡11.02%、三島郡0.29%、泉南郡0.15%、北河内郡0.08%トナル。

工業品藥品

製造場數86、其ノ内大阪市69、堺市10、中河内郡4、三島郡、泉北郡、泉南郡各1デ、前年ニ比シ10.5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト29ノ各減少トナツテ居ル。職工數ハ2,485人(内女191人)デ前年ニ比シ174人ノ減少デアル。製品價額合計ハ22,917,486圓デ、前年ニ比シ3分ノ増加ニテ5ケ年前ノ大正14年ニ較ブレバ3割5分5厘ノ増加トナツテ居ル。價額ヲ製品別ニ分ツテ見ルト硫酸3割ヲ占メ、其ノ他1割9分5厘、亞鉛華1割1分9厘、砒酸鉛7分7厘、光明丹4分4厘等ハ何レモ100萬圓以上ノ産額ヲ持ツテ居ル。

郡市別ニ之ヲ見レバ大阪市ハ78.18%ヲ占メ、堺市19.12%、三島郡1.82%、中河内郡0.75%、泉南郡0.09%、泉北郡0.05%ニ當ル。

セルロイド

製造場數112、前年ヨリ12ノ増加デアル。職工數2,004人(内女451)デ前年ヨリ53人ノ減トナル。今大正14年ヲ100トシ指數ヲ求メルト、昭和元年116、同2年101、同3年120、同4年116トナリ、大正14年低ク爾來一高一低ノ有樣デアル。

生産總額ノ内素地ハ5,441,943圓(6割8厘)製品3,507,233圓(3割9分2厘)デアル。製品ヲ更ニ細分スルト其ノ他2,243,576圓(6割4分)、髮飾品595,131圓(1割7分)、刷子柄256,713圓(7分3厘)、カラー229,386圓(6分5厘)、ケース158,975圓(4分5厘)、眼鏡枠23,452圓(7厘)ノ順次トナル。

又之等ノ生産ヲ郡市別ニ見ルト素地ノ生産ハ堺市(6割1厘)、大阪市(3割2分)ガ多ク、製品デハ大阪市68.38%デ他郡市ヲ遙ニ凌イデ居リ、以下中河内郡14.61%、堺市8.34%、豐能郡5.82%、泉南郡2.00%、南河内郡0.71%、北河内郡0.14%ノ順位トナル。

ゴム製品

製造場數123、前年ニ比シ1、5ケ年前ノ大正14年ニ較ベ9ノ各増加デアル。職工數3,629人(内女1,477)デ前年ニ比シ572人、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト913人ノ各増加トナツテ居ル。

價額ハ11,630,377圓デ前年ヨリモ892,224圓(8分3厘)、5ケ年前ノ大正14年ヨリモ1,296,901圓(1割2分

6厘)ノ増加ヲ示シテ居ル。

製品中靴4,458,388圓(3割8分3厘)デ首位ヲ占メ以下其ノ他2,615,997圓(3割1分1厘)、自轉車タイヤデューブ1,907,654圓(1割6分4厘)、 調帶ホース1,264,253圓(1割9厘) 足袋底214,507圓(1分8厘)、水枕169,578圓(1分5厘)ノ順位ヲ示シテ居ル。

化粧品

場數66、前年ヨリ2ヲ増ス、職工數ハ1,492人(男386、女1,106)デ前年ニ比シ136人ノ増加デアル。

價額ハ18,404,847圓デ前年ヨリ122,418圓(7厘) ヲ減ジタガ、 5ケ年前ノ大正14年ヨリモ2,074,779圓(1割2分7厘)ヲ増シタ。之ヲ種類別ニ見ルト白粉ガ最モ多ク、 總額ノ2割5分3厘ヲ占メ、次ハ齒磨2割4分2厘、クリーム2割1厘、其ノ他1割4分3厘、洗粉5分9厘、化粧水5分6厘、香油1分ニ各相當ス。

石鹸

製造場數97、職工數1,184人デ前年ニ比シ製造場數7、 職工3ノ増加デアル。價額ハ12,610,369圓デ前年ニ比シ1,711,947圓(1割5分7厘)、5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト3,727,801圓(4割2分)ノ何レモ増加デアル。其ノ大部分ハ化粧用デアツテ全額ノ7割1分8厘ニ當ル。洗濯用其ノ他ハ2割6分2厘、工業用ハ2分デ化粧用及洗濯用其ノ他ハ逐年増加ノ傾向デアルガ、工業用ノミ本年ハ減少シテ居ル。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市99.11%デ殆ンド全部ヲ占メ他ノ郡市ハ僅少デアル。

蠟燭

製造場數28、昨年度ヨリ1ヲ減ス、職工數304人、 前年ヨリ22ノ減少デアル。價額ハ3,326,931圓デ之亦前年ニ比シ594,355圓(1割5分1厘)ノ減少ニ當ツテ居ル。西洋型全盛デ日本型ハ僅ニ1分1厘ニ過ギナイ。

飲食物工業

一名東洋ノマンチエスタート呼バレテ居ル大大阪ノ工業總說ニ付テハ既ニ述ベタ通リデ、之レカラソノ一部デアル飲食物工業ノ概略ヲ述ベヤウ。

諸種ノ工業中飲食物工業ノ地位卽チ他ノ化學、染織、機械工業等ニ比ベテドンナ工合デアルカ、先ヅ製造場數ハ12,788(昭和四年末)デ、五大分類中第二位總數ノ2割2分7厘デアルガ、職工數ハ僅カニ22,953人デ總數ノ7分2厘)ニシカ割合シナイ程少シデアツテ、他ノ工業ト比較ニナラナイ位デアル。價額モ亦極ク僅カデ129,706,034圓デ、總額ノ7分ニ割合シテ最下位ヲ占メテ居ル。以上述ベタ事ニ依ツテ本工業ハ他ノ工業ト異ナツテ、場數ハ非常ニ多イガ、職工數生產額ハ極ク少シデ生產設備、生產能力等ノ規模ガ少サイト云フ事ガ了解出來ヤウ。又之ノ現象ハ一面工場法ノ適用ヲ受ケル工場バカリヲ調ベル工場調査ノ結果ニ依ル飲食物製造工場數ガ343ノ少數デアル事ニ依ツテモ明カデアル。

次ニ製造場數、職工數、生產額等ヲ時間的ニ比較スルト、 製造場數ハ12,788デ前年ニ比ベ608(5分0厘)ノ増。10ケ年前ノ大正九年ノ事實ニ比ベルト7,247(13割8分)ノ大増加デアル。 職工數22,953人內男17,889人(7割8分9厘)女5,064人(2割1分1厘)デ、 之ヲ前年ノ事實ニ比ベルト52人(2厘)ノ増、 10ケ年前ノ大正九年ノ事實ニ比較スルト15,368人(20割2分6厘)ノ大増加デアル。

尙價額129,706,034圓ヲ前年ニ比ベルト5,067,972圓(3分8厘)ノ減、10ケ年前ノ大正九年ノ事實ニ比ベ

20,451,131圓(1割8分7厘)ノ増加デアル。今之等製造場數、職工數、 生產額等ヲ總括的ニ前年ト比較觀察スルト工場數、職工數ハ多少増シテ居ルガ、價額ハ却ツテ減ツテ居ル、翻ツテ大正九年カラ觀タ増加ノ狀態ハ製造場數デハ二倍以上職工數デモ二倍以上ニ相當シ實ニ素晴シイ増加ヲ示シテ居ルガ、價額ノ増加ノ割合ハ前ニモ述ベタ樣ニ僅カ1割8分7厘ノ少シデアルコトハ、 申ス迄モナク近年財界不況ノ爲一般物資ノ著シイ下落ノ爲デアル、 尙大正九年以降ノ過程ヲ明ラカニ示ス爲大正九年ヲ100トシタ指數デ各年ノ狀況ヲ表シマスト

	大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	同二年	同三年	同四年
製造場數	100	152	81	170	178	189	210	212	220	231
職工數	100	163	229	267	275	289	285	269	302	303
生產額	100	105	92	109	127	119	119	114	123	119

デ大正十一年ハ樣式改正ノ結果場數、價額ハ激減シテ居ルガ、以後場數職工ハ同ジ樣ニ増加シ、而乍ラ價額ハ大正13年ガ最高デ、場數、職工數等ト同ジ樣ニ増加シテキナイ。次ニ生產額ノ地理的分布ノ狀態卽チ各市郡分布ノ割合ニ付テ考察スルト、大阪市79.19%デ大部分ヲ占メ、 次ハ三島郡9.22%、堺市4.02%、泉南郡2.70%、南河內郡1.34%、豊能郡1.22%、中河內郡0.93%、北河內郡0.55%等デ岸和田市ノ0.46%ハ最モ少ナイノデアル。尙生產物ノ種類ニ依ツテ主ナルモノヲ揭ゲルト砂糖ガ首位デ總額ノ19.99%ヲ占メ、次ニ酒類18.79%、煙草18.66%、菓子類11.13%デアル、又一面本年著シイ價額ノ減ツタモノト反對ニ増シタモノトヲ區別シテ觀ルト、27種類中、清凉飲料水外十一種類ハ増シテハ居ルガ酒類ノ外14種類ハ減ツテ居ル。以下生產額百萬圓以上ノモノニ付テ述ベルト。

味噌

製造場數83、職工數341人、內男327人、女14人、生產者ハ2,835,129貫之ニ對スル價額ハ1,701.067圓デアル。之等ヲ前年ノ事實ニ比ベルト製造場數デハ1(1分)ノ増、職工數27人(8分5厘)増、生產數量477.780貫 (2割2厘)ノ増、價額44,858圓(2分7厘)ノ増加デアル。 1貫目ニ付價格ハ前年70錢デアツタガ本年60錢トナツテ居ル。 次ニ郡市分布ノ狀態ヲ觀ルト大阪市大部分ヲ占メテ93.28%デ、 以下堺市3.03%、三島郡2.27%等ハ多イ方デアル。 尙之ヲ種類別ニ示スト最モ多イノハ白味噌デ總產額ノ4割2分5厘ニ當リ、次ハ辛味噌4割1分1厘デ、甘味噌ハ僅カニ總額ノ1割6分4厘デアル。

煙草

昭和四年中大阪地方專賣局デ製造サレタ煙草總額ハ24.199 821圓デアル、其ノ內紙卷煙草2,669,680本之ニ對スル價額ハ21,198,420圓、總額ノ8割7分6厘デ、 刻煙草ハ176,548貫、價額ハ3,001,401圓、總額ノ1割2分4厘デアル。尙之等ヲ種類別ニ示スト、 昨年ハ御大典記念煙草トシテ昭和ガ製造サレタガ、大阪地方專賣局デハ每年敷島、朝日ノ二種類デ刻煙草デハ白梅、櫻壽草、富貴煙、さつき、あやめ、はぎ、なでしこノ7種類ガ製造サレルノデ、之等ノ中デ主ナルモノハ朝日デ1,885,800本之ニ對スル價額ハ14,143,500圓デ、總額ノ5割8分4厘ヲ占メ、昨年ニ比ベテ見ルト1,311,750圓(1割2厘)ノ増加デアルガ、總額デハ709,541(2分8厘)ノ減少デアル。

今五ケ年前ノ大正14年ヲ100トシテ増加ノ狀態ヲ示スト、昭和元年85、同二年92、同三年103、同四年100デアル。

砂糖

製造場數38搾車數ハ23、製造高130,548,964斤價額ハ25,924,160圓デアル。今之等ヲ前年事實ト比較對照スルト製造場數ニ在ツテハ20(9割4分5厘)ノ大減少デアルガ搾車數ハ2(9分5厘)ノ增加、製造高6,135,593斤(4分5厘)ノ減少、價額ハ1,311,074圓(4分8厘)ノ減少デ、製造高、價額等ハ略ボ同率デ減ツテ居ル。而シテ生產設備デハ製造場數著シク減ジ、搾車數ハ之ト反對ニ增シタノハ一考ニ價スル現象デアル。次ニ製品ノ種類ニ依ツテ觀察スルト精製糖最モ多クテ23,295,466圓デ總額ノ9割9分9厘ヲ占メ、次ハ氷砂糖、角砂糖11,042,191圓デ總額ノ4分、白下ハ1,003,259圓、總額ノ3分9厘、粗糖530,490圓、總額ノ 分、黑砂糖39,940圓、總額ノ1分5厘、赤砂糖8,934圓總額ノ3厘其ノ他3,880圓總額ノ1厘等ニ割合シテ居ル。尙之ヲ郡市別ニ觀ルト大阪市ハ大部分ヲ占メテ99.96%、他ハ泉北郡、泉南郡南河內郡等ニホンノ少シナル丈デアル。

各種飲食物

飲食物工業中特ニ本府デハ府令ニ基イテ每年各種飲食物調査ヲ行ツテ居ル。本年ノ調査ニ依ルト製造場數7,019、職工數19,492人、內男15,973人(8割1分9厘)、女3,519人(1割8分1厘)、價額ハ66,746,416圓デ之等ヲ前年(昭和三年)ノ事實ト比ベルト、製造場數デハ708(1割1分2厘)ノ增加デ、又職工數モ395人(2分1厘)ノ增加ナルモ、價額ハ一般物價ノ下落ノ影響ヲ受ケテ3,310,613圓(4分7厘)ノ減少トナツタ。

今大正14年ヲ100トシタ指數デ價額ノ消長ヲ表ハスト、昭和元年106、同二年113、同三年147、同四年140ニ當ツテ居ル。尙價額ノ郡市分布ノ割合ヲ示スト大阪市最高デ64.66%、次ニ三島郡16.57%、堺市7.48%、泉南郡3.48%、南河內郡2.56%、豐能郡1.54%、中河內郡1.39%、北河內郡0.56%等デアル。次ニ主ナル種類ノモノヲ揭ゲルト菓子類14,441,57圓デ總額ノ2割1分6厘ニ割合シテ居ル。以下ビールハ9,350,362圓デ總額ノ5分1厘ニ割合シ、又醬油ハ2,452,632圓デ總額ノ3分7厘ニ割合シテ主ナルモノデ、他ノモノハ少額デアル。

雜工業

大大阪ノ諸種ノ工業中本工業ノ製造場數ハ26,212(昭和4年末)デアツテ、六大分類中首位ヲ占メテ4割6分4厘ナルモ、職工數ハ64,726人(內男7割6分女2割4分)デ第二位ヲ占メテ2割2厘デアル。又工產物總價額(特別工業モ含ム)カラ觀ルト182,143,329圓デ第四位ヲ占メテ1割1分2厘ニ當ツテ居ル、之ノ現象ハ既ニ飲食物工業デ述ベタノト同ジ樣ニ、他ノ化學、機械、染職工業等ト異ナツテ生產設備、生產能力等ノ規模ノ少サイ點ヲ意味スルモノト思ハレル。

次ニ製造場數、職工數生產額等ヲ前年ノ事實ナリ又10ケ年前ノ大正九年ノ事實ナリト比ベルト

(△印ハ減)	製造場數			職工數			生產額		
	增	減	割合	增	減	割合	增	減	割合
昭和三年ト比較	474		1分8厘	1,168		1分8厘	9,552,939		5分2厘
大正九年ト比較	5,069		2割4分	4,485		7分4厘	98,783,001		1割8分7厘

デアル。之ニ依ルト本年ハ前年ニ比ベテ製造場數ナリ、職工數ナリ、又生產額ナリガ皆共ニ增加シテ居ルガ大正九年ト比ベルト製造場數デハ2割4分、生產額デハ1割8分7厘ト云フ大增加振デアルガ、職工數ハ僅カ7分4厘ノ少增加ニ過ギナイノハ勿論物價ノ變動モアルガ之ハ主トシテ生產機關ノ進歩シタ結果ト觀テ支障ナカラウト思ハレル。尙各年ノ消長ヲ極メン爲大正九年ヲ100トシテ示スト

	大正九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	同二年	同三年	同四年
製造場數	100	138	104	114	114	105	115	124	122	124
職工數	100	118	96	109	114	107	85	97	105	107
價額	100	132	149	149	195	198	228	196	207	219

デアルガ前說ノ樣ニ各年共職工ノ增加ハ著シクナイ。

次ニ生產額ヲ地理的分布ノ狀態ニ依ツテ考察スルト大阪市87.67%、堺市7.03%、中河內郡1.50%、南河內郡0.95%、三島郡0.90%、泉南郡0.72%、泉北郡0.40%、豐能郡0.32%、北河內郡0.26%、岸和田市0.25%等デアル、以下生產額百萬圓以上ノモノニ付イテ項ヲ追フテ述ベルト。

文具

製造場數131、職工數908人、內男552人(6割8厘)、女356人(3割9分2厘)、生產額1,375,450圓デアル。之等ヲ前年ノ事實ト比ベルト製造場數デハ16(1割3分9厘)ノ增加、職工數ハ又133人(1割7分2厘)ノ增加デアルガ、價額ハ272,533圓ノ減少デアル、之ヲ割合カラ觀ルト前年ニ比ベテ1割6分5厘ト云フ素晴シイ減少デ、生產額百萬圓以上ノ中デハ第一位ノ減少振デアル。

尙生產額ノ郡市分布ノ狀況ヲ述ベルト大阪市97.72%デ殆ンドヲ占メテ他ハ堺市、岸和田市、南河內郡、中河內郡、等ニ極ク僅カアルダケデアル。

製本印刷

製造場數1,197、職工數9,962人、內男8,761(8割7分9厘)女1,201人(1割3分1厘)生產額53,747,278圓デ之等ヲ前年ノ事實ト比較スルト、製造場數デハ57(5分)ノ增加、職工數ハ又125(1分3厘)ノ增加ナルモ價額デハ4,074,003圓(7分)ノ減少ヲ示シテ居ル、而シ製本印刷ハ雜工業中最モ產額ガ多クテ總額ノ2割9分5厘ヲ占メ第一位デアル。尙郡市分布ノ割合ハ大阪市99.40%デ殆ンド全部ヲ占メ、他ハ泉北郡ヲ除ク全部ノ郡市ニ少シヅツアル。

紙製品

本年製造場數940、職工數3,762人、內男2,379人(6割3分2厘)、女1,383人(3割6分8厘(生產額7,828,636圓デ、之等ヲ前年ノ事實ト比ベルト製造場ハ75(8分7厘)ノ增加、職工數ハ35人(9厘)ノ增加、又生產額モ378,834圓(3分7厘)ノ增加デアル。次ニ郡市分布ノ狀態ヲ述ベルト大阪市93.54%、三島郡3,04%、堺市2,08%等デ他ノ市郡ハ比較ニナラナイ程少額デアル。

木製品

製造場數4,414、職工數9,781人、內男9,090人(9割2分9厘)女691人(7分1厘)、生產額15,228,132圓デアル之等ヲ前年ニ比ベルト製造場ハ81(1分8厘)ヲ減少シタガ職工數ハ168(1分8厘)ノ增加デアリ、價額モ252,989圓(1分7厘)ノ增加デアル、製造場ハ減ツテイルガ職工數 價額ハ同ジ樣ニ增加シテ居ル。

木製品ハ我ガ大大阪ノ雜工業中第三位デアツテ總額ノ8分4厘ヲ占メテ居ル。今郡市ノ割合ヲ述ベルト大阪市73.03%、堺市11.50%、三島郡3.95%、南河內郡3.88%等ハ多イ方デアル。尙之等ヲ製品別ニ觀ルト指物ノ5,332,277圓ガ最モ多クシテ總額ノ3割5分ヲ占メ、次ハ箱類3.629.385圓(2割3分8厘)、

其ノ他3,320,205圓(2割1分8厘)梳物1,418,199圓(9分3厘)等ハ主ナルモノデ、他ノ履物素地、曲物、、桶樽類、木箒等ハ小額デアル。

疊其ノ他敷物

製造場數778、職工數1,174人、內男1,130人(9割6分2厘)、女44人(3分8厘)生產額1,337,428圓デ、之等ヲ前年ノ事實ト比ベルト製造場デハ59(8分2厘)增加デ、職工モ18人(1分5厘)ノ增加デアルガ、生產額デハ反對ニ133,429圓(9分1厘)ノ減少デアル。之レハ申ス迄モナク一般物價ノ下落ニ伴フ影響デアロウト思ハレル。

次ニ郡市分布ノ割合ハ大阪市77.36%ヲ占メテ第一位デアリ、第二位ハ泉北郡5.03%、以下中河內郡3.30、三島郡2.33%等ハ主ナルモノデ、他ノ市郡ハ極タ少數デアル。

履物及其部分品

製造場數1,404、職工數2,459人、內男1,617人(6割5分8厘)、女842人(3割4分2厘)生產總額2,872,190圓デアル、之等ヲ前年ニ比ベルト、製造場デハ110(9分5厘)ノ增加デ、職工モ68人(2分8厘)ノ增加デアルガ、生產額ハ却ツテ293,119圓(9分3厘)ノ減少デアル。此ノ現象モ疊其ノ他敷物デ述ベタト同ジ樣ニ打チ續ク財界ノ不況ニ伴フ一般物資ノ下落ノ影響デアラウ。次ニ生產額ノ郡市分布ノ狀況ニ付テ述ベルト、大阪市82.59%、泉南郡5.73%、堺市ノ5.12%等ハ多イ方デ、他ノ市部ニハ少シ該當アルダケデアル。

尙之等ノモノヲ製品別ニ觀ルト鼻緒ガ最モ多クシテ900,629圓、總額ノ3割1分4厘デ、次ハ下駄ノ722,047圓(2割5分1厘)、草履443,852圓(1割5分5厘)等ハ主ナルモノデアル。

帽 子

製造場數241、職工數1,645人內男1,100人(6割6分9厘)、女545人(3割3分1厘)、生產額422,344打之ニ對スル價額ハ4,741,907圓(工賃モ含ム)デアル。之等ヲ前年ノ事實ニ比ベルト製造場デハ27(1分1厘)ノ減デ職工モ271人(1割4分1厘)ノ減少デアルガ、生產數量デハ反對ニ2,522打(6厘)ノ增加デアル。尙價額ハ789,314圓ノ著シイ減少デアルガ、本工業ノ生產額百萬圓以上ノモノ中デハ第二位ノ減少デ1割5分ニ當ツテ居ル。次ニ郡市分布ノ割合ヲ觀ルト大阪市最高デ98.74%ヲ占メテ居リ、次ハ堺市ノ1.10%デ以下岸和田市0.15%、三島郡ハ僅カニ0.01%等デ他ノ市郡ハ皆無デアル。製品中主ナルモノヲ示スト、フエルト製ノ2,381,789圓デ總額ノ5割2厘ヲ占メ、次ハ羅紗「セルヂ」及其ノ他布帛製デ1,428,453圓デ總額ノ3割1厘デアル。

刷子及刷毛

製造場數405、職工數2,113人、內男1,194人(5割6分5厘)、女919人(4割3分6厘)生產額3,728,951圓デアル。之ヲ前年ニ比ベルト製造場デハ1(2厘)ノ減少、職工數モ198人(3分6厘)ノ減少デアル、又生產額モ393,378圓(9分5厘)ノ減少デアル。尙生產額ニ付テ郡市分布ノ割合ヲ述ベルト大阪市80.20%、中河內郡14.11%、南河內郡3.34%等ハ多イ方デアリ、他ノ市郡ハ極ク僅カデアル。製品中齒磨用ノ2,677,483圓ガ最モ多ク總額ノ7割1分8厘ヲ占メテ居ル。

釦

製造場數273、職工數1,599內男1.091人(6割8分2厘)、女508人(3割1分8厘)、生產額2,437,546圓デアル。今之等ヲ前年ノ事實ニ比較シテ見ルト、製造場デハ13(4分8厘)ヲ減ジ、職工ニ於ケルモ亦12人(8厘)ノ減少デ、又生產額モ111,688圓(4分6厘)ノ減少デアル。次ニ生產額ノ郡市分布ノ割合ヲ示スト大阪市63.27%、中河內郡20.89%、堺市9.27%、南河內郡5.26%、泉北郡1.31%等デアル。尙製品中最モ多イノハ貝殼製ノモノデ1,086,530圓デ總額ノ4割4分6厘ニ當ル。次ハ金屬製デ751,402圓(3割8厘)デ甲角其ノ他ハ599,614圓(2割4分6厘)等デアル。

竹製品

製造場數887、職工數1,745人內男1,001人(5割7分4厘)、女744人(4割2分6厘)、生產額1,192,567圓デアル。之等ヲ前年ノ事實ニ比較スルト製造場デハ35(4割1分)ノ增加、職工モ141人(8分8厘)ノ增加、價額モ868圓(1分)ノ增加デ、財界不況ノ折柄喜バシイ現象デアル如クナルモ製造場、職工、價額等ノ增加率ガ甚シイ隔ノアルノハ良イ方向ヲ示シテ居ルトハ思考ガ出來ナイ。今生產額ノ各市郡分布ノ有樣ヲ述ベルト大阪市40.86%、南河內郡40.06%、豐能郡5,51%、泉南郡3,51%、堺市2,45%、北河內郡2,19%、三島郡1,83%、岸和田市1,22%、泉北郡1,22%、中河內郡1,15%等ニ當ツテ居ル、尙製品ノ主ナルモノヲ示スト箒及笊最モ多クシテ481,126圓總額ノ4割3厘デ、次ハ籠ガ361,421圓デ總額ノ3割3厘ニ當ツテ主ナルモノデアル。

玩 具

製造場數312職工數1,099人、內男676人(6割1分5厘)、女423人(3割8分5厘)、生產額1,412,134圓デアル。之等ヲ前年ノ事實ニ比ベルト製造場ハ39(1割4分3厘)ノ增加、職工ニ於ケルモ86人(9厘)ヲ增加シ生產額モ124,882圓(9分7厘)ノ增加デ不況ノ折柄喜バシイ現象デアル。次ニ生產額ノ郡市分布ノ狀態ヲ觀ルト大阪市91,17%デ大部分ヲ占メ、次ハ中河內郡ノ5,82%ハ多イ方デ、他ハ豐能郡、泉南郡、南河內郡北河內郡等ニ少シ該當アル丈デアル。

樂器類

製造場數114、職工數302人、內男219人(9割9分)女3人(1分)デ極ク少シデアル、生產額ハ1,190,474圓デアル。之等ヲ夫々前年ノ事實ニ比ベルト製造場ハ16(1割6分3厘)ヲ增加シ、職工73人(3割1分9厘)ヲ增シ、生產額694,160圓(13割9分9厘)ノ素晴シイ增加デアリ、近年財界不況ノ爲產業界ハ不振ノ狀況ニアルガ、樂器類ノ此ノ奇現象ハ、社會生活乃至精神生活ノ向上ニ伴ツテ必然的ニ起ルトコロノ文化要求ノ昂クナツテ來タ等デアラウ。今生產額ノ郡市分布ノ割合ヲ述ベルト大阪市99,06%デ殆ンド全部ヲ占メ、他ハ堺市ト南河內郡トニ少シアルダケデハアル。

洋 服

製造場數1,179、職工數3,025人內男2.48%(8割2分)女545人(1割8分)生產高2,828,540圓デアル。今之等ヲ前年ニ比較スルト製造場ハ22(1分9厘)ヲ增加シ、職工69人(2分3厘)ヲ增加セルガ、生產額ハ反對ニ152,551圓(5分1厘)ノ減少デアル。尙生產額ニ付テ郡市分布ノ割合ヲ述ベルト、大阪市88.97%、堺市4,93%、岸和田市2,00%、南河內郡1,41%、三島郡1,10%等ハ主ナルモノデ、他ノ市郡ハ極ク少シデアル。

皮革製品

製造場數607、職工數1,719人內男1,648人(9割5分9厘)女71(4分1厘)生產額3,624,044圓デアル。之等ヲ前年ニ比ベルト製造場ハ66(9分8厘)ヲ減少シ、職工數ニ於ケルモ335人(1割6分4厘)ヲ減少シ、又生產額モ611,136圓(6分6厘)ノ減少デアル。次ニ生產額ニ付テ郡市分布ノ割合ヲ示スト大阪市94.63%、三島郡3.18%等ハ多イ方デ、他ノ郡市ハ少シデアル。尙製品中主ナルモノハ調革4,204,695圓デ總額ノ(4割8分8厘)ヲ占メテ居ル。次ハ靴ノ3,044,990圓デ總額ノ3割5分3厘デアル。

洋傘及其部分品

製造場數246職工數926人內男726人(7割8分4厘)女200人(2割1分6厘)、生產額1,475,779圓デアル。今之等ヲ前年ノ事實ニ比ベルト、製造場數43(1割4分9厘)ヲ減少シ、職工數181人(1割6分4厘)ノ減、價額ニ於ケルモ190,861圓(1割1分5厘)ノ減少デアル。不況ニ伴フ物資下落ノ爲雜工業中第三位ノ減少振デアル。次ニ郡市分布ノ割合カラ觀ルト大阪市ガ最多デ93.64%ヲ占メテ居リ、次ハ中河內郡ノ5.64%デ、他ノ泉北郡、泉南郡、南河內郡等ニハ少シアル。之ヲ製品別ニ述ベルト洋傘ハ斷然朱子張ガ多クシテ334,485圓デ總額ノ2割2分7厘ヲ占メテ居ル、以下絹張、其ノ他ノ張等デアル。次ニ部分品デハ骨最モ多クシテ348,454圓デ總額ノ2割3分6厘ニ割合シ、他ハ柄、其ノ他、把子ノ順位デアル。

石綿及其加工品

製造場數18職工數807人內男469人(5割8分1厘)女338人(4割1分9厘)、生產額2,621,169圓デアル。之等ヲ前年ノ事實ニ比ベルト製造場ハ2(1割2分6厘)ヲ增加シ、職工モ35人(4分5厘)ノ增加デアルガ、價額ハ反對ニ308,863圓(1割5分)ノ減少デ雜工業中第五番目ノ減少デアル。今生產額ニ付イテ郡市分布ノ狀況ヲ述ベルト大阪市75.39%、泉南郡19.77%、南河內郡2.93%、中河內郡1.82%、三島郡0.09%、等ニ割合スル。

製　材

製造場數279、職工數2,946人內男2,876人(9割7分6厘)女70人(2分4厘)生產額ハ5,839,124圓デアル。今之等ヲ前年ノ事實ニ比ベルト製造場デハ1(4厘)ノ增、職工ハ210(6分7厘)ノ減少シ又價額モ395,757圓(6分3厘)ノ減少デアル。尙郡市分布ノ割合ヲ述ベルト大阪市96.02%、岸和田市1.92%、南河內郡0.62%、泉南郡0.61%、三島郡0.34%、豐能郡0.20%、北河內郡0.14%、泉北郡0.11%、中河內郡0.03%等デアル。

足　袋

製造場數79、職工數3,854人內男728人(1割8分9厘)女3,126人(8割1分1厘)生產額10,460,147圓デアル。今之等ヲ前年ノ事實ト比ベテ見ルト、製造場デハ7(9分7厘)ヲ增加シ、職工モ823人(2割7分1厘)ノ大增加デアルガ、生產額デハ1,326,003圓總額ノ1割1分2厘ト云フ甚シイ減少デ、雜工業中第四番目ノ減少デアル。尙生產額ニ付テ郡市分布ノ割合ヲ觀ルト讀助足袋工場ノ在ル堺市ガ最高デ76.27%ヲ占メ次ハ大阪市20.09%デ以下中河內郡2.84%、豐能郡0.80%等デ他ノ郡市ニハナイ。

工　場

工場總覽

工場一般ヲ大觀スルニ從前ハ工場統計規則ニ依ルモノデアツタガ、官制ノ改正ニ依リテ廢止サレ、本年ヨリ新タニ工場調査規則ニ依ル調査工場トナツタ。前者ハ單ニ職工5人以上、後者ハ職工5人以上又ハ5人以上使用設備ヲ有スルモノトニ改メラレ、又調査上ノ內容ニ於テモ時代ニ適應シテ單位ヲ米法ニ改善セル等ノタメ集計上ノ結果ニ於テ幾分、相違ヲ來タス點モアルガ、要スルニ調査上ノ工場範圍ハ殆ンド同一ト見テ敢エテ差支ナカラウ。

本府下ニ於ケル昭和4年末現在ノ該當工場數ハ7,693ヲ算ヘ、前年末ニ比較スルト備カ8厘減デアルガ更ニ前年ニ比ベテハ5分1厘增加ヲ示シ居ル。

例年工場數ハ增加ノ狀勢ヲ辿レルニ拘ハラズ、本年ハ幾分減少ヲ來タシタ、其ノ理由ハ、近年襲來セル世界的不況ノ影響深刻化ニ當リ、金解禁ノ實施、財政ノ緊縮、又ハ銀塊ノ暴落、印度ニ於ケル外貨不買運動、列國ノ關稅壁等ノ惡材料相亞イデ起ツタタメ、之等ノ餘波ヲ蒙ツテ工業界ノ狀勢モ頓ト沈滯ヲ當ネ工場ノ閉鎖セルモノガ續出シタニ依ルモノデアロウ。

總數7,693工場ノ內原動機使用スルモノ6,432、使用セザルモノ1,261、前年ニ比ベルト原動機ノ使用者ガ幾分減少シタノハ、原動機ナキ簡單ナル手工業、所謂雜工業ガ比較的增加シタニ基クモノノ樣デアル。各郡市ニ於ケル工場分布狀況ヲ見ルニ大阪市ヲ最多トシ、65.81%(5,063)、次ニ泉南郡6.80%(526)、泉北郡6.7%(515)デアツテ、以下堺4.5%(345)中河內郡4.5%(345)南河內郡3.8%(296)、三島郡2.9%(224)、北河內郡2.2%(174)、豐能郡1.8%(140)岸和田0.8%(65)ノ順位ヲ示ス、前年ト比較スルト大体ニ於テ著シキ變化ハナイガ、中河內郡ガ其ノ內デモ最モ增加ノ目立タモノデ、本郡ハ其ノ他雜工場ノ中小工業ノ發達ガ著シイカラデアル。

次ニ各郡市原動機使用割合ヲ見ルト、泉南郡ガ最多ク占メ9割4分ニ當リ、大阪市8割8分、泉北、堺、岸和田等各8割8分北河內、8割3分、中河內8割2分、豐能、南河內等ハ4割5分、三島郡3割8分トナリ、三島ガ最モ尠イ。前年ニ比較スルト大体著シキ變化ナキモ、豐能、南河內、三島等ハ減少シタ。

職工其ノ他ノ從業者

從業職工總數ハ236,416人デアルガ、前年240,742人ニ比スレバ4,326人ヲ減少シタ。之レヲ男女別ニ見ルト男工139,152人(59%)、女工97,264人(41%)ニ當リ、前年ニ比ベルト男工2,225人(1厘6毛)、女工2,101人(2厘2毛)ヲ減少シテ居ル。今郡市別ニ於ケル職工性別ノ割合ヲ100分率ニテ男工ヲ示セバ大阪市ノ69.7%ヲ最多トシ、次ニ豐能、中河內ノ各54.5%、三島ノ53.5%、堺52.1%、南河內51.9%、北河內50.0%、岸和田28.2%、泉南27.4%、泉北26.8%ヲ示ス。卽大阪、豐能、三島ハ男工ガ多イガ泉南、泉北ハ反對ニ女工ガ多イ、特ニ泉州ハ7割以上モ女工ヲ占メテ居ルノハ機業界ノ發達ヲ表現シテ居ル。

次ニ職工ヲ年齡別ニ觀ルト男工16歲未滿3,310人(2.4%)、16歲以上135,842人(97.6%)ニ當リ、女工16歲未滿15,073人(15.5%)、16歲以上82,191人(84.5%)、前年ニ比シ何レモ年少者ガ減少シテ居ル。而シテ男女別ニ年少者ヲ對照スルト女工ノ方ガ多イ、之ハ女工ヲ多ク使用スル紡織業ノ進展ニヨルモノデアル。

一工場當リ平均職工數ハ30.7人デ、前年ニ比ベルト幾分低下ノ傾向ニアルハ一般工業界ノ不振ニ基ク今各郡市ニ於ケル平均一工場當リ職工數ヲ示スト岸和田94.8人ヲ最多トシ、亞デ泉南ノ51.3人、堺ノ

38.1人、三島33.5人、大阪30.7人、泉北21.1人、北河内21.0人、豊能20.8人、中河内郡16.0人、南河内14.5人トナルガ、就中岸和田、泉南等ハ大規模ノ紡織工場ノアルガタメ職工數ガ多クナツテ居ル。職工以外ノ勞務者ハ男11,399人、女2,116人ヲ示ス。斯ク男數ノ多キハ運搬其ノ他工場ノ勞務ニ適スルカラデアル。

更ニ事務ニ從事スル職員ハ12,442人、技術ニ從事スル職員8,656人ヲ示ス。前年ト比較スレバ前者ハ650人、後者ハ434人ノ增加トナル。

工場種類別

工場總數7,693ヲ業態別ニ分類スルト、紡織工場2,063(26.82%)、機械器具工場1,128(14.66%)、金屬工場1,083(14.08%)、其ノ他工場947(12.31%)、食料品工場843(10.91%)、化學工場652(8.50%)、製材木製品工場336(4.38%)、窯業工場324(4.21%)、印刷製本工場306(3.98%)、瓦斯電氣工場11(0.15%)ヲ示ス。例年通リ最多ハ紡織工場、最少ハ瓦斯電氣工場デアル。更ニ各大分類中、主ナルモノ、工場數ヲ列記スルト紡織工場デハ織物工業(982)ガ著シク多ク、莫大小業(506)、染色精練漂白整理業(369)等ガ多イ。金屬工場デハ鑄物以外ノ金屬製品(605)ガ最多ヲ占メ、鑄物業(232)之ニ亞グ。機械器具工場デハ車輛(213)ガ最モ多イ。窯業工場デハ硝子及硝子製品(204)ガ最モ多イ。化學工場デハ其ノ他化學(98)並ニ護謨製品(95)ガ最モ多イ。製材及木製品工場デハ木製品(222)ガ多ク、印刷製本工場デハ印刷業(284)ガ多ク、食料品工場デハ水産品(193)、菓子パン及水飴(176)、醸造(167)等ガ多イ。次ニ其ノ他(雜)工場デハ裁縫(201)、紙製品(168)等ガ多イ。電氣、瓦斯工場デハ何レモ大差ハナイ。

種類別ニ原動機使用狀態ヲ示セバ、其ノ使用割合、印刷製本工場ノ9割8分7厘ガ最高、次ニ機械器具工場ノ9割4分4厘、金屬工場ノ9割3分1厘、紡織工場ノ8割9分9厘、化學工場ノ8割6分8厘、製材木製品工場ノ8割6分6厘、窯業工場ノ7割5分、雜工場ノ6割4分9厘、食料品工場ノ5割7分1厘、瓦斯電氣工場ノ5割4分5厘等ノ順位デアル。

職工數ヲ種類別ニ算出スルト紡織工場42.7%(100,871)、機械器具工場15.5%(36,740)、金屬工場9.8%(23,178)化學工場8.0%(18,860)、雜工場7.8%(18,521)、窯業工場5.6%(13,225)、食料品工場4.5%(10,547)、印刷製本工場3.2%(7,676)、製材木製品工場2.5%(5,886)、瓦斯電氣工場0.4%(892)ニ當ル。前年ニ比シ差シタル變遷ガナイ。

尙ホ各種類ニ依リ業態ノ性質上使用職工數ノ異ナル點ガアル、今試ニ一工場當職工數ヲ示スト、瓦斯電氣工場81.1人、紡織工場48.9人、窯業工場40.8人、機械器具工場32.6人、化學工場28.9人、印刷製本工場25.1人、金屬工場21.3人、其ノ他工場19.6人、製材木製品工場17.5人、食料品工場12.5人トナル更ニ種類別職工ノ100分率ヲ示スト次ノ通リデアル。

瓦斯電氣ノ98.0%ヲ最多トシ、機械器具ノ92.9%、金屬91.5%、製材木製品90.2%、印刷製本89.1%窯業85.2%、食料品79.9%、化學65.4%、其ノ他50.0%、紡織29.0%デアル。

次ニ職工ヲ年齡別、工場種類別ニ觀ルト、紡織ハ16歳未滿ガ1割2分6厘、16歳以上ガ8割 分4厘。其ノ他ハ16歳未滿ガ1割1分5厘、16歳以上ガ8割8分5厘。窯業ハ16歳未滿5分9厘、16歳以上ガ9割4分1厘。化學ハ16歳未滿ハ4分4厘、16歳以上9割5分6厘、印刷製本ハ16歳未滿4分2厘、16歳以上9割5分8厘。食料品16歳未滿3分1厘、16歳以上9割6分9厘。製材木製品16歳未滿2分7厘、16歳以上9割7分3厘。機械器具ハ16歳未滿2分16歳以上ハ9割8分、金屬ハ16歳未滿ハ2厘、16歳以上9割9分8厘等ヲ示ス。紡織工場ハ最モ幼年工ガ多イガ、瓦斯電氣工場ニハ幼年工ガナイ。之等ハ前年ト殆ンド同ジ經路ヲ辿ツテ居ル。

職工以外ノ勞務者ハ紡織最モ最ク、次ニ窯業、金屬ノ順位デ、最少ヲ瓦斯電氣トス。之ガ男女別ヲ見ルト何部類ニ在テモ男ノ數ガ多ク、女ノ數ガ少イ。

事務ニ從事スル職員ハ機械器具工場ヲ最多トシ、次ニ紡織工場、化學工場、金屬工場、其ノ他工場等ノ順デ、瓦斯電氣工場ガ最少ナルハ大体前年ニ同ジ。

技術ニ從事スル職員モ機械器具工場最多ヲ占メ、紡織工場化學工場、金屬工場、其ノ他工場等ノ順位ヲナスハ事務職員ト同樣ノ經路ヲ辿ル。

更ニ進ンデ之等職員ヲ工場當リニ比較スルト、一工場每ニ事務職員ハ瓦斯電氣工場デ3.7人ガ最高ニ當リ、次ニ化學工場ノ2.9人、機械器具工場、印刷製本工場ハ何レモ2.4人、金屬工場ハ1.7人、窯業工場、製材工場等ハ1.3人、紡織工場、其ノ他工場等1.2人、食料品工場0.8人トナル。更ニ職工數ト對照スレバ職工1,000人ニ付化學ハ102.1人デ最高ヲ示シ、印刷製本96.5人之ニ亞ギ、金屬80.4人、機械器具74.0人、製材木製品72.5人、食料品65.0人、其ノ他59.0人、瓦斯電氣46.1人、窯業32.1人、紡織25.3人トナル。卽チ化學、印刷製本、金屬等ノ事務員ノ多キヲ表シ、反之、窯業紡織工場等ハ少イ事ガ判明ス。又技術關係職員ニ付イテ殆ンド同樣ノ狀態ヲ示シテ居ル。

原動機

原動機ハ其ノ利用如何ニヨリテ一般工業ノ消長ヲ測知スル事ガ出來ル程一般工業ノバロメータートモナル重要素ノ一ツデアツテ、就中電動機ノ活動力ハ近年漸增ヲ來タシタ、之レハ他ノ蒸氣機關、瓦斯機關等デハ經費ガ割高デ、作業ノ能率ガ前者ヨリ擧ラヌノミデナク、使用上最多ノ不便ガアルカラダ今原動機ノ使用狀態ヲ略記スレバ次ノ通リデアル。

原動機使用工場6,432ニ備付タル各種ニ付イテ觀察スルト蒸氣機關303個、32,178.7馬力、蒸氣タービン57個337,125馬力、瓦斯機關25個1,544馬力、石油機關29個914馬力、タービン水車12個208馬力、ペルトン水車3個17馬力、日本形水車204個358馬力、電動機22,901個594,168.9馬力トナリ、其ノ內デ前年ニ比ベテ蒸氣機關、瓦斯機關、タービン水車、ペルトン水車等ハ個數馬力數共著減シタガ蒸氣タービン日本形水車、電動機ハ個數、馬力數共ニ增大ヲ示シテ居ル、茲ニ注目スベキハ電動機ニ於テ個數ノ增加ヨリ電力數ノ激增ヲ示シタコトデ、之等ハ比較的大型電動機ヲ利用スル傾向顯著ナルヲ現ハスモノデアル。

原動機ノ分布的利用狀況ヲ示セバ、先ヅ蒸氣機關、蒸氣タービン等デハ大阪ノ外泉南ニ多ク、瓦斯機關ハ大阪、三島ニ多ク、石油機關ハ大阪、中河內ニ多ク、タービン水車ハ大阪、泉北ニ多ク、日本形水車ハ南河內、豊能等ノ郡部ニ多ク、利用セラレ大阪ニハナイ。電動機ハ各郡市共多ク利用サレテ居ル。以上ハ工場數、作業、性質、地域關係等ニ基イテ夫々例年通リノ系路ヲ辿ツテ居ル。次ニ各原動機一個當ノ馬力數ヲ見ルト、其ノ種類ニ依テ著シキ差異ガアル、卽チ蒸氣タービンハ5,914.5馬力デ

者シタ多ク、蒸氣機關ハ106.2馬力、瓦斯機關61.7馬力、石油機關31.5馬力、電動機25.9馬力、タービン水車14.0馬力、ペルトン水車5.7馬力、日本形水車1.7馬力ノ順位ヲ示シ、前年ニ比ベルト蒸機關石油機關、電動機等ノ馬力數ハ高ク、其ノ他ノ原動機ハ前年ト殆ド變リハナイ。

次ニ業種別ニ各原動機ノ利用狀況ヲ觀察スルト蒸汽機關ハ紡織工場、化學工場等ニ最モ多ク、蒸汽タービンハ紡織、瓦斯及電氣兩工場等ニ最モ多ク、瓦斯機關ハ瓦斯及電氣工場ニ最モ多ク、石油機關ハ食料品工場ニ、タービン水車ハ紡織工場ニ、ペルトン水車ハ化學工場ニ最モ多ク、日本形水車ハ主トシテ食料品工場ニ使用セラレテ居ル。電動機ハ各種工場ニ多ク使用サレテ居ルガ、瓦斯及電氣、食料品、化學等ノ工場ハ比較的少ク之等ノ狀況ハ前年ト大差ハナイ。

燃料其ノ他消費額

燃料ハ國防上特ニ資源ノ開發ニツイテ最モ重要性ヲ有ツモノデ、前記原動機ノ運用如何モ、コノ燃料利用ニ依ラネバナラヌ事ハ語フ迄モナイ、今燃料ノ消費狀況ヲ略記シテ觀ルト次ノ樣デアル、各種工場デ消費シタ本年1ケ年ノ燃料其ノ他ノ消費額ハ石炭1,292,331,198瓩、コークス64,758,576瓩、石油18,507,567瓩、瓦斯114,509,214立方米、木炭10,609,268瓩、電力603,831,645(キロワット時)等實ニ多大ノ消費量ヲ示シテ居ル。前年ニ比ベルト石炭、コークス、木炭等ハ減少シ、石油、瓦斯、電力等ハ激增シテ居ル、之レハ石炭、コークス、等ノ燃料ヨリハ、石油瓦斯等ノ方ガ利用上便利デ且ツ經費ノ節減ニナルカラデアル。

各種別ノ郡市消費額ヲ比較シテ見ルト、大阪ハ例年通リ各種共最モ多ク、其ノ他ニ於テハ先ヅ石炭ハ泉南ニ多ク、コークスハ堺ニ、石油ハ南河內、堺ニ瓦斯ハ三島、堺ニ、木炭ハ泉北、堺等ニ多ク、而シテ電力ハ各郡市共相當ノ消費量ヲ示シテ居ル。

更ニ工場業態ト關連シテ以上ノ消費量ヲ觀ルト、先ヅ石炭デハ紡織工場ニ最モ多ク、瓦斯、電氣工場ニモ比較的多イ。之レハ大工場ノ多イノニモ依ルガ、一面作業ノ性質上特ニ染色等ニ相當多量ノ使用ヲ要スルカラダ。コークスデハ紡織金屬兩工場ニ多イ、石油デハ紡織ガ最モ多ク、瓦斯デハ機械器具工場ニ多ク、木炭デハ金屬、機械器具兩工場ニ多ク消費サレテ居ル。而シテ電力ニ在リテハ紡織工場ニ最モ多ク、消費サレテ居ル、以上各種消費狀況ヲ觀察スルト業態ノ特色ガ能ク解カル、即チ各種工場數ノ增減ト作業ノ性質等ヨリ相關連シテ夫々燃料ノ增減ヲ表現シテ居ル。

第九 商業

大正九年、所謂恐慌ノ襲來ヲ見タ吾ガ經濟界ハ其ノ後年ト共ニ不況ノ度ヲ增シテ今ヤ總ユル方面ニ波及シ、其ノ間今年コソハト期待サレ乍ラモ、暗雲迷低未ダニ景氣回復ノ曙光スラ見ルニ至ラナイ、ノミナラズ哀レニモ却ツテ年每ニ深刻トナリツヽアルノミデアル。

昭和四年ノ吾ガ大阪ニ於ケル商業界一般ノ狀勢モ頗ル振ハナイ、即チソノ一端ヲ述ブルト、取引界ハ何レモ商狀委微シテ活氣無ク、內地貿易上ニモ遂ニ一抹ノ暗影ヲ投ズルニ至リ、又外國貿易ニ在リテハ辛ウジテ不況ノ影響ヲ免レタルガ如キモ、而カモ大阪ト最モ密接ノ關係ヲ有スル對支貿易ハ前年ヨリモ不振ヲ示ス等ノ狀態ヲ呈シタノデアル。

以下統計書ニ登載スル諸事項ニ付大要ノ記述ヲ試ムナラバ

商工會議所

現在大阪、堺ノ二會議所ガ在リ夫々其ノ使命ヲ發揮シテ居ル。

昭和四年末ノ兩所議員現在數ハ85人デ、顧問數ガ15人、選擧有權者ハ3,323人デ、選擧被選擧有權者ガ13,908人アル。前年ニ比スルト選擧有權者ガ1,701人ヲ減少シ、選擧被選擧有權者ハ5,024人ヲ增加シタ。

取引所

現在米穀、株式、三品、砂糖ノ四取引所ガ在ル、米穀、株式、三品ノ三取引所ハ會社組織デ在ルガ、砂糖取引所ハ會員組織ニナツテキル。

冒頭記載ノ如ク久シキニ亘ル我經濟界ノ不況ハ本年ニ入リテ更ニ深刻トナリ、各所ノ取引狀況ハ何レモ不振ヲ示シタ、以下概況スルト

大阪堂島米穀取引所

昭和四年度末現在清算部取引員ハ46人デ、前年度末ヨリ3人減イ。本年度當所經費ノ決算ハ積立金、身元保證金等前年ヨリ增加シ。支出モ著シク增加シタガ、收入ハ賣買手數料始メ其ノ他ノ收入モ減少シタ、從ツテ純益、配當何レモ減ツテキル。

本年中事業ノ概況ヲ見ルニ、營業日數295日デ前年ヨリ2日減ク、賣買出來高ハ63,009,400石ヲ算シ、前年出來高ニ比シ3,603,800石(6分1厘)ノ增加ヲ示シテ居ル、然ルニ上記ノ如ク賣買手數料ハ減少シテ居ル、コレハ賣買値段ガ低位デアツタ爲デアル。各月中ノ出來高ヲ見ルト七月ノ9,652,500石最モ多ク、二月ノ2,638,900石最モ少イガ、一日平均出來高ハ十月ノ358,984石ガ最多デ、三月ノ106,556石ガ最少トナル。

本年中ニ於ケル受渡高ハ158,600石デ、前年ヨリ31,600石(1割6分7厘)ヲ減ジテ居ル。各月中ノ最多ハ十一月ノ32,600石、最寡ハ八月ノ2,500石デアル。

本年中ノ相場ノ最高ハ十月限ノ34圓84錢(十月三十日)、最低ハ十一月限ノ25圓13錢(九月十日)デ、コ値巾ハ9圓71錢トナル。

大阪株式取引所

昭和四年度末現在仲買人ハ37人デ前年度末ヨリモ6人多イ。

本年度當所決算ヲ見ルニ積立金ハ增加シ、仲買人身元保證金ハ減少シタ。賣買手數料其ノ他收入減少シ、支出モ亦減少シタ、延イテ純益金、配當金モ夫々減ジテキル。

本年中ノ事業ノ概況ヲ見ルニ營業日數ハ前年ヨリ1日少ク297日トナル。賣買出來高4,321,940枚ニシテ不況ノ結果取引不振ノ爲前年ヨリ1,573,660枚(2割6分6厘)ノ可成著シイ減少ヲ示シタ。

一日平均賣買出來高ハ14,552枚ニ當リ、前年平均高19,784枚ヨリハ非常ニ少イ。

本年中ノ受渡高ハ911,460枚ニシテ、內期日前特別受渡105,350枚在リ、前年ニ比シ112,570枚即チ1割1分ノ減少ニ當ツテ居ル。

本年中ノ長期取引株ヲ銘柄別ニ見ルト、賣買出來高ノ多イノハ東京株式株ノ1,196,410株、當所株ノ1,114,380株、鐘淵紡績株ノ702,840株等デ、受渡高ノ多イノハ當所株ノ247,940株、東京株式株ノ157,840株等デアル。

大阪三品取引所

昭和四年末現在取引員ハ第一部(綿糸)48人、第二部(棉花)66人、計114人ニシテ前年末ヨリ4人ヲ減ジタ

本年度ノ當所決算ハ、積立金ハ增加シタガ、取引員身元保證金ハ減少シ、收入ニ於テモ賣買手數料其ノ他收入ガ減ジタ、支出モ減少シタガ、純益金、配當金モ共ニ減ジタ。

本年中ノ營業ノ概況ヲ見ルニ、開市日數283日ニシテ前年ヨリ3日多イ、第一部綿糸清算取引ニ在リテハ賣買出來高ハ6,111,370梱デ不況ノ爲前年賣買高ニ比シ2,341,960梱(2割8分7厘)ノ減少トナツタ。

各月中ノ最多ハ十月ノ650,840梱、最尠ハ十二月ノ287,450梱デアルガ、一日ノ平均賣買高ハ21,595梱デ前年ノ平均29,556梱ヨリモ著シク尠イ。

受渡高ハ38,510梱デ前年ヨリ730梱(1分9厘)ノ減少ニ當ツテ居ル。各月中一月ノ7,800梱ハ最モ多ク、五月ノ750梱ハ最モ尠イ。

本年ノ相場ハ、其ノ最高ハ、六月當限ノ278圓00錢デ、最低ハ十一月當限ノ181圓00錢デコノ値開キ97圓00錢トナツテキル。

第二部棉花清算取引ニ在リテハ賣買出來高1,717,100俵デ前年出來高ニ比ベルト實ニ 928,530俵 (3割5分1厘)ノ激減トナリ、近年稀ニ見ル商況不振ヲ示シタ。各月中ノ最多ハ十一月ノ213,420俵、最寡ハ二月ノ84,220俵デ、一日平均出來高モ十一月最モ多ク、二月最モ尠イ。

受渡高25,690俵ヲ前年ニ較ベルト15,530俵(3割7分7厘)ヲ減ジテ居ル、各月中ノ最多ハ三月ノ6,690俵デ著シク多ク、十月ノ490俵ハ最モ尠イ。

本年中ノ相場ノ高低ハ三月九月限ノ70圓00錢最モ高ク、十一月當限ノ52圓55錢ガ最低デアル。而シテコノ値開キハ17圓45錢トナル。

大阪砂糖取引所

昭和四年度末現在會員數ハ31人ニシテ前年度末ヨリ5人尠イ。

本年度當所決算ハ收入、支出共ニ減少シ、純益金モ亦減ジタガ積立金ハ增加シタ。

本年中ノ商況ノ概要ハ、立會日數285日ニシテ前年ヨリ1日少ク。 賣買出來高ハ4,238,400袋デ前年ヨリ5,820,500袋卽チ5割7分9厘ト云フ驚クベキ減少デ、實ニ當所開始以來ノ不振デアル。沈滯シ切ツタ經濟界ノ不況ハコヽニモ著シク影響シ、殊ニ糖界ハ臺灣糖空前ノ增產等ノ爲ニヨリ市價低落シ、カクノ如ク清算市場ノ不況ヲ招來シタモノデアル。賣買出來高ノ各月中ノ最多ハ七月ノ617,400袋、 最寡ハ二月ノ162,350袋デ、之ガ一日平均出來高ハ14,872袋、 前年ヨリ著シク尠イ。而シテ各月中ノ平均出來高ノ最高ハ七月23,746袋、最寡ハ二月ノ7,380袋トナツテ居ル。

受渡高總數ハ272,650袋デ前年ニ比スルト343,350袋卽チ5割5分7厘ヲ減少シタ、 各月中ノ最多ハ九月ノ54,200袋、最寡ハ二月ノ5,750袋デアル。

本年相場ノ高低ハ十二月當限ノ18圓00錢ヲ最高トシテ當所開設以來ノ高値ヲ呼ビ、最低ハ四月當限ノ10圓92錢デアル、此ノ値開キハ7圓08錢トナツテキル。

大阪港ニ於ケル外國貿易ノ狀況

不況ノ襲來ハ愈々深刻トナリ總ユル方面ヲ蔽ヒ盡シ、遂ニ內地貿易上ニモ一抹ノ陰翳ヲ投ジタガ、日ト共ニ隆盛ニ向ヒツツアル我大阪港ノ對外貿易ハ本年ニ入リテハ更ニ一段ノ進出ヲ見ルニ至ツタ。

卽チ昭和四年中ノ大阪港外國貿易總額ハ762,264,767圓ヲ算シタ、之ヲ前年ニ比スルト 54,952,361圓卽チ7分8厘ノ增加ニ當ル。

本邦商工業ノ中心地タル我大大阪ノ咽喉トシテ樞要ノ地位ヲ占ムル大阪港ノ外國貿易ハ、橫濱、神戶兩港ニ亞グノ貿易額ヲ示シ、本邦重要貿易港トシテ益々飛躍シツツアル。

今過去二十年ヲ遡リ貿易額ノ趨勢ヲ指數ヲ以テ表セバ、

大阪港外國貿易額趨勢

	貿易額	指數		貿易額	指數
	円			円	
明治四十三年	78,818,560	100	大正九年	657,783,847	835
同 四十四年	63,594,723	81	同 十年	410,930,441	521
大正元年	83,895,520	106	同 十一年	451,568,486	573
同 二年	115,127,979	146	同 十二年	474,045,157	601
同 三年	115,748,762	147	同 十三年	675,132,086	857
同 四年	144,433,590	183	同 十四年	807,040,608	1,024
同 五年	223,785,952	284	同 十五年 昭和元年	699,241,203	887
同 六年	348,958,338	443	同 二年	628,275,647	797
同 七年	543,363,559	689	同 三年	707,312,406	897
同 八年	606,507,688	769	同 四年	762,264,767	967

トナリ、卽チ二十年前ノ明治四十三年ニ比スルト實ニ九倍半ヲ超シテ居ル。更ニ各年ニ付テミルト大正八九年頃ニハ彼ノ戰時ノ好況時代ヲ現出シタガ同十年ニハ激減シ、其ノ後亦躍進シテ大正十四年ニ至リテ遂ニ十倍ヲ超ス指數ヲ示シタ爾後再ビ一高一低ノ道ヲ辿ツテ居ル。

茲ニ大阪港對外貿易ノ全國對外貿易上ニ於ケル地位ヲ考ヘテ見ルニ、貿易額ニ於テハ橫濱、神戶兩港ニ亞イデ第三位ニ當ツテ居ル、而シテ全國貿易額ニ對スル割合ヲ過去二十年間ニ亘ツテ揭ゲルト、

大阪港外國貿易ト全國外國貿易トノ比較

	輸出			輸入			計		
	大阪港	全國	全國ニ對スル大阪港ノ割合(%)	大阪港	全國	全國ニ對スル大阪港ノ割合(%)	大阪港	全國	全國ニ對スル大阪港ノ割合(%)
	千円	千円		千円	千円		千円	千円	
明治四十三年	48,201	440,979	109	27,617	455,612	61	78,819	896,621	88
同 四十四年	43,512	447,434	97	20,082	513,806	39	63,595	961,240	66
大正元年	57,313	526,982	109	26,583	618,992	43	83,896	1,145,974	73
同 二年	73,452	632,460	116	41,676	729,432	57	115,128	1,361,892	84
同 三年	74,343	591,101	126	41,406	595,736	70	118,749	1,186,837	98

大阪港外國貿易ト全國外國貿易トノ比較 (續)

	輸出			輸入			計		
	大阪港	全國	全國ニ對スル大阪港ノ割合(%)	大阪港	全國	全國ニ對スル大阪港ノ割合(%)	大阪港	全國	全國ニ對スル大阪港ノ割合(%)
同 四年	93,823	708,307	132	50,611	532,450	95	144,434	1,240,757	116
同 五年	141,805	1,127,468	126	81,981	756,428	108	223,786	1,883,896	119
同 六年	255,317	1,603,005	159	93,642	1,035,811	90	348,958	2,638,816	132
同 七年	405,825	1,962,101	207	137,538	1,667,944	83	543,364	3,630,044	150
同 八年	438,837	2,098,873	209	167,671	2,173,460	77	606,508	4,272,332	142
同 九年	472,007	1,948,395	242	185,777	2,336,175	80	657,784	4,284,569	154
同 十年	292,058	1,252,838	233	118,873	1,614,155	74	410,930	2,866,993	143
同 十一年	322,775	1,637,460	197	128,794	1,912,071	67	451,568	3,549,530	127
同 十二年	296,770	1,458,968	203	177,275	1,999,829	89	474,045	3,458,797	137
同 十三年	402,379	1,807,035	223	272,754	2,543,402	107	675,132	4,260,437	158
同 十四年	500,673	2,305,590	217	306,368	2,572,658	119	807,041	4,878,248	165
昭和 元年	418,250	2,044,728	205	280,991	2,377,484	118	699,241	4,422,212	158
同 二年	363,352	1,992,317	182	264,924	2,179,154	122	628,276	4,171,471	151
同 三年	409,894	1,971,955	208	297,418	2,196,315	135	707,312	4,168,270	170
同 四年	444,949	2,148,619	207	317,316	2,216,240	143	762,265	4,364,859	175

即チ大阪港外國貿易總額ハ明治四十三年ニハ全國ノ僅カニ8分8厘ニ相當スルニ過ギナカツタガ、年々其ノ割合ハ昂上シテ昭和四年ニハ1割7分5厘ヲ占ムルニ至ツタ。殊ニ輸出ニ在リテハ其ノ進出振ハ著シク漸次其ノ地位ヲ高メツツ在リ、驀テ我ガ大阪港モ世界的貿易港トシテ雄飛スルノ日ヲ迎ヘルモ蓋シ近キニ在ルヲ思ハシムル。

昭和四年貿易總額ヲ輸出、輸入ニ分ツト輸出額ハ444,948,613圓、輸入額317,316,154圓トナル。コノ差127,632,462圓ハ輸出超過デ、前年ノ超過額ヨリ增加シテ居ル。

由來大阪港ハ著シイ輸出超過港デ、他ノ主要貿易港ガ殆ンド入超港ナルニ較ベルト洵ニ面目躍如タルモノガアル、今一歩進ンデ既往二十ケ年ニ遡リ出超額ヲ掲ゲルト

	出超額		出超額
明治 四十三年	千円 20,585	大正 四年	千円 43,212
同 四十四年	23,430	同 五年	59,825
大正 元年	30,730	同 六年	161,675
同 二年	31,777	同 七年	268,287
同 三年	32,937	同 八年	271,167

(續)

	出超額		出超額
大正 九年	千円 286,229	大正 十四年	千円 194,305
同 十年	173,185	昭和 元年	137,259
同 十一年	193,981	同 二年	98,428
同 十二年	119,495	同 三年	112,476
同 十三年	129,625	同 四年	127,632

之ニ依ツテ見ル如ク大正七年乃至九年ニハ出超著シク、其ノ最高時ノ大正九年ニハ實ニ2億8千6百萬圓以上ニ昇ツタ、是レ明ニ歐洲大戰時ノ好況ヲ物語ツテ居ル。

觀察ヲ進メ昭和四年貿易額ヲ洲別ニ分ツト

大阪港外國貿易洲別價額

	輸出			輸入		
	價額	比率(%)	前年比率	價額	比率(%)	前年比率
亞細亞洲	円 423,054,445	95.08	95.84	円 129,768,755	40.90	42.30
歐羅巴洲	5,897,248	1.33	1.42	31,770,553	10.01	11.04
亞米利加洲	7,895,060	1.77	1.39	117,124,407	36.91	35.82
其ノ他諸洲	8,101,860	1.82	1.35	36,452,790	11.49	10.56
不詳	—	—	—	2,199,649	0.69	0.27
計	444,948,613	100.00	100.00	317,316,154	100.00	100.00

前掲ノ如ク輸出ノ主要相手ハ亞細亞洲デ、斷然多ク殆ンド大部ヲ占メテキルガ、輸入ニ在リテハ亞細亞洲以外ニ亞米利加洲モ亦多ク、歐羅巴洲ト其ノ他諸洲トハ著シイ差ハナイ。尙之ヲ前年ニ比スルト輸出、輸入共ニ亞細亞洲ト歐羅巴洲ノ割合減少シ、亞米利加洲ト其ノ他諸洲トノ割合ガ增加シテ來タ

以上輸出入價額ヲ更ニ主要各國別ニ列擧シテ見ルト

大阪港外國貿易國別額價 (單位千圓)

輸出			輸入		
	昭和四年	同三年		昭和四年	同三年
支那	200,267	218,736	北米合衆國	108,674	100,146
英領印度	97,244	68,878	支那	46,435	49,441
關東州	56,728	50,444	英領印度	41,283	35,049
蘭領印度	41,940	35,032	濠太剌利	25,439	27,459
香港	13,551	12,826	關東州	17,523	14,786
北米合衆國	6,323	4,758	英吉利	11,997	14,928

大阪港外國貿易國別價額 (單位千圓) (續)

輸出	昭和四年	同三年	輸入	昭和四年	同三年
東部亞弗利加	4,610	2,609	蘭領印度	11,825	14,933
英吉利	4,452	4,577	獨逸	10,273	9,182
英領海峽殖民地	4,032	2,454	加奈陀	8,327	6,256
暹羅	2,793	787	埃及	6,427	1,120
比律賓諸島	2,213	1,621	英領海峽殖民地	5,088	4,630
埃及	1,996	1,543	露領亞細亞	4,109	4,512
亞爾然丁	1,153	417	瑞西	2,894	2,453
濠太剌利	1,032	1,023	東部亞弗利加	2,604	1,516
獨逸	498	206	佛蘭西	2,042	1,493
土耳古	460	644	佛領印度支那	2,019	1,284
露領亞細亞	348	1,012	白耳義	1,194	849

掲表ノ如ク大阪港對外貿易上最モ密接ナル關係ヲ有スルハ隣邦支那デ、就中輸出ニ於テハ最モ多キヲ占メテ居ル、其ノ他英領印度、關東州等亞細亞洲內ノ諸國ニ多イ。而シテ輸出ヲ前年ニ比ベルト支那、露領亞細亞等ハ減退シタガ、英領印度、其ノ他ノ亞細亞洲內ノ諸國、北米合衆國、東部亞弗利加、亞爾然丁、獨逸等ノ諸國ハ何レモ増加シタ、其ノ內東部亞弗利加、海峽殖民地、暹羅、亞爾然丁等ノ進出ハ殊ニ目立ツテ居ルノハ大イニ注目スベキコトデアル。

輸入ニ在リテハ北米合衆國斷然多ク、支那、英領印度、濠太剌利等之ニ亞グ、而シテ之ヲ前年ニ比スルト支那、濠太剌利、英吉利、蘭領印度等ハ減少シ、北米合衆國、英領印度、關東州、獨逸、加奈陀埃及、東部亞弗利加、佛蘭西、白耳義等何レモ増加シタガ、ソノ內埃及、東部亞弗利加、加奈陀等ノ擡頭ハ特ニ著シイ。

以上ノ如ク本年ノ對支貿易ハ輸出、輸入共ニ減少シテ不振ヲ示シタガ對米、其ノ他對東部亞弗利加、對埃及貿易ニ於テ一段ノ躍進ヲ示シタノデアル。

次ニ對外貿易ヲ品種別ノ方面カラ觀察スルト其ノ分類別ハ下表ノ如クデアル。

大阪港外國貿易品種別價額

	輸出 價額	輸出 比率(%)	輸出 前年比率	輸入 價額	輸入 比率(%)	輸入 前年比率
食料粗製品	円 1,185,502	0.27	0.17	円 8,805,723	2.78	3.10
同製造品	5,793,637	1.30	1.68	9,835,077	3.10	4.69
原料品	4,241,828	0.95	0.89	186,848,071	58.88	56.15
原料用製品	43,298,048	9.73	9.04	67,567,437	21.29	21.73
全製品	377,343,819	84.81	83.78	38,012,775	11.98	12.64
其ノ他雜品	13,085,779	2.94	4.43	6,247,071	1.97	1.79
計	444,948,613	100.00	100.00	317,316,154	100.00	100.00

前掲ノ如ク輸出ニ於テハ全製品最多ヲ占メ殆ンド全体ノ8割5分ニ當リ、原料用製品ガ亞イデ多イ。輸入ニ在リテハ原料品ガ過半數ヲ占メテ最モ多ク、原料用製品次ニ多シ。之ヲ前年ニ比スルト輸出ハ食料粗製品、原料品、原料用製品、全製品ノ割合増加シタガ、食料製造品、其ノ他雜品ノ割合減少シ、輸入ハ原料品、其ノ他雜品ノ割合増加シ、食料粗製品、同製造品、原料用製品、全製品ノ割合減少シタ。

要スルニ此ノ表ニ依ツテ見ルト次ノ如キコトガ云ヒ得ルデアラウ、卽チ大阪ノ貿易ハ「原料ヲ仕入レテ之ヲ製品ト爲シテ出ス」ト。

更ニ詳シク、前掲分類中重要輸出入品價額ヲ掲出シテミヤウ。

重要輸出入品價額

輸出	昭和四年	同三年	輸入	昭和四年	同三年
精糖	千円 2,409	千円 3,617	棉子	千円 5,243	千円 3,780
菜子油	1,860	858	砂糖	4,164	8,575
化粧石鹼	1,195	1,601	牛肉	2,933	2,916
綿織絲	20,766	18,541	鳥卵	722	1,238
綿織物	273,131	251,154	皮類	5,244	4,598
毛織物	2,912	2,053	實綿及繰綿	82,610	69,335
絹、人絹織物	9,080	5,649	苧麻類	3,496	3,233
メリヤス製品	11,216	11,021	羊毛	16,736	20,273
帽子	2,003	2,042	羅紗、セルヂス及アルパカ類	5,170	7,718
鈕釦	2,241	2,577	燐礦石	3,246	2,495
紙類	7,639	7,918	石炭	8,486	6,584
硝子及同製品	7,448	7,455	鐵(塊及錠)	9,529	8,955
鐵(條、竿及板)	1,810	1,622	鐵(條、竿、板、線及管)	12,928	10,140
銅(塊、錠、板及線)	3,412	1,116	銅(塊、錠、板及線)	2,351	5,076
眞鍮板	3,436	3,495	鉛(塊及錠)	6,995	4,908
鐵製品	7,979	6,983	錫(同)	4,793	5,026
機械類	5,349	4,402	亞鉛(同)	6,192	6,050
洋傘	673	970	自働車及部分品	10,748	9,749
ブラツシユ	2,196	2,017	機械類	8,248	6,079
玩具	1,516	1,172	木材	32,165	34,010

卽チ輸出デハ全製品ノ綿織物ガ著シク多ク、原料用製品ノ綿織絲、全製品ノメリヤス製品等之ニ亞イデ多イガ、前年ニ比較スルト菜子油、綿織絲、綿織物、毛織物、人絹織物、銅類等ノ増加ガ目立ツテ居リ、反シテ化粧石鹼、精糖、洋傘等ハ減少シタ。

輸入ニ在リテハ原料品ノ實綿及繰綿ガ最モ多ク、原料品ノ木材、原料用製品ノ羊毛、鐵類等之ニ亞イデ多イガ、前年ニ比スルト棉子、實綿及繰綿、鐵類、鉛、機械類等ハ著シク增シ、砂糖、鳥卵、羊毛紡、セルヂス及アルバカ類、銅類等ハ減少ガ甚ダシイ。

扨リニ貿易相手國ト其ノ貿易品種トノ關係御チ、何レノ國ニハ如何ナル品種ノ取引ガ多イカヲ見ルコトハ興味アル問題デアルガ、遺憾乍ラ統計書ニハ之ニ關スル表ヲ輯錄シテナイカラ茲ニ記述スルコトガ出來ナイノデアル。

大阪ニ於ケル海陸集散貨物ノ狀況

コレハ大阪市內ノ鐵道ニ依ル陸運ト、大阪港ニ依ル海運トノ發着貨物ノ動キヲ調査シタルモノデ、大阪市役所港灣部ノ調査ニ係ル昭和四年中ニ於ケル海陸兩運ニ依ル出入貨物ハ次ノ如クデアル。

	數量	價額
出貨	10,232,976噸	3,464,751,026円
入貨	14,027,921	2,758,836,871

即チ大阪ノ海陸集散貨物ノ狀況ハ今年モ亦「數量ニ於テ入超、價額ニ於テ出超」ノ常態ヲ保ツテ居ル此ノ計數ヲ前年ニ比スルト出貨ニ在リテハ數量24,709噸(2厘)ヲ增シタガ、價額12,499,705圓(4厘弱)ヲ減ジ。入貨ニ在リテハ數量392,293噸(2分7厘)、價額160,872,963圓(5分5厘)ヲ何レモ減少シタ。ツマリ出貨ノ數量ノミガ極ク僅カニ增シタルニ過ギズ、總体カラ云ヘバ前年ヨリ減退シテ居ル。是前節對外貿易ノ初頭ニ於テ述ベタル如ク一般不況ガ影響シテ內地貿易等ノ不振ニヨリ上記ノ如ク幾分ノ衰微ヲ見タノデアル。

更ニ前揭數量、價額ヲ海陸兩運ニ分ツト

		出貨 實數	出貨 比率(%)	出貨 前年比率	入貨 實數	入貨 比率(%)	入貨 前年比率
數量	海運	4,272,480噸	41.75	41.74	10,082,757噸	71.88	72.93
	陸運	5,960,496	58.25	58.26	3,945,164	28.12	28.07
價額	海運	1,640,445,196円	47.35	47.70	1,238,258,534円	44.88	44.38
	陸運	1,824,305,830	52.65	52.30	1,520,578,337	55.12	55.62

コノ表ヲ見ルト數量ハ出貨ニ於テハ陸運ガ多イガ、入貨ハ海運ガ著シク多イ。然ルニ價額ハ出貨、入貨トモニ陸運即チ鐵道ニ依ルモノノ多イコトガ判ル、尙前年ノ割合ニ比シ餘リ大差ハナイ。

以上發着貨物ヲ品種別ニ見ルト先ヅ海運ニ在リテハ

表記ノ如ク數量ハ出貨入貨トモニ全製品最モ多ク半數以上ヲ占メ、價額モ亦出貨、入貨共全製品最多デアルガ、尙數量ニ於ケル割合ヨリモ更ニ高イ。

前揭海陸集散貨物分類別中主要貨物各數種ヲ列擧スルト先ヅ數量デハ

海陸主要集散貨物數量 (單位千噸)

出貨 海運		出貨 陸運		入貨 海運		入貨 陸運	
綿織物	411	石炭	912	石炭	3,643	綿織物	259
鐵及鋼	398	木材	371	木炭	1,674	土及砂	225
木材	322	鐵製品	245	鐵及鋼	606	木材	222
鐵製品	273	セメント	222	燐鑛石	459	米	151
硝子及同製品	171	動植物肥料	148	米	454	蔬菜	142
人造肥料	146	米	128	土及砂	315	鮮魚	131
砂糖	120	鐵及鋼	126	砂糖	277	礦油	122
容器	114	人造肥料	117	銅	179	和洋紙	117
金屬材	92	砂糖	89	棉花	156	薪炭	101
工業用藥品	90	綿織物	84	薪炭	140	燐鑛石	78
和洋紙	90	棉花	81	石材	122	生果實	70
綿糸	86	工業用藥品	62	工業用藥品	95	綿糸	64

コノ表ヲ見ルニ綿織物、石炭、木材、鐵及鋼、鐵製品等多イ、而シテ綿織物ハ發送ハ海運ニ多ク、到着ハ陸運ニ多イガ、石炭ハ綿織物ト反對デ發送ハ陸運、到着ハ海運ニ依ル方ガ多イ、鐵及鋼ハ出貨、入貨共ニ海運ガ多ク、木材ハ出貨、入貨トモ海陸兩運ニ比較的多イノガ判ル。

次ニ價額デハ

海陸主要集散貨物價額 (單位千圓)

出貨 海運		出貨 陸運		入貨 海運		入貨 陸運	
綿織物	367,547	綿糸	79,829	銅	164,998	綿織物	216,748
綿糸	137,199	鐵製品	74,085	棉花	137,993	綿糸	97,983
鐵製品	82,410	綿織物	70,556	綿糸	85,356	藥品	95,886
藥品	69,050	棉花	60,158	米	74,444	鮮魚	62,254
鐵及鋼	57,484	米	22,590	鐵及鋼	63,181	和洋紙	60,606
金屬材	51,809	機械類	21,115	石炭	56,479	毛織物	39,447
和洋紙	49,248	和洋紙	21,073	砂糖	50,559	米	26,646
莫大小及タオル	43,627	鐵及鋼	18,336	藥品	45,766	棉花	19,735
服物及同部分品	33,636	砂糖	16,288	和洋紙	43,922	煙草	19,608
棉花	33,618	石炭	14,599	金屬材	39,378	鐵製品	15,314
ゴム及同製品	28,405	工業用藥品	14,061	木材	36,254	洋酒	14,441
文房具	23,809	木材	9,643	綿織物	36,247	絹織物	12,778

揭表ノ如ク綿織物ハ海運ニ依ル發送、陸運ニ依ル到着ガ多ク、綿糸ハ海運發送ガ最モ多ク、棉花ハ海運到着ガ最多デアル。

海 運

		出貨		入貨	
		實數	比率(%)	實數	比率(%)
數量	食料品	400,873噸	9.38	1,259,808噸	12.49
	原料品	646,980	15.14	6,759,920	67.05
	原料用製品	1,254,653	29.37	1,454,633	14.43
	全製品	1,949,147	45.62	525,637	5.21
	其ノ他雜品	20,827	0.49	82,759	0.82
	計	4,272,480	100.00	10,082,757	100.00
價額	食料品	91,178,939円	5.56	222,743,237円	18.35
	原料品	56,541,844	3.45	302,773,512	24.45
	原料用製品	371,562,085	22.65	419,447,298	33.87
	全製品	1,117,313,986	68.11	273,915,255	22.12
	其ノ他雜品	3,848,342	0.23	14,879,232	1.21
	計	1,640,445,196	100.00	1,238,258,534	100.00

揭出ノ如ク數量ハ出貨ニ於テハ全製品最モ多ク、入貨ハ原料品著シク多シ。價額ニ於テハ出貨ハ數量同樣全製品最モ多イガ、入貨ハ原料用製品ガ多イ、換言スレバ海運ニ依ル發送貨物ハ全製品多ク殊ニ價額ニ於テ著シイガ、到着貨物ハ數量ハ原料品、價額ハ原料用製品最多デアル。

次ニ陸運ニ在リテハ

陸 運

		出貨		入貨	
		實數	比率(%)	實數	比率(%)
數量	食料品	412,304噸	6.92	714,881噸	18.12
	原料品	1,664,377	27.92	724,405	18.36
	原料用製品	847,347	14.22	306,784	7.78
	全製品	3,024,616	50.74	2,179,435	55.24
	其ノ他雜品	71,852	0.20	19,659	0.50
	計	5,960,496	100.00	3,945,164	100.00
價額	食料品	74,007,755円	4.06	157,007,946円	10.33
	原料品	105,562,942	5.79	34,553,503	2.27
	原料用製品	149,818,216	8.21	129,605,918	8.52
	全製品	1,494,091,442	81.90	1,196,280,653	78.67
	其ノ他雜品	825,475	0.04	3,130,317	0.21
	計	1,824,305,830	100.00	1,520,578,337	100.00

尙以上ノ外前揭二表ヲ對照比較シ仔細ニ觀察スルナラバ、出貨ト入貨、或ハ海運ト陸運トノ間ニ夫々異ナル種類ヲ見出シ得ルノデアル。

最後ニ海運ニヨル集散貨物ヲ內外地ニ分ツト次表ノ如クナル。

		出貨			入貨		
		實數	比率(%)	前年比率	實數	比率(%)	前年比率
數量	內地	2,810,184噸	65.77	68.54	6,267,152噸	62.16	63.87
	朝鮮	456,068	10.67	9.30	610,222	6.05	6.48
	外國	1,006,228	23.55	22.15	3,205,383	31.79	29.65
	計	4,272,480	100.00	100.00	10,082,757	100.00	100.00
價額	內地	880,682,035円	53.68	56.53	717,249,835円	57.92	59.79
	朝鮮	133,015,841	8.11	8.33	96,895,978	7.83	8.38
	外國	626,747,319	38.21	35.14	424,112,721	34.25	31.83
	計	1,640,445,196	100.00	100.00	1,238,258,534	100.00	100.00

何レモ內地貿易最モ多イガ價額ハ數量ノ割合ヨリモ尠イ、而シテ內地貿易最モ多イト云フモノノ、出貨ニ在リテハ事實朝鮮向、外國向ト雖モ一旦神戸港ニ陸揚シタルモノハ之ヲ內地貿易ト看做シテ內地向ニ包含シアルヲ以テ、實際ノ朝鮮向、外國向ノ計數ハ前揭ノモノヨリ增加スベキ筈デ、又反對ニ同樣ノ理由デ入貨ニ在リテモ朝鮮、外國ヨリノ計數ハ前揭計數ヨリモ增加スベキモノト考ヘラルルノデアル。

尙揭表ノ如ク、以上ヲ前年ノ割合ニ比較スルト內地貿易ハ出貨、入貨共ニ何レモ減少シ、對朝鮮貿易ハ出貨數量ノミ增加シ、出貨價額、入貨數量、價額ノ割合減少シ、對外貿易ハ何レモ增加シテキル。

大阪市ノ日用品價格

大阪市ニ於ケル日用品價額ハ先年ノ戰時好況時代ノ物價騰貴ノ頃ニ比スルト年々下落ノ傾向ヲ示シテ來タガ、昭和五年中ノ價額ニ付テ見ルモ亦前年ヨリ著シク低下シ、更ニ月每ニ漸次遞減シテキル、今大阪府、市、商工會議所ノ聯合調査ニ係ル市內日用品四十九品六十種ノ每月價額ヲ平均指數ヲ以テ揭ゲルト次ノ如クデアル。

(但シ指數ハ大正十年一月十七日現在價額ヲ100トシテ算出シタルモノ)

	卸賣指數		市設市場小賣指數		市內普通小賣指數	
	昭和五年	同 四年	昭和五年	同 四年	昭和五年	同 四年
一 月	90	94	90	95	94	97
二 月	89	98	89	95	93	97
三 月	86	95	88	95	91	97
四 月	83	96	86	95	89	97
五 月	83	95	84	95	88	97
六 月	81	94	82	96	85	96
七 月	79	94	81	94	84	96
八 月	81	94	83	94	85	97
九 月	81	95	82	96	84	99
十 月	78	93	80	93	80	96
十一 月	72	92	75	93	76	96
十二 月	73	90	75	91	76	97

之ニ由ツテ見ルト、卸賣價額ニ比シ市設市場小賣價額ハ下落ノ度合ガ少ク、更ニ市內普通小賣價額ハヨリ以上ニ下落ノ度合ガ低イ、卽チ昭和五年十二月ニ於テハ其ノ指數卸賣73ニ迄低下シテ居ルガ市設市場小賣ハ75、市內普通小賣ハ76ニ止マツテキル。

諸 市 場

昭和四年末現在府下ニ於ケル諸市場ハ180デ前年末ニ較ベルト僅カニ5(2分9厘)ヲ增シ、前年增加ニ比スルト劣ツテキル、而シ過去五ケ年間ノ年末現在數ヲ見ルニ、大正14年95、昭和元年104、同2年151、同3年175、同4年180トナリ年々勢ヨク增加シテ行ク。

市場數ヲ種類ニヨリ內譯スルニ、靑物市場111(61.67%)、魚類19(10.56%)、植木18(10.00%)、家畜15(8.33%)、靑物魚類4(2.22%)、材木3(1.67%)、其ノ他10(5.56%)トナル、前年ニ比スルト靑物市場ハ增シ、魚類、植木、靑物魚類、其ノ他等ノ市場ハ減少シ、家畜市場、材木市場ハ變リハナイ。

第一〇 會社及組合

會社總數

昭和四年十二月末現在ニ於ケル府下會社數ハ5,862ヲ算シ、前年ヨリ506卽チ1割弱ノ增加ヲ示シ、前年ニ於ケル增加數282及增加步合5分6厘ヲ遙カニ凌駕シタ。

輓近經濟界ノ變遷ニ伴ヒ諸種ノ事情ニヨリ企業經營ノ組織ハ個人經營ヨリ會社組織ニ依ルモノガ頗ル多クナツタ。而シテ現今ノ不況ハ企業界ニモ著シク浸潤シ、會社ノ解散、併合、減資等盛ンニ行ハレ其ノ影響ハ會社統計上ニモ顯ハレテ來ツタノデアルガ、而カモ尙會社數ノ上ニ於テハ上記ノ事由ニヨリ前述ノ如ク著シイ增加ヲ見ルニ至ツタ。

今過去十ケ年ヲ通リ會社數ノ增加趨勢ヲ指數ヲ以テ表ハスト。

	會社數	指數		會社數	指數
大正九年	2,665	100	大正十四年	4,249	159
同 十年	3,170	119	昭和元年	4,661	175
同 十一年	3,449	129	同 二年	5,074	190
同 十二年	3,780	142	同 三年	5,356	201
同 十三年	3,870	145	同 四年	5,862	220

卽チ十年間ニ二倍以上ノ增加振リヲ示シタ。

會社分布ノ狀況

會社分布ノ狀況ヲ郡市別ニ見ルト、大阪市91.98%(5,392)、堺市2.12%(124)、泉南郡1.74%(102)、岸和田市0.92%(54)、豐能郡0.75%(44)、南河內郡0.68%(40)、泉北郡0.61%(36)、中河內郡0.56%(33)、三島郡0.32%(19)、北河內郡0.31%(18)トナリ、卽チ殆ンド大部ハ大阪市ニ存シ他ノ郡市ニハ極メテ少數ガアルノミデアル、而シテ各郡市トモ前年ヨリ增加シテ居ルガ、ソノ內大阪市、堺市、豐能郡等ノ增加ガ比較的目立ツテ居ル。更ニ大阪市內5,392ノ各區ニ於ケル分布ヲ觀ルニ、東區著シク多ク2割3分1厘ヲ占メ、西區1割3分3厘、港區1割2分3厘、北區1割2分2厘、南區1割2厘等ガ多ク他ノ區ニハ餘リ多クハナイ。

各郡市ノ會社種類別ヲ觀察スルニ、大阪市ニ在リテハ商業(54%)最モ多ク、工業(39%)之ニ亞ギ、堺市ハ工業(51%)多クテ商業(44%)之ニ亞ギ、岸和田市ハ商業(63%)最多デ工業ハ31%ニ當ル、其ノ他ノ各郡中豐能郡ヲ除イテハ何レモ工業最モ多ク、三島郡ノ84%、泉南郡ノ81%、泉北郡ノ72%ハ殊ニ多イ方ニ屬スル、コレハ三島郡デハ工業以外ノ會社ガ少イ爲デ、泉南郡ト泉北郡トハ機業會社ガ比較的多イ爲デアル、而シテ豐能郡ハ商業(48%)ガ最モ多ク、運輸業(20%)ガ他ノ郡ニ比シテ多イ、南河內郡、北河內郡ニモ亦斯業ハ尠クナイノデアル。尙農業ニ關スル會社ハ大阪市ニ25、豐能郡ニ2、堺市ト北河內郡ニ各1ト云フ分布デ、水產業ハ5會社トモ大阪市ニ存在シ、鑛業ハ大阪市ニ44アル外豐能郡ト南河內郡ニ夫々1會社ガ在ル。

會社組織別

會社總數5,862ヲ組織別ニスルト合資會社2,873(49.01%)、株式會社1,724(29.41%)、合名會社1,262(21.53%)、株式合資會社3(0.05%)トナリ、之ヲ前年ノ比率ニ較ベルト合資ハ變リナク、合名ハ增加シ株式ハ減少シタ。

一般ニココ數年來ノ組織別ノ割合ヲ見ルニ株式ハ漸減、合資ト合名ハ遞增ノ傾向ガアル、是レ新設會社ガ株式ヨリモ合資、合名等ガ多イカラデアル、而シテ本年ノ增加數506ノ內譯モ合資ガ最モ多ク248(49.01%)ヲ占メ、合名187(36.96%)、株式71(14.03%)トナツテ居ル、但シ株式合資ハ前年同樣3會社デ增減ハナイ。

會社資本別

會社總數5,862ノ公稱資本金又ハ出資總額ハ3,573,734,288圓ヲ算ス、之ヲ前年ニ比スレバ121,185,658圓ヲ增加シタ、コノ割合ハ3分5厘ノ增加ニ相當スル。然ルニ前述ノ會社數ノ增加歩合ガ1割ニ近イ著シイ率ナルニ比ベルト、コノ資本額ノ歩合ハ甚ダ低イモノト云ハネバナラヌ、ガ之ハ要スルニ新設會社ガ合資合名等ノ小資本ノモノガ多イ爲ト、又一面ニ於テ既設ノ會社ガ現今ノ不況ニ祟ラレテ解散若クハ減資斷行ノ止ムナキニ至ツタモノ尠クナイ等ノ爲斯ノ如ク數ノ割合ニ資本額ガ增加シテ居ラナイドイフ現象ヲ呈シタノデアル。

會社ノ數及資本額ヲ資本額階級別ニ分節スルト。

	會社數			資本金又ハ出資額		
	社數	比率(%)	前年比率	資本額	比率(%)	前年比率
				千円		
一萬圓未滿	1,931	32.94	31.80	7,092	0.19	0.18
五萬圓未滿	1,522	25.96	25.30	29,838	0.83	0.77
十萬圓未滿	569	9.71	9.32	32,499	0.93	0.81
五十萬圓未滿	1,002	17.09	18.20	172,208	4.82	4.89
百萬圓未滿	284	4.84	5.02	153,902	4.31	4.20
五百萬圓未滿	412	7.03	7.80	653,846	18.29	19.54
千萬圓未滿	66	1.31	1.23	388,675	10.87	11.11
千萬圓以上	76	1.30	1.33	2,135,675	59.76	58.50
計	5,862	100.00	100.00	3,573,734	100.00	100.00

トナリ、數ニ於テハ一萬圓未滿最モ多ク五萬圓未滿之ニ亜グガ、資本額ニ於テハ一千萬圓以上ノモノガ流石ニ最多デアル、之ヲ前年ノ割合ト對比シテミルト數ニ於テハ大体十萬圓未滿ノ小會社ガ增シ、五十萬圓以上ガ減ジテ居リ、資本ニ於テモ十萬圓未滿ノ小會社ノ割合ガ增加シタガ一千萬圓以上ノ大資本ノ割合モ增加シタ。而シテ總体的ニ云ヘバ數ニ於テモ資本額ニ於テモ小資本會社ガ概シテ增加シテ居ルコトハ明白デアル。

會社組織別資本別

前項ノ資本別ヲ更ニ組織別毎ニ觀察スルニ

	株式		合資		合名		株式合資	
	社數	比率(%)	社數	比率(%)	社數	比率(%)	社數	比率(%)
一萬圓未滿	19	1.10	1,593	55.45	319	25.28	—	—
五萬圓未滿	157	9.11	853	29.69	514	40.57	—	—
十萬圓未滿	180	10.44	194	6.57	194	15.37	1	33.33
五十萬圓未滿	616	35.73	200	6.96	184	14.58	2	66.67
百萬圓未滿	243	14.10	16	0.56	25	1.98	—	—
五百萬圓未滿	380	22.04	13	0.45	19	1.51	—	—
一千萬圓未滿	59	3.42	2	0.07	5	0.40	—	—
一千萬圓以上	70	4.06	2	0.07	4	0.32	—	—
計	1,724	100.00	2,873	100.00	1,262	100.00	3	100.00

コノ表ニ顯ハレタル如ク株式ニ在リテハ五十萬圓未滿ノ階級ニ於テ最モ多ク、五百萬圓未滿、百萬圓未滿ノ兩階級之ニ亜グガ、合資ニ在リテハ一萬圓未滿ノ階級ノミニテ既ニ過半數ヲ占メ、五萬圓未滿ノ階級ヲ加ヘルトキハ實ニ85%ヲ超過シ、合名ニ在リテハ五萬圓未滿最モ多ク一萬圓未滿ガ之ニ亜イデ多イ、更ニ之ヲ集約スルト株式ハ五十萬圓未滿ノ各階級ヲ合シテ漸ク56%ニナルガ、合資ハ五十萬圓未滿99%ヲ占メ、合名ハ同ジク96%ニ當ツテ居ル。即チ株式ニハ大規模ノモノ多ク、合資合名ハ小規模ノモノ多イコトガ窺ハレル。而シテ合資ハ合名ヨリ尙小ナルモノ多イコトガ判ル。

以上ノ關係ヲ更ニ明瞭ナラシムル爲組織別ノ一會社當リ平均資本額ヲ算出スルト、株式1,804,880圓株式合資281,667圓、合名156,675圓、合資91,784圓トナリ、即チ株式最モ大キク、合名合資ハ小サイ本年末ニ於ケル一會社當リ總平均資本額ハ609,644圓デ、前年ノ平均額ニ比シ減少ヲ來タシタ。今最近五ケ年ノ平均額ヲ揭ゲルト

	社數	資本額	一社當資本額
		千円	千円
大正十四年	4,249	3,023,304	712
昭和元年	4,661	3,256,505	699
同二年	5,074	3,407,336	672
同三年	5,356	3,452,549	645
同四年	5,862	3,573,734	610

揭出ノ如ク、平均額ハ年々低下シテ居ル、是即チ先ニ會社資本別ノ項ニ於テ述ベタル如ク、最近小資本ノ會社ガ著シク增加シタルト、大資本ノ會社ガ不景氣ノ爲解散、併合、減資等ノコトガ行ハレル爲デアルコトヲ裏書シテ居ル。

株式會社拂込資本金

以上述ベ來ツタ資本ナルモノハ株式ノ場合ハ所謂公稱資本金ヲ指シタルモノデアル、茲ニ株式會社ノ拂込資本金ニ付テ觀察シテ見ヨウ。

株式會社1,724ノ資本金拂込濟額ハ2,151,665,836圓ヲ數ヘ、前年末ノソレニ比シ123,912,974圓(6分1厘)ヲ增加シタ。公稱資本ニ對スル拂込額ノ割合ハ69%ニナル、前年ノ割合67%、前々年ノ割合66%等ニ比較シテハ、近年拂込率ガ漸次向上シツツアルコトガ判ル。

資本金階級別ニヨル拂込率ヲ割出シテミルト、一萬圓未滿デハ100%、五萬圓未滿85%、十萬圓未滿78%、五十萬圓未滿72%、百萬圓未滿68%、五百萬圓未滿70%、千萬圓未滿75%、千萬圓以上68%トナリ、概シテ小會社ハ拂込率ガ高クナツテ居ル。

次ニ事業別ニ拂込ノ割合ヲ算出スルト工業7割5分7厘、鑛業6割8分1厘、商業6割6分5厘、水産業6割4分運輸業6割3分5厘、農業5割3分6厘トナリ、工業最モ高ク、農業最低デアル。

會社事業別

昭和四年末會社總數5,862ヲ事業別ニ觀察スルト

	社數	比率(%)	前年比率
農業	29	0.49	0.62
水産業	5	0.09	0.11
鑛業	46	0.78	0.84
工業	2,395	40.86	41.86
商業	3,108	53.02	51.70
運輸業	279	4.76	4.87
計	5,862	100.00	100.00

トナリ、商業ニ關スル會社最モ多ク、水産業最モ少イガ、前年ニ比スルト商業ノ割合ノミガ獨リ增加シテ居ル、尙各事業別ノ多少ノ順位ニハ變リハナイ。

次ニ事業別ニ組織別ノ割合ヲ見ルト下表ノ如クデ

	株式		合資		合名		計	
	社數	比率(%)	社數	比率(%)	社數	比率(%)	社數	比率(%)
農業	14	48.24	10	34.48	5	17.24	14	100.00
水産業	5	100.00	—	—	—	—	5	100.00
鑛業	33	71.74	9	19.57	4	8.70	46	100.00
工業	729	30.44	1,229	51.32	435	18.16	2,395	100.00
商業	815	26.22	1,504	48.39	788	25.35	3,108	100.00
運輸業	128	45.88	121	43.37	30	10.75	279	100.00

(註、本表掲記以外、工業ニ株式合資會社2(0.08%)、商業ニ同ジク1(0.03%)アルモ除外セリ)

之ニ依ツテ見ルト水産業、鑛業、農業、運輸業ハ株式最モ多イガ工業ト商業ハ合資ガ最多デアル。

會社事業別資本金

會社事業別ニ資本金ヲ觀察スルニ

	社數	資本額	比率(%)	一社當平均資本額	前年平均資本額
		千圓		千圓	千圓
農業	29	45,476	1.28	1,568	566
水産業	5	6,370	0.18	1,274	1,330
鑛業	46	70,521	1.97	1,533	1,519
工業	2,395	1,177,888	32.96	492	495
商業	3,108	1,744,451	48.81	561	618
運輸業	279	529,029	14.80	1,896	2,057
計	5,862	3,573,734	100.00	610	645

掲出ノ如ク、商業ハ社數モ最モ多ク資本金モ最多デアルガ、茲ニ一會社當リ平均資本額ヲ出シテ見ル

ト運輸業ガ最高デ農業、鑛業ガ之ニ續キ、工業ト商業トハ著シク低イ。是ニ由ツテ見ルトキハ運輸業ハ規模大キク、工業、商業等ハ小規模ナルガ如ク見ユルヲ以テ直チニ企業ノ大小ヲ斷定スルハ早計デ勿論工業、商業等ニモ大資本ノモノアルガ總ジテ小資本ノ會社ガ多ク、反シテ運輸業ニ在リテハ鐵道軌道、汽船運輸等ノ大會社ガ多イ爲ニカカル割合ニナツタノデアル、尙之ヲ前年ニ比スルト大体ニ於テ著シイ差異ハ見受ケラレナイガ、只農業ガ前年ヨリ平均資本額ガ著シク增加シテ居ル。

會社事業別細別

以上ノ會社事業別ヲ更ニ細分類シ解說スルト、農業ニ在リテハ總數29會社ノ內、林業ニ關スルモノ最モ多ク8(28%)ヲ數ヘ、牧畜、養鳥業7(24%)之ニ亞ギ、園藝業、搾乳業ガ次ニ位スル、水産業ニ在リテハ總數5ノ內、漁撈採藻業3、水産養殖業2トナツテ居ル、鑛業ニ在リテハ總數46會社ノ內、土石採取業17(37%)デ最モ多ク、金屬鑛業11(24%)、石炭鑛業8(17%)等之ニ亞ギ。工業ニ在リテハ總數2,395ノ內、機械器具工業393(16%)、化學工業354(15%)、紡織工業350(15%)、金屬工業293(12%)、食料品工業208(9%)、製材及木製品工業144(6%)、印刷製本業89(4%)、窯業87(4%)、瓦斯電氣水道業21(1%)、其ノ他ノ工業456(19%)ニナルガ、更ニ小別スルト紡織工業ニハ綿織物108、莫大小101ガ最モ多ク、金屬工業デハ鑄物以外ノ金屬品製造業99、鑄物製造69、機械器具工業デハ電氣機械器具製造89、窯業デハ硝子及硝子製品製造業43、化學工業デハ醫藥實藥73、石鹼化粧品製造45、塗料顏料製造44、製材及木製品工業デハ木製品製造99、製材45、食料品工業デハ菓子麵麭製造59、精穀精粉33、瓦斯電氣水道工業デハ電氣業17、其ノ他雜工業デハ土木建築工事請負業88、被服其ノ他裁縫品製造業82等ガ多イ。

商業ニ在リテハ總數3,108會社ノ內物品販賣業ノ2,071(67%)最モ多ク、貿易業169(5%)、金融業144(5%)、土地建物賃貸業134(4%)、旅館料理店貸席業123(4%)等ガ多イ。而シテ物品販賣業ノ內主ナルモノヲ拾ヒ上ゲルト、織物被服類販賣業388、藥品染料顏料化粧品類販賣業159、雜貨唐物類販賣業151、機械器具販賣144、金屬材料品、金屬製品、珈琲鐵器販賣業143等ガ多イ。

運輸業ニ在リテハ總數279會社ノ內運輸取扱業117(42%)、自動車運輸業70(25%)等ガ多イ。

以上ハ各分類中ノ數ノ多イモノヲ列擧シタノデアルガ、茲ニ細分類ノ事業ニ付ソノ規模ノ大ナルモノヲ選擇シテ見ル爲一社當リ平均資本額ヲ算出スルニ大体次ノ如キモノガ大キイ

開墾業	(農業)	10,750千圓
漁撈採藻業	(水産業)	2,066
金屬鑛業	(鑛業)	4,250
綿糸紡績	(工業)	8,826
組織物及組綿交織物	(工業)	5,015
人造絹絲	(工業)	10,510
人造肥料	(工業)	3,757
電氣業	(工業)	16,688
瓦斯業	(工業)	10,275
百貨店	(商業)	2,181
信託業	(商業)	15,111

取引所	(商業)	9,353
銀行	(商業)	6,837
保險業	(商業)	2,830
倉庫業	(商業)	2,696
鐵道軌道	(運輸業)	26,834
汽船	(運輸業)	5,800

即チ流石ニ鐵道軌道運輸業ハ其ノ性質上最モ大キク、電氣業、信託業等ガ之ニ亞グ。

會社積立金

總數5,862會社ノ昭和四年末現在積立金總額ハ578,353,265圓デ、前年末ニ比スルト81,972,369圓(1割6分5厘)ヲ增加シタ、之ヲ資本金拂込資本金等ノ增加率ニ較ベルト非常ニ高イ。

積立金ヲ組織別ニ內譯スルト株式550,437,728圓(95.17%)、合名15,513,427圓(2.68%)、合資12,333,075圓(2.13%)、株式合資69,035圓(0.01%)トナリ、株式者シク多イ。是レ株式會社ハ商法ニ於テ一定ノ積立ヲ爲スベキ定メアル等ニヨリ斯ノ如ク多イノデアル。

積立金ヲ會社事業別ニ分節スルト商業266,335,788圓(46.05%)、工業241,147,652圓(41.70%)、運輸業66,542,732圓(11.51%)、鑛業1,854,436圓(0.32%)、水產業1,587,915圓(0.27%)、農業884,742圓(0.15%)トナリ、商業ト工業トニ於テ大部分ヲ占メテ居ル。而シテ更ニ各事業別ニ拂込資本又ハ出資額ニ對スル積立ノ割合ヲ出シテミルト

	拂込資本又ハ出資額	積立金	割合(%)
農業	27,286,608円	884,742円	3.24
水產業	4,074,500	1,587,915	38.97
鑛業	48,119,482	1,854,436	3.85
工業	909,001,435	241,147,652	26.53
商業	1,286,033,684	266,335,788	20.71
運輸業	339,008,665	66,542,732	19.63

トナリ水產業最モ高ク、農業、鑛業ハ著シク低率デアル。

株式會社社債

昭和四年末現在株式會社ノ社債額ハ477,550,059圓ニシテ前年末社債額ヨリモ46,79,642圓(1割8厘)ヲ增加シテ居ル。而シテ社債ハ商法ノ規定ニ依リ社債券ヲ發行シタルモノデアルカラ小資本ノ會社ニハ殆ンドナイ、即チ資本階級別ニ分ツト 百萬圓未滿110,000圓(0.02%)、五百萬圓未滿2,962,000圓(0.62%)、一千萬圓未滿63,942,000圓(13.39%)、一千萬圓以上410,536,059圓(85.97%)トナリ一千萬圓以上ノ會社ガ大部分ヲ占メテ居ル。

次ニ社債ヲ事業別ニ見ルト工業264,985,309圓(55.49%)、運輸業146,300,000圓(30.64%)、商業63,764,750圓(13.35%)、水產業1,500,000圓(0.31%)、鑛業1,000,000圓(0.21%)トナリ、工業過半數ヲ占メ、運輸業之ニ亞ギ、水產業鑛業ハ洵ニ僅少デアル。而シテ之ヲ茲ニ事業別ノ拂込資本又ハ出資額ニ

對スル社債ノ割合ヲ算出シテ見ルト

	拂込資本又ハ出資額	社債額	割合(%)
水產業	4,075千圓	1,500	36.81
鑛業	47,889	1,000	2.09
工業	839,198	264,985	31.58
商業	909,525	63,765	7.01
運輸業	330,581	146,300	44.26

トナリ、運輸業著シク高率ニナツテ居ル、ガ之レハ鐵道、軌道等ノ運輸會社ニ起債ガ多イカラデアル

諸組合

昭和四年末現在ニ於ケル府下諸組合ハ重要物產同業組合77、農商工準則組合114、茶業組合7、酒造組合8、水產組合3、漁業組合29デ、前年末ニ比スルト重要物產同業組合ト農商工準則組合トハ增加シタガ酒造組合ハ減少シ、茶業、水產、漁業ノ三組合ハ前年ト同數デアル。

重要物產同業組合ヲ更ニ內譯スルト工業者ノ組合ハ前年ト同ジク11アリ、商業者ノ組合33デ前年ヨリ4ヲ增シ商工業者ノ組合モ33アルガコレハ前年ヨリ3ヲ減ジタ。

以上ノ外產業組合ハ昭和四年末現在ニ於テ237ヲ數ヘ、前年末ヨリハ2ヲ減ジタ、總數ノ內信用購買組合最モ多ク86アリテ36.29%ヲ占メ、次ニ多イノハ信用販賣購買利用組合38(16.03%)、信用組合37(15.61%)等デアルガ、販賣購買組合ノ2、販賣組合ノ1等ハ尠イ方デアル。是等ノ數ヲ前年ニ較ベテミルト信用組合ガ3、信用販賣購買利用組合ト信用購買利用組合トガ2ヲ增シ、販賣購買利用組合ハ前年皆無ガ新タニ3トナリ、反シテ信用購買組合ガ4、購買組合ハ2、購買利用組合、販賣購買組合ハ夫々1ヲ減ジタ。

產業組合ヲ郡市別ニスルト 大阪市50(21.10%)、泉南郡ト南河內郡トガ32(13.50%)、三島郡31(13.08%)、泉北郡29(12.24%)、中河內郡23(9.71%)、豐能郡18(7.59%)、北河內郡16(6.75%)、堺市4(1.69%)、岸和田市2(0.84%)トナリ、前年末ニ比シ三島郡ガ3、泉北、泉南、南河內ノ各郡ガ1宛ヲ增加シテ居ル。尙豐能郡、中河內郡、北河內郡ガ各1ヲ減ジテキルガ、大阪、堺、岸和田ノ三市ハ前年ト變リハナイ。

第一一 金融

大正九年ノ財界恐慌以來金融界モ亦トモスレバ此ノ渦中ニ捲キ込マレントシ警戒裡ニ年ヲ繰シタガ事實ノ內容ハ惡化シ、遂ニ彼ノ昭和二年ニ於ケル大混亂トナリ、銀行ノ破綻、休業、取付等ノ不祥事續出シ、未ダ背テナキ支拂猶豫令ノ發布ヲサヘ見ルニ至ツタ、其ノ後金融界ハ稍小康ヲ保テル觀ガアツタガ、深刻ナル一般的不況ハ物凄ク從ツテ金融界モ益其ノ殼ヲ固クスルバカリ依然トシテ局面展開ヲ見ズ暗雲低迷ノ裡ニ本年ニ入ツタ。

以下昭和四年ノ概況ヲ記述スルニ

銀行本店數

昭和四年末現在府下ニ於ケル銀行本店數ハ42行、前年末ヨリ1行ヲ減ジタ。

本府ノ過去ニ於ケル銀行數ハ戰時ノ好況時代ニハ著シク增加シタガ、大正十一年末現在ノ65行ヲ頂點トシ、爾後不況ニ因リ解散、併合等相亞イデ行ハレ、年々其ノ數減少シテ遂ニ本年末ニハ上記ノ如ク42行ニ減ジタ。

42行ノ內譯ハ特殊銀行1、普通銀行33、貯蓄銀行8ニシテ、前年ニ比スルト普通銀行ガ一行減少シタ。

總數42行ヲ銀行種別每ニ資本階級ニヨリ分類スルト、特殊銀行1行ハ一千萬圓未滿(農工銀行ニシテ資本金七百萬圓)、普通銀行ハ五十萬圓未滿10、百萬圓未滿5、五百萬圓未滿10、一千萬圓以上8トナル貯蓄銀行百萬圓未滿3、五百萬圓以上5デアルガ、普通銀行ノ如ク五十萬圓未滿ノ小銀行モ無イガ、又五百萬圓以上ノ大資本モ皆無デアル。前年ニ比スルト五十萬圓未滿ノ普通銀行ガ1行減少シテ居ル。

銀行支店數

昭和四年末ニ於ケル管內銀行支店數ハ316ケ所デ前年末ヨリ4ケ所對イ、內管內ニ本店ヲ有スルモノ205、管內ニ本店ヲ有セザルモノ111デアル、更ニ銀行種別ニスルト特殊銀行6、普通銀行245、貯蓄銀行65トナリ、前年末ニ比シ貯蓄銀行1ケ所多ク、普通銀行5ケ所少ク、特殊銀行ハ同數デアル。

銀行所在地別

管內ニ於ケル銀行ノ分布ハ大部分大阪市內ニ存シテ居ル。卽チ特殊銀行ハ7行トモ大阪市ニ屬シ、普通銀行本支店278ノ內大阪市ニ191、南河內郡17、豐能郡12、堺市11、三島郡及中河內郡10、泉北郡及泉南郡9、北河內郡5、岸和田市4ノ分布デアル、次ニ貯蓄銀行73ノ內大阪市2、堺市及南河內郡6、岸和田市3、泉北郡及中河內郡2、泉南郡1トナル。以上ニ依ツテ見ルト郡部デハ概シテ貯蓄、普通銀行トモ南河內郡ニ多ク、豐能郡、中河內郡モ亦多ク、泉南郡ニハ普通銀行ノ本店ガ比較的多イ、而シテ各郡中最モ少イノハ北河內郡デアル。

銀行資本金

管內42銀行ノ資本總額ハ275,976,000圓ニシテ前年末ニ比シ50,000圓ヲ減少シタ、資本金ヲ銀行種別ニスルト、特殊銀行7,000,000圓、普通銀行257,976,000圓、貯蓄銀行11,000,000圓デ、特殊及貯蓄銀行ハ變リナク、普通銀行ニ於テ50,000圓ヲ減少シタ。

以上ノ公稱資本ニ對スル拂込額ハ199,462,000圓デ、前年末ノソレニ比シ50,000圓ヲ減ジテ居ル。之ガ銀行種別ノ內譯ハ特殊銀行7,000,000圓、普通銀行187,349,500圓、貯蓄銀行5,112,500圓デ、前年ニ比シ普通銀行デ50,000圓ヲ減少シタ。

公稱資本ニ對スル拂込額ノ割合ハ7割2分3厘トナリ、前年ト略等シク、之ガ銀行種別ハ特殊銀行ハ全額拂込、普通銀行ハ7割2分6厘、貯蓄銀行ハ最モ低クシテ4割6分5厘デアル。

銀行預金

昭和四年中ニ於ケル銀行預金預リ高ハ37,330,946,940圓ヲ算シ前年中ニ比シ137,752,049圓(4厘)ノ減少トナツテ居ル。之ヲ銀行種別ニスルト特殊銀行14,362,570,435圓(38.47%)、普通銀行22,573,282,002圓(60.49%)、貯蓄銀行395,094,503圓(1.04%)トナリ、前年ニ比シ特殊銀行ノ取扱高ガ減少シテ居ル。

昭和四年末ニ於ケル預金現在高ハ1,919,798,670圓デ、前年末現在高ニ比シ55,627,036圓(3分)ノ增加ニナツテ居ル。之ヲ銀行種別ニミルト普通銀行1,581,864,385圓(82.40%)、貯蓄銀行286,274,484圓(14.91%)、特殊銀行51,659,801圓(2.69%)トナリ、特殊銀行著シク少イガ、前年ニ比スルト貯蓄銀行ガ減少シタ。

更ニ預金並ニ其ノ年末現在高ヲ銀行種別每ニ種類別トスレバ先ヅ特殊銀行ニ在リテハ(單位千圓)

	預金			年末現在		
	預リ高	比率(%)	前年比率	現在高	比率(%)	前年比率
當座預金	14,192,507	98.82	99.16	35,033	67.82	44.24
特別當座預金	9,097	0.06	0.09	2,353	4.55	5.07
通知預金	28,129	0.20	0.08	1,652	3.20	3.67
定期預金	21,486	0.15	0.19	12,268	23.75	37.99
其ノ他預金	111,351	0.77	0.48	353	0.68	9.03
計	14,362,570	100.00	100.00	51,659	100.00	100.00

表示ノ如ク預金高ニ於テハ當座預金大部分ヲ占メテ居ルガ、此レハ日銀大阪支店ノ預金取扱ハ當座預金ノミナルガ爲デ、而シテ他ノ預金ハ僅少デアル。年末現在高ハ當座ノ外ニ定期預金モ比較的多イ、之ヲ前年ニ比スルト預金總額ニ於テハ通知預金ノ割合ガ增加シ、年末現在高ニ於テハ當座預金ノ割合ガ著シク增シ定期預金ガ著シク減ジタ。

次ニ普通銀行ニ在リテハ(單位千圓)

	預金			年末現在		
	預リ高	比率(%)	前年比率	現在高	比率(%)	前年比率
當座預金	16,715,346	74.05	71.98	243,511	15.39	17.09
特別當座預金	2,018,084	8.94	10.10	259,562	16.40	17.03
通知預金	973,468	4.31	4.46	131,895	8.34	8.55
定期預金	1,563,819	6.93	6.89	893,374	56.48	53.07
其ノ他預金	1,302,565	5.77	6.60	53,522	3.38	4.26
計	22,573,282	100.00	100.00	1,581,864	100.00	100.00

卽チ當座預金最モ多イガ、特殊銀行ニ於ケル割合程多クハナイ。尙前年ノ割合ニ比スルト當座預金ガ增加シ特別當座預金ノ減少ガ大キイ、而シテ年ヲ年末現在高ハ定期預金最モ多ク、過半數ヲ占メ、當座預金ハ第三位デ僅カニ15%餘リデアリ、前年ノ割合ニ比スルト定期預金ノミガ增加シテ居ル。

次ニ貯蓄銀行ニ在リテハ(單位千圓)

	預		金	年	末	現	在
	預り高	比率(%)	前年比率	年末高	比率(%)	前年比率
普通貯金	186,532	47.21	49.03	73,790	25.78	27.41
据置貯金	103,377	26.17	25.31	67,036	23.42	22.65
定期積金	94,313	23.87	23.24	134,930	47.13	46.38
定期預金	10,738	2.72	2.41	10,517	3.67	3.56
其ノ他預金	134	0.03	0.01	1	0.00	0.00
計	395,094	100.00	100.00	286,274	100.00	100.00

預り高ニ於テハ普通貯金最多デ据置貯金、定期積金之ニ亞ギ、定期預金、其ノ他ノ預金ハ僅少デアル前年ニ比スルト普通貯金ノ割合ノミガ減少シタ。之ガ年末ニ於ケル現在高ニ在リテハ定期積金最モ多ク、普通貯金ト据置貯金トガ亞イデ多イ。之ヲ前年ニ比スルト預り高ト同ジク普通貯金ノ割合ノミガ減少シテ居ル。

貯蓄預金職業別

茲ニ貯蓄預金ノ職業別ニ就テ觀察スルト（但シ貯蓄預金中ノ普通貯金、据置貯金、定期積金ノ三種ノ合計トス）

	口		數	金		額
	口數	比率(%)	前年比率	金額	比率(%)	前年比率
農業	54,664	3.23	3.64	4,695,960円	1.70	1.90
商業	447,141	26.43	29.29	89,696,267	32.53	37.28
工業	136,849	8.09	9.00	18,637,136	6.76	7.94
雜業	1,053,051	62.25	58.07	162,726,769	59.01	52.88
計	1,691,705	100.00	100.00	275,956,132	100.00	100.00

掲表ノ職業別ハ餘リニ分類簡單ニ過ギル嫌アルモ、ヨリ細密ナル分類別ノ資料ガナイ故ニ已ムヲ得ズ本分類ニ依リ觀察スルコトトシタ、デ口數ニ在リテハ雜業最多デ商業之ニ亞グガ、前年ニ比スルト雜業ノ割合ガ增シ、農、商、工業ハ減少シテ居ル。金額ニ在リテモ亦雜業最モ多イガ口數ニ於ケル割合ヨリモ低ク商業之ニ亞グガ之ハ口數ニ於ケル割合ヨリモ高イ。尙前年ニ比スルト雜業ノミソノ割合增加シ他ハ減少シタ。

次ニ職業別ノ一口當リ平均貯金額ハ商業200圓60錢、雜業154圓53錢、工業136圓19錢、農業85圓91錢トナリ、商業最多、農業最少デアル。

總額ノ一口當リ平均貯金額ハ163圓00錢トナリ、前年ノ149圓40錢ニ比較スルト相當增加シテ居ル、今之ヲ最近十ケ年ニ亘リ算出スルト

	金額		金額
大正九年	円 36.28	大正十四年	円 86.88
同十年	37.00	昭和元年	108.85
同十一年	39.72	同二年	122.14
同十二年	83.69	同三年	149.40
同十三年	86.95	同四年	163.00

トナリ、即チ年々高クナツテ行クガ、特ニ大正十二年ノ躍進ト、昭和ニ入ツテカラノ增加振リハ比較的著シイ。

尙貯金種別ニ見タル一口平均額ハ据置貯金著シク高ク1,063圓45錢トナリ、定期積金ハ283圓47錢、普通貯金ハ63圓17錢デ最モ低イガ、何レモ前年ノ平均額ヨリ增加シテ居ル

銀行貸付金

昭和四年中ニ於ケル銀行貸付金總額ハ18,097,728,772圓ヲ數ヘ、前年中ニ比シ874,008,786圓（5分1厘）ヲ增加シテ居ル。之ヲ銀行種別ニ分ケルト特殊銀行563,794,775圓(3.11%)、普通銀行17,373,247,518圓(96.00%)、貯蓄銀行160,681,479圓(0.89%)トナリ。前年ニ比スルト特殊銀行ノ貸付高ガ減少シタ。

此貸付金ノ昭和四年末ニ於ケル現在高ハ1,451,250,568圓デ、前年末ニ比ベルト48,052,244圓(3分2厘)殖イ、之ガ銀行種別ニ特殊銀行161,177,477圓(11.10%)、普通銀行1,239,765,505圓(85.43%)、貯蓄銀行50,307,581圓(3.47%)ニ該當シ、前年ニ比スルト普通銀行ノ貸付金ガ減ツテ居ル。貸付金並ニ其ノ年末現在高ヲ種類別ニ觀察スルト、先ヅ特殊銀行ニ在リテハ次表ノ如クデアル（單位千圓）

	貸	付	金	年	末	現	在
	貸付高	比率(%)	前年比率	年末高	比率(%)	前年比率
手形貸付	9,016	1.60	1.31	6,808	4.22	3.33
證書貸付	37,009	6.56	6.18	151,251	93.84	60.52
當座貸越	20,294	3.60	3.05	602	0.37	0.36
コールロン	462,160	81.97	80.65	700	0.43	0.22
其ノ他貸	35,316	9.26	8.80	1,816	1.13	5.57
計	563,795	100.00	100.00	161,177	100.00	100.00

表中貸付高デハコールロン最モ多ク8割以上ヲ占メ、手形貸付最モ少ク、之ヲ前年ニ比スルトソノ割合ハ手形貸付、證書貸付、當座貸越、コールロン等何レモ增シテ居ル。年末現在デハ證書貸付著シク多ク大部分ヲ占メ、手形貸付之ニ亞ギ、他ハ僅少デアル。之ヲ前年ニ比スルト何レモ增加シテ居ルガ證書貸付ノ增加最モ多イ。

以上ノ貸付金ノ外本年中ノ割引手形高ハ456,771,683圓デ、前年ノ割引高ニ比シ764,645,774圓（6割2分6厘）ヲ減少シタ、概シテ著シイ減少デアル。而シ年末ニ於ケル割引手形現在高ハ212,221,391圓デ

前年末現在高ニ比スルト604,847圓(3厘)ヲ増加シテ居ル。即チ一年中ノ割引總額ハ著シク減ツタガ、年末現在高ハ前年ヨリ多イノデアル。

次ニ普通銀行貸付金ニ在リテハ(單位千圓)

	貸付金			年末現在		
	貸付高	比率(%)	前年比率	年末高	比率(%)	前年比率
手形貸付	6,410,605	36.90	32.39	947,477	76.42	74.36
證書貸付	132,111	0.76	1,14	110,654	8.93	8.89
當座貸越	4,372,440	25.17	26.84	112,079	9.04	11.49
コールロン	6,442,309	37.08	39.55	59,210	4.78	4.34
其ノ他貸	15,783	0.09	0.08	10,345	0.88	0.92
計	17,373,248	100.00	100.00	1,239,765	100.00	100.00

即チ前掲ニ依レバ貸付總高ニ於テハコールロン最モ多ク、手形貸付之ニ亞ギ、前年ニ比スルト手形貸付著シク増加シ證書貸付、當座貸越、コールロン等何レモ減少シテ居ルノハ注目ニ値スル。又年末貸付現在高ニ在リテハ手形貸付著シク多イガ前年ニ比ベルトコールロンガ増エテ居ル、然シ割合ヲ見ルト前掲ノ如ク手形貸付、證書貸付、コールロン等ノ割合ガ増加シテ居ルノデアル。

以上ノ貸付金ノ外割引手形ハ本年中ニ於テ2,502,160,157圓ヲ算スルガ、前年ニ比スルト19,975,202圓(8厘)ノ減少ヲ示シテ居ル。年末ニ於ケル割引現在高ハ211,536,711圓デ、前年末ニ比ベルニ57,549,129圓(2割1分4厘)ノ減退ヲ示シタノデアル。

更ニ進ンデ貯蓄銀行貸付金ニ付テ觀察スルト(單位千圓)

	貸付金			年末現在		
	貸付高	比率(%)	前年比率	年末高	比率(%)	前年比率
有價證書擔保貸付	100,576	62.59	60.05	3,702	7.36	10.18
不動產抵當貸付	1,653	1.03	1.44	2,407	4.78	5.14
預金者ニ貸付	9,650	6.01	6.41	2,460	4.89	5.30
定期積金者ニ貸付	48,788	30.36	32.09	41,725	82.94	79.34
其ノ他貸	14	0.01	0.00	14	0.03	0.04
計	160,681	100.00	100.00	50,308	100.00	100.00

即チ特殊銀行並ニ普通銀行ノ貸付種別トハ異ナツテ居ル、總貸高デハ有價證券擔保貸付ガ最モ多ク、定期積金者ニ對スル貸付之ニ亞ギ、前年ニ比スルト有價證券擔保貸付、預金者ニ貸付、定期積金者ニ貸付等何レモ増加シタガ、割合ニ於テハ有價證券擔保貸付ガ増シ、他ハ減少シテ居ル。又年末ニ於ケル貸付現在高ハ定期積金者ニ對スル貸付著シク多ク、前年ニ比スルト不動產抵當貸付、預金者ニ貸付定期積金者ニ貸付等ハ増シテ居ルガ、割合ニ於テハ定期積金者ニ對スル貸付ガ獨リ増加シタ。

尙以上ノ貸付金ノ外ニ銀行ヘノ預ケ金及郵便貯金額ハ昭和四年中ニ於テ290,0[illegible],479圓デ、前年ノ事

實ニ比シ43,990,700圓(1割7分8厘)ノ増加デアル。之ガ年末現在高ハ18,765,645圓デアリ前年末ヨリ5,963,127圓(4割6分5厘)ノ比較的大ナル増加デアル。

銀行爲替

昭和四年中ニ於テ特殊銀行並ニ普通銀行ノ爲替取扱高ハ內國爲替22,209,018,096圓デ、前年ノ取扱高ヨリ1,412,709,881圓(6分)ヲ減少シタ。內送金爲替ハ13,785,173,27[illegible]圓(62.07%)、代金取立爲替ハ8,423,844,821圓(37.93%)デ、前年ニ較ベルト代金取立爲替ノ割合ガ減ツテ居ル。

外國爲替ハ4,298,889,242圓デ、前年ノ爲替高ニ比スルト205,680,5[illegible]2圓(5分)ノ増加ヲ示シタ。即チ內國爲替ハ前記ノ如ク減ツタガ外國爲替ハ増シタノデアル、而シテ此外國爲替ノ內賣爲替ハ1,761,677,692圓(40.94%)、買爲替ハ2,537,211,550圓(59.06%)トナリ前年ニ比スルト賣爲替ノ割合ガ増加シタ

手形ノ交換

大阪手形交換所昭和四年末現在組合銀行數ハ32行デ、前年末ヨリ2行ヲ減ジタ、本年中ノ交換日數299日デ前年ヨリ2日尠イ。昭和四年中ニ於ケル交換成績ヲ見ルニ交換枚數10,390,223枚トナリ、前年ヨリ381,046枚(3分8厘)ヲ増シ、金額ハ22,374,043,312圓デ、前年ヨリ689,6[illegible]7,810圓(3分2厘)ノ増加トナルガ枚數、金額トモニ前年ノ増加數及歩合ヨリモ低イ。

今各月中ノ交換高ヲ見ルト、枚數デハ十二月ノ1,034,655枚最モ多ク、五月、七月ノ90萬枚臺之ニ亞ギ、金額デハ四月ノ2,334,636千圓最多デ、亞イデ五月、三月、七月ノ20億圓乃至21億圓臺ガ多イ。

午後ニ於ケル交換ノ狀況ハ枚數2,611,107枚、金額1,914,646,216圓デ、上記ノ午前ノ交換ニ對スル比率ハ枚數23.1%、金額8.6%トナリ、前年ノ比率ヨリ低下シテ居ル、各月中ニ於テコノ百分率ノ最モ高カツタノハ枚數デハ九月ノ29.5%、金額デモ同ジク九月ノ29.5%デアル。

次ニ昭和四年中ノ交換一日平均額ハ枚數34,749枚、金額74,829,576圓トナリ、枚數ハ最近十ケ年間中ノ最高ヲ示シタガ、金額ハ最高昭和元年ノ93,995千圓餘ニ比スルト著シク低イ、而テ手形一枚ノ平均金額ハ2,153圓トナリ前年ノ2,166圓ヨリモ尠クナツテ居ル、是等ハ又世相ト對比シテ一考ニ値スル。

更ニ本年中ニ於ケル一日ノ最大交換ハ枚數デハ一月四日ノ263,035枚、金額デハ三月一日ノ212,466,527圓デ、前年ノ最高ヨリモ枚數、金額共超過シテ居ル。次ニ一日ノ最小交換ハ八月廿四日ノ11,983枚、九月十四日ノ37,170,762圓デ、枚數ハ前年ノ最小ヨリモ低イガ金額ハ高イ。即チ本年ハ最大、最小ノ間隔ガ前年ヨリモ大キクナツテ居ル。

不渡手形

昭和四年中ノ手形不渡ハ人員398人デ、前年ヨリ40人ヲ増シタ。不渡枚數410枚、此ノ金額371,453圓デ、前年ニ比スルト枚數41枚、金額69,64[illegible]圓ノ増加デアル。之ヲ類別スルト枚數410枚ノ內爲替手形254枚(61.95%)、小切手104枚(25.37%)、約束手形52枚(12.68%)トナリ、金額371,453圓ノ內爲替手形265,459圓(71.46%)、約束手形58,119圓(15.65%)、小切手47,875圓(12.89%)ニ當リ、枚數、金額トモ爲替手形最モ多イ。

不渡一枚ノ平均金額ハ905圓98錢ニ相當シ、前年ノ平均高ヨリモ高クナツテ居リ、不況ナ財界ノ狀況ヲ如實ニ語ツテ居ル樣ニ思ハレル。

第一二 交 通

道 路 人口ノ増加ガ其ノ土地ノ發展ヲ意味スル様ニ、交通量ノ増加モ亦其ノ土地ノ發展ヲ窺知スルニ充分デアル。

本府輓近ノ交通量ハ人口ノ増加ト相呼應シテ累々増加ノ趨勢ニ在リ、殊ニ道路ノ如キ愈々複雑重奏ヲ極メルニ至ツタ、如斯繁激ノ度ヲ加フルニ従ツテ、交通量ノ緩和並ニ交通事故防止ノ上カラ、將又、ヨリ偉大ナ土地ノ發展ヲ期スル意味カラシテモ、時々刻々ニ改築修繕スル等之ガ經營方法ヲ革新シ、以ツテ土地ノ進展ヲ助長シ、切々ナル時代ノ要求ニ副ヒツヽアル。

今國道、府縣道並ニ町村道ニ區別シテ其ノ概況ヲ述ベルト、國道ハ第二號線、第十六號線、第三十七號線ノ三線アリ、之ガ總延長ハ26里27町37間デアル、此ノ内山地ニ屬スルモノ2里14町1間、平地24里13町36間ニシテ此ノ比前者8分9厘、後者9割1分1厘ノ割合デアル。府縣道ハ298線在リテ總延長353里24町35間デ内83里5町7間ハ山地ニ屬シ、平地ニ屬スルモノ270里30町2間デアル、而シテ此ノ割合ハ山地2割3分5厘、平地7割6分5厘デアル。

町村道ハ總延長2,559里24町39間、内府費補助ノ規定アルモノ267里24町、同規定ナキモノ2,292里39間ニシテ府費補助ノ規定ナキモノ大部分ヲ占メテ居ル。以上ヲ詳述スルト府費補助ノ規定アルモノノ内、山地ニ屬スルモノ93里9町10間(3割4分8厘)平地174里14町50間(6割5分2厘)デアル。此ノ幅員一間以上ノモノ85.46%、同未滿ノモノ14.54%ニ當ル。府費補助ノ規定ナキモノノ内山地ニ屬スルモノ403里16町29間、平地ハ1,888里20町10間デ、此ノ比ハ前者1割7分6厘、後者8割2分4厘デアル。然シテ規定アルモノトナキモノトノ割合ヲ見ルト一間以上ニシテ規定アルモノ32.38%、ナキモノ67.62%ニ當リ、一間未滿ノモノハ規定アルモノ56.58%、規定ナキモノ43.42%ニ割合シ、何レモ府費補助ノ規定ナキモノ長距離デアル。

橋 梁 總數6,063ナリテ前年ヨリハ150ノ増加デアル、内國道ニ架カルモノ86、府縣道1.178、町村道ニ在ルモノハ最モ多ク4,799デ、全橋梁ノ7割9分2厘ヲ占メテ居ル。府縣道1割9分4厘、國道1分4厘ノ割合デアル。更ニ之ヲ橋質別ニ見ルト鐵橋及石橋ガ最多デ4割8分8厘、土橋及其ノ他ノ橋梁2割8分1厘、木橋2割3分1厘ノ割合ヲ示シテ居ル。之等ハ所謂、商工業ノ中樞地トシテノ本府ノ異様ナ發達ト、震火水害等ヨリ起ル破壊ノ防止ニ備フル爲ノ適切ナル施設デアル、土橋及木橋ノ如キ耐久性ノ乏シキモノハ逐次鐵橋及石橋ノ堅牢ナルモノニ改築セラルルハ當然ノ歸結デアル。

鐵道、軌道 本府ニ於ケル鐵道、軌道ハ世運ノ進歩ト、本府ノ急速度的ナ發展ニ伴ヒ、本府ヲ中心トシテ、競ヒテ敷設セラル所デアル。

今其ノ概況ヲ述ベルト、之等經營者ハ官私ヲ合シテ13デアル、内鐵道法ニ依ルモノ7、軌道法ニ依ルモノ6デアル。尚此ノ線數並ニ哩數ヲ見ルト、鐵道ニ在ツテハ19線、188,2哩、軌道63線(内大阪市營軌道47線)251,90哩デ、尚益々發達延長ノ趨勢ニアル。(軌道ノ哩數ニ在ツテハ他府縣ニ跨リテ管内ノモノト管外ノモノトヲ區別シ難イ爲、線路ノ延長ニ於イテ起終點共管外ニ屬スルモノヲ控除シテ列擧ス)

旅 客 鐵道各線ニ亘ツテノ乘車人員120,192,418人ヲ前年ニ較ベルト4,527,470人ノ増加デアル、一日平均ノ乘車人員ハ329,294人ニシテ、此ノ賃金ハ25,082,812圓デアル、前年ヨリハ308,163圓ノ減收デ、一日平均68,720圓デアル。此ノ如ク乘車人員ノ増加ヲ見ルニ反シテ其ノ賃金ガ減收デアルコトハ所謂財界ノ不況ノ致ス長距離旅行者ノ差控ユル故デハナカロウカ。

軌道乘車人員532,607,362人ヲ前年ニ比較スルト40.522.850人ノ増加デ、此ノ一日平均ハ1.459.198人デアリ、之ガ賃金ハ44,981,773圓デ、一日平均ハ123.06'圓デアル。

以上ノ如ク鐵道ハ減收デ、軌道ノミガ増收ヲ示シテ居ルハ、如何ニ軌道電車ノ輕便ト快速ガ文明ノ利器トシテ時代ノ要求ニ適應シテ居ルカガ窺ハレル。

電氣鐵道車輛 總數1,827輛ヲ前年ニ較ベルト199輛ノ増加デアル。内客車1,687輛、貨車102輛、撒水車38輛デ、此ノ割合ハ客車92.35%、貨車5.58%、撒水車2.07%デアル。客車ヲボギー車、普通車ニ區別シテ見ルト、前者1,32.輛、後者366輛デアツテ、普通車ノ年々其ノ影ヲ潜ムルニ反シテボギー車ハ近年著シク建造セラレルニ至ツタ。

電氣鐵道事故 運轉上ノ事故度數747ヲ前年ニ比較スルト138ノ増加デアル。近年種々ナ方法ヲ以テ交通事故防止ノ宣傳ト之ガ徹底ヲ期セラレツツアルニ拘ラズ、上述ノ如ク増加ヲ見ルハ世人ノ交通ニ對スル觀念ニ未ダ覺醒セザルヲ如實ニ示スモノデ甚ダ遺憾デアル。尚之ヲ事故別ニ見ルト脱線32.8%停電5.89%、人爲被害4.28%、衝突2.68%。斷線1.20%、其ノ他53.15%ノ割合デ、其ノ他ノ事故最モ多ク、之ニ亞イデ脱線ノ極メテ多イノハ何レモ好シカラザル現象デアル。

線路上ノ事故2,164ヲ前年ニ較ベルト230ノ増加デ、内死亡セシモノ178人、負傷セシモノ1,986人ニシテ、此ノ割合ハ前者8分2厘、後者9割1分8厘デアル。交通量ノ増加並ニ交通機關ノ發達ハ上述ノ如キ交通地獄ノ現出トナリ忌ムベキ悲惨事ヲ惹起スルニ至ツタ。

諸 車 世運ノ進歩ニ伴ツテ交通機關ハ遲鈍ナルモノヨリ快速ナルモノヘト急速度的ニ變化改造セラレツヽアル。卽チ汽車ニ更ルニ電車ノ如キ近年著シク之ガ經營並ニ敷設セラルヽ所デアツテ、又快速ヲ標榜スル自動車ノ如キモ、各道路網ヲ縱横ニ疾驅シ、時代ニ遲レタ人力車ノ如キハ漸ク視野カラ其ノ影ヲ潜ムルニ至ツタ。

諸車有税、無税ノ總數465,470臺ヲ前年ニ比較スルト、14,299臺ノ増加デアル。之ヲ種類別ニ見ルト自轉車ハ自動、普通ヲ合シテ325,392臺(69.91%)ニシテ最モ多ク、荷車110.328臺(23.70%)牛車11,312臺(2.43%)、馬車8.079臺(1.74%)、自動車通常、荷積用共4.807臺(1.03%)人力車2.784臺(0.60%)ノ順デアル。

汽 船 船數483隻ヲ前年ニ比較スルト16隻ノ増加デ、之ガ噸數ハ136,790噸デアル。噸數ノ大小ニ依ツテ之ヲ分ツト、5噸以上20噸未滿ノモノ295隻(61.08%)、20噸以上100噸未滿ノモノ42隻(8.70%)100噸以上500噸未滿ノモノ73隻(15.11%)、500噸以上1,000噸未滿ノモノ23隻(4.76%)、1,000噸以上ノモノ50隻(10.35%)ノ割合ニシテ、大阪市大部分ヲ占メ總數ノ9割4分8厘ニ當ツテ居ル。

帆 船 帆船噸數船々數597隻ヲ前年ニ比較スルト7隻ノ減デアル。之ヲ噸數ノ大小ニ依ツテ區別スルト5噸以上20噸未滿ノモノ406隻(68.01%)、20噸以上100噸未滿ノモノ157隻(26.30%)、100噸以上

500噸未滿ノモノ34隻(1.69%)、ニ割合シテ居ル。尙之ヲ郡市別ニ見ルト大阪市5.1隻 (87.21%)ニシテ大部分ヲ占メ、堺市49隻(8.21%)、岸和田市15隻(2.51%)、泉南郡12隻(2.01%)ノ順デアル。

帆船石數船々數193隻ヲ前年ニ較ベルト17隻ノ減ニシテ、更ニ之ヲ5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト43隻ノ減少デアル。所謂、文明ノ利器トシテ退歩ヲ續ケツヽアル。以上ヲ石數ノ大小ニ依ツテ區別スルト50石以上200石未滿ノモノ192隻(9割9分5厘)ニシテ大部分ヲ占メ、200石以上1,000石未滿ノモノ僅カ1隻(5厘)アルノミデアル。而シテ之ヲ所屬郡市別ニ見ルト大阪市24隻(12.44%)、堺市61隻(31.61%)、岸和田市68隻(35.23%)、泉南郡40隻(20.72%)ニシテ岸和田市ガ最モ多イ。

小　船　總數15,227隻ヲ前年ニ比較スルト1,004隻ノ減少デ、之ヲ動力ヲ有スルモノ、同有セザルモノニ區別シテ見ルト、前者ニ屬スルモノ557隻(3分7厘)、後者14,670隻9割6分3厘)ノ割合デアル。尙之ヲ種數別ニ見ルト、櫓櫂及櫓櫂ノミヲ以テ運航スルモノガ最多デ13,945(91.58%)、端舟1,565隻(6,99%)五噸又ハ五十石未滿ノ帆船217隻(1.43%)デアル。

入港船舶　隻數199,892隻ヲ前年ニ比スルト2,665隻ノ增加ニシテ、之ガ總噸數ハ18,835,984噸デアル尙之ヲ港別ニ見ルト大阪港ニ入ルモノ最モ多ク181,703隻(90.90%)、岸和田港9.181隻(4.59%)、堺港9,008隻(4.51%)ノ割合デアル。

汽船旅客　出船、入船合シテ旅客1,641,246人ヲ前年ニ比較スルト、32,115人ノ增加デアル。更ニ之ヲ5ケ年前ノ大正14年ヨリ見ルト369,957人ノ增加デアル。之ヲ出船、入船ニ區別スルト出船847,973人、入船793,273人ニシテ、此ノ割合ハ前者5割1分7厘、後者4割8分3厘デアル。港別ニ見タル人員ハ天保山最モ多ク1,056,676人(64.38%)ヲ算シ、築港356,977人(21.75%)、富島町186,779人 (11.38%)、淡輪40,814人(2.39%)ノ割合デアル。

郵便局數　郵便取扱所ヲ合シテ282ケ所ヲ前年カラ見ルト13ケ所ノ增設デ、更ニ5ケ年前ノ大正14年ニ較ベルト48ケ所ノ增設デアル。人口ガ增加シ、土地ガ發展スレバ通信事務モ亦、多忙ヲ極メルハ當然ナ事象デ、通信機關ノ完備ヲ期セネバナラナイ事ハ果年取扱局ノ增設ニ增設ヲ以テスル結果ヨリ觀テモ明ラカニ窺知スル事ガ出來ル。取扱局總數ノ內、一等局2ケ所、二等局21ケ所、三等局(集配局、無集配局共)259ケ所ニシテ前年ヨリハ13ケ所ノ增設デアル。郵便函數3,053ケ所ハ前年ヨリ146ケ所ノ增設トナリ、私書函42ケ所ハ前年ト異動ナキモ、郵便切手賣捌所2,620ケ所 (外ニ收入印紙賣捌所6ケ所アリ) ハ前年ニ比較スルト55ケ所ノ增加デアル。

通常郵便物　引受通常郵便物ノ總數551,811,939通ヲ前年ニ比較スルト、40,939,895通ノ增加デ、更ニ之ヲ5ケ年前ノ大正14年ヨリ見ルト、增加スルコト實ニ97,876,278通ノ多キニ達シテ居ル。此ノ內通常郵便98.68%、書留郵便1.28%ニシテ其ノ他ノ0.04%ハ價格表記デアル。尙此ノ外ニ集金郵便物933,082通アリテ、前年ヨリハ58,828通ノ減少デアル。

配達通常郵便物454,640,158通ヲ前年ニ比スルト、47,038,418通ノ增加デ、5ケ年前ノ大正14年ヨリ見ルト74,208,765通ノ激增デアル。此ノ內譯ヲ示スト普通郵便物98.81%、書留郵便物1.17%、價格表記0.02%ノ割合デ、此ノ外ニ集金郵便トシテ取立207,484通、取立不能235,768通アル。

小包郵便物　引受小包郵便物7,977,629個ヲ前年ヨリ見ルト190,280個ノ增加デ、更ニ5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト1,328,841個ノ增加デアル、之ガ內譯ヲ示スト普通小包50.50%、書留小包49,50%ノ割合デアル。

配達小包郵便物3,833,899個ハ前年ヨリハ36,512個ノ增加デ、5ケ年ノ大正14年ヨリ見ルト567,560個ノ增加デアル、此ノ內60.97%ハ普通小包ニシテ書留小包39.02%、價格表記0.01%ノ割合デアル。

電信取扱　電信取扱局數、無線電信局ノ1ケ所ト中繼所ノ1ケ所ヲ合シテ155ケ所、前年ヨリハ4ケ所ノ增設デアル。總數ノ內一等局4ケ所、二等局21ケ所、三等局101ケ所、公衆電報取扱所29ケ所デアル。

發信電報總通數ハ6,506,979通デ、內內國ニ係ルモノ6,174,921通(9割4分9厘)、外國ニ係ルモノ332,058通(5分1厘)デアル。總數ノ內有料ノモノ2,908,396通ニ及ビ、之ガ料金ハ4,844,717圓、他ハ無料ノモノデアル。着信電報總通數6,191,034通ヲ前年ニ比スルト104,691通ノ減少デ、內內國ニ係ルモノ5827.963通(9割4分1厘)、外國ニ係ルモノ363,061通(5分9厘)、總數ノ內無料ノモノ583,730通ヲ除ク他ハ有料ノモノニシテ、之ガ料金ハ16,666,306圓デアル。

電話取扱　局數151ケ所ヲ前年ニ比較スルト10ケ所ノ增加デ、內一等局16ケ所(分局2ケ所ヲ含ム)、二等局21ケ所、三等局114ケ所デ、此ノ總數ヲ交換局、電話局ニ區別スルト前者75ケ所、後者76ケ所デアル。

公衆電話所ハ348ケ所アリテ前年ヨリハ28ケ所ノ增設デアル。

電話加入者77,085人ヲ前年ニ較ベルト2,237人ノ增加デ、加入者相互間ノ呼數ハ280,082,636、前年ヨリ12,233,625、5ケ年前ノ大正14年ヨリハ實ニ96,955,043ノ激增デ、商工業ノ中樞地トシテノ本府ノ電話機關ハ益々發達ノ趨勢ニアル。

第一三　土　功

土木費決算

本府ニ於ケル交通機關發達ノ概況ハ、前章ニ於イテ既ニ述ベタ如ク、近時益々之ガ繁激ノ度ヲ加ヘツヽアル、之ガ設備並ニ修理ニ於ケルモ著々ト進捗セラレツヽアリ、然レドモ財界悲況ハ公私經濟節約ノ叫バレル所トナリ、之ガ影響ヲ受ケタル土木工事モ中止或ハ工事延期トナリテ、其ノ進捗ハ阻止セラレツヽアルハ吾人共存ノ上ニ洵ニ遺憾トスルトコロナリ。殊ニ本府ノ如キハ交通量ノ益々增加スルノ趨勢ニアルノ故ヲ以テ、之ガ緩和ヲ期スル見地カラシテモ新築並ニ改築ハ極メテ必要事デアル、斯カル結果昭和三年度ニ決算總額ノ31,669,967圓ハ前年度ヨリモ1,090,225圓ノ減額ヲ來シテ居ル。

土木費決算總額ノ內通常土木費ハ31,130,995圓、災害土木費ハ361,828圓ニシテ此ノ割合ハ前者9割8分3厘、後者1分7厘ニ當ツテ居ル。通常土木費ヲ更ニ細別スルト新築及改築費26,537,140圓(85.24%)ニシテ大部分ヲ占メ、修繕費3,055,886圓之ニ亞ギ、爾餘1,537,969圓(4.94%)ハ雜費デアル。

總額ヲ支出者別ニ比率ヲ示スト、市費最モ多ク81.76%、府費12.19%、國庫補助金3.30%、町村費1.70%、府補助金0.54%、水利組合費0.40%寄附金0.11%ノ割合デアル。

尙土木費總額ヲ工事別ニ其ノ比ヲ見ルト、道路工事67.12%、橋梁工事11.07%、港灣工事10.26%、雜費4.20%、河川工事3.71%、上水道工事1,03%、用惡水工事0.71%、渡船工事0.70%、吏員費0.5

5%、雜工事0.48%、砂防工事0.07%、下水道工事0.05%、共同物置場工事0.05%ノ割合デアル。

災害員數及損失價額

昭和三年中ニ於ケル災害度數ハ8デ、前年ヨリハ6ノ增加ヲシテ居ル、卽チ昭和三年ニ於イテハ豪雨多々、出水氾濫セルノ結果デアル。之ガ被害町村ハ實ニ92ケ町村ニ及ンデヰル。

總度數ノ內、河川8ケ所ニシテ其ノ延長60,160間、道路149ケ所、3,079間、橋梁29ケ所其ノ他51ケ所デアル。之ガ損失價額ハ522,779圓デアルガ、內河川199,618圓(38.18%)、道路190,535圓(36.45%)橋梁118,875圓(22.74%)、其ノ他13,750圓(2.63%)デアル。

道路築造及修繕費

昭和三年度新築及修繕費總額20,893,105圓ヲ前年度ニ比較スルト4,773,435圓ノ增額デアル、更ニ之ヲ5ケ年前ノ大正13年度ニ比スルト8,365,051圓ノ膨脹デアル。卽チ是等ハ日々增加シツヽアル交通量ノ緩和ヲ計ルハ勿論、交通事故ヲ防止センガ爲ノ施設デアツテ、現ニ大阪市ノ如キ市街道路ノ大改革ニ伴ツテ、近年費額ハ頓ニ膨脹セルヲ示シテ居ル。

總額ノ內新築及改築費ハ18,681,807圓ニシテ8割9分4厘ヲ占メ、修繕費ハ2,211,298圓ニシテ1割6厘ニ當ツテル。尙此ノ費用ヲ道路別ニ見ルト市道最モ多額ニシテ17,451,953圓(83.53%)、府縣道2,752,694圓(13.18%)、町村道362,612圓(1.74%)、國道225,846圓(1.55%)ノ割合デアル。

橋梁ノ架設及修繕費

架設シタル橋梁數121ヲ前年ニ比較スルト28ノ增加デ、內鐵橋41、石橋13、木橋34、土橋及其ノ他ノ橋梁33デアル。此ノ總費額ハ3,190,774圓ニシテ前年度ヨリハ2,186,480圓ノ增額デアル。更ニ之ヲ道路別ニ見ルト市道3,085,441圓(96.70%)ニシテ大部分ヲ占メ、府道74,418圓(2.33%)、町村道21,235圓(0.67%)、國道9,680圓(0.30%)ノ割合デアル。

修繕シタル橋梁1,406ヲ前年ヨリ見ルト34ノ增加デアル。內鐵橋493、石橋70、木橋444、土橋及其ノ他ノ橋梁ハ399デアル。此ノ總費額ハ313,592圓ニシテ前年度ヨリハ106,344圓ノ增額デアル。更ニ之ヲ道路別ニ見ルト市道192,786圓(61.48%)、府縣道83,132圓(26.51%)、國道24,147圓(7.70%)、町村道13,527圓(4.31%)デアル。

河川堤防ノ築造及修繕

昭和三年度ニ築造シタル河川ノ堤防13ニシテ之ガ費額ハ482,277圓デアル、之ヲ支出者別ニ見ルト、市費最モ多額ニシテ378,184圓(78.42%)、府費100,384圓(20.81%)、府費補助2,061圓(0.43%)、町村費1,648圓(0.34%)デアル。

修繕シタル河川堤防42此ノ總費額ハ314,668圓デ內、164,552圓(52.29%)ハ府費支拂ニシテ、市費146,699圓(46.62%)、町村費3,417圓(1.09%)ノ割合デアル。

上 水 道

商工業ノ中樞地トシテノ本府ノ驚異的ナ發達ニ伴ツテ、人口ハ愈々稠密ヲ加ヘ、飲料水ノ設備ノ如キモ、之ト密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ、之ガ設備ハ洵ニ早急ヲ要スト謂ハネバナラナイ、本府ニ於ケル大阪市ノ如キハ、大正13年市域ノ擴張以來、急速ニ之ガ設備ハ擴大セラレテ完備ヲ期セラレツヽアルモ、尙及バザルノ感ガアル。此ノ外、堺市ト郡部ニ於ケル二、三ケ町ハ目下之ガ設備ヲ著

々ト進メツヽアリ、其ノ他ハ未ダ此ノ設備ヲ見ナイ、之所謂大正9年以降ニ於ケル一般財界ノ不況ハ益々、其ノ度ヲ深刻ニシ、今日デハ愈々逼迫セルノ狀態ニアル結果、町村經濟モ其ノ影響ヲ受ケテ、上水道設備ノ急務ナルコトヲ知リツヽモ之ガ設備費ノ多額ナルヲ思ヒ差控ヘテキルモノヽ樣デアル。

今本府ニ於ケル上水道ノ概況ヲ述ベルト、昭和四年度水管ノ總延長ハ1,514,859間ニ達シ、前年度ヨリハ33,222間ノ延長デアル。然シテ總延長ノ內、導水鐵管418間、送水鐵管18,271間、配水鐵管1,496,170間デアル。

總栓數ハ361,331ニシテ前年度ニ比較スルト26,974ノ增加デアル、之ヲ栓種別ニ見ルト消火栓11,688計量給水栓ハ350,032デ、此ノ割合ハ前者3分2厘、後者9割6分8厘デアル。計量給水栓ヲ更ニ細別スルト、營業及家事用ニシテ專用ノモノ309,866、共用38,592、營業及家事用以外ノモノ1,574デアル。

給水戶數ハ480,480戶ニシテ前年度ヨリハ25,081戶ノ增加デアル。內大阪市大部分ヲ占メテ454,543戶(94.60%、堺市19,814戶(4.12%)、三島郡吹田町2,942戶(0 61%)、北河內郡守口町1,710戶(0.36%)豐能郡豐中町1,471戶(0.31%)デアル。

給水總量ハ132,681,781,919立ニシテ前年度ヨリハ12,032,338,878立ノ增加デアル、此ノ一日最多給水量ハ476,671,401立、最少給水量235,291立、然シテ平均一日給水量ハ353,629,175立デアル。

此ノ總水料ハ6,212,172圓ニシテ內消水栓使用料493圓、計量給水料6,211,679圓デ、此ノ比ハ前者2厘ニシテ後者9割9分8厘ノ割合デアル。

第一四 教 育

管內學事ノ狀況

學事ノ施設計畫ニ關シテハ從來ノ形式教育ヲ打破シ最善ノ効果ヲ收メン爲ニ專ラソノ內容ノ刷新ニ意ヲ用イテ居ル。

初等教育ニ付テハ義務教育ノ普及發達ヲ期スル爲、貧困兒童ニ對スル學資ノ給與ニ努メ、或ハ特種教育ノ施設ヲナシ以テ學齡兒童ノ就學奬勵ヲ行フト共ニ、傍ラ在籍兒童ノ出席ヲモ督勵シテ居ル。又教授ノ實際ニ付テハ舊來試驗教育ノ弊風ヲ除キ、以テ專ラ小學校教育ノ本旨ニ則ルコトニ留意シ、常ニ視學ヲシテ管內ヲ巡視セシメ、適切ナル指導ヲ與ヘルト共ニ之ガ監督嚴ニシツヽアリ。又一面ニ於テハ各郡市ヲ單位ニ度々小學校長會議ヲ開催シテ意見ノ交換、緊要事項ノ研究等ヲナサシメ、以テ將來ノ學事改善向上ヲ計リ、或ハ市郡教育會ノ事業ヲ助ケテ最良ノ効果ヲ納メル樣努力スル等、各般ノ施設ニ注意シ、健全ナル第二國民ノ養成ニ意ヲ用ヒツヽアル。

中等教育ニ在ツテハ舊來ノ概念教育ヲ離レテ內容ノ充實ヲ計リ以テ本教育ノ實ヲ擧ゲンコトニ努力シ殊ニ國民道德ノ教養ニハ一層ノ努力ヲ拂ツテ居ル。晩近著シク女子教育ノ叫バルヽニ鑑ミ校地校舍ノ擴張增築ヲ敢行シ、或ハ圖書、機械標本其ノ他諸種ノ設備ヲ改善シテ之レガ振興ニ努メ、就中實業教育ノ聲盛ナルニ鑑ミ是等ノ要求ニ遲レル事ノナイ樣常ニ刷新改善ヲ計リツヽアリ。又實業補習教育ニ付イテハ專心奬勵ヲ加フルモ郡部ニ在リテハ遲々トシテ歩ミハ進マザルハ遺憾デアル。社會教育ニ付テハ世相且重要性ニ鑑ミ青年團ノ事業ヲ補助シテ堅實ナ發達ヲ遂ゲルコトニ努メ、殊ニ振ハナイ女子青年團ニ付テハ設立發展ヲ督勵シ、男子ト相俟ツテ地方改善ノ實ヲ揚ゲンガ爲講習會ヲ催シ、或ハ展

覽會ヲ開キ、又ハ活動寫眞等ヲ開催シ、以テ之ガ教育ノ振興ヲ圖ツテ居ル。

近時私立學校ノ增設隆興ニ鑑ミ其ノ堅實ナルモノニ對シテハ補助シテ益々助長ヲ計ルト共ニ他面監督ヲ嚴シ以テ之レガ健全ナル發達ニ努メテ居ル。指導監督奬勵ニ付イテハ視學ヲシテ絕ヘズ其ノ擔當區域ヲ視察セシメテ適切ナル指導奬勵ヲ行ヒ、一面成績優良ナル學校教員、市町村吏員、學務委員其ノ他學事關係者及ビ學事功勞者ニ對シテハ之ヲ表彰シ、其ノ他ヲシテ之ニ倣ハシメル等、學校ハ勿論其ノ他風教上ニ付テハ終始一貫最善ヲ盡シテ文化ノ尺度デアル教育ノ完全ナル發達ヲ遂ゲシムル樣留意シテ居ル。

學齡兒童

本府學齡兒童就學狀況ハ他府縣ニ比ベテ常ニ遺憾ノ狀態ニアリ、サレバ之ガ向上ニ關シテハ就學猶豫免除ノ事由ヲ亂ス傍ラ貧困兒童ニ對スル給與ノ增額ヲ計リ、或ハ簡易就學ノ便ヲ圖リテ特種學校ヲ設置スル等、諸種ノ施設ヲ講ジ、他面學齡簿、學籍簿ノ就學ニ關スル諸帳簿ノ整理ヲ督勵ヲ爲シツヽアリテ、爲ニ逐年良好ニ向ヒツヽアルハ喜ブベキ現象デアル。

今學齡兒童對人口並ニ就學ニ關スル狀況ニ付イテ記述スルト、 本年度學齡兒童總數ハ489,387人デ、人口總數ハ3,480,214人デアル、 之レガ人口100ニ對スル割合ハ14.06％ニ當ル。其ノ最モ高イノハ南河內郡デ17.90％、其ノ他泉北郡、泉南郡等ハ之レニ亞ギ、大阪市ハ遙カニ劣ク13.07％ニ當リ、堺市岸和田市モ比較的少數デアル、之等ハ市內並ニ近接セル商工地帶ニ壯年階級ノ者多キニ依ルモノデアル。學齡兒童中既ニ就學ノ始期ニ達シタルモノ男214,834人、女203,674人、計418,508人、 未ダ就學ノ始期ニ達セザル者男36,137人、女34,742人、 計70,879人デアル。既ニ就學ニ達シタル兒童100人中就學者ノ割合ハ98.90％デ前年ニ比シ0.04％ヲ增加シテ居ル。更ニ不就學者ノ內譯ハ就學猶豫者4,327人、內大阪市6割7分5厘ヲ占メ、次ハ堺市8分3厘ニ當ル、就學免除者ハ659人、內大阪市6割2分ヲ占メ次ハ堺市2割8分3厘ニ當リ其ノ他ハ少數デアル。

不就學者中猶豫及免除ノ處分ヲ了シタル者ニ付其ノ事由ヲ觀ルニ、發育不完全ノ者最モ多ク、次ハ病弱家庭ノ貧窮ニ因ル者デアル。免除ノ者ニ在ツテハ殆ンド不具癈疾ニ起因シテ居ル。

學齡兒童中盲者ノ男48人、女47人計95人デ、聾啞者ハ男91人、女61人計152人デアル。 之レガ學齡兒童10.000ニ對シテノ割合ハ盲者1.90人デ、郡市中最モ多イノハ三島郡デ4.98人、次ハ大阪市2.60人、最モ少ナイノハ南河內郡0.34人デ、堺市、岸和田市及ビ豐能、泉南、中河內、北河內ノ各郡ハ皆無デアル。次ニ聾啞者ノ割合ハ3.11人ニ當ツテ居リ、郡市中最モ多イノハ大阪市ノ4.22人、最モ少ナイノハ三島郡ノ0.55人デ、岸和田市、南河內郡ハ何レモ皆無デアル。

小學校

本年度末ニ於ケル尋常小學校數ハ192（內特種學校7、他ニ分校9）尋常高等小學校311(外ニ分校18)、高等小學校14、計517校デアツテ前年ニ比ベテ尋常小學校ハ3校ヲ減ジ、 尋常高等小學校ハ2校ヲ增加シテ居ル。以上ノ內私立學校ハ尋常小學校ノ10校ノミデ、 前年トハ2校ヲ減ジタ。補習科ノ設ケアル學校ハ公立、私立各1校デ、前年ニ比シ私立ノミ1校ヲ減ジテ居ル。

學級

本年度ニ於ケル學級總數ハ8,251、內尋常科7,282學級、 高等科969學級デ前年ニ比ベテ253ヲ增シテ

居ル、今大正十四年度ヲ100トシタ指數デ學級增加ノ狀態ヲ示スト、昭和元年度102、同2年度105、同3年度109ニ當リ卽チ就學兒童ニ正比シテ逐年增加シテ居ル。學校1ニ對スル平均學級數ハ尋常科デ14.5學級、前年ニ比スレバ0.5學級ノ增加ニ當ル、之レガ郡市ノ狀態ハ大阪市20.8學級ガ最高デ、次ハ岸和田市16.2、學級、堺市16.0學級、泉北郡10.2學級等ハ多キ方デ、 南河內郡ノ7.5學級ハ最少デアル高等科デノ平均3.0學級デアツテ前年ニ比較シテ增減ハナイ。

次ニ一學級當リ平均兒童數ヲ觀ルト尋常科デハ五ケ年前ナル大正14年度ガ48.8人、 昭和2年度48.9人同3年度49.0人、同4年度49.4人ニ當ル。高等科デハ39.6デアツテ前年ニ比ベテ0.2ノ增加デアル。

教員

就學兒童、學級ノ增加ニ伴ヒ教員ノ需要モ必然的ニ增加スルガ近年財界不況ノ爲轉職スル者少ナク、寧ロ轉職シタ者デモ復職ヲ希望スルノ現狀デアル、從ツテ師範卒業者及試驗檢定合格者ヲ以テ充分デアル、各小學校ニ在ツテハ斯ノ供給ノ潤澤ナルニ意ヲ强フシ競フテ優良教員ノ採用ヲ希望スルノ實況デ、從ツテ准教員、代用教員ハ逐年其ノ蔭ヲ潛メツヽアル。

昭和六年三月一日現在教員總數ハ8,932人、內本科正教員8,105人(9割7厘)、專科正教員408人（4分6厘)、准教員47人(5厘)、代用教員372人(4分2厘)ニ當ル。

市及町ニハ比較的多數ノ教員ヲ任用シテ居ル事ハ語ルヲ要セナイトコロデアルガ、今見易ク各郡市ニ於テ任用シテ居ル實況ヲ100分比ニ依ツテ示スト、大阪市ハ半數以上ノ63.02％ヲ占メ、次ハ中河內郡5.88％、泉南郡5.58％ 南河內郡5.00％、泉北郡4.38％、三島郡4.26％、北河內郡4.15％、豐能郡3.43％、堺市3.15％、岸和田市1.15％等ニ割合シテ居ル。

教員中正教員ノ割合ハ95.31％ヲ占メテ居ル、此ノ割合ヲ遡リテ觀ルト大正14年度87.40％、昭和元年度88.18％、同2年度88.75％、同3年度93.89％ニ當ツテ年々增加シテ居ル、 ガ前說セル如ク准教員、代用教員等ハ年ヲ追ツテ漸減シツヽアリテ國民教育上洵ニ喜バシイ現象デアル。

教員俸給別

受給者ノ總數ハ8,801人デアル、之レガ俸給ノ割合ヲ100分比ニ依ツテ示スト、60圓以上65圓未滿ノ者最多デ11.77％ヲ占メ、次ハ50圓以上55圓未滿ノ者9.43％、 65圓以上70圓未滿8.82％、55圓以上60未滿8.82％等ハ比較的多イ部デアル。

一人ニ對スル俸給平均額ハ尋常小學校ノ教授ニ從事スル本科正教員ニ在ツテハ男84圓弱、女60圓弱デ前年ニ比ベルト男0.60圓、女0.18圓ノ減少デアル。尙五ケ年前ナル大正14年度ニ比ベルト男2.17圓增加シ、女1.24圓ノ減少デアル。今之レガ郡市ノ狀態ヲ示スト、大阪市82.63圓、(內男89.49圓、女64.10圓)ガ最高デ、次ハ堺市78.55圓、豐能郡70.30圓、三島郡67.54圓、岸和田市66.14圓、北河內郡64.58圓、泉北郡64.28圓、中河內郡63.81圓、南河內郡61.34圓、泉南郡61.19圓等ニ割合シテ居ル。

專科正教員ニ在ツテハ男72,921圓、女59,696圓、計132,617圓デアル。之レガ男女一人平均額ハ66.00圓デ前年ニ比ベテ1.11圓ノ減少デアル。郡市ノ狀態ハ大阪市ガ最多デ70.30圓、堺市50.00圓等ハ多イ方デ、豐能郡45.00圓、南河內郡44.38圓等ハ少ナイ方デアル。

准教員ニ在リテハ男61.90圓、女45.36圓デ、男女一人平均額ハ51.45圓ニ當リ、 前年ニ比ベテ3.12圓ノ減少デアル。

代用教員ハ男52.28圓、女46.14圓、男女一人平均額ハ49.64圓デ、 前年ニ比較スルト0.35圓ノ增加ト

ナツテ居ル。

高等小學校ノ教授ニ從事スル本科正教員ニ在ツテハ男88.81圓、女70.50圓、 男女平均87.07圓デ、前年ニ比ベルト男2.5 圓ヲ增シ、女0.99圓ノ減少トナリ、男女平均ニ於テハ2.34圓ノ增加トナツテ居ル之レガ郡市ニ於ケル狀況ハ大阪市ガ最高デ94.98圓(男97.84圓、女73.82)、次ハ泉北郡82.02圓、豐能郡80.48圓等ハ多イ方デ、岸和田市65.42圓、 南河內郡72.07圓、 北河內郡76.16圓等ハ少ナイ部デアル。

專科正教員デハ男73.85圓、女65.00圓、男女平均71.52圓ニ當リ、前年ニ比ベテ4.20圓ノ增加デアル。代用教員ニ在ツテハ男55.24圓、女52.00圓、男女一人平均額55.02圓デ、 前年ニ比較スルト2.60圓ノ增加デアル。

教員在職年數

本科正教員ノ在職年數ハ5ケ年未滿ノ者多ク2,906人(3割6分3厘)、5ケ年以上10ケ年未滿ノ者2,025人(2割5分3厘)、10ケ年以上15年未滿1,403人(1割7分4厘)、15年以上20年未滿69人(1割2分1厘)、 二十年以上25年未滿500人(6分3厘)、25年以上30年未滿151人(2分)、30年以上49人(6厘)デアル。

兒 童

本年度ニ於ケル尋常科在籍兒童總數ハ359,536人デ、內男185,218人(5割1分5厘)、女174,318人 (4割8分5厘)デアル、之レヲ前年ニ比ベルト總數ニ於テ14,151人(4分1厘)ノ增加デアル。郡市分布ノ割合ハ大阪市ノ64.22%ガ最多デ、以下中河內郡ノ6.03%、泉南郡5.11%、泉北郡5.08%、 南河內郡4.90%三島郡3.70%、北河內郡3.57%、堺市3.29%、豐能郡2.99%等デ岸和田市ノ1.11%ハ最少デアル。

學年別ニ依ル兒童數ハ第一學年ノ者68,107(1割9分2厘)、第二學年ノ者64,707(1割8分)、 第三學年ノ者64,643(1割8分)、第四學年ノ者60,085(1割6分7厘)、第五學年ノ者51,287(1割5分)、第六學年ノ者50,707(1割3分1厘)ニ該當シテ居ル。

高等科在籍兒童總數ハ38,344人內男24,391人(6割3分6厘)、女13,953人(3割6分4厘)デアル。之レヲ5ケ年ナル大正14年度ニ比ベルト2,236人(5分8厘)、前年ニ比較シテ728人(2厘)ヲ何レモ增加シテ居ル。郡市ニ於ケル之レガ割合ハ大阪市最高ヲ占メテ58.73%、次ハ中河內郡6.63%、 南河內郡6.46%、泉南郡5.50%、北河內郡5.48%、三島郡5.29%、泉北郡4.72%、豐能郡3.70%、堺市2.44%、岸和田市1.04%等ノ順位デアル。

出 席 步 合

本年度ノ市町村立尋常科生徒ノ出席步合ハ95.68%、內男96.05%、 女95.30%デ、前年ニ比ベルト男1.39%、女0.91%ヲ增シテ居リ、5ケ年前ナル大正14年度ニ比ベルト男ニ於テ1.25%、 女1.77%ノ增加ニ當ツテ居ル。之レガ郡市ノ狀況ヲ觀ルニ三島郡ノ96.78%ガ最高デ、以下堺市96.04%、南河內郡95.99%、大阪市95.93%、岸和田市、豐能郡共95.09%、中河內郡93.96%、泉北郡93.95%、 泉南郡93.81%、北河內郡ノ85.81%ハ最低デアル。

高等科ニ在リテハ94.58%、內男94.78%、女94.23%デアル。之レガ郡市別ハ堺市ノ96.50%、三島郡96.37%、岸和田市95.99%、豐能郡95.71%、大阪市94.78%、泉南郡94.11%、南河內郡93.83%、北河內郡93.81%、中河內郡93.22%、泉北郡92.97%等デアル。

入 學 者

本年度ニ於テ尋常科ニ入學シタル者ハ69,788人デアツテ、 前年ニ比シ3,575人(5分4厘)ヲ增シテ居ル今5ケ年前ナル大正14年度ヲ100トシタ指數ニ依リ其ノ消長ヲ示スト昭和元年度119、 同2年度127、同3年度127、同4年度134ニ該當シテ居ル。郡市ノ割合ハ大阪市最多デ65.44%、 中河內郡5.80%、泉北郡5.06%、泉南郡4.89%、南河內郡4.52%、三島郡3.62%、堺市3.24%、 北河內郡3.28%、 豐能郡3.00%、岸和田市1.15%等デアル。

高等科ノ入學者總數ハ23,904人內男14,900人(6割2分3厘)女9,004人(3割7分7厘)デ、前年ニ比ベテ1,285人(5分7厘)ノ增加デアル。今大正14年度ヲ100トシタ指數ニ依リ消長ヲ表スト、昭和元年度103、同2年度103、同3年度100、同4年度106ニ割合シテ居ル。郡市ニ在ツテハ大阪市60.15%、 中河內郡6.69%、南河內郡6.05%、泉南郡5.40%、泉北郡5.06%、北河內郡4.93%、三島郡4.93%、豐能郡3.45%堺市2.38%、岸和田市0.96%等デアル。

卒 業 者

本年度尋常科卒業者ハ50.084人、內男25,969人(5割1分9厘)、女24,115人(4割8分1厘)デアル。今大正14年ヲ100トシタ指數デ其ノ增減ヲ觀ルト、昭和元年度122、同2年度99、同3年度103、同4年度99デアル。郡市ノ割合ハ大阪市最多デ62.72%、中河內郡6.15%、 南河內郡5.50%、泉北郡5.39%、泉南郡5.37%、北河內郡3.82%、三島郡3.67%、堺市3.31%、豐能郡2.98%、岸和田市1.09%デアル。

高等科ノ卒業者ハ16,238人內男10,523人(6割4分8厘)、女5,715人(3割5分2厘)デアル。 今五年前ノ大正14年度ヲ100トシテ其ノ消長ヲ窺フニ、昭和元年度97、 同2年度102、同3年度107、同4年度106デ逐年增加ノ道程ヲ辿リツヽアル。尙郡市別ニスレバ大阪市58.07%、中河內郡6.65%、 南河內郡6.41%北河內郡5.96%、泉南郡5.67%、三島郡4.99%、泉北郡4.49%、豐能郡4.09%、堺市2.47%、岸和田市ノ1.20%ハ最少デアル。

幼 稚 園

園數ハ師範學校附屬1、市町村立66、私立40計107デアル、 前年ニ比シ市町村立3、 私立9ノ增加デアル。幼兒總數ハ14,567人內男7,459人(5割1分2厘)、女7,108人(4割8分8厘)デ、前年ニ比ベルト1,358人(1割3厘)ノ增加デアル。

保姆總數ハ461人デ前年ニ比較シテ43人ノ增加デアル。總數ノ內有資格373人(8割9厘)、 無資格88人(1割9分1厘)ノ割合デアル。

盲、聾唖學校

盲學校2、聾唖學校1、計3校デアル、府立盲學校デハ生徒本科初等部62人、 中等部155人、研究科2人別科65人計284人デアル。

市立デハ本科初等部61人、中等部135人、豫科15人、研究科3人、別科31人計245人デ、 之ヲ前年ニ比ベルト府立ニ於テ6名、市立7名、何レモ減ツテ居ル。

聾唖學校ニ在ツテハ生徒本科初等部145人、豫科57人、中等部36人、計238人デ前年ニ比較シテ19人ヲ減ジテ居ル。以上ノ各校何レモ教員ノ配置、教具ノ設備、教授訓練ノ方法等完備シ成績持ニ觀ルベキモノガアル。

師範學校

男子師範學校2校、女子師範學校1校デ、生徒數ハ第一部男732人、女360人、第二部男200人、女77人專攻科男120人、女20人、教員講習科男107人、女48人、計男1,159人、女505人、合計1,664人デアツテ前年ニ比ベテ101人(6分5厘)ヲ增シテ居リ、又五年前ノ大正十四年ニ比較スルト275人(1割9分8厘)ノ增加デアル。

入學志願者、入學者

入學志願者第一部1,261人、之ニ對スル入學者234人、第二部1,365人デ、之ニ對スル入學者283人デ、近年著シク志願者ガ增加シテ居ル、今入學志願者100人中入學者ノ割合ヲ示スト第一部男17.15%、女22.53%、第二部男20.52%、女21.31%ニ該當シテ居ル。

卒業者

本年度ノ卒業者ハ第一部男116人、女59人、第二部男197人、女77人、計449人デ前年ト增減ハナイガ五年前ノ大正十四年ニ比較シテ48人(1割7厘)ヲ增シテ居ル。專攻科ニ在ツテハ男121人、女20人計141人デアツテ前年ニ比ベテ12人ヲ減ジテ居ル。

附屬小學校及幼稚園

附屬小學校兒童總數1,529人(內尋常科1,353人、高等科176人)、入學者319人(內尋常科233人、高等科86人)、卒業者301人(內尋常科216人、高等科85人)デアツテ、前年ニ比較スルト總數デハ24人ヲ增シ入學者55人、卒業者5人何レモ減ツテ居ル。幼稚園ニ在ツテハ組數3、保姆3人、幼兒數84人、入園者33人、保育滿期者24人デアル。

中學校

府立15校、私立4校デ前年ト同數デアル、校舍ハ一般ニ生徒ノ增加ニ伴ヒ改築又ハ增築ヲ要スルモノ多ク、之ガ設備ハ大体良好デアルガ、尙充實ニ付テハ財政ノ許ス限リ完備ニ努メテ居ル。

教員

教員總數ハ648人、他ニ兼務者64人デアル、內有資格者590人(8割2分6厘)、無資格者122人(1割7分4厘)デ、前年ニ比ベテ有資格64人(1割2分2厘)、無資格25人(2割5分8厘)ノ增加デアル。

生徒

生徒ノ訓育ニ付テハ特ニ思想方面ニ留意シ實踐窮行、質實剛健ノ氣風養成ニ一段ノ努力ヲ拂ツテ居ル本年度ニ於ケル生徒總數ハ17,524人デ、內公立14,771人(8割4分3厘)、私立2,753人(1割5分7厘)デアル、今5年前ノ大正14年度ヲ100トシタ指數ヲ以テ示スト、昭和元年度125、同2年度111、同3年度113同4年度114人デアル。

入學志願者、入學者

本年度入學志願者總數6,484人デ、前年ニ比ベテ94人(1分2厘)減ツテ居ル、今5年前ノ大正14年度ヲ100トシタ指數デ其ノ狀態ヲ示スト昭和元年度96、同2年度90、同3年度89、同4年度86デ、近年財界不況ノ影響ヲ受ケテ年々減ツテ居ル。尙本科入學志願者100人ニ付入學者ノ割合ヲ示スト、公立78.24人、私立56.82人デ、公立ニ比シ私立ノ方ハ入學困難デアル。補習科ノ設置アルハ北野ト今宮ノ2校デ入學者136人、之等ハ皆受驗準備ノ爲一時修業ニ止マルモノデアツテ全部半途デ退學スル。

退學者

生徒1ケ年中退學者ハ1,638人デ前年ニ比ベテ9人減ツテ居ル、之ヲ事由別ニ觀ルト疾病ニ依ルモノ328人(19.43%)、轉學292人(17.30%)、第四學年修了後上級學校ヘ入學240人(14.22%)、懲戒13人(0.77%)、死亡36人(2.13%)其ノ他779人(46.15%)等ニ割合シテ居ル。

卒業者

本年度卒業者總數2,769人、內公立2,322人(8割4分)、私立447(1割6分)デアル、前年ニ比シ81人ヲ增シテ居ル。今前年度卒業者ノ本年度末狀況ヲ示スト實業從事者484人(17.01%)、學校職員23人(0.86%)、官吏公吏75人(2.79%)、大學生徒345人(11.83%)、高等學校生徒255人(9.49%)、專門學校289人(10.75)、實業專門學校生徒166人(6.18%)、其ノ他學校生徒120人(4.46%)、兵役18人(0.67%)、死亡11人(0.41%)、其ノ他902人(35.55%)ニ該當スル。

生徒將來ニ於ケル希望ノ狀況

第五學年卽チ本年度末卒業スベキ生徒總數2,803人ノ希望狀況ヲ見ルニ、高等學校希望者最モ多ク621人(2割2分2厘)、次ハ實業專門學校517人(1割8分4厘)、專門學校394人(1割4分1厘)、實業從事3 7人(1割3分4厘)、大學豫科310人(1割1分1厘)等主ナルモノデアル。

高等女學校

府立13、市立3、町立1、私立18、計35校デ前年ニ比ベテ私立2校ヲ增シテ居ル。

教員

總數983人デ內有資格者ハ825人(8割3分9厘)、無資格ハ158人(1割6分1厘)ノ割合デアツテ前年ニ比ベテ63人(6分8厘)ノ增加デアル。

生徒

生徒教養ニ付イテハ女子教育ノ盛ントナツタ現今、時代ノ要求スル婦人トシテ恥カシクナク完成スル樣ニ努メテ居ル。

生徒總數本科22,460人、實科188人、高等科60人、計22,708人、實科高等女學校本科761人、補習科4人、計765人、總計23,473人デアル、今之レガ增加ノ狀況ヲ觀ン爲大正十四年度ヲ100トシタ指數デ其ノ割合ヲ示スト、昭和元年度108、同2年度117、同3年度125人、同4年度130ニ該當シ逐年增加シテ居ル。

入學志願者、入學者

入學志願者ニ付イテハ財界不況ノ爲多少緩和サレツヽアルモ、一般ニ女子教育普及ノ爲依然トシテ入學難ハソノ影ヲヒソメナイ、卽チ大正14年度以降ノ入學志願者100ニ對スル入學者ノ割合ヲ示スト大正14年度49.43%、昭和元年度49.49%、同2年度45.49%、同3年度、43.53%、本年度51.93%ニ當ル內公立53.05%、私立50.17%ノ割合デアル。

退學者

生徒一ケ年中途退學者ハ1,724人、內疾病ニ依ルモノ270人(1割5分7厘)、轉學359人(2割8厘)、懲戒1

人、死亡81人(4分7厘)、其ノ他1,013人(5割8分8厘)、ニ當ル。

卒業者

本年度卒業者總數ハ4,125人デ前年ニ比ベルト335人(8分8厘)ヲ增シテ居ル、卒業者ノ殆ンドハ家事ニ從事スルモノガ多イガ近年著シク職業婦人トシテ活動スルモノ增加シ、又上級學校ニ進ム者モ多クナツテ居ル。

實業學校

府立7、市立12、私立17、組合立1、計37校デ前年ニ比ベテ增減ハナイ。

教員

教員總數ハ1,28人內有資格912人(8割1分9厘)、無資格216人(割8分1厘)デ前年ニ比ベテ123人(1割2分2厘)ノ增加デアル。

生徒

生徒總數20,493人デ前年ニ比ベテ2,780人(1割1分9厘)ノ減少デアル、內甲種公立ノ部9,470人(4割6分2厘)、同私立ノ部7,775人(3割7分9厘)、乙種3,248人(1割5分9厘)デアル。

入學志願者、入學者

入學志願者總數ハ13,756人デ、前年ニ比ベテ256人(1分8厘)ノ減少デ。入學者總數ハ7,174人デ、前年ニ比ベテ402人(5分3厘)ヲ減ジテ居ル、今入學志願者100ニ對スル入學者ノ割合ハ52.15%ニ當ル。

退學者

生徒一ケ年中途退學者總數ハ2,625人デアツテ內甲種公立646人(2割4分6厘)、同私立1,463人(5割5分7厘)、乙種516人(1割9分7厘)デ、之ヲ事由別ニ觀ルト疾病244人(9分3厘)、轉學118人(4分5厘)、懲戒41人(1分6厘)、死亡70人(2分6厘)、其ノ他2,152人(8割2分)ニ該當シテ居ル。

卒業者

本年度總數4,980人內甲種公立1,632人(3割2分8厘)、同私立2,049人(4割1分1厘)、乙種1,299人(2割6分1厘)デ前年ニ比ベルト900人ノ增加デアル。

高等程度以上ノ學校

中等教育ガ普通教育トナツタ、現今高等或ハ專門ノ教育ヲ志願スルモノ頓ニ增加シタ、即チ高等學校府立1校、官立1校、大學4校(官立工業大學、府立醫科大學、市立商科大學、私立關西大學)、專門學校12校、(官立大阪外國語學校、府立女子專門學校、市立商科大學高等部、以下私立大阪藥學專門學校、大阪齒科醫學專門學校、帝國女子藥學專門學校、梅花女子專門學校、樟蔭女子專門學校、相愛女子專門學校、日本大學專門學校、大阪高等醫學專門學校、大阪女子高等醫學專門學校等デアル。

高等學校

官立大阪高等學校ハ大正11年度ノ開校デアツテ、大正13年度ニ始メテ142人ノ卒業者ヲ出シタ、昭和四年度生徒總數ハ575人デ內文科甲類115人、同乙類109人、理科甲類119人、同丙類114人デアル、教員總數ハ65人デアツテ、本年度入學志願者1,377人、之ニ對スル入學者188人デ其ノ割合ハ13.65%ニ當リ、卒業者ハ184人デ半途退學者ハ7人デアル。

府立浪速高等學校

本年度職員總數92名、生徒總數744人、內高等科444人、等常科300人デ入學志願者高等科1,071人、等常科535人、入學者高等科158人、等常科80人、入學志願者100人ニ對スル入學者ノ割合ハ高等科12.60%、等常科14.95%デアル。

外國語學校

大正11年度ノ開校ニ係リ職員78人、生徒595人、內支那語科102人、蒙古語科24人、馬來語科72人、印度語科36人、英語104人、佛語科85人、獨語科67人、露語科68人、西語科37人等デ學科ハ以上9科目デアル、本年度入學志願者1,655人、入學者226人デ之レガ割合ハ13.66%、デ本年度卒業者175人、半途退學者44人デアル。

工業大學

職員總數121人、生徒總數128人內機械科39人、應用化學科25人、醸造科20人、採鑛冶金科16人、造船科11人、電氣科17人等デアル、入學志願者總數239人、入學者130人デ入學志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ54.39%デアル。

醫科大學

職員總數192人、生徒總數480人、內豫科110人、本科370人デアル、本年度ノ本科入學志願者247人、入學者85人デソノ割合ハ34.41%ニ當ル、尙卒業者ハ97人デ大學ニ止マツテ研究スル者或ハ開業スルモノ其ノ他公私病院ニ付研究スルモノ等區々デアル。

大阪市立商科大學

學部、職員52人、生徒118人デ入學志願者255人ニ對スル入學者121人之ガ割合ハ47.45%ニ當ル、卒業者ハナク退學者3人デアル。

豫科、職員38人、生徒273人、入學志願者833人、內入學者116人デ之ガ割合ハ13.93%、卒業者ハ38人、半途退學者4人デアル。

高商部、職員88人、生徒656人、入學志願者1,092人內入學者193人、之ガ割合ハ17.67%デ、卒業者261人、退學者18人デアル。

女子專門學校

職員71人、生徒總數380人、內豫科34人、本科330人、研究科10人、專攻科6人デアル、本年度ノ豫科入學志願者348人、入學者122人デ卒業者ハ109人デアル。

關西大學

職員總數53人、生徒總數3,509人、入學志願者2,521人、入學者1,660人デ之ガ割合ヲ示スト65.85%ニ當リ、卒業者ハ846人デアル。

實業補習學校

總數269校、他ニ休校中ノモノ12校デ內農業ニ屬スルモノ114校、工業4校、商業67校、工業及商業13校、農業及商業5校、工業商業裁縫及家事2校商業裁縫家事3校、裁縫家事手工26校、裁縫35校等デアル、生徒總數ハ24,263人內男18,416人(7割5分9厘)、女5,847人(2割4分1厘)デアル。

各種學校

總數122校、教員總數933人、生徒總數13,549人デ前年ニ比ベテ校數13、教員數94人例レモ減ジテ居ルガ、生徒數ハ6,260人增シテ居ル。今之レヲ種類別ニ觀ルト、小學校ニ類スルモノ26校、高等女學校ニ類スルモノ2校、其ノ他94校デアル。

圖書館

公立11、私立6、計デ前年ニ比ベテ私立2ヲ減ジテ居ル、圖書數288,511デ內和漢書236,224(8割1分9厘)、洋書52,287(1割8分1厘)、開館延日數4,528、閱覽人員1,104,253人デアル。

青年訓練所

總數385、前年ニ比ベテ2增加シテ居ル。內市町村小學校ニ併置ノモノ309(8割3厘)、公立實補ニ併置ノモノ53(1割3分8厘)、單獨設置ノモノ16(4分2厘)、公立實補充用7(1分7厘)等デアル。主事總數385人デ內小學校長364人、公立實補校長6人、其ノ他15人デアル。指導員總數ハ2,275人デ內小學校教員1,052人、實補學校教員50人、在鄉軍人1,016人、其ノ他157人デアル。生徒總數29,399人デ前年ニ比ベテ59人增シテ居ル、年度內入所者中第一年次ノ始ニ入所シタル者11,630人、其ノ他ノ者3,183人デ年度內修了者3,533人、退所者5,051人デアル。

青年團(男)

團休總數526、團員總數128,398人デ之ヲ年齡別ニ觀ルト25歲以上13,363人(1割4厘)、25歲未滿42,983人(3割3分5厘)、20歲未滿53,549人(4割1分7厘、16歲未滿18,503人(1割4分4厘)デアル、收入總額506,073圓デ之ニ對スル支出ハ469,210圓デアル。

青年團(女)

團休數252、團員數36,894人デ年々增加シテ居ル、收入總額32,261圓デ之ガ支出總額ハ27,864圓デアル。

學事關係學事視察

本年度ニ於テ本府學事關係職員ノ視察回數ハ延832回、實數718回デ之ニ要シタル延日數832日デ、實日數ハ718日デアル。學校長、幼稚園長、教員、保姆ノ學事視察並研究及小學校ニ於テ視察並ニ研究ヲシタルモノヽ實人員4,422人デ之ニ要シタル延日數ハ22,261日デアツテ、之ガ種別ヲ示スト管內最モ多ク2,782人ヲ占メ、次ハ管外1,598人、植民地其他42人デ經費總額ハ60,807圓、前年ニ比ベテ5,776圓ノ增加デアル。

師範學校ニアツテハ實人員84人、延日數263日、之ガ經費1,720圓デアル。中學校デハ實人員307人デ延日數1,464日、之ニ要シタル經費7,910圓デアル。高等女學校ニアツテハ實人員298人、延日數924日經費5,325圓デアル。

公學費收入

本年度ニ於ケル公學費收入總額ハ7,557,890圓デ、前年ニ比ベテ189,821圓(2分6厘)ヲ增シテ居リ、5年前ノ大正14年度ニ比ベルト304,049圓(4分2厘)ノ增加デアル。內、府ノ經濟ニ屬スルモノ4,042,329圓(5割3分5厘)、大阪市2,097,718圓(2割7分7厘)、堺市174,773圓(2分3厘)、岸和田市28,648圓(4厘)町村1,214,427圓(1割6分1厘)ニ割合シテ居ル。以下之レガ前年度トノ比較增減ヲ示スト府ニ屬スルモノハ564,473圓(1割6分2厘)ヲ增シテ居ル、尙費目別ニ之ガ割合ヲ觀ルニ雜收入ノ57.21%ガ最多デ、次ハ授業料ノ34.07%、以下國庫補助5.15%、其他ノ賣金ヨリ生ズル收入2.25%、寄附金0.64%、基本財產ヨリ生ズル收入0.36%、閱覽料0.31%、保育料0.01%等デアル、大阪市ノ經濟ニ付テ觀ルニ前年ニ比ベテ351,130圓(1割6分7厘)減ツテ居ル、之レガ內容ハ國庫補助53.10%、ガ最高デ授業料ノ32.53%之ニ亞ギ以下保育料4.69%、府費補助2.78%、寄附金2.22%、雜收入2.06%、其他ノ基金ヨリ生ズル收入1.38%、基本財產ヨリ生ズル收入1.24%等ニ該ル。堺市デハ前年ニ比ベテ4,030圓(2分2厘)ノ減少デ、內容ノ主ナルモノハ授業料39.27%、國庫補助32.19%、府費補助12.39%等デアル。次ニ岸和田市デハ前年ニ比ベテ1,345圓(4分7厘)ノ減少デアツテ、之ガ內容ヲ觀ルニ國庫補助70.21%、基本財產ヨリ生ズル收入10.82%、授業料8.48%等主ナルモノデアル。町村ニ在ツテハ前年ニ比ベテ18,165圓(1分5厘)ノ減少デアツテ、之ガ內容主ナルモノヲ示スト國庫補助78.73%、授業料6.78%、府費補助5.64%、寄附金4.50%等デアル。

公學費支出

本年度公學費支出總額ハ27,489,928圓デ之ヲ前年ニ比ベルト2,685,029圓(9分)ノ減少デアル、尙5年前ノ大正14年度ヲ100トシタ指數デ消長ヲ示スト、昭和元年度158、同2年度131、同3年度117、同4年度107デアル。內、府ノ經濟ニ屬スルモノ6,940,670圓(2割5分2厘)、大阪市ニ屬スルモノ15,844,304圓(5割7分6厘)、堺市643,241圓(2分3厘)、岸和田市139.032圓(5厘)、町村3,922,681圓(1割4分4厘)デアル。尙內容ノ主ナルモノヲ示スト府ニ在リテハ、教授、助教授、教諭、助教諭、訓導俸給26.93%、其ノ他ノ諸費25.61%、新營費18.27%、雜給7.62%等デ總額ヲ前年ニ比ベルト510,636圓(6分9厘)ノ減少デアル。大阪市ニ在ツテハ教授、助教授、教諭、助教諭、訓導俸給40.08%、新營費22.65%、雜給13.01%、其ノ他ノ諸費9.14%等デ總額ニ於テ前年ヨリ1,841,800圓(1割4厘)減ツテ居ル。

堺市ノ經濟デ費目ノ主ナルモノハ、教授、助教授、教諭、助教諭、訓導俸給46.93%、其他ノ諸費18.34%、新營費11.42%、圖書器械標本費4.09%等デアツテ總額ヲ前年ト比較スルニ225圓ノ增加デアル

岸和田市ニ在ツテモ前記ノ俸給56.86%デ大部分ヲ占メ、其ノ他ノ諸費10.07%、雜給5.93%、新營費4.72%等之ニ亞イデ多イ部デ、總額デハ前年ヨリ13,216圓(8分7厘)ノ減少デアル。次ニ町村ニ在ツテハ總額ヲ前年ニ比ベテ169,522圓減ツテ居ル、之ガ費目中ノ主ナルモノハ、教員俸給55.38%、新營費13.37%、其他ノ諸費8.84%、雜給4.34%等デアル。以上本年度ノ支出狀態ヲ觀ルニ堺市ダケハ增加シテ居ルガ其ノ他ハ何レモ減少シテ居ル、尙學校ノ種類別ニ依ル支出ノ割合ハ、小學校58.96%デ半額以上ヲ占メ、次ハ中學校4.01%、實業學校3.26%、高等女學校2.63%等其ノ主ナル部デアル。

公學資產

本年度公學資產總額152,422,063圓デ前年度ニ比ベルト2,290,250圓(1分5厘)ノ減少デアル、今5年前ナル大正14年度ヲ100トシタ指數デ增加ノ狀態ヲ示スト、昭和元年度107、同2年度120、同3年度121、同4年度120デアル、內、府ノ資產1割8分6厘、大阪市7割1分4厘、堺市2分、岸和田市4厘、町村7分6厘ニ割合シテ居ル。尙之ヲ種別ニ示スト建物價額46.49%、敷地價額45.82%、以下器具價額3.05%、器械標本價額2.64%、圖書價額1.42%、附屬地價額0.58%等デアル。府ノ資產28,311,853圓ヲ前年ニ比ベ

ルト1,280,991圓(4分5厘)ノ增加デアル、今種類別ニ資金ノ割合ヲ示スト、建物價額47.21%ヲ占メ次ハ敷地價額33.52%、以下機械標本價額7.46%、器具價額6.18%、圖書價額3.97%、附屬地價額1.66%、以上ノ如ク資產ノ增加シタノハ校舍ノ新築ト之ニ伴フ設備ノ增大ニ依ルモノデアル。

大阪市ノ資產ハ103,857,561圓デ之ヲ前年ニ比ベルト4,210,260圓(3分7厘)ノ減少デ、種類別資產ノ割合ハ敷地價額5'.58%、建物價額44.44%、器具價額1.79%、器械標本價額1.31%、圖書價額0.58%、附屬地價額0.30%等ニ割合シテ居ル。

堺市ノ資產ハ3,128,172圓デ前年ニ比ベテ143,379圓(4分8厘)ノ增加デ、今種類別ニ付其ノ割合ヲ示スト、建物價額46.81%、敷地41.19%、器具價額6.55%、器械標本價額3.42%、圖書價額2·03%等デアル。

岸和田市デハ581,873圓デ前年ニ比ベルト31,299圓(5分7厘)ノ增加デ、今種類別ニ割合ヲ示スト建物價額58.87%、敷地價額25.17%、器具價額11.24%、器械標本價額2.91%、圖書價額1.81%、等デアル。

町村ノ資產ニ在ツテハ11,542,604圓デ前年ニ比ベルト464,342圓(4分2厘)ノ增加デ、之レガ資產別割合ハ建物價額63.29%、敷地價額23.89%、器具價額5.82%、器械標本價額3.21%、圖書價額2.93%、附屬地價額0.86%等ニ當ツテ居ル。以上ヲ學校別ニ觀ルト小學校ニ係ルモノ72·35%、中等學校5.05%、高等女學校3.56%、實業學校6.54%等ハ多イ部デアル。

基本財產及積立金

本年度ニ於ケル基本財產金額ハ2,115,415圓デ前年ニ比ベテ157,546圓(7分4厘)ヲ增加シテ居ル。土地坪數85,919坪デ之レガ價額134,970圓デアツテ、積立金ハ3,346,348圓デ前年ヨリ177圓ノ減少ニ當ツテ居ル。

第十五 救 濟

救濟ハ社會行政ノ一ニ屬スル。

元來社會行政ハ一般行政ノ一分化デアリ行政權ノ發動形式ニ於テ國家又ハ公共團体ガ法規ノ範圍內ニ於テ行フ一ノ作用デアルガ、之ガ行政上ノ一分野トシテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ツタノハ實ニ第十八世紀產業革命以後ノコトデアル。

近代ニ於ケル社會組織並ニ諸種社會制度ノ原則ノ確立ガ第十八世紀末ニ起ツタ米合衆國ノ獨立宣言ト佛蘭西革命トノ二大政治的革命ニ負フ所多大デアツタコトハ勿論デアルガ、前二者ニモ增シテ更ニ根本的ナ社會的革命ニ大影響ヲ與ヘタルモノトシテ所謂產業革命ヲ擧ゲネバナラヌ、產業革命ハ機械ノ發明ニ其ノ端ヲ發スル機械ノ發明ニ依リ手工業ハ一變シテ機械工業工場生產ヲ現出シ、コノ革命ハ同時ニ資本勞働ノ社會的階級ノ對立ヲ截然ナラシメ今日ノ所謂資本主義經濟組織ト制度ヲ完成シタノデアル、カクシテ產業革命階級對立各種社會問題ノ發生ニ伴ヒ社會法制ノ制定セラルヽモノ次第ニ其ノ數ヲ增加シ、其ノ範圍モ著シク擴大セラレ、社會行政ハ重要ナル意義ヲ有スルニ至ツタノデアル。

コノ社會行政ノ一般行政ヨリ區別セラルヽ特異性ハ、卽チ社會行政ハ恒ニ社會的弱者ノ地位ニアル者ノ存在ヲ豫見シ、之等ノ者ニ對スル利益ノ保護增進ヲ終局ノ目的トシテ働ク國家又ハ公共團体ノ作用

デアルト言ハネバナラヌ。

社會行政ト俱ニ吾人ハ又社會法制ヲ檢討スルノ要ガアル。

社會法制ハ抽象的ニ規定サレタ一ノ法規デアル、シカシ法規ノ發現ガ其ノ動機ニ於テ他ノ諸法規ト異ル處アルハ社會行政ガ一般行政ト異ル處アルト同一デアル、其ノ特異性モ亦同樣デアル、卽チ社會ニ於ケル各階級團ノ對立ヲ基礎トシ社會的弱者ヲ豫見シ之ガ利益ノ保護ト增進ヲ目的トスル法規デアルシカシ社會法制ト社會行政トハ假令其ノ發現ノ動機ニ於テ、其ノ有スル目的ニ於テ、相近似セルモノアリトハ言ヘ、其ノ觀念ニ於テ全ク別個ノモノタルコトハ言ヲ俟タナイ、一ハ法規デアリ一ハ作用デアルコトノ相違ノ外ニ特ニ注意スベキハ、行政ハ法規ノ執行ノミニ止ラズ法規ニ違反セザル限度ニ於テ廣キ作用ノ分野ヲ有シテ居リ、從ツテ社會法制ニ關スル行政ハ社會行政ノ一部デハアルガ其ノ全部デナキコトノ誤タザル認識デアル。

以上ノ如ク社會行政ハ極メテ廣イ範圍ニ亘ルノデアルガ概念的ニ其ノ內容ヲナス主要ナル事項ヲ大別スレバ、所謂勞働行政ト狹義ニ於ケル社會行政ニ二分セラレ、救濟ハ實ニ後者ノ社會行政ニ屬スル。

所謂勞働行政トハ工場法施行ニ關スル事項、鑛業法中鑛夫ニ關スル事項、工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項、勞働爭議小作爭議調停法施行ニ關スル事項、健康保險法施行ニ關スル事項、其ノ他勞働ニ關スル一般事項ヲ含ム行政ヲ謂ヒ、本章解說ノ範圍外デアルカラ論外トシ、狹義ノ社會行政トハ恤救規則、行旅病人及ビ行旅死亡人取扱法、其ノ他ノ現行救貧法規施行ニ關スル事項、救護法實施ニ關スル事項、軍事救護法及ビ廢兵院法施行ニ關スル事項、罹災救助基金法施行ニ關スル事項、感化法施行ニ關スル事項、住宅組合法及ビ不良住宅地域改良法ノ施行ニ關スル事項、公益質屋法施行ニ關スル事項、職業紹介法施行ニ關スル事項、其ノ他救貧防貧ニ關スル一般事項ヲ含ムモノデ、以下本府管內ニ於ケル統計諸表ニ現レタ數字ト俱ニ各項救濟事業ニ就キ概說セントスル所ノモノデアル。

尙、社會行政ガ運用ニ關シ一言センニ、其ノ運用機關ハ中央機關ト地方機關トニ分タレ、兩者ノ組織權限監督關係等一般行政ト異ル處ガナイ、狹義ノ社會行政ハ主トシテ社會局ニ於テ主管セラレ地方機關トシテハ道府縣廳ノ地方廳ガ、之ニ當ルコト勿論デアルガ、職業紹介事業ニ關シテハ中央職業紹介事務局竝ニ地方職業紹介事務局ガ各々其ノ事務ヲ管掌シテ居ル。

救 恤

昭和四年度中ニ、各市町村ニ於テ救助シタル所ノ人員ハ2,032人デ、其ノ中前年ヨリノ越人員ハ874人本年新ニ救助シタル者1,155人デアルガ、之ヲ前年ニ比較スルト救助人員161人多キヲ算シテ居ル。

以上ノ內年度內ニ救助ヲ廢止シタル者ハ、死亡ノ436人ヲ加ヘテ952人デ、前年ノ985人ニ比シ30人ヲ減ジテ居ル。結局年末ニ於ケル救助中ノ者ハ1,080人デ之ヲ前年ニ比ベルト191人多クナツテ居ル。

更ニコノ1,080人ヲ事由別ニ見レバ、廢疾45人(4分2厘)、老衰305人(3割8分2厘)、疾病378人(3割4分5厘)、幼弱357人(3割3分1厘)、其他5人(5厘)トナル。

本年中ノ救助人員ヲ郡市別ニスレバ、大阪市1,731人、堺市128人、岸和田市29人、三島郡19人、豐能郡11人、泉北郡26人、泉南郡30人、南河內郡26人、中河內郡26人、北河內郡6人デアル。

以上ノ救助ニ要シタ費額ハ總額145,654圓デ、前年度ヨリ23,145圓ヲ增加シテ居ル、之ハ救助人員ガ前年度ニ比シ161人增加シテ居ル結果ニ外ナラヌ。

總額145,654圓ノ負擔別ハ國費2,561圓(1分8厘)、府費92圓(1厘)、市費140,010圓(9割6分1厘)、町村

費2,991圓(2分1厘)ノ如クデアル。

棄兒養育

昭和四年度中ノ養育人員ハ157人デ、前年度ノ73人ニ比シ34人多ク著シキ增加ヲ示シテ居ル、其ノ中年內ヨリノ越員ハ98人、本年新養育59人デアル。

以上ノ內養育ヲ廢止シタル人員ハ51人デ前年ヨリ32人多ク、死亡者ハ皆無デアル。

年末現在員ハ106人デ前年ヨリ52人增加シテ居ル。

本年中ノ養育人員157人ヲ郡市別ニ示セバ、大阪市148人、三島郡2人、豐能郡、泉北郡、泉南郡各1人中河內郡4人トナリ、之ニ要シタ費額ハ7,536圓デ、前年度ニ比シ、幾カニ8圓ノ增加デアルガ、養育人員ガ前年ニ比シ約倍加セルニ、其ノ費額ハ前年ト凡ボ同一額デアルノハ稍奇異ノ觀ガアル。

行旅病人及行旅死亡人

昭和四年度中ニ救護シタ行旅病人ハ1,204人デ、前年ヨリ72人增加シ、昭和元年以來、漸次減少ノ傾向ヲ示シテ居タノガ昭和四年度ニ於テ再ビ增加シテ居ル、1,204人ノ內、前年ヨリ越シタル者ハ167人本年新ニ救護シタル者ハ1,037人デアルガ、男女別ニ見レバ、男1,031人、女173人トナル。

以上ノ內途ニ死亡シタル者ハ291人、引渡638人、從ツテ年末現在員ハ295人トナリ、前年ニ比シ110人ノ增加デアル。

次ニ行旅死亡人ハ454人デ、內病死156人(3割4分4厘)、變死298人(6割5分6厘)トナリ、更ニ細別スレバ病死ノ中男1,45人、女11人、變死ノ中男233人、女65人ノ如クデアル。

行旅病人、行旅死亡人ニ要シタル費額ヲ見レバ、前者ノ府費57,838圓デ、前年ヨリ3,438圓多ク、後者ノ府費4,870圓デ前年ヨリ5,078圓ノ減少デアル。

市町村長ノ監護スル精神病者

昭和四年度ニ於テ收容又ハ監置シタル人員ハ總數3,055人、男1,915人、女1,140人、之ヲ前年ニ比スレバ總數ニ於テ 08人、男112人、女96人ノ增加デアル。

總數ノ內、前年ヨリ越シタル者ハ1,478人デアル、本年度中ニ發病シタル者ハ男1,178人、女5·1人デ其ノ中初發ノ者ハ男871人、女457人デ殘リノ者ハ再發シタル者デアル。

收容廢止又ハ監置廢止シタル者ハ總數1,340人、男853人、女487人デ、其ノ內死亡者ハ432人(3割2分2厘)、治癒セル者 34人(5割4分8厘)、殘リノ174人ハ他管送致者及其ノ他ノ者デアル、從ツテ收容又ハ監置年末現在員ハ總數1,715人、男1,062人、女653人デアル。

感化事業

昭和四年度ノ入院總數ハ420人(男372人、女48人)デ、前年度ニ比ベテ30人多ク、其ノ內前年ヨリ越347人、本年入院73人デアル。

更ニ420人中命令ニ依リテ入院シタル者192人、出願ニ依リテ入院シタル者228人デアル。

本年中ノ退院總數ハ85人(男82人、女3人)デ前年度ヨリ76人多イ、即チ入院數モ退院數モ共ニ前年度ヨリ增加シテ居ルノデ、年末現在ハ前年度ト大差ナク、前年度ヨリ4人多キ、83人デアル。

退院者ヲ事由別ニ見ルト改悛29人(3割4分1厘)、滿年3人(3分5厘)、逃亡26人(3割1厘)、犯罪2人(2分4厘)、其ノ他ノ事故25人(2割9分4厘)デアル。尙別ニ死亡人ガ二人アル。

從ツテ年末現在員ハ333人(男288人、女45人)デ前年ヨリ4人多ク、其ノ內實際在院者222人(6割6分7厘)、他ヘ委託シタル者45人(1割3分5厘)、假退院者66人(1割9分8厘 ト云フコトニナツテ居ル。

次ニ年末現在員333人ヲ身分別ニスレバ、公生218人(6割5分5厘)、私生82人(割4分6厘)、公私不詳33人(9分9厘)デアリ、收容當時保護者トノ關係ヲ見ルニ、實父母又ハ實父實母ノミ144人(4割3分2厘)、繼父實母實父繼母又ハ繼父母ノミ74人(2割2分2厘)、養父母又ハ養父養母ノミ22人(6分6厘)、其ノ他ノ親族35人(1割8厘)、他人6人(1分8厘)、保護者ナキ者51人(1割5分3厘)デ、累年其ノ割合員數ニ大差ヲ認メナイ。

尙收容當時ノ年齡ニ及ベバ10歲未滿100人(3割)、10歲以上12歲未滿110人(3割3分)、12歲以上14歲未滿107人(3割2分1厘)、14歲以上16歲未滿15人(4分5厘)、16歲以上18歲未滿1人(3厘)デ、前年ニ比ベテ10歲未滿ノ者10歲以上12歲未滿ノ者、12歲以上14歲未滿ノ者ハ各々著シキ增加ノ數ヲ示シテ居ルガ、14歲以上ノ者ハ其ノ反對ニ著シク減少シテ居ル。之ヲ昭和二年昭和元年ニ比較スルト、本年度ノ數ト大差ナキヲ認メルノデアルガ、前年度ニ限リ何故ニカヽル變則ナ狀態ニ置カレタカ疑問タルヲ免レナイ。

次ニ改悛退院者ノ在院期間ハ14歲未滿デ收容シタル者ノ內デハ、1年未滿ノモノ1人、1年以上、2年未滿ノモノ3人、2年以上3年未滿ノモノ4人、3年以上4年未滿6人、4年以上5年未滿6人、5年以上ノ者6人デ、14歲以上ニテ收容シタル者ノ內デハ1年未滿ノモノハナク、2年未滿ノ者2人、4年未滿ノ者1人デアル。

之等改悛退院者總計29人ノ者ハ退院後如何ナル方途ヲ選ンデ居ルカ、自家ニ在ル者8人、他家ニ在ル者21人デ、其ノ細別ハ前者ニ在ツテハ入學2人、工業從事3人、其ノ他3人デ、後者ニ在ツテハ農業從事1人、工業從事12人、商業從事2人其ノ他6人デアル。

幼兒保育事業

本事業ニ關スルモノハ18箇所デ、其ノ內府立1、市立1、村立1、財團法人4、個人經營3、會員組織1箇所デアル。

本年中ノ保育總人員ハ3,228人デ男1,645人、女1,583人、前年ニ比ベテ126人ヲ減ジテ居ル、內前年ヨリ越1,185人、本年新ニ入所2,043人デアル。

本年中ノ退所者ハ1,842人(男939人、女903人)デ前年ニ比ベテ191人尠ク、從ツテ年末現在員ハ1,403人(男707人、女696人)デ前年ヨリ82人多イ、即チ本年保育總人員ハ前年ヨリハ尠キモ、退所者ハ更ニ尠キ爲年末現在員ハ若干ノ增加ヲ示シテ居ル。

コノ年末現在員1.403人ヲ年齡別ニ見ルニ一歲未滿40人(2分9厘)、1歲以上3歲未滿135人(9分6厘)、3歲以上6歲未滿948人(6割7分6厘)、6歲以上280人(1割9分9厘)トナル。

本年中ノ保育延人員ハ男209,115人、女204,884人、計413,999人ニ達シテ居ル。

尙保育人員3,228人ヲ個所別ニ擧ゲルト、弘濟會保育部765人、泉尾愛兒園103人、櫻宮託兒所93人、鶴町第一託兒所109人、同第二託兒所154人、私立汎愛幼稚園1 5人、大阪自彊館保育部156人、愛染託兒所84人、鷺洲託兒所79人、鶴町保育所98人、日之出託兒所95人、岸和田市立託兒所142人、私立累德文珠園164人、大阪府保嬰館79人、大阪市立堀川乳兒院141人、同今宮乳兒院163人、交野村託兒所

132人ノ如クデアル、但シ不動寺保育園ハ本年ハ休園シタ。

婦人保護事業

本事業ニ關スルモノハ、目下節婦館ノミデアル、救世軍女子希望館ハ昭和元年限リ本事業ヲ廢止シテ居ル。

節婦館本年中ノ保育人員ハ15人デ前年ニ比シ3人多ク、其ノ內前年ヨリ越9人、本年新ニ入所6人デアル。尙退所者6人アルカラ年末現在員ハ9人トナル。

育 兒 事 業

本事業ニ關スルモノハ財團法人3箇所、社團法人2箇所、計5箇所デアル。

本年中ノ育兒人員ハ總數905人デ、前年ニ比シ113人ノ增加デアル、其ノ內前年ヨリ越524人、本年入院381人デ、之ヲ男女別ニ見ルト男547人、女358人デアル。

本年中ニ退院シタル者ハ239人デ、前年ヨリ13人多ク其ノ內男161人、女78人デアル。

退院者ヲ事由別ニ見ルト、就學其ノ他獨立ノ爲23人、父母又ハ親族ヘ引渡171人、養子女トシテ引渡2人、其ノ他38人デ、前年ノ同事實ニ比シテ各々大差ヲ認メナイ。

入所者中死亡シタ者67人デ之ハ前年ヨリ25人多ク、カヽル多數ノ死亡者ヲ出シタコトハ數年來稀ナコトデアル。

年末ニ於テ收容者ノ者ハ604人デ前年ヨリ80人多ク、內男357人、女247人デアル、之ガ收容當時ノ狀態ヲ見レバ、孤兒46人(7分6厘)、貧兒284人(4割7分)、棄兒187人(3割 分)、其ノ他87人(1割4分4厘デ、貧兒最モ多ク前年ヨリ74人モ增加シテ居リ、棄兒ハ之ニ次グガ之モ亦31人ノ增加デアル。

更ニ之ヲ年齡別ニ見レバ1歲未滿23人(3分8厘)、1歲以上3歲未滿77人(1割2分7厘)、3歲以上6歲未滿83人(1割3分7厘)、6歲以上14歲未滿190人(3割1分5厘)、14歲以上18歲未滿54人(8分9厘)、18歲以上177人(2割9分3厘)トナル。

以上ノ者ノ內約半數ノ316人(男185人、女131人)ハ他ヘ委託シテ居ルモノデ、里子128人、徒弟見習186人、其ノ他2人トナツテ居ル。

本年中ノ保育人員總數ヲ箇所別ニスレバ、弘濟會育兒部460人、大阪聖約翰學園51人、愛育社121人、大阪汎愛扶德會25人、博愛社248人デアル。

貧兒敎育事業

總數15箇所、其ノ內市立2、財團法人12、會員組織1。

本年中ニ敎育シタ人員ハ2,009人デ前年ニ比シ363人減少シ、其ノ內前年ヨリ越シタル者1,030人、本年入學979人、更ニ男女別ニ見ルトキハ男1,246人、女763人トナル。

本年度ノ卒業者ハ235人デ入學者ノ2割4分ニ當リ、半途退學者ハ580人デ5割9分ニ當ル、各前年ニ比較シテ51人、174人ノ減少デアル、之ハ前年ニ比シ入學者ニ於テ可ナリノ減少アルガ爲デアル。

入學者ヨリ卒業者、半途退學者ヲ除キタル年末現在員ハ卽チ1,194人デ、自宅ヨリ通學セル者937人7割8分5厘)、他家ヨリ通學セル者257人(2分2厘)、更ニ年齡別ニツキテ云ヘバ、不明ナル者ヲ除キ10歲未滿156人(1分3厘)、10歲以上14歲未滿361人(3分)、14歲以上18歲未滿 96人(1分6厘)、18歲以上20歲未滿102人(1分)、20歲以上66人(6厘)ノ如クナル。

本年中ノ敎育人員ヲ箇所別ニ掲グレバ次ノ如クデアル。

市立有隣尋常小學校506人、市立德眞尋常小學校390人、私立 濟尋常小學校91人、私立堺眞德夜學校79人、同校鯰西分校79人、同熊野分校53人、博愛社尋常小學校12人、私立岩崎特志夜學校151人、愛染幼稚園245人、內鮮協和會飯橋夜學校105人、同今宮夜學校72人。

異常兒敎育事業

本事業ニ關スルモノハ本府管內ニ於テハ桃花塾1箇所ノミデアル、卽チ本所ニ於テ敎育シタ者男27人女4人、計31人デ、前年ヨリ2名減デアル、其ノ內前年ヨリ越シタル者男19人、女3人、計22人デ、本年入學ハ男8人、女1人計9人デアル。

本年中ノ卒業者ハ前年同樣皆無、退學者ハ7人デ年末現在員ハ24人デアルガ之等ハ皆他家通學デアル

盲啞敎育事業

府立1、市立2、個人經營2、會員組織1ノ6箇所。

本年中ニ敎育シタ總數ハ盲生886人、聾啞生316人デ、前年ニ比ベテ前者ハ95人增加シ、後者ハ14人減少シテ居ル、之ヲ更ニ前々年及ビ其ノ以前ニ比較スルトキハ盲生ノ方ハ累年逐次增加ノ傾向アルニ反シ聾啞生ノ漸次減減ヲ示シテ居ルノハ奇異ナ現象デアル。

總數ノ中盲生ニ在ツテハ前年ヨリ越シタ者505人、本年入學381人デアリ、聾啞生ニ在ツテハ前年ヨリ越員22人、本年入學93人デアル。卒業者ハ盲生168人、聾啞生63人デ前年ニ比シ前者ハ26人多ク後者ハ4人少イ、之ガ敎育總人員ニ對スル割合ハ前者ハ1割8分9厘、後者ハ1割9分9厘デ之ハ每年大差ヲ認メナイ。

退學者ハ盲生167人、聾啞生44人デ前年ニ比シ前者ハ 5人、後者4人ノ增加デアル、之ガ總人員ニ對スル割合ハ前者ハ1割8分9厘デ後者ハ1割3分9厘ニ當ツテ居ル、尙盲生ノ退學者數ノ年ヲ追フテノ增加ハ逐年入學者逐增ヲ加味シテ考ヘテモ尙注目ニ價スル。

年末現在員ハ盲生551人、聾啞生209人デ、之ヲ前年ニ比スレバ前者ニ24人多ク、後者ハ39人尠イ。

年末現在員ヲ通學別ニ見ルト盲生ニ在ツテハ通學420人(7割6分2厘)、寄宿131人(2割3分8厘)、聾啞生ニ在ツテハ通學192人(9割1分9厘)、寄宿17人(8分1厘)デアル、聾啞生ノ大部分通學シテ居ルノハ盲生ニ比シ通學ソノモノガ非常ニ容易ナ爲デアラウ。

更ニ之ヲ年齡別ニ見ルト盲生ニ在ツテハ14歲未滿110人(2割)14歲以上 0歲未滿240人(4割3分5厘)、20歲以上146人(2割6分5厘)デ聾啞生ニ在ツテハ 4歲未滿131人(6割2分7厘)、14歲以上20歲未滿72人(3割4分4厘)20歲以上6人(3分9厘)トナツテ居ル。

本年中ノ敎育總人員ヲ箇所別ニ掲グレバ、聾啞316人ハ市立聾啞學校ノミデ、盲生ニ在ツテハ市立盲學校366人、大阪府立盲學校366人、東盲人保護協會52人、北盲人保護協會32人、積德盲學校70人デアル。

職業紹介事業

本年度ニ於ケル紹介所ハ20箇所ヲ數ヘ前年度ヨリ2箇多イ、之ヲ組織別トスレバ市立14、財團法人6デ市立ニ係ルモノ內4箇所ハ勞働職業紹介ニ從事シテ居ル。

今之ヲ一般職業紹介事業ト勞働職業紹介事業ニ分チテ概說スレバ次ノ如クデアル。

一般職業紹介

求職申込者ハ男144,824人、女22,677人計167,501人デ、前年度ヨリ男10,961人、女5,214人、計16,275人ノ激増デアル。

尤モコノ中ニハ本年度ヨリ新設サレタ內鮮協和會木津川職業紹介所ノ申込數 男336人ガ含マレテ居リ前年度ヨリ當然多イ譯デアルガ、全体ノ增加數カラ見レバ問題デハナイ、之ガ其ノ前年度以前ノ各年度ノ數字ト比較スルトキハ著シキ減少ヲ示シテ居ルガ、之ハ前々年度ノ昭和2年度ニ於テ3箇所、昭和元年度ニ於テ8箇所ノ職業紹介所ノ事業廢止ノ結果ニ外ナラナイガ、ル 多數ノ紹介所ノ事業廢止ニ依ル數字ノ結果ヲ比較スルコトハ吾々ニハ許サレナイ。

コノ申込者ニ對シテ其ノ職業ヲ紹介シタ人員ハ男39,223人、女9,899人、 計49,122人デ、其ノ割合ハ申込者ノ男ニ於テ2割7分1厘、女ニ於テ4割3分7厘、合計ニ於テ2割9分3厘ニ該當シテ居リ、申込者ニ對シテ紹介人員ハ誠ニ尠イト云ハネバナラヌガ之ハ求人數ニ關係スル爲デアル。

今求人數ヲ見ルト男58,191人、女18,091人計76,282人デ、前年度ニ比較シテ男1,443人、女1,341人計2,784人尠イ、更ニ前年度以前ノ各年度ト比較スルトキハ著シキ減少デ、昭和元年度ノ約2分ノ1以下大正14年度ノ3分ノ1以下ニナツテ居ル。

偖、之ノ求人者ニ對シ紹介サレタ求職者ハ果シテ幾人就職シ得タカ、就職者ノ數ヲ見ルニ、男24,173人、女6,276人、計30,449人デ前年度ニ比シ男4,185人、女772人、 計4,957人ノ增加デ、 其ノ歩合ハ4割1分5厘及ビ3割4分6厘デ勿論前年度ヨリハ其ノ歩合モ幾分ヨクナツテ居ル、更ニコノ就職者ト最初ノ求職者トノ割合ヲ見ルト、就職者ハ求職者ニ對シテ幾カ男1割6分7厘、女2割7分7厘、合計ニ於テ1割8分2厘デ實ニ僅少ナルモノト云ハネバナラヌ、 更ニ最近5ケ年間ノ趨勢ヲ見ルニ大正14年3割1分2厘、昭和元年2割0分5厘、同2年1割5分7厘、同3年1割6分8厘而シテ昭和4年度ハ上述ノ1割8分2厘デアル。

就職者30,449人ヲ職業別ニ見レバ、工業及ビ鑛業11,387人(3割7分4厘)、土木建築623人(2分1厘)、商業5,126人(1割6分8厘)、農林業392人(1分3厘)、通信運輸731人(2分4厘)、戶內使用人4,673人(1割5分3厘)雜業7,518人(2割4分7厘)ノ如クナル。

勞働職業紹介

本年度ノ求職申込數ハ男458,581人、女1,475人、計455,056人デ、之ヲ前年ニ比ベルト男ニ在テ94,412人增加シ、女ニ於テ582人減少シテ居ル。

之等ノ申込者ニ對シテ紹介所ハ求人申込數ダケ紹介ノ勞ヲトリ、紹介サレタ者ハ全部就職スルト云フ就職率100%トナルガ、之ハ一般職業紹介ト根本的ニ相違スルトコロデ、勞働職業紹介ノ性質ヨリ來ル當然ノ結果デアル、卽チ求人數ト紹介數ト就職數トハ完全ニ一致シテ居ル、 其ノ數男349,511人、女1,475人、計350,986人デ前年ヨリ17,055人ノ增加デアル、 而シテ之ガ求職者トノ割合ヲ見ルト男7割7分1厘デ、女ハ10割卽チ求職者ハ全部就職シ得タ譯デ、計ニ於テ7割7分1厘トナル。尙最近5ケ年間ノ就職率ハ大正14年5割0分1厘、昭和元年8割0分2厘、同2年8割0分2厘、同3年8割1分3厘、同4年ハ上述7割7分1厘デアル。

宿泊救護事業

本年度ニ於ケル本事業ニ從事スルモノハ市營6、財團法人6、個人經營1、計13箇所デアル。

本年中ニ宿泊シタ人員ハ男34,283人、女463人、計34,746人デ、 之ヲ前年度ニ比較スルト、男ニ於テハ15,75人減少シ、女ニ於テ355人增加シテ居ルガ結局計ニ於テハ15,120人尠イコトニナル。

以上ノ宿泊延人員ハ916,207人デ前年ニ比シ之ハ32,931人多イ。之ヲ月別ニ見レバ1月61,325人(9分1厘)、2月56,368人(8分4厘)、3月62,054人(9分3厘)4月55,473人(8分3厘)、5月55,810人(8分3厘)、7月49,320人(7分4厘)、8月48,293人(7分2厘)、9月51,658人(7分7厘)、10月56,821人(8分5厘)、11月59,483人(8分9厘)、12月62,[illegible]40人(9分3厘)デ、12月ノ62,140人最モ多ク、3月ノ62,054人之ニ次ギ以下1月11月10月2月デ、流石ニ夏期ハ少ク8月ノ48,293人ハ最少デアル。

尙コノ延人員ヲ箇所別ニ見ルト、大阪職業紹介所共同宿泊所83,341人、大阪曉明館15,655人、今宮共同宿泊所121,953人、西野田共同宿泊所113,838人、樂町共同宿泊所68,593人、長柄共同宿泊所125,805人、九條共同宿泊所117,657人、今宮保護所53,154人、大阪自彊館79,365人、日本海員掖濟會大阪出張所24,102人、天滿職業紹介所81,019人、內鮮協和會豐崎共同宿泊所17,612人、同泉尾共同宿泊所14,113人デアル。

養老事業

本事業經營ニハ財團法人3箇所ガ之ニ從事シテ居ル。

本年入院者395人、中男150人、女245人デ、之ヲ前年ニ比ベルト57人多イ。 395人ノ中211人ハ前年ヨリノ越人員デ、184人ハ本年新ニ入院シタ者デアル。

退院者ハ男58人、女68人、計126人デ、之モ前年ニ比ベテ20人多イ、 事由別ニ見ルト扶養義務者引渡37人、事故退院89人トナル、死亡者ハ男14人、女20人ノ計34人デ、 之モ亦前年ニ比ベテ4人多イ、從ツテ年末現在員ハ男78人、女157人ノ計235人、前年ニ比シ33人多イコトトナル、之ヲ健否別トスレバ健康者189人(8割4分5厘)、病弱者46人(1割5分5厘)デ、更ニ之ヲ年齡別ニ見ルト、60歲未滿21人 (9分3厘)、60歲以上70歲未滿86人(3割3分8厘)、70歲以上80歲未滿103人(4割5分8厘)、80歲以上25人 (1割1分1厘)トナル。

本年中入院者總數ノ箇所別ハ大阪養老院127人、弘濟會養老部245人、堺養老院23人デアル。

施藥救療事業

本年度ニ於テ本事業ニ從事スルモノ府立1、市營5、財團法人2、會員組織1ガアル。

本年中ノ入院總數ハ9,735人デ、前年ヨリ127人多ク、前年ヨリ越1,712人、本年新ニ入院シタ者ハ8,023人デアル。

本年中ニ退院シタ者1,885人(1割9分4厘)デ、前年ヨリ566人尠ク、死亡シタ者ハ269人 (2割5分7厘)デ之ハ前年ヨリ2人多イガ、前々年度及ビ其ノ以前ニ比較スレバ著シク減少シテ居ル。

本年中入院患者ノ延人員ハ670,049人デ、前年ヨリ4,235人多イ、 外來患者ヲ見ルニ實人員378,129人之ガ延人員ハ2,817,484人デ前年ニ比シ各々140,797人、82,448人ノ增加デアル。入院患者ト外來患者數ト比較スルニ入院患者ハ外來患者ノ幾カ2分6厘ニ該當シテ居ル。

入院患者及外來患者ノ主ナル疾患ト其ノ患者數ヲ擧ゲレバ、肺結核5,658人其ノ他ノ結核1,295人、花柳病14,953人、トラホーム13,556人デ、肺結核ハ前年ヨリ著シク減少シテ居ルガ其ノ他ハ皆增加ヲ示

シテ居ル。

本事業ニ從事スルモノノ中入院患者ノミ取扱フモノハ、弘濟會救療部、生野保養所、第三區府縣立外島保養院、大阪市立刀根山療養所ノ3箇所、外來患者ノミノモノハ大阪毎日新聞慈善團、信貴山成福院積德會、內鮮協和會長柄委託診療所、同中野診療所、同本庄矛託診療所、堀川乳院、今宮乳兒院、櫻宮實費診療所、日本生命濟生會診療所、同九條診療所、日本慈濟會、同分院ノ12ケ所デ、殘リノ8ケ所ハ入院外來ノ兩者ヲ取扱ツテ居ル。

授 產 事 業

弘濟會授產部ト內鮮協和會豐崎授產所ノ2箇所ガ本事業ニ從事シテ居ル。

本年中ノ申込者ハ男219人、女100人、計319人デ、前年ヨリ201人尠イ、而シテ之等申込者ハ全部就業スルコトヲ得テ居ル、卽チ前年ヨリ越員76人、本年新ニ就業シタルモノ243人デアル、分娩授產ナク皆收容授產ニ屬シ217人ハミシン裁縫ニ從事シ、102人ハ其ノ他ノ各種ノ仕事ニ從事シテ居ル、尙本年中就業者ノ延人員ハ男12,597人、女5,036人、計17,633人デ、前年ヨリ2,366人ノ減少デアル。

釋放者保護事業

本事業ニ係ル者總數13ケ所、內財團法人7箇所、會員組織ノモノ6箇所デアル。本年中ニ保護シタル人員總數ハ2,863人デ、其ノ中前年ヨリ越ノ者846人、本年新ニ保護シタル者2,017デ前年ニ比較シテ3,367人尠イ。

以上ノ外ニ一時的ニ保護シタル者ノ數ハ3095人デ、前年ニ比ベテ之モ2,380人ノ減少デアル。

保護ヲ解除シタ者總數1,707人デ、前年ニ比シ2,692人尠シ。

本年度ハ前年度ニ比較スルトキハ以上ノ如ク前年ヨリ著シキ減少デアルガ前々年度ニ比較スルト大差ガナイ、前年度ノ數字ハ一時的ノ現象ト見ルベキデアル、保護ヲ解除シタ者ヲ種類別ニ擧ゲルト、保護ノ必要ナキニ至リタル者2,034人(6割6厘)、親族引渡160人(1割5厘)、他人引渡183人(1割7厘)、入監ノ12人(6分6厘)、無斷退會130人(7分6厘)、其ノ他68人(4分)トナル。

直接收容保護ト間接保護トニ分ツテ、年末現在員ヲ揭グレバ、前者男81人、女2人、計83人、後者男957人、女13人、計970人デ、更ニ本年中ノ直接保護ノ延人員ハ男133,410人、女1,779人、計135,189人ニ達シテ居ル。

本事業ニ係ルモノ13箇所ノ內、小西壽樂園ハ直接收容保護ノミ、仁濟會、河南佛教端德會、自彊會ノ3箇所ハ間接保護ニノミ從事シ、其ノ他ハ總テ直接間接兩者ノ保護ニ從事シテ居ル。

產 院

市營3箇所ガアル

本年中ノ姙娠產褥診療人員ハ4,938人デ、前年同樣自宅診療ノモノ1人モナク、全部入院デ前年ヨリ66人多イ。

以上ノ中診療廢止4,812人、死亡43人デ、從ツテ年末現在數83人、前年ニ比ベテ5人減デアル。

診療者一ケ年ノ延人員ハ36,561デアル。

分娩兒數ハ全部デ4,517人、前年ヨリ113人多ク、其ノ中正規產男1,292人、女1,232人、計2,524人(5割5分9厘)、異常產男839人女750人、計1,589人(3割5分2厘)、死胎產404人(8分9厘)トナツテ居ル。

窮民救護事業

財團法人2、社團法人2、計4箇所ガアル。

本年中ニ救助シタ戶數8、人員191人デ、前年ニ比シ何レモ激減デアル。救助人員ノ內收容救助ハ48人非收容救助ハ143人デアル。更ニ之ヲ箇所別ニ見ルト、弘濟會20人、大阪保警院48人、愛國婦人會大阪支部48人、日本慈濟會75人トナル。

其ノ他ノ救濟事業

大阪市立中央職業紹介所少年部ノ本年度ノ成績ヲ見ルニ、職業撰擇4,003人、學校撰擇7人、職業紹介2,919人、計6,929人デ前年ニ比ベテ139人增加シテ居ル。同市立人事直談所7箇所ニ於ケル本年度ノ成績ハ相談人員總數ハ19,919人デ、前年ノ9,729人ニ比スレバ、10,190ノ激增デアル、其ノ內譯ハ訴訟ヲ除ク法律的ノモノ1,181人(5分9厘)社交的ノモノ1,303人(6分5厘)家事的ノモノ2,725人(1割3分7厘)身上ノ4,710人(7割3分9厘)デアル。累年增加ノ傾向ヲ示シ實績ヲ擧ゲツヽアルモノト認メラレル。

公設住宅經營ノモノ市營22箇所、町營1箇所、財團法人2箇所、合計25箇所アルガ其ノ總戶數ハ2,376戶デ前年ヨリ6戶增加シテ居ル、內110戶ハ平屋1戶建、1,132戶ハ平屋長屋建、161戶ハ二階1戶建、973戶ハ2階平長建デアル。以上ノ外海員救濟ノ爲ニスル日本海員救濟會大阪出張所アリ、貧民部落ノ改善ヲ目的トスル矯風青年會アリ、慈善團体ノ事業援助ヲ目的トスル大阪毎日新聞慈善團アリ、社會事業ノ施設研究ヲ目的トスル社會事業聯盟アリ、鮮人保護內鮮融和ニ精進スル內鮮協和會アリ、感化教育完成ヲ目論ム修友會アリ、病魔ト孤獨ニ泣ク者ノ慰藉ヲ目的トスル外島保養院患者慰藉會アリ、更ニ下層下級民ノ教化、娛樂ノ施設ヲスル5ケ所ノ市民館、小額所得者ノ金融機關トシテノ4ケ所ノ市營質舖アリ、其ノ他諸種ノ社會事業ヲ施設シテ、以テ之ガ年々向上改善ヲ圖リ、著々其ノ實績ヲ擧ゲツヽアル。

第一六 警 察

警 察 職 員

本年ノ職員總數ハ6,135人デアル、之ヲ前年ニ比較スルト238人卽チ3分9厘ノ增加ニ當リ、又5ケ年前ノ大正14年ノ事實ニ比較スルト518人卽チ8分6厘ノ增加デアル。而シテ其ノ大部分ハ警察官ノ5,631人デアツテ總職員ノ91.78%ニ相當ス。以上ヲ更ニ內譯スルト地方警視24人(4厘)、警部83人(1分5厘)、警部補284人(5分)、巡査部長611人(1割9厘)、巡査4,629人(8割2分2厘)等ニ割合シテ居ル。

警察官對現住人口

警察各署ニ屬スル巡査部長ハ528人、巡査4,382人、計4,910人デアツテ、之ガ一人ニ對スル人口ノ割合ハ709人デ、前年ニ比ベテ51人ヲ增シテ居ル。尙郡市別ニ見ルト大阪市ニ在リテハ一人當リ491人、郡部ニ在リテハ2,183人ニ割合シテ居ル。

巡查勤續年數

巡査部長611人、巡査4,629人ニ付イテ其ノ勤續狀況ヲ見ルト、巡査部長ニハ10年以上15年未滿ノ者214人デ最モ多ク全數ノ3割5分ヲ占メ、次ハ7年以上10年未滿デ162人(2割6分5厘)15年以上20年未滿63人

(1割3厘)、5年以上7年未滿55人 (9分0厘)、 20年以上25年未滿44人 (7分2厘)、 25年以30年未滿20人(3分2厘)、1年以上3年未滿14人(2分3厘)、1年未滿4人(7厘)、30年以上4人(7厘)等ノ順位デアル。

惡質ニハ3年以上5年未滿967人(2割9厘)デ最モ多ク、 次ハ7年以上10年未滿899人(1割9分4厘)、1年以上3年未滿898人(1割9分4厘)、5年以上7年未滿683人(1割4分8厘) 10年以上15年未滿612人(1割3分2厘) 1年未滿438人(9分5厘)、15年以上20年未滿81人(1分7厘)、 20年以上25年未滿32人(7厘)、25年以上30年未滿11人(2厘)等ノ順位デ30年以上ノモノガ8人デアル。

花街狀況

昭和四年末現在ニ於ケル貸座敷數ハ1,589デ、之ヲ前年同一事實ニ比較スルト3分ノ減少デアル、娼妓ハ之ニ反シテ225人ヲ增シテ8,577人デアル。

尙遊客數ト之ガ消費金額ニ付觀察スルト前年ヨリ增加シテ居ルコトガ見ラレル、卽チ本年ノ遊客數ハ5,091,272人デ3分3厘、消費金額ハ21,436,594圓デ1分4厘ノ各增加ヲ示シテ居ル。 遊客一人當消費額ハ4圓21錢デアツテ前年ニ比較スルト2圓39錢ノ減少ニ當ルノデ、卽チ財界ノバロメイターノ一ツヲナス斯界ニモ如何ニ不況ガ深刻ニ織リ込マレテ居ルカト云フコトガ窺ハレル。

諸興行日數

本年ノ總日數ハ89,927日デ、前年ニ比ベルト5分7厘、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト2割9分1厘ノ各增加トナツテキル、 尙之ガ內譯ヲ見ルト活動寫眞53.15%、 講談、落語、歌舞、音曲14.80%、演劇3.01%、浪花節12.41%、其ノ他3.56%、淨瑠璃2.02%、相撲0.85%、琵琶0.21%、西洋音樂0.20%人形芝居0.10%等ノ割合デアル。

投宿人員

投宿シタル年中管內各旅館總人員ハ5,865,544人デアル、之ヲ前年ニ比較スルト4分9厘、5ケ年前ノ大正 4年ニ比較スルト3分9厘等ヲ增加シテ居ル。

之ヲ旅宿、 下宿別ニ割合ヲ出シテ見ルト下宿45.28%、旅人宿30.75%、簡易宿23.87%等ニ當ツテ居ル此ノ他ニ外國人ノ0.10%ガアル。更ニ月別ニ見ルト5月9.37%、3月9.31%、4月8.81%、7月8.59%6月8.40%、1月8.10%、12月8.10%、10月8.00%、11月7.96%、9月7.82%、8月7.80%、 2月7.74%等ノ順位デアツテ、5月ノ9.37%ガ最高デ、2月ノ7.74%ガ最少デアル。卽チ人ノ移動ハ暑カラズ寒カラザル新綠ノ候ガ盛デアルコトヲ示シ、嚴寒ノ2月、酷暑ノ8月ハ其ノ少ナキヲ示シテ居ル。

新聞雜誌

本年ノ發刊現在數ハ1,153デ、 前年ニ比ベルト25種ヲ增加シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト482ノ增加ニ當ツテ居ル。內1ケ月5回以下ノモノ972デアツテ全數ノ8割4分3厘ヲ占メ以下日刊ノモノ101,1ケ月10回以下73、1ケ月15回以下5、1ケ月5回以下2ノ順位デアル。 文化ノバロメイターデアル新聞雜誌ノ年ヲ逐ツテ增刊セラルヽコトハ大大阪ノ文化建設ノ上ニ最モ喜ブベキ現象デアル。

行政執行ニ因ル處分人員

本年中ニ於テ救護ヲ要セシモノ25,090人デ、前年事實ニ比シ1,296人卽チ5分5厘ノ增加デアル、5ケ年前ノ大正14年ノ事實ニ比スルト4,861人2割4分ノ增加トナツテ居ル、 更ニ之ガ處分別ノ割合ハ泥酔者最モ多ク總數ノ8.10%ヲ占メ、次ハ家出人9.10%、自殺ヲ企ツルモノ9.31%、 其ノ他8.12%、迷子

5.55%、瘋癲者4.00%等ニ當ツテ居ル。卽チ泥酔者ノ最多ハ財界ノ非況ヲ痛切ツタ感ガアリ、家出人ヤ自殺者ノ多イノハ何ヲ語ルカ注目ヲ要スル社會現象デアル。尙公安ヲ害スル虞アリシ者ハ45,946人デ前年ニ比シ6,181人卽チ20割3厘約3倍ノ增加ヲ示シテ居ル、之ガ內譯ヲ見ルト暴行者10.10%、鬪爭者4.00%、不良少年1,22%、其他84.68%ニ當ツテ居テ是亦社會政策上注目スベキ現象デアルト思フ。

監置精神病者

年末現在數ハ1,326人デ、前年ヨリ增加スルコト1割8分、5ケ年前ノ大正14年ヨリ增加スルコト4割4分3厘デアル。尙男女ノ割合ハ男6割5分2厘、女3割4分8厘デアル。

發病者總數ハ1,504人デアツテ前年ニ比ベテ8分2厘ヲ增シタ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト3割8分2厘ノ增加デアル。全治シタルモノハ743人デ前年ヨリモ1割2分2厘減少シ、 ツマリ治病ノ結果ガ惡イノデアル、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト8分ノ增加ヲ示シテ居ル。

死亡者ハ363人デ前年ヨリモ6割7分6厘、5ケ年前ノ大正14年ヨリモ498人卽18割7分9厘ノ增加デアル。

棄兒

本年中ノ棄兒總數ハ男26人、女12人、計38人デ 前年ヨリモ11人ヲ增加シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト7人ノ增加デアル。

總數ノ中デ生存シ居リシモノハ24人デ、14人ハ死亡シ居リシモノデアル、更ニ推定年齡別ニ見ルト生後1ケ月未滿ガ12人、1ケ月以上3ケ月未滿2人、3ケ月以上6ケ月未滿3人、 6ケ月以上1ケ年未滿7人、2ケ年以上3ケ年未滿2人、3ケ年以上ハ12人デアツテ一ケ年以上2ケ年未滿ノモノハ該當ガナイ。

變死者

本年ノ變死者ハ13,751人デアル、其ノ內自殺誤死、殺害、其ノ他數種ノ方法ニ因リ直チニ死セルモノ1,[illegible]86人、傷ツキ後死シタルモノ11,865人デアル、之ヲ前年同一事實ニ比較スルト死者16人(9厘)ノ增加デ、傷者1,524人(1割1分4厘)ノ減少ニ當ツテ居ル。

更ニ總數ヲ變死セル種類別ニスレバ自殺セルモノニシテ死者837人(4割4分4厘)、傷者433人(3分6厘)、誤死者ノ中死者597人(3割1分7厘)、傷者8,658人(7割3分)、殺害者中死者101人(5分4厘)、 傷者2,303人(1割9分4厘)、中途發病者中死者ハ149人(7分9厘)、傷者ハ353人(3分)等比較的多イ部デアル、卽チ變死者中自殺者ノ多イコトハ文化ト正比スル現象トシテ等閑ニ附スルコトハ出來難イ。

自殺者

本年ノ自殺者總數ハ1,270人デ前年ニ比較スルト7人ヲ增シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比スルト464人(5割7分6厘) ノ增加トナツテ居ル。之ヲ手段別ニ見ルト毒物又ハ劇物ニ因ルモノ535人(4割2分1厘)、縊死者263人(2割7厘)、入水者243人(1割9分1厘、汽車ニ觸レテ90人(7分1厘)、電車ニ觸レテ57人(4分5厘)刄物ニテ56人(4分4厘)、其他24人(1分9厘)、銃及火藥類ニテ2人(2厘)等デアル。尙年齡別ニ割合ヲ見ルト20歲以上30歲未滿ガ最モ多ク全數ノ4割7厘ヲ占メ、 次ハ50歲以上デ1割9分6厘、30歲以上40歲未滿1割5分7厘、16歲以上20歲未滿1割4厘、40歲以上50歲未滿1割2厘、年齡不詳2分4厘、16歲未滿9厘等ニ當ツテ居ル。卽チ20歲以上40歲未滿ノ階級ニ於テ總數ノ 6割ニ近キ自殺者ヲ見ルコトハ最モ戒心ニ値スベキ現象デアル。

更ニ之ヲ原因別ニ觀レバ既遂836人中厭世ニ因ルモノ3割6分7厘、病苦ニ因ルモノ2割1分1厘、精神錯

亂=ヨルモノ1割9厘等デ比較的多イ部=屬スルガ厭世死ノ多キ社會制度上ノ缺陷ヲ談ルモノデハナイダロウカ。

未遂34人ノ中厭世=因ルモノハ3割3分2厘、病苦=因ルモノ1割5分ガ多キ部=屬シテ居ル。

難破船

總船數ハ513隻デ前年ヨリ17隻ヲ減ジ、5ケ年前ノ大正14年=比較スルト227隻(6割3分)ガ最モ多ク、以下市內河川65隻、安治川筋62隻、木津川筋40隻、築港外16隻、泉南沖5隻、木津川2隻等デアル。

難破船損害

總數ヲ損害種類別=見ルト浸水254隻、破損141隻、沈沒99隻、其他15隻、流失3隻、顚覆2隻等デアル倘之ガ損害見積高ハ158,808圓デ一隻平均308圓=相當シテ居ル。

火災

本年中=於ケル火災度數ハ850デ前年=比シ2分2厘、5ケ年前ノ大正14年=比較スルト6割9厘ノ各增加デアル、之ヲ署別=見ルト福島署ノ57ガ最モ多ク、次ハ泉尾署ノ47、市岡署37等ガ比較的多イガ、其ノ他ハ大体20內外デ火災ナキ官署モアル。

發行後延燒セシ度數ハ14.00%、延燒セザリシモノハ25.00%、直チ=消シ止メシ度數ハ61.00%デアル

火災月別

總數1,029ヲ月別=見ルト1月13.51%、2月12.93%、3月10.88%等ガ比較的多ク、以下4月9.52%、8月8.75%、12月7.87%、7月7.29%、5月6.51%、10月、11月6.22%等ノ順位デアル。

冬期=火氣ヲ使用スルコト多キダケ自然火災ノ多キコトヲ示シテ居ル

倘火災原因別=見レバ雷火及不審火261(2割5分3厘)、原因不詳260(2割5分2厘)、煙草吸殼61(5分9厘)電氣及瓦斯52(5分1厘)等ガ比較的多ク、蚊爐12、提灯14ガ最モ少ナイ部デアル。中=モ放火ハ5ケ年前ノ大正14年=ハ27件=テ昭和元年ノ年=ハ41件ト云フ甚ダシイ增加ヲ示セルモ前年ヨリ一段ト減少シテ19件トナリ、本年ノ18件=ナツタコトハ社會風敎上喜ブベキ現象デアル。火災=因ル損害見積高ハ2,971,079圓デアル之ヲ前年=比較スルト390,000圓即チ5分1厘ノ增加=當ツテ居ル。今火災度數一回=付平均損害額ヲ算出スルト3,495圓=當リ1ケ月平均額ハ247,590圓=當ル。

犯罪被害及檢擧

刑法犯中被害及犯罪ハ80,331件デ前年ヨリ3分3厘、5ケ年前ノ大正14年ヨリハ1割6分7厘ノ各增加=當ツテ居ル。

檢擧件數ハ53,999デ前年ヨリ1分ノ增加デ、5ケ年前ヨリハ9分4厘ノ增加=當ツテ居ル。

罰金刑以上ノ諸法令犯中犯罪ハ1,919件デ前年ヨリ6分7厘、5ケ年前ヨリハ1割9分5厘ノ各減少=當ツテ居ル。

檢擧件數ハ2,193件前年ヨリ1分6厘、5ケ年前ノ大正14年ヨリハ1割1分7厘ノ各減少ヲ示シテ居ル。

第一七 衛生

死亡者

本年中ノ死亡者總數ハ68,246人デ內男35,043人(5割1分3厘)、女33,203人(4割8分7厘)デアル、之ヲ前年同一事實=比較スルト總數=於テ5,169人(8分2厘)ノ增加デアル。倘体性別=見ルト男=在ツテハ1,896人(5分7厘)、女=在ツテハ3,273人(9分9厘)ノ各增加=當ツテ居ル。今10ケ年ヲ遡リ之ガ指數ヲ算出シ比較スルト次ノ如クデアル。

年次	死亡者	指數	年次	死亡者	指數
大正 9年	71,916	100	大正10年	65,063	90
同 11年	69,470	97	同 12年	64,269	89
同 13年	62,886	87	同 14年	61,295	85
昭和元年	58,571	81	同 2年	64,919	90
同 3年	63,077	88	同 4年	68,246	95

郡市=於ケル死亡者ノ狀態ハ大阪市ハ45,987人デ總數ノ6割7分4厘ヲ占メ、次ハ中河內郡3,721人(5分5厘)、泉南郡2,568人(3分8厘)、泉北郡2,914人(4分3厘)、堺市2,495人(3分7厘)、三島郡2,279人(3分3厘)、北河內郡2,206人(3分2厘)、豊能郡2,039人(2分9厘)、岸和田市840人(1分2厘)ノ順位デアル。即チ大阪市ノ死亡者ノ多キハ人口數=比例シタル必然ノ結果デアル、現住人口100=對スル死亡者ノ割合ハ19.6人デアル、之ヲ前年事實=比スルト1.1人ノ增加ヲ示シ、5ケ年前ノ大正14年ノ事實=比較スルト0.4人ノ減退=當リ10ケ年前ノ大正9年=比較スルト8.2人ノ減少=當ツテ居ル。即チ大正9年=ハ27.8人ヲ數ヘ、10年=至リ遙カ=減少シテ23.9人トナリ、11年=ハ稍增加シテ24.9人12年=ハ稍低下シテ21.7人、13年=ハ20.6人、14年20.0人、昭和元年18.5人、2年19.8人、3年18.7人、4年19.6人デアツテ一高一低常ナキモ既往10ケ年ヲ通ジテ觀察スルト大体遞減ノ現象デアル。而シテ總死亡者ハ全國內地總死亡者ノ十七分ノ一=相當シ、比=於テ0.4人ノ高キヲ示シテ居ル。

郡市=於ケル死亡率ハ豊能郡ノ23.7人ガ最モ高ク、岸和田市23.1人之=亞ギ、以下泉北郡21.4人、泉南郡21.0人、中河內郡20.7人、北河內郡20.6人、堺市20.5人、南河內郡19.3人、大阪市19.1人、三島郡19.1人等=相當シテ居ル。

死亡者ヲ月別=見ルト男=在ツテハ3月最モ多クシテ一年平均一月死亡1000=付キ各月平均一月死亡ハ1,302人ヲ數ヘ、次ハ2月1,281人、1月1,156人、4月、8月1,042人等デ以下5月927人、7月917人、9月917人、10月875人、12月875人、11月854人、6月833人デアル。

女=在ツテモ等シク3月1,297人ガ最高デ以下2月1,242人、8月1,143人、1月1,110人、4月1,055人、7月945人、5月923人、9月923人、6月857人、10月857人、12月846人、11月824人ノ順位トス。

年齡別

死亡者總數ヲ5歲階級每=區分シテ見ルト、最モ多キハ5歲未滿デ27,910人、最小ハ15歲未滿10歲以上デ1,30人デアル、倘之ガ詳細ハ次表ノ通リデアル。

年齡別	死亡者	割合	年齡別	死亡者	割合
0歲以上5歲未滿	27,910	4.08	70歲以上	7,350	1.07
20—25	3,535	0.52	15—20	3,283	0.48
60—65	3,201	0.47	50—55	2,861	0.42
52—30	2,810	0.41	55—60	2,765	0.41
65—70	2,752	0.40	30—35	2,361	0.35

45—50	2,300	0.34	40—45	2,113	0.31
35—40	1,948	0.29	5—10	1,927	0.28
10—15	1,130	0.17			

更ニ5歳未滿ノ幼年死亡者27,9 0人ニ付イテ各歳別ニ割合ヲ見ルト、1歳未滿ノモノ16,097人(5割7分7厘)、1歳以上2歳未滿ノモノ6,699人(2割4分)、2歳以上3歳未滿ノモノ2,458人(8分8厘)、3歳以上4歳未滿ノモノ1,544人(5分5厘)、4歳以上5歳未滿ノモノ1,112人(3分9厘)ニ當ツテ居ル。

死亡者原因別

現住者死亡1.000ニ付キ割合ヲ算出シテ見ルト肺炎及氣管支肺炎ノ131.25人ヲ筆頭ニ、以下先天性弱質及畸形120.23人、肺結核90.94人、腦充血腦出血腦軟化65.72人、腎臟炎及武雷篤氏病49.48人、腦膜炎42.43人、老衰41.06人、血行器ノ疾患37.36人、癌腫34.38人、麻疹28.59人、胃ノ疾患27.83人、脚氣及乳兒脚氣24.06人、腹膜炎22.96人、下痢及腸炎16.59人、肋膜炎15.09人、急性氣管支炎 4.77人、赤痢12.34人、自殺12.31人、不明ノ病名ヲ附シタルモノ11.40人、腸及腸間膜結核10.73人、流行性感冒9.70人、結核性腹膜炎9.2 人、腸窒扶私及パラチフス9.07人、百日咳7.08人、實布垤利亞及格魯布7.03人、慢性氣管支炎6.96人、黴毒5.04人、肝臟硬化4.70人、皮膚及運動器ノ疾患3.90人、脫腸及腸管閉塞3.37人、中毒2.34人、糖尿病2.07人、癌腫以外ノ新生物2.01人、婦人生殖器病0.91人、産褥熱0.88人、流行性腦脊髓膜炎0.78人、姙娠及産ニ因セザル子癇及小兒搐搦0.69人、死因不詳0.67人、十二指腸患者0.63人、傻麻實私性疾患0.60人、虎列刺0.48人、眼及耳ノ疾患0.45人、猩紅熱0.32人、二口蟲病0.23人、瘧病0.15人、麻刺利亞0.09人、痘瘡0.03人、其他消化器ノ疾患13.80人、其他神經系ノ疾患12.69人、其他泌尿器及男子生殖器ノ疾患10.08人、其ノ他傳染病及傳染性獸疫10.04人、其他榮養變調ノ疾患8.79人、其他臟器ノ結核5.70人、其他姙娠及産ニ因セル疾患3.68人等デアル。

傳 染 病

本年ノ傳染病患者總數ハ7,724人デ之ヲ前年事實ニ比スルト242人(3分2厘)ヲ增シ、5ケ年前ナル大正14年ニ比較スルト2,813人(5割7分3厘)ノ增加トナツテ居ル。

之ガ郡市ニ於ケル割合ハ大阪市ガ最多デ總數ノ81.18%ヲ占メ、堺市4.13%之ニ亞ギ、以下中河內郡3.39%、三島郡2.08%、豐能郡1.49%、泉北郡1.71%、泉南郡1.59%、北河內郡1.35%、南河內郡1.33%、岸和田市1.29%等ニ當ツテ居ル。

患者總數ノ中死亡セシモノハ2,342人デアル。之ヲ前年ノ事實ニ比較スルト1割6分5厘ノ增加ニ該リ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト6割8分5厘ノ增加トナツテ居ル。之ガ郡市ノ割合ハ大阪市ガ81.81%デ其ノ大部分ヲ占メ、堺市3.93%、中河內郡3.20%、三島郡2.52%、豐能郡1.92%、泉北郡1.62%、北河內郡1.40%、泉南郡1.37%、南河內郡1.28%、岸和田市1.11%等ニ該當シテ居ル。

今患者100ニ付キ死亡者ノ割合ヲ算出シテ見ルト 30.3人デ前年ヨリ0.9人ヲ增シ、5ケ年前ノ事實ヨリハ2人ヲ增加シテ居ル。之ガ郡市別ノ割合ハ三島郡36.6人ガ最高デ以下大阪市30.6人、豐能郡30.0人北河內郡29.8人、南河內郡29.1人、堺市、泉北郡28.8人、中河內郡27.9人、岸和田市26.0人、泉南郡26.0人等ニ該當シテ居ル。

虎 列 刺

本年ノ患者數ハ72人デ內死亡者ハ34人デアル。之ヲ前年ニ比スルト71人ノ增加デアリ、從ツテ死亡者ノ數モ激增シテ33人ヲ算シテ居ル。更ニ 5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト患者ニ在リテハ19人ヲ增シ死亡者ニ在リテハ10人ノ增加トナツテ居ル。之ガ郡市ニ付イテ發生狀況ヲ見ルト大阪市ガ第一位デ46人、次ハ岸和田市ノ1 人、堺市ノ10人、中河內郡ノ3人、豐能郡ノ1人デアツテ三島郡、泉北郡、泉南郡、南河內郡、北河內郡ニハ患者ガナイ。

赤 痢

患者總數ハ2,845人デ內死亡者ハ1,130人デアル。之ヲ前年ニ比較スルト患者926人(4割8分3厘)、死亡者306人(3割7分1厘)ノ增加ニ當ツテ居ル、更ニ5年前ノ大正14年ニ比較スルト患者2,029人(24割8分7厘)、死亡者800人(24割8分2厘)ノ增加ニ當ツテ居ル。

患者總數ヲ郡市別ニ見ルニ大阪市2,432人(8割5分5厘)、三島郡、中河內郡各93人(3分8厘)、堺市86人豐能郡40人、北河內郡36人、岸和田市29人、泉南郡17人デアル。

死亡者總數ヲ郡市別ニ見ルニ大阪市973人(8割6分1厘)、堺市42人、三島郡39人、中河內郡24人、北河內郡16人、豐能郡13人、岸和田市9人、泉北郡、南河內郡各6人デアル。

パラチフス

本年ノ患者發生數ハ202人デ前年ヨリ84人(2割9分4厘)ノ減少、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルモ149人(4割2分5厘)ノ減少ニ當ツテ居ル。之ガ郡市ニ付イテ見ルト 大阪市164人(8割1分2厘)、以下泉南郡16人、中河內郡6人、豐能郡5人、三島郡4人、堺市、南河內郡各2人、岸和田市、泉北郡、北河內郡ハ各1人デアル。

之ガ內譯死亡者ニ付イテ見ルト大阪市ノ30人ヲ首メトシ豐能郡、泉南郡ノ各2人、中河內郡ノ1人デ他ノ郡市ニハ該當ガナイ。

猩 紅 熱

患者總數ハ386人デ前年事實ヨリ45人卽チ1割4厘ノ減少デ、之ヲ五ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト247人卽チ17割7分6厘ノ增加デアル。之ガ郡市ノ內譯ハ大阪市330人(8割5分4厘)、堺市2人(1割8厘)、三島郡4人、中河內郡3人、豐能郡、泉北郡、北河內郡各2人、南河內郡1人、岸和田市、泉南郡ハ皆無デアル。

死亡者ハ21人デ前年事實ヨリ5人(3割1分3厘)ノ增加、5ケ年前ノ大正14年ヨリハ14人(20割)ノ增加ニ當ツテ居ル。之ガ郡市ノ內譯ハ大阪市19人、堺市、中河內郡ニ各1人アルノミデ他郡市ニハ該當ガナイ。

實布垤利亞及格魯布

本年ノ總患者ハ1,864人デアル之ヲ前年事實ニ比スレバ345人(2割2分7厘)ノ增加、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト857人(8割5分1厘)ノ增加デアル。

總數ヲ郡市別ニ見ルト大阪市1,635人、中河內郡48人、泉北郡46人、堺市36人、南河內郡2 人、三島郡 0人、泉南郡19人、豐能郡18人、北河內郡13人、岸和田市5人デアル。之ガ割合ハ大阪市87.71%、中河內郡2.58%、泉北郡2.46%、堺市1.93%、南河內郡1.29%、三島郡1.07%、泉南郡1.02%、豐能郡0.97%、北河內郡0.70%、岸和田市0.27%等デアル。

患者中死亡者ハ505人デアル、前年ニ比ベテ128人(3割4分)ノ増加デアリ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト199人(6割5分)ノ増加デアル。之ガ郡市ノ割合ハ大阪市87.13%、泉北郡2.77%、南河内郡、中河内郡1.98%、泉南郡1.78%、三島郡1.58%、豊能郡1.19%、堺市0.99%、北河内郡0.59%等デ岸和田市ニハ該當ガナイ。

腸窒扶私

本年ノ患者總數ハ2,283人デ前年ニ比スルト931人(9割9分)ノ減少ニ當リ、5ケ年前ノ大正14年ノ事實ニ比較スルト119人(4割3分5厘)ノ減退デアル。之ガ郡市ノ割合ハ大阪市70.35%、堺市6.04%、中河内郡4.69%、豊能郡3.59%、泉北郡3.02%、泉南郡、南河内郡3.02%、岸和田市2.32%、北河内郡2.28%、三島郡1.75%等ニナツテ居ル。

患者ノ内死亡者ハ5.71人デ前年事實ニ比ベルト129人(1割8分4厘)ノ減少、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト17人(2分9厘)ノ減退デアル。之ガ郡市ノ割合ハ大阪市69.00%、堺市7.01%、中河内郡5.95%、豊能郡3.85%、泉南郡2.97%、泉北郡2.63%、南河内郡2.[illegible]5%、三島郡2.10%、北河内郡2.10%、岸和田市1.93%等ニ該當ス

流行性腦脊髓膜炎

患者總數68人ヲ前年事實ニ比スルト4人ヲ増加シ、5年前ノ大正14年ニ比較スルト19人ノ減退デアル。之ガ郡市ノ割合ヲ見ルト大阪市77.94%、堺市7.35%、泉北郡5.88%、豊能郡、泉南郡、中河内郡ハ何レモ2.94%デ岸和田市、三島郡、南河内郡、北河内郡ニハ該當ガナイ。

病院

公立病院

公立病院ノ内府立大阪醫科大學、堺市立市民病院、大阪市立市民病院及大阪市電氣局病院ニ就イテ見ルニ本年ノ病床數ハ1,382デアル。

患者數ノ内前年ヨリ越シタルモノ684人、本年入院セシモノ15,028人、退院セシモノ13,596人、在院中死亡セシモノ1,448人デアル。年末現在數ハ572人、入院患者延數ハ238,399人デアル、今病床數ノ内譯ヲ見ルニ府立醫科大學病院761(5割5分1厘)、大阪市立市民病院450(3割2分7厘)、大阪市電氣局病院110(8分)、堺市立市民病院61(4分4厘)等デアル。

私立病院

病院數ハ99デ内公益法人ノ經營ニ係ルモノ92、外國人ノ經營ニ係ルモノ1デアル。

病床數ハ3,584デ内傳染病床數101、結核病床數15デアル、患者數ノ内前年ヨリ越シタルモノ1,181人本年入院シタルモノ32,552人、退院シタルモノ30,139人、在院中ニ死亡シタルモノ2,368人デ年末現在人員ハ1,229人、入院患者延人員ハ630,294人デアル。

傳染病豫防法ニヨル傳染病隔離病舍及隔離所

本年ノ傳染病院數ハ13デ前年ヨリ1ヲ増加シタ、病床數883ヲ内譯シテ見ルト市ノ設立ニ係ルモノ4デ收容シ得ル人員ハ575人デアル。町村組合設立ニ係ルモノハ9デ收容シ得ル人員ハ308人デアル。

隔離病舍ニ在ツテハ病院數118デ收容シ得ル人員ハ1,260人デアル、之ガ内譯ヲ見ルト市ノ設立ニ係ルモノ僅カニ1、收容シ得ル人員ハ6人デアル。町村及町村組合ノ設立ニ係ルモノ117デ收容シ得ル人員ハ1,254人デアル。

隔離所ニ在ツテハ市ノ設立ニ係ルモノ2デ收容セシ人員ハ512人デアル。

醫師

本年ノ醫師總數ハ3,111人デアル前年ニ比スレバ153人(5分2厘)ノ増加ニ當リ、5ケ年前ナル大正14年ニ比較スルト457人(1割7分2厘)ノ増加ニ當ツテ居ル。之ヲ免許資格別ニ見ルト官公私立指定專門學校卒業1,468人(4割7分2厘)、大學卒業900人(2割8分9厘)、試驗及第683人(2割2分)等ハ比較的多ク、其ノ他從來開業49人、外國學校卒業5人、奉職履歴5人、退地開業1人等デアル。以上ノ内女醫ハ僅カニ126人デ總數ノ4分1厘ニ當ツテ居ル。女醫總數ヲ前年事實ニ比スルト22人(2割1分2厘)ノ増加デアリ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト47人(5割9分5厘)ノ増加デアツテ逐年増加ノ狀態ニ在ルコトハ注目ニ値スル。

更ニ醫師1人ニ對スル現住人口ノ割合ヲ算出シテ見ルト全管平均1,119人デアル、之ガ郡市ノ割合ハ泉南郡2.303人、泉北郡1,914人、南河内郡、1,775人、中河内郡1,692人、北河内郡1,505人、三島郡1,270人、岸和田市1,254人、大阪市1,028人、堺市870人等ニ割合シテ居ル。

齒科醫

本年ノ齒科醫總數ハ1,252人デ前年ヨリ86人卽チ4分4厘ノ増加デアリ、5ケ年前ノ大正14年ノ同一事實ニ比較スルト387人卽チ4割4分7厘ノ増加ニ當ツテ居ル。之ガ内譯ヲ見ルト試驗及第者711人(5割6分8厘)、指定學校卒業者530人(4割2分3厘)、外國學校卒業者10人(8厘)從來開業者1人等デアル。

藥劑師

總數2,637人デ内男2,438人、女199人デアル。之ヲ前年ニ比ベルト男ニ在ツテハ128人(5分5厘)、女ニ於ツテハ6人(5分8厘)等何レモ増加シテ居ル。

今總數ヲ免許資格別ニ分類スルト試驗及第1,651人(6割2分6厘)、官公私立指定藥學專門學校卒業956人(3割6分3厘)大學卒業27人、外國學校卒業3人等デアル。

產婆

總數4,180人ヲ前年ニ比ベルト195人(4分9厘)ヲ増シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト675人(1割9分3厘)ノ増加ニ當ツテ居ル。之ガ郡市ニ於ケル割合ヲ算出スルト大阪市3,091人(7割3分9厘)、中河内郡204人(4分9厘)、泉北郡148人(3分5厘)、北河内郡136人(3分3厘)、堺市132人(3分2厘)、三島郡117人(2分8厘)豊能郡112人(2分7厘)、南河内郡110人(2分6厘)、泉南郡103人(2分5厘)、岸和田市27人(6厘)等ニ該當スル。

產婆一人ニ對スル出產數ハ泉南郡46.52人、岸和田市43.67人、南河内郡38.84人、三島郡33.74人、泉北郡31,15人、中河内郡30.06人、豊能郡26.00人、大阪市24.66人、北河内郡24.79人、堺市24.43人ニ割合ス。

看護婦

總數785人ヲ前年ニ比スルト464人(6分7厘)ヲ増シ、5ケ年前ノ大正14年ニ比較スルト2,366人(4割7分

5厘)ヲ増加ス。今之ヲ正准ニ區別スルト正看護婦ハ6,654人(9割5厘)、准看護婦ハ698人(9分5厘)デアル。

鍼術・灸術、按摩術、マツサージ術及柔道整復術

總數9,620人ノ内男7,384人(7割6分8厘)、女2,236人(2割3分2厘)デアル之ヲ前年同一事實ニ比較スルト總數ニ於テ850人(8分1厘)ノ減少ニ當ツテ居リ、内男ハ815人(9分9厘)、女ハ35人(1分5厘)ノ減退ニ當ツテ居ル。之ガ業態別ニ見ルト按摩術4,307人(4割4分8厘)、鍼術2,449人(2割5分5厘)、灸術2,108人(2割1分9厘)、マツサージ術579人(6分)、柔道整復術177人(1分8厘)等デアル。

藥品販賣業者、製藥業者、賣藥業者

本年ノ藥品販賣業者ハ5,839人デアル之ヲ前年ニ比ベルト238人(4分2厘)ノ増加デアル。

今郡市別ニ割合ヲ算出シテ見ルト、大阪市其ノ大部分ヲ占メテ總數ノ8割9分9厘ニ當リ、次ハ堺市ノ2分3厘、以下泉北郡、中河内郡ノ1分4厘、豊能郡、南河内郡1分1厘、泉南郡9厘、三島郡、北河内郡8厘等デ岸和田市ハ僅カニ4厘デアル。

製藥業者ハ592人デ前年ニ比ベテ37人(6分7厘)ノ増加デアル。之ガ郡市ノ内譯ハ大阪市539人デ總數ノ大部分デ91.05%ヲ占メテ居ル、以下堺市ノ19人、中河内郡ノ13人、豊能郡7人、泉北郡6人、南河内郡4人、泉南郡2人、岸和田市、三島郡各1人ノ順位デ北河内郡ニハ製藥業者ハナイ。

賣藥業者總數ハ3,519人デ前年ヨリ155人(4分4厘)ノ増加ニ當ツテ居ル内藥劑師ハ1,261人、醫師及獸醫ハ194人、藥劑師使用ハ296人、法第二十四條二十五條ハ1,568人デ、割合カラ見ルト法第二十四條二十五條ノ50.24%ガ第一位デ、次ハ藥劑師35.83%、藥劑師使用8.41%、醫師及獸醫5.51%ノ順トナル。尚之ガ郡市別ニ見ルト大阪市82.69%、堺市3.55%、中河内郡3.04%、豊能郡1.88%、南河内郡1.82%、泉北郡1.76%、三島郡1.56%、泉南郡1.51%、北河内郡1.31%、岸和田市0.88%等ニ割合スル。

健康保險被保險者

業務上ニ於ケル本年ノ健康保險被保險者總數32,409人デ、内男ハ30,603人、治癒シタルモノ28,766人(9割3分9厘)、其ノ他ノ事由ニ因リ給付ヲ止メタルモノ979人(3分2厘)、未ダ治癒セザルモノ821人(2分7厘)、死亡シタルモノ23人、未ダ治癒ナキモ制限期間ヲ超エタルニヨリ給付ヲ打切リタルモノ14人デアル。

女ハ1,806人デ、内治癒シタルモノ1,648人(9割1分3厘)、其ノ他ノ事由ニヨリ給付ヲ止メタルモノ110人、未ダ治癒セザルモノ46人、死亡シタルモノ2人デアル。

業務外ニ於ケル本年ノ總數ハ278,913人デ、内男215,347人内治癒シタルモノ197,592人(9割1分8厘)、其ノ他ノ事由ニヨリ給付ヲ止メタルモノ9,893人(4分6厘)、未ダ治癒セザルモノ7,191人(3分3厘)、死亡シタルモノ453人(2厘)、未ダ治癒ナキモ制限期間ヲ超エタルニ依リ給付ヲ止メタルモノ218人デアル。

女ハ63,566人デ内治癒シタルモノ57,193人(8割9分9厘)、其ノ他ノ事由ニヨリ給付ヲ止メタルモノ3,762人(5分9厘)、未ダ治癒セザルモノ2,21人(3分5厘)、死亡シタルモノ321人(5厘)、未ダ治癒ナキモ制限期間ヲ超エタルニヨリ給付ヲ止メタルモノ78人デアル。

狂 犬 病

本年中ノ狂犬發生頭數ハ116頭ニシテ前年ヨリ107頭(4割7分9厘)ノ減退デアル。之ヲ月別ニ割合ヲ見ルト1月7分8厘、2月9分5厘、3月6分9厘、4月9分5厘、5月1割3厘、6月8分6厘、7月1割2分1厘、8月8分6厘、9月6分9厘、10月7分8厘、11月8分6厘、12月3分4厘等アル。

野犬捕獲頭數

總數9,596頭デ前年ニ比スルト3割1分5厘ノ減退デアル。

之ヲ月別ニ割合ヲ算出シテ見ルト1月9.41%、2月10.70%、3月9.56%、4月10.75%、5月6.54%、6月6.96%、7月8.80%、8月5.99%、9月8.72%、10月8.70%、11月2.22%、12月8.51%等デアル。

咬傷ヲ受ケシ人員

本年ノ咬傷ヲ受ケシ人員ハ2,809人デ内男ハ1,966人、女ハ843人デアル。

之ヲ原因別ニ見ルト通行中咬傷セラレタモノ最モ多ク總數ノ3割6分1厘、突然咬傷セラレタモノ2割4分3厘飼主宅ヲ訪レテ咬傷セラレシモノ1割2分7厘等ガ比較的多イ部デアツテ、野犬ガ家ニ這入ツテ來タ爲咬傷セラレタモノ2、犬ヲ叱ツテ咬傷シタモノガ最モ少ナイ部デアル。

第十八 財 政

昭和4年度國庫支出總額ハ8,398,641圓デ、之レヲ前年事實ニ比スルト16,916圓卽チ2厘强ノ減デアル更ニ總額ヲ5ケ年前ナル大正14年度ニ比較スルト1,283,00圓卽チ1割8分ノ増加ヲ示シテ居ル。總額ノ内經常部ニ屬スルモノハ6,281,381圓、臨時部ニ屬スルモノハ2,117,260圓デ、經常部7割4分8厘、臨時部2割 分2厘ノ割合デアル。亦總額ヲ所管別ニ比ヲ求ムレバ内務省ニ屬スルモノ最多ヲ占メテ74.2%ニ當リ、農林省0.15%、文部省25.60%、大藏省0.025%、遞信省0.001%等ニ相當スル。以上各省ノ内内務省所管ノ經常部ニ在ツテハ警察費連帶支辨金最モ多ク74.94%、臨時部ニ在ツテハ道路改良費最多ニシテ16.88%ヲ占メテ居ル。文部省所管ニ在ツテハ小學校教員俸給分擔金其大部分ヲ占メテ99.91%ニ當リ、農林省所管ニ在ツテハ家畜傳染病及害虫豫防費61.96%等ハ最多デアル。

府 費

歳 入 昭和4年度歳入決算總額ハ31,808,207圓デ、前年ニ比スルト2,678,110圓卽チ9分2厘ノ増加トナツテ居ル、今5ケ年前ナル大正14年度ニ比スルト7,568,821圓卽チ3割1分2厘ノ増加デアル。尚更ニ大正14年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ其ノ増減狀況ヲ示スト昭和元年111、同2年98、同3年120、同4年1 1ノ如ク逐年増加ノ狀態ヲ示シテ居ル。

總額ヲ經常部、臨時部ニ分ツト22,159,421圓ハ經常部ニ、9,648,786圓ノ臨時部ニ屬シテ居ル、其割合ハ經常部6割9分7厘、臨時部3割3厘トナル。

經常部ノ内其主ナルモノハ雜收入(16.54%)、國庫下渡金(13.37%)、使用料及手數料(7.64%)、府稅(61.39%)等トシ。臨時部ニ在ツテハ繰越金(41.95%)、國庫補助金(5.91%)、財産賣却代(15.10%)

國庫補給金(0.17%)、返納金(4.12%)、寄附金(1.11%)、社債(13.52%)、都市計畫特別稅(16.22%)等トスル。

歳　出　昭和四年度歳出總額ハ26,969,981圓デアル。之レヲ前年事實ニ比スルト1,787,854圓卽チ7分1厘ノ增加トナル。今大正14年度ヲ百トシタル指數ニヨリ對比スレバ昭和元年116、同2年101、同3年118、同4年127等ニ當ル。歳出總額ヲ經常部、臨時部ニ分ツト15,041,883圓ハ經常部ニ、11,928,98圓ハ臨時部ニ屬シ、其割合ハ經常部6割8分2厘、臨時部3割1分5厘トナル。

經常部總額ノ內其主ナル費目ハ警察費7,902,476圓(5割2分5厘)、教育費3,161,038圓(2割1分)等ハ最モ大キク、其他府職員費689,264圓(4分6厘)、土木費682,305圓(4分5厘)、府稅取扱費638,568圓(4分2厘)、衛生及病院費532,565圓(3分5厘)、社會事業費473,273(3分2厘)、勸業費468,818圓(3分1厘)、等ハ之レニ亞イデ多イ部ニ屬シテ居ル。

臨時部總額ノ內主ナルモノハ土木費1,390,782圓(1割1分7厘)、都市計畫事業費昭和4年度支出額1,703,650圓(1割4分3厘)、小學校教員恩給補充費1,074,263圓(9分1厘)、府債1,866,610圓(1割5分6厘)等デアル。

市町村費

市　費　昭和四年度歳入總額ハ174,865,650圓デ、之レヲ前年ニ比スルト44,505,469圓卽チ1割5分4厘ノ減少ヲ示シテ居ル。總額ノ內大部分ハ大阪市之レヲ占メテ98.77%ニ當リ、堺市遙カニ少ク0.48%岸和田市0.38%等ニ該當スル。

今大阪市歳入總額ヲ大正9年度ヲ100トシタル指數ニヨリ增減ノ狀況ヲ表セバ、大正10年135、同11年142、同12年175、同13年206、同14年237、昭和元年264、同2年457、同3年311、同4年252等ニ當リ、昭和2年ハ最高ヲ示シテ約四倍半ニ及ビ、同3年同4年ト逐次減少ヲ示シテ居ルガ尙二倍半ノ增加トナツテ居ル。歳出總額ハ133,002,652圓デ之レヲ前年度ニ比較スルト38,604,403圓卽チ2割2分5厘ノ減少ニ當ル總額ノ大部分ハ之レ亦大阪市ニシテ98.61%ヲ占メ、次ハ堺市ノ1.10%、岸和田市0.28%等ニナル。之レガ增減狀況ヲ大阪市ニ就テ見ルニ大正9年ヲ100トセバ同10年124、同11年152、同12年179同13年209、同14年242、昭和元年275、同2年519、同3年329、同4年257等ニ該當シ、昭和2年度ノ如キハ約五倍ニ達シ、以下順次遞減シテ居ルガ尙二倍半ヲ降ラナイ。

町村費

歳　入　昭和3年度歳入總額ハ10,975,243圓デ前年事實ニ比較スルト1,012,138圓卽チ1割0分2厘ノ增加ニ當ル。

最近十ケ年間ヲ大正8年ヲ100トシタル指數ヲ以テ比較シテ見ルト、大正9年139同10年189、同11年219同12年227、同13年103、同14年141等トナリ、大正12年度迄ハ順次遞增シ以下著シク減少シテ居ルノハ西成郡、東成郡、ガ大阪市ニ合併セラレタ結果ニ依ルノデアルガ、勿論其後ニ於テモ遞增ノ現象ヲ現ハシテ居ル、今主ナル費目ヲ揭ゲルト町村稅4,871,989圓(4割4分2厘)前年度繰越金1,383,915圓(1割2分6厘)町村債1,306,218圓(1割1分9厘)寄附金77,551圓(3分4厘)繰入金346,043(3分2厘)使用料及手數料313,532(2分9厘)等デアル。

歳　出　昭和三年度歳出總額ハ9,644,625圓之レヲ前年ニ比較スルト934,347圓卽チ1割7厘ノ增加ニ

ナツテ居ル。尙最近十ケ年ノ增減ヲ見ルニ大正8年度ヲ100トスレバ、大正9年115、同10年147、同11年179、同12年182、同13年84、同14年90、昭和元年101、同2年112、同3年124等ニ相當シ、順次遞增ノ現象ヲ示シテ居ル。(大正13年以降著シク減ジテ居ルノハ西成、東成兩郡ガ大阪市合併ノ結果トスル)

歳出費目中其主ナルモノハ教育費4,492,840圓、(4割6分6厘)役場費1,925,775圓(1割9分9厘)等デ.土木費608,447圓(5分7厘)、衛生費717,576圓(6分3厘)、公債費581,628圓(6分)等ハ之レニ亞イデ多イ部ニ屬シテ居ル。

普通水利組合費

昭和3年度歳入決算額ハ528,834圓、之レヲ前年ニ比較スルト55,504圓卽チ1割1分7厘ノ增加ニ當リ、5ケ年前ナル大正13年度ニ比スルト199,719圓(2割7分4厘)ノ減少トナル。總額ノ內其主ナルモノハ組合費173,322圓(32.77%)、前年度繰越金167,961圓(31.76%)、財產賣却代94,530圓(17.87%)等デ、雜收入20,354圓、寄附金18,118圓、使用料及手數料18,946圓等ハ之レニ亞イデ多イ部ニ屬シテ居ル。

歳出總額ハ412,665圓デ、內經常部293,561圓(7割1分1厘)、臨時部119,103圓(2割8分9厘)ト爲ル。之レヲ前年ニ比較スルト107,303圓(3割5分2厘)ノ增加ニ當リ、5ケ年前ナル大正13年度ニ比較スルト234,269圓(3割6分2厘)ノ減少トナル。總額ノ中主ナルモノハ經常部ニ在ツテハ事業費124,665圓(30.21%)管理費67,835圓(16.44%)、財產蓄積78,122圓(18.93%)等デ、臨時部ニ在ツテハ事業費44,841圓(14.86%)、負擔金86,553圓(8.87%)、公債費25,748圓(6.24%)等デアル。

水害豫防費

昭和3年度水害豫防費歳入總額ハ185,793圓デ、之レヲ前年事實ニ比較スルト18,8[illegible]1圓卽チ1割6分6厘ノ增加ニ當リ、5ケ年前ナル大正13年度ニ比較スルト40,583圓卽チ5割8分5厘ノ增加ニ當ツテ居ル。

今主ナル費目ヲ揭ゲルト寄附金86,189圓(46.39%)、前年度繰越金59,581圓(32.07%)組合費31,492圓(16.95%)等トスル。

歳出總額ハ111,388圓デ、前年事實ニ比スルト1,023圓(9厘)ノ減少ニ當ル。尙5ケ年前ナル大正13年度ニ比スルト41,781圓(6割)ノ增加ニ當ツテ居ル。歳出總額ヲ經常臨時ニ比ヲ求ムルト經常部6割5分7厘、臨時部3割4分7厘ニ割合スル。經常部ノ中主ナルモノハ警備費33,575圓(30.14%)、管理費18,314圓(16.44%)、會議費11,666圓(10.47%)等ハ多イ部ニ屬ス。臨時部ニ在ツテハ警備費16,106圓(14.46%)、公債費17,760圓(15.94%)等デアル。

諸稅

昭和4年度總額ハ86,002,271圓デ、之レヲ前年ニ比較スルト8,628,618圓卽チ1割强ノ增加ニ當ル。今10年間ノ增減狀況ヲ見ルニ大正8年度ヲ100トセバ大正9年121、同10年112、同11年120、同12年113、同13年116、同14年118、昭和元年111、同2年115、同3年132、同4年128等ニ該當シ各年一高一低セルモ大勢ヨリ見テ順次增加ノ現象ヲ表ハシテ居ル。總額ヲ稅種別ニ比ヲ求ムルト直接國稅50.95%、市町村稅29.20%、府稅19.46%、其他ノ公課0.39%等ニ該當シ、直接國稅其半數ヲ占メテ居ル。又之レヲ現住戶數及人口ニ平均スレバ

	一戸當	一人當
直接國稅	56.14錢	12.59錢
府稅	21.44	4.81
市稅	30.77	7.22
町村稅	36.91	7.22

等ニ相當シ諸稅ノ中直接國稅ノ負擔多キヲ示シテ居ル。

今參考迄ニ最近10ケ年間ノ諸稅ノ負擔額ヲ掲グルト

	一戸當	一人當
大正 九年	142.47錢	31.22錢
同 十年	129.73	27.63
同 十一年	138.86	28.87
同 十二年	130.83	25.84
同 十三年	117.56	24.71
同 十四年	114.99	25.69
昭和 元年	109.44	23.51
同 二年	110.59	23.41
同 三年	117.65	26.20
同 四年	110.19	24.71

等ニ當リ、諸稅ノ遞增ニ反比例シ逐年其負擔額ノ減少ト云フ面白イ現象ヲ表ハシテ居ル。

國稅

昭和4年度國稅調定額ハ75,576,232圓デ、之レヲ前年度ニ比較スレバ2,883,240圓(3分7厘)ノ減ニ當ル之等增減狀況ヲ見ムガ爲メ大正8年度ヲ100トシタル指數ヲ以テ比較對照スルト、大正9年度95、同10年76、同11年75、同12年89、同13年88、同14年85、昭和元年61、同2年75、同3年78、同4年76ニ割合シ順次遞減ヲ示シテ居ル。總額ヲ直接國稅間接國稅ニ區分スレバ直接稅5割3分、間接稅4割2分ニ割合スル之レガ郡市ニ於ケル割合ハ直接國稅ニ在ツテハ大阪市最モ多ク86.39%ヲ占メ、堺市2.14%、岸和田市1.27%、三島郡、豐能郡ヲ合シテ2.90%、泉北郡1.30%、泉南郡1.41%、南河內郡1.10%、中河內郡、北河內郡ヲ合シテ3.52%等ニ相當スル、間接國稅ニ在ツテハ大阪市77.05%、堺市3.34%、岸和田市2.40%、三島郡、豐能郡ヲ合シテ14.55%、泉北郡0.56%、泉南郡2.45%、南河內郡、1.25%、中河內郡、北河內郡ヲ合シテ0.54%等ニ割合スル。尙直接國稅ヲ稅目別カラ觀レバ所得稅其多數ヲ占メテ65.53%、地租7.20%、營業收益稅15.80%、資本利子稅5.19%、相續稅6.27%、鑛業稅0.01%等ニ相當シ間接稅ニ在ツテハ酒稅29.76%、清涼飲料稅1.63%、砂糖稅51.78%、織物消費稅6.75%取引所稅10.07%等ニ當リ、砂糖消費稅ヲ最多トシ酒稅之レニ亞イデ居ル。

以上ノ內主ナル稅目ニ就テ觀察スレバ、所得稅ニ在ツテハ前年度ヨリ3,563,270圓卽チ1割0分9厘ノ減少ヲ示シテ居リ、5ケ年前ナル大正14年度ニ比較スレバ1,234,711圓卽チ3分9厘ノ減少トナル。今最近十ケ年間ノ增減ヲ比較スレバ大正八年度ヲ百トシテ大正9年113、同10年86、同11年98、同12年89、同13年95、同14年93、昭和元年89、同2年97、同三年100、同4年89等ニ相當シテ大勢ヨリ見テ稍々減少

ノ狀態ヲ現ハシテ居ル。本年度總額ヲ種類別ヨリ見レバ第一種所得稅24.81%、第二種19.17%、第三種56.02%等ニ相當シ 第三種所得稅ハ其大半ヲ占メテ居ル。 尙稅種別ニ納稅人員ヲ掲グルト 第一種4.467人一人平均1,610圓、第三種85,072人(一人平均191圓)トスル。總額ノ郡市割合ハ大阪市88.47%ヲ占メテ最モ多ク、堺市2.23%、岸和田市1.28%、郡部ニ在ツテハ三島郡、豐能郡ヲ合シテ2.66%、泉北郡1.13%、泉南郡1.04%、南河內郡0.54%、中河內郡、北河內郡ヲ合シテ2.53%等ニ割合スル。

地 租 昭和4年度總額ハ3,156,181圓デ、之レヲ前年ニ比スルト7,442圓ノ減少デアル。今大正8年ヲ100トシタル指數ヲ以テ比較スルト、大正9年101、同10年101、同11年102、同12年103、同13年103同14年101、昭和元年103、同2年103、同3年103、同4年103等ニ相當シ大ナル增減ヲ見ナイ、之レ本稅ノ性質上當然ノコトデアラウ。

總額ヲ郡市別ニ比ヲ求ムレバ、卽チ大阪市56.35%、堺市1.65%、岸和田市0.39%、三島郡豐能郡ヲ合シテ9.83%、泉北郡4.81%、泉南郡6.06%、南河內郡6.74%、中河內郡、北河內郡ヲ合シテ14.17%等ニ相當シ、大阪市其大半ヲ占メテ居ル。

尙總額ヲ地目別ニ見レバ田38.09%、畑3.63%、宅地57.41%等デ、其他鑛泉地、池沼、山林、原野、雜種地等合シテ0.87%ニ過ギナイ。之ガ納額人員ハ總數179,026人デ、一人平均17圓63錢ニ相當スル

營業收益稅 昭和4年度總額6,921,398圓デ、之レヲ前年ニ比較スルト1,384,864圓、卽チ1割6分6厘ノ減少ニ當ル。今之レガ郡市ノ割合ヲ見ルト、大阪市88.89%ヲ占メ、堺市2.63%、岸和田市1.38%三島郡、豐能郡合シテ1.05%、泉北郡0.64%、泉南郡1.45%、南河內郡0.68%、中河內郡、北河內郡合シテ3.28%等ニ相當シ大阪市其大部分ヲ占メテ居ル。

次ニ總額ヲ法人ト個人トニ區分スレバ、法人7割1分2厘個人2割8分8厘ニ當リ、而シテ之ガ營業、人員ハ法人4,429人、個人64,060人デ、平均一人當稅額法人937圓、個人44圓ニ該ル。

相續稅 總額ハ2,747,902圓、之レヲ前年ニ比スルト72,245圓、卽チ2分7厘ノ增加デアリ、5ケ年前ニ比スルト1,044,911圓(6割1分3厘)ノ增加トナル。今大正8年ヲ100トシタル指數ニヨリ最近10年間ニ於ケル增減ノ狀況ヲ見ルト、大正9年146、同10年206、同11年233、同12年243、同13年290、同14年282昭和元年327、同2年324、同3年443、同4年456等ニ割合シ、其遞增著シキヲ示シテ居ル。

之レガ郡市ノ割合ヲ觀ルト、大阪市ハ殆ド其大部分ヲ占メテ89.06%、堺市、岸和田市ヲ合シテ3.29%、其他郡部ヲ合シテ僅カニ8.65%ニ當ルニ過ギナイ。

府 稅

昭和4年度總額ハ16,735,174圓デ、之レヲ前年ニ比ベルト2,516,737圓卽チ1割7分7厘ノ增加ヲ示シ、5ケ年前ニ比較スルト6,267,575圓卽チ6分ノ增加ニ當ル。今大正8年ヲ100トシタル指數ニヨリ最近10年間ノ增減ノ狀況ヲ觀ルト、大正9年121、同10年115、同11年148、同12年135、同13年153、同14年149、昭和元年149、同2年124、同3年202、同4年235等ニ當リ、一高一低ナルモ大勢ヨリ見テ增加ノ狀態ニ在ル殊ニ本年度ノ如キハ約倍數半ノ增加ヲ示シテ居ル。

又總額ヲ郡市ニ比ヲ求ムルト、大阪市79.88%、堺市2.47%、岸和田市0.96%、三島郡2.32%、豐能郡1.79%、泉北郡2.47%、泉南郡2.87%、南河內郡2.23%、中河內郡2.81%、北河內郡2.20%等ニ相當シ、大阪市大部分ヲ占メテ居ル。更ニ總額ヲ稅目別ヨリ見レバ地租附加稅10.14%、營業稅3.11%